

第16回がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会	参考資料 2
令和2年2月19日	

都道府県の推薦について

都道府県提出資料

北海道

北海道第二次医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
南渡島	2,670.63	373,187	7.0	139.74	34	1	1		2						
南檜山*	1,423.38	22,841	0.4	16.05	5				0						
北渡島檜山*	2,473.77	35,505	0.7	14.35	7				0						
札幌	3,540.15	2,377,490	44.8	671.58	237	4	4		8						
後志*	4,305.88	209,584	4.0	48.67	22			1	1				(1)		
南空知*	2,562.25	158,690	3.0	61.93	18				0					1	
中空知*	2,162.07	103,877	2.0	48.05	17		1		1						
北空知*	1,067.29	31,203	0.6	29.24	5				0						
西胆振	1,356.70	182,510	3.4	134.52	21		1		1						
東胆振*	2,340.34	209,480	3.9	89.51	16	1			1						
日高*	4,811.13	66,894	1.3	13.90	7				0						
上川中部	4,238.10	391,196	7.4	92.30	41		3		3						
上川北部*	4,197.18	62,999	1.2	15.01	8				0						
富良野*	2,183.41	41,752	0.8	19.12	5				0						
留萌*	3,445.88	45,840	0.9	13.30	7				0						
宗谷*	4,626.07	63,844	1.2	13.80	8				0						
北網*	5,542.27	213,574	4.0	38.54	26	1			1						
遠紋*	5,148.26	68,056	1.3	13.22	12				0						
十勝	10,831.62	340,088	6.4	31.40	34		1		1						
釧路*	5,997.07	230,748	4.4	38.48	22	1	1		2						
根室*	3,497.31	75,055	1.4	21.46	7				0						
計	78420.76	5,304,413	100	1564.1724	559	8	12	1	21	0	0	0	0	1	0

医療圏名の*は「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値がおおむね300人を下回る2次医療圏

北海道 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

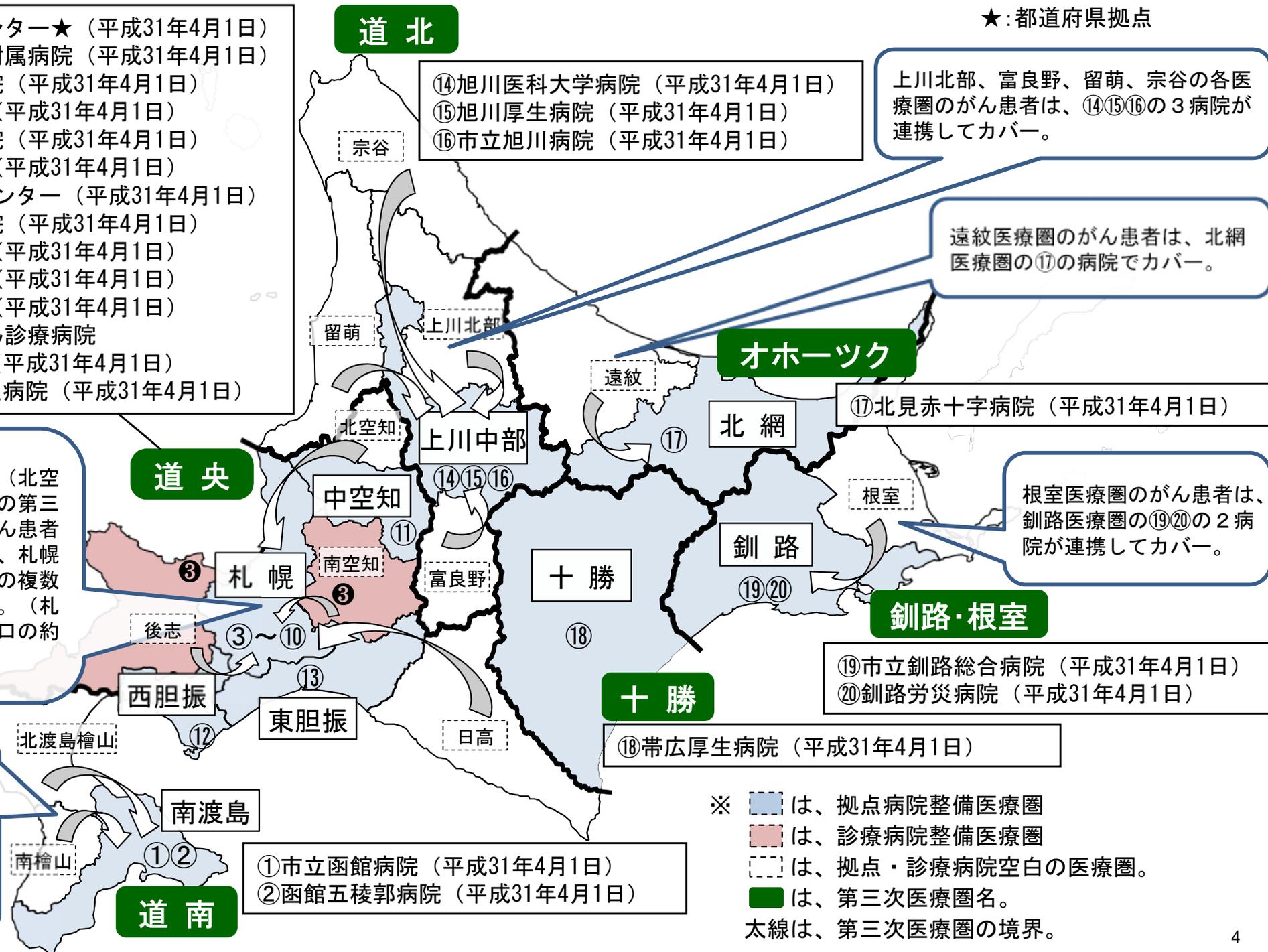
資料2

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ④札幌医科大学附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑤北海道大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑥市立札幌病院 (平成31年4月1日)
- ⑦手稲溪仁会病院 (平成31年4月1日)
- ⑧札幌厚生病院 (平成31年4月1日)
- ⑨KKR札幌医療センター (平成31年4月1日)
- ⑩恵佑会札幌病院 (平成31年4月1日)
- ⑪砂川市立病院 (平成31年4月1日)
- ⑫日鋼記念病院 (平成31年4月1日)
- ⑬王子総合病院 (平成31年4月1日)
- 以下、地域がん診療病院
- ③小樽市立病院 (平成31年4月1日)
- ③北海道中央労災病院 (平成31年4月1日)

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。



- ⑭旭川医科大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑮旭川厚生病院 (平成31年4月1日)
- ⑯市立旭川病院 (平成31年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑭⑮⑯の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑰の病院でカバー。

- ⑰北見赤十字病院 (平成31年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑱⑲の2病院が連携してカバー。

- ⑱市立釧路総合病院 (平成31年4月1日)
- ⑲釧路労災病院 (平成31年4月1日)

- ⑱帯広厚生病院 (平成31年4月1日)

- ①市立函館病院 (平成31年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (平成31年4月1日)

※ ■ は、拠点病院整備医療圏
 ■ は、診療病院整備医療圏
 □ は、拠点・診療病院空白の医療圏。
 ■ は、第三次医療圏名。
 太線は、第三次医療圏の境界。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年9月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
①	南渡島		更新	市立函館病院	(3,401) 3,307	(27.7) 27.4	1,083	(638) 482	(1,368) 1,661	(391) 381	121	25	1,406
②	南渡島		現況	函館五稜郭病院	(4,678) 4,845	(35.7) 36.5	1,674	(1,471) 642	(1,454) 2,791	(501) 398	573	29	2,438
③	札幌	★	現況	北海道がんセンター	(6,003) 6,295	(83.5) 80.5	1,808	(1,060) 1,090	(5,103) 2,885	(957) 990	372	4	8,198
④	札幌		現況	札幌医科大学附属病院	(6,267) 7,074	(34.3) 37.9	2,175	(1,055) 750	(3,738) 4,462	(839) 805	379	9	1,991
⑤	札幌		現況	北海道大学病院	(5,868) 6,128	(33.8) 34.5	2,229	(1,287) 1,272	(1,697) 3,143	(929) 1,081	212	9	1,544
⑥	札幌		更新	市立札幌病院	(3,036) 3,001	(18.2) 17.6	1,288	(1,226) 1,226	(1,931) 2,075	(542) 416	235	3	613
⑦	札幌		更新	手稲溪仁会病院	(4,676) 4,721	(24.0) 23.0	2,089	(1,450) 1,371	(2,040) 3,944	(372) 379	202	6	1,141
⑧	札幌		現況	札幌厚生病院	(4,031) 4,080	(35.0) 35.1	1,664	(2,184) 2,351	(4,584) 5,097	(240) 303	220	7	1,347

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
⑨	札幌		更新	KKR札幌医療センター	(1,953) 1,807	(17.1) 15.6	1,030	(657) 523	(3,484) 3,178	(444) 381	235	3	959
⑩	札幌		更新	恵佑会札幌病院	(4,148) 4,604	(64.1) 72.1	1,772	(1,574) 1,801	(4,098) 5,184	(631) 601	80	2	921
⑪	中空知		更新	砂川市立病院	(1,358) 1,460	(14.3) 15.6	540	(272) 255	(2,284) 2,395	(136) 144	203	61	1,035
⑫	西胆振		更新	日鋼記念病院	(1,700) 1,543	(23.3) 21.8	537	(364) 360	(368) 364	(108) 208	92	42	1,271
⑬	東胆振		現況	王子総合病院	(3,009) 2,878	(29.9) 29.1	1,029	(1,159) 740	(1,398) 1,613	(300) 273	160	48	392
⑭	上川中部		更新	旭川医科大学病院	(3,892) 3,832	(26.8) 25.6	1,770	(2,010) 2,050	(1,357) 1,407	(457) 487	735	53	1,786
⑮	上川中部		更新	旭川厚生病院	(3,238) 3,053	(27.4) 25.3	1,483	(749) 700	(1,575) 1,209	(396) 382	125	42	2,398
⑯	上川中部		更新	市立旭川病院	(1,838) 1,998	(24.7) 25.7	820	(1,511) 435	(2,800) 3,082	(251) 281	73	15	1,334

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-3

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
⑰ 北網		現況	北見赤十字病院	(3,250) 3,302	(25.8) 26.7	1,610	(724) 935	(1,713) 3,088	(405) 417	105	51	748
⑱ 十勝		更新	帯広厚生病院	(2,304) 1,878	(15.0) 13.4	1,707	(1,316) 1,453	(1,297) 1,498	(431) 411	120	20	1,406
⑲ 釧路		更新	市立釧路総合病院	(2,786) 2,895	(21.9) 22.9	1,094	(751) 748	(3,516) 3,788	(340) 310	50	34	447
⑳ 釧路		現況	釧路労災病院	(2,821) 2,803	(32.6) 31.5	1,123	(682) 696	(5,434) 6,365	(332) 322	52	48	1,675
㉑ 後志		新規	小樽市立病院	(1,324) 1,330	(16.8) 17.8	663	(440) 400	(414) 2,155	(213) 215	77	22	189

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施していれば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
③	南空知	更新	北海道中央労災病院	(449) 473	(15.2) 15.3	190	(90) 79	(428) 318	実施なし	22	312

北海道 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

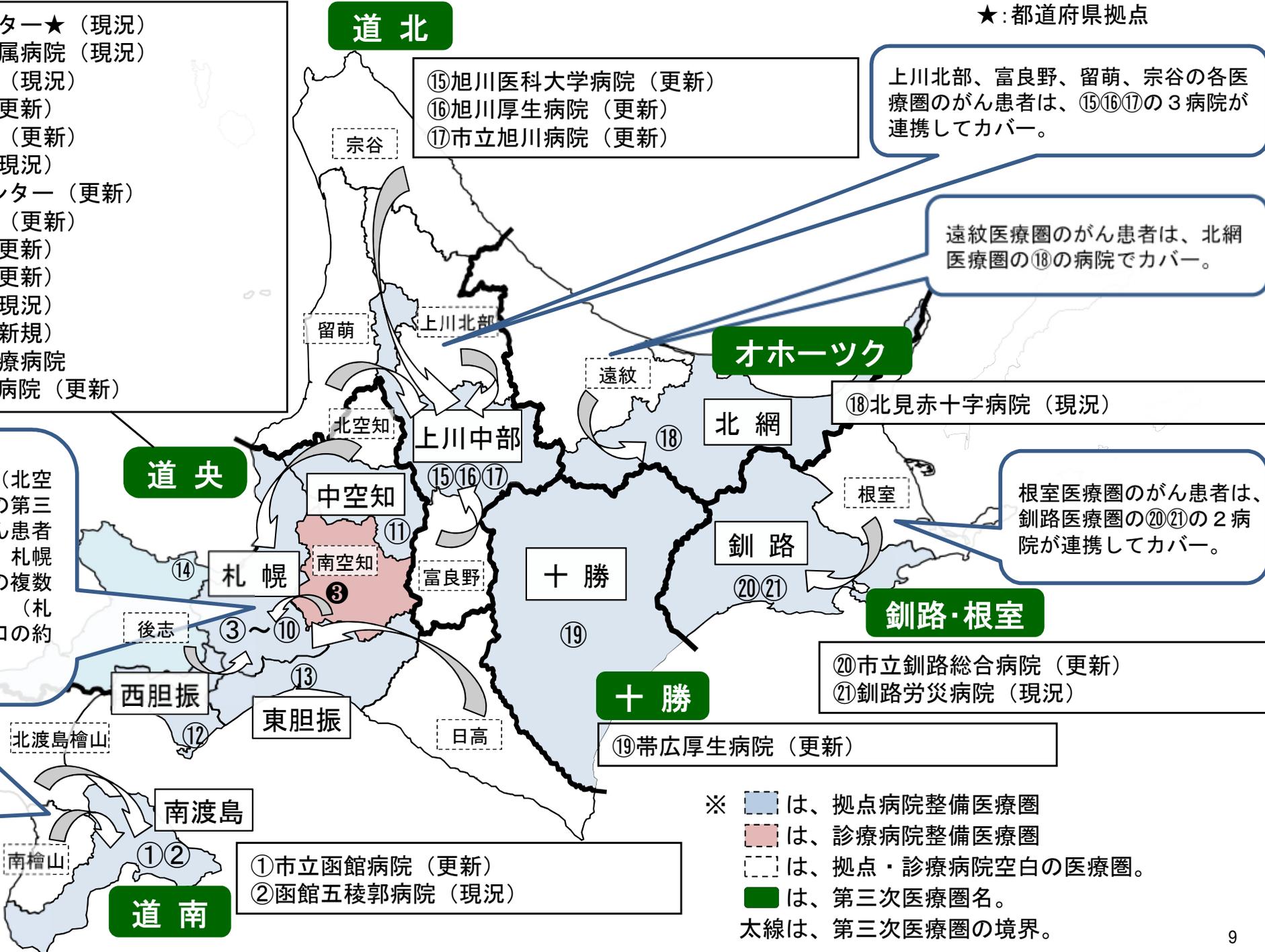
資料 4

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (現況)
- ④札幌医科大学附属病院 (現況)
- ⑤北海道大学病院 (現況)
- ⑥市立札幌病院 (更新)
- ⑦手稲溪仁会病院 (更新)
- ⑧札幌厚生病院 (現況)
- ⑨KKR札幌医療センター (更新)
- ⑩恵佑会札幌病院 (更新)
- ⑪砂川市立病院 (更新)
- ⑫日鋼記念病院 (更新)
- ⑬王子総合病院 (現況)
- ⑭小樽市立病院 (新規)
- 以下、地域がん診療病院
- ③北海道中央労災病院 (更新)

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。



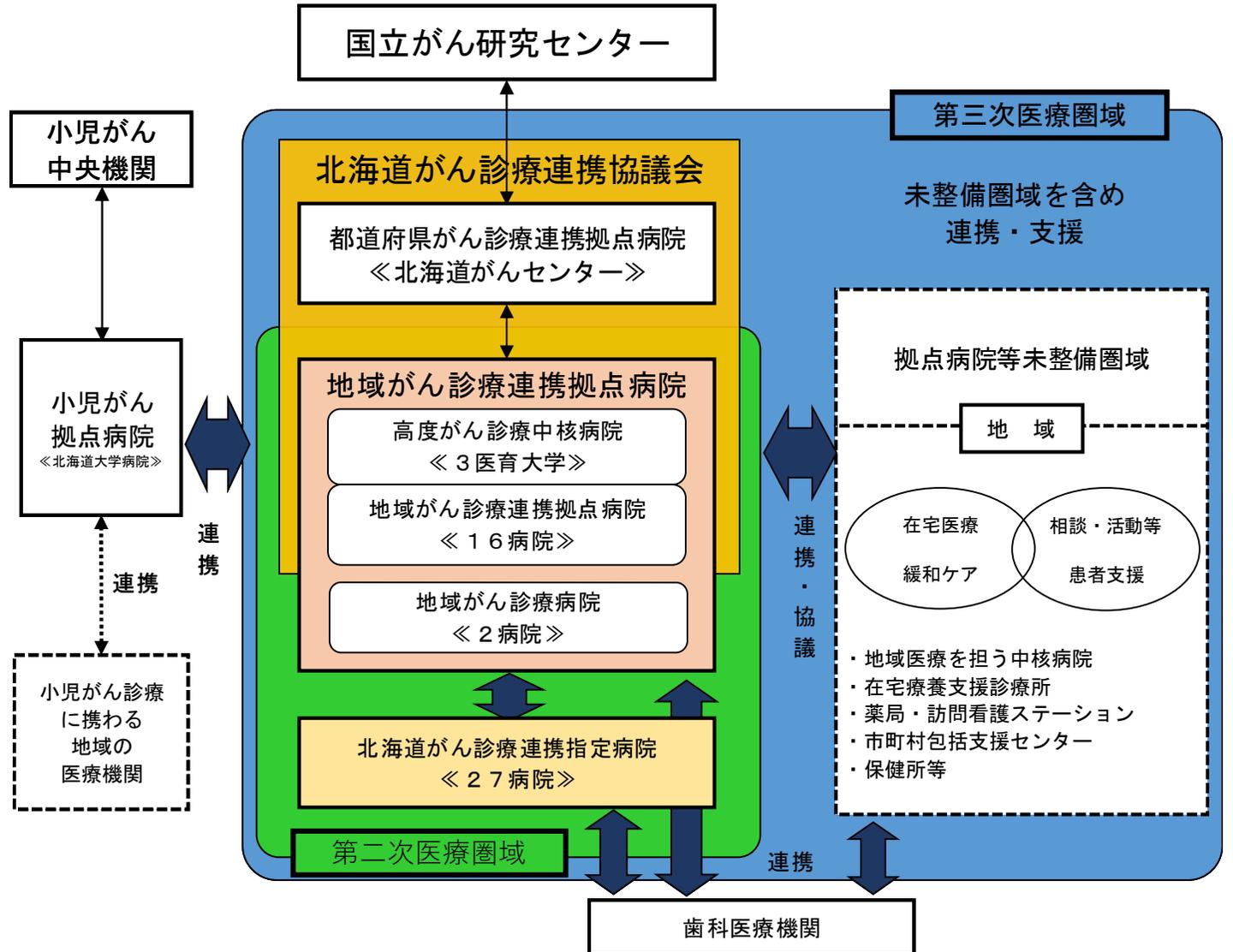
北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO. 1]

北海道のがんの医療連携体制

○本道のがんの現状

H28 人口 動態 統計	死亡者数	年齢調整死亡率 (人口10万対)		
		男性	女性	総数
北海道	19,158人	105.5	66.1	84.1
全国	373,334人	92.5	56.4	73.6

- 本道において、がんは昭和52年より死因の第1位。
- 年齢調整死亡率は、男性、女性ともに全国平均を上回っており、特に、肺がんや乳がんの死亡率が高くなっている。



北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO. 2]

基本的な考え方

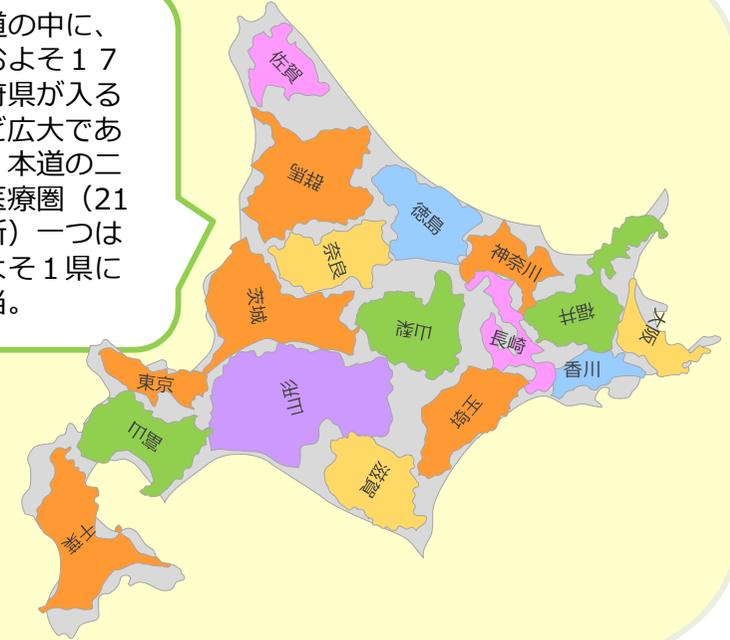
北海道医療計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次医療圏ごとの整備を目指し、当面整備が困難な医療圏については、地域がん診療病院や道が独自の要件により指定する北海道がん診療連携指定病院の整備を進める。 ・ 未整備圏域については、がん診療連携拠点病院が地域の中核的な医療機関等と連携を図る。
北海道がん対策推進条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的ながん医療を提供する医療機関を整備し、及び当該医療機関を中核とした地域における診療の連携協力体制を整備する。
北海道がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院は、拠点病院等の未整備圏域の中核的な医療機関等と連携を図り、必要とされる医療機能をカバーし道内のがん医療の連携体制の維持・向上に努める。

北海道の基礎情報

面積	: 83,424 km ² (全国1位)
人口	: 5,304,413人
医療圏	: 一次医療圏 179圏域
	: 二次医療圏 21圏域
	: 三次医療圏 6圏域



本道の中に、おおよそ17都府県が入るほど広大であり、本道の二次医療圏(21か所)一つはおおよそ1県に相当。



指定推薦にあたっての考え方

○ 日本の面積の約22%を占め、九州及び中国地方12県を合わせた面積よりも広い本道においては、道が策定した計画等の考え方に沿って、第二次医療圏を医療連携圏域としつつ、第三次医療圏を基本に未整備圏域をカバーする体制を維持・強化する。

○ 今回推薦する14病院を含め本道の拠点病院は、広域分散、積雪寒冷といった本道特有の事情がある中、自らの二次医療圏のみならず近隣の未整備圏域のがん診療を担うなど、各拠点病院と地域の病院が連携しながら、本道のがん医療の均てん化に大きな役割を果たしており、診療病院を合わせた22病院により21の第二次医療圏を有する本道のがん診療の拠点として医療提供体制の整備を図る。

青 森 県

青森県 がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

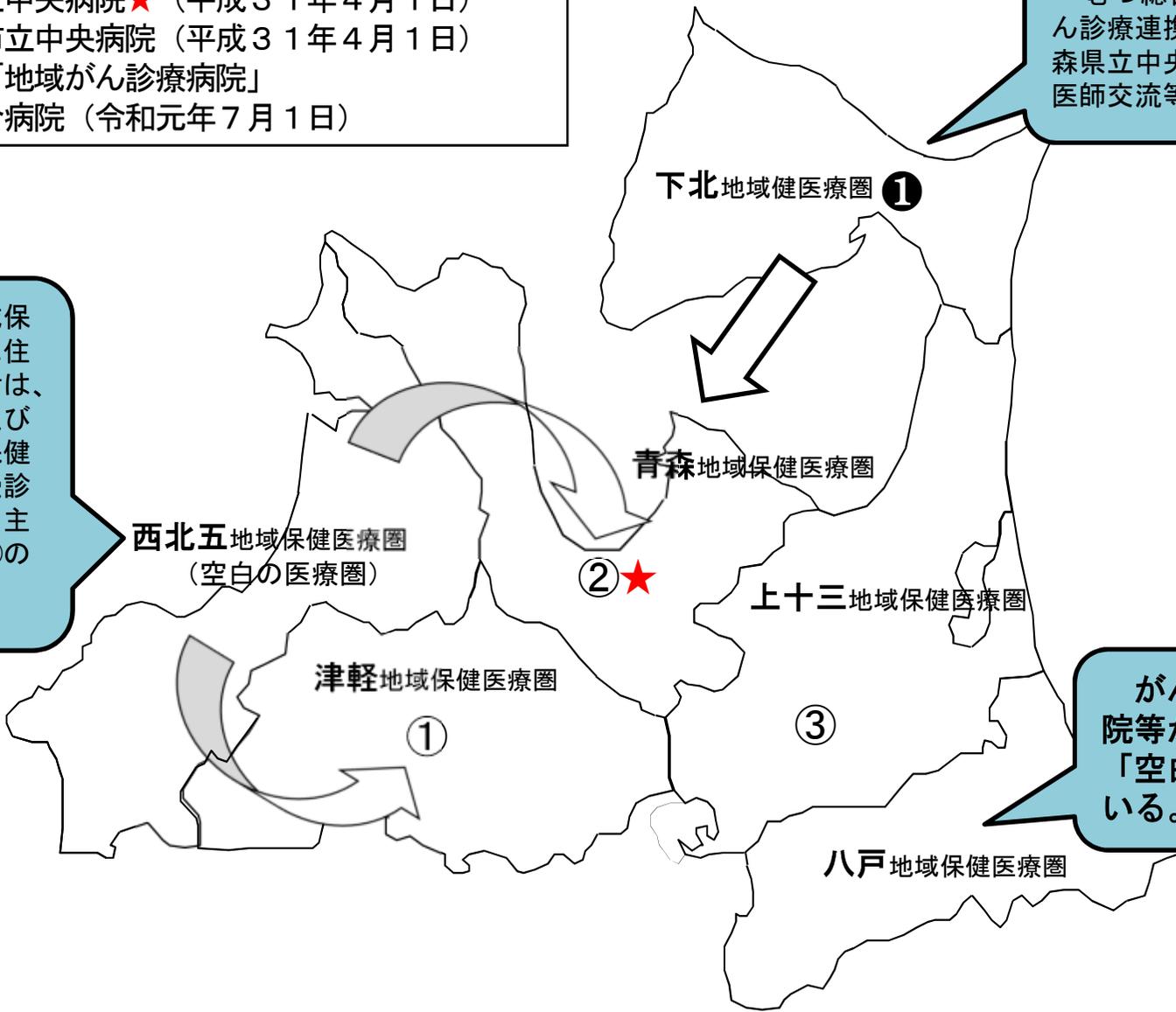
2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						既指定 病院数	新規申請 病院数	計	更新 病院数	新規申請 病院数	計
津軽 地域保健医療圏	1,597.73	266,010	21.3	166.5	22	1	0	1	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.66	310,700	24.9	230.7	27	0	1	1	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,477.54	296,837	23.8	200.8	23	1	0	1	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,753.00	135,082	10.9	77.1	8	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.93	169,158	13.5	82.3	13	0	0	0	0	1	1
下北 地域保健医療圏	1,414.88	68,969	5.6	48.7	4	0	0	0	1	0	1
計	9,644.74	1,246,756	100	134.3	97	2	1	3	1	1	2

青森県 令和元年 9 月 1 日現在の指定状況と指定状況

- ①弘前大学医学部附属病院（平成31年4月1日）
- ②青森県立中央病院★（平成31年4月1日）
- ③十和田市立中央病院（平成31年4月1日）
- ※以下「地域がん診療病院」
- ①むつ総合病院（令和元年7月1日）

むつ総合病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である「青森県立中央病院」と患者移送、医師交流等で強く連携している。

西北五地域保健医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び③の両病院でカバーする。



がん診療連携拠点病院等が指定されていない「空白地域」となっている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

- ・()内は平成30年11月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 津軽		更新	弘前大学附属病院	(3,639) 3,808	(30.0) 31.6	(1,975) 2,663	(750) 1,413	(6,325) 6,097	(553) 726	(112) 122	(28) 29	(437) 435
2 八戸		新規	八戸市立市民病院	(2,129) 2,005	(15.8) 15.3	(1,337) 1,458	(791) 734	(1,509) 1,633	(315) 336	(7) 7	(30) 28	(1,001)
3 青森	★	更新	青森県立中央病院	(1,241) 2,094	(20.2) 28.6	(2,185) 2,162	(1,443) 1,454	(3,156) 2,394	(601) 634	(356) 163	(21) 22	(2,573) 1,407

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・()内は平成30年11月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

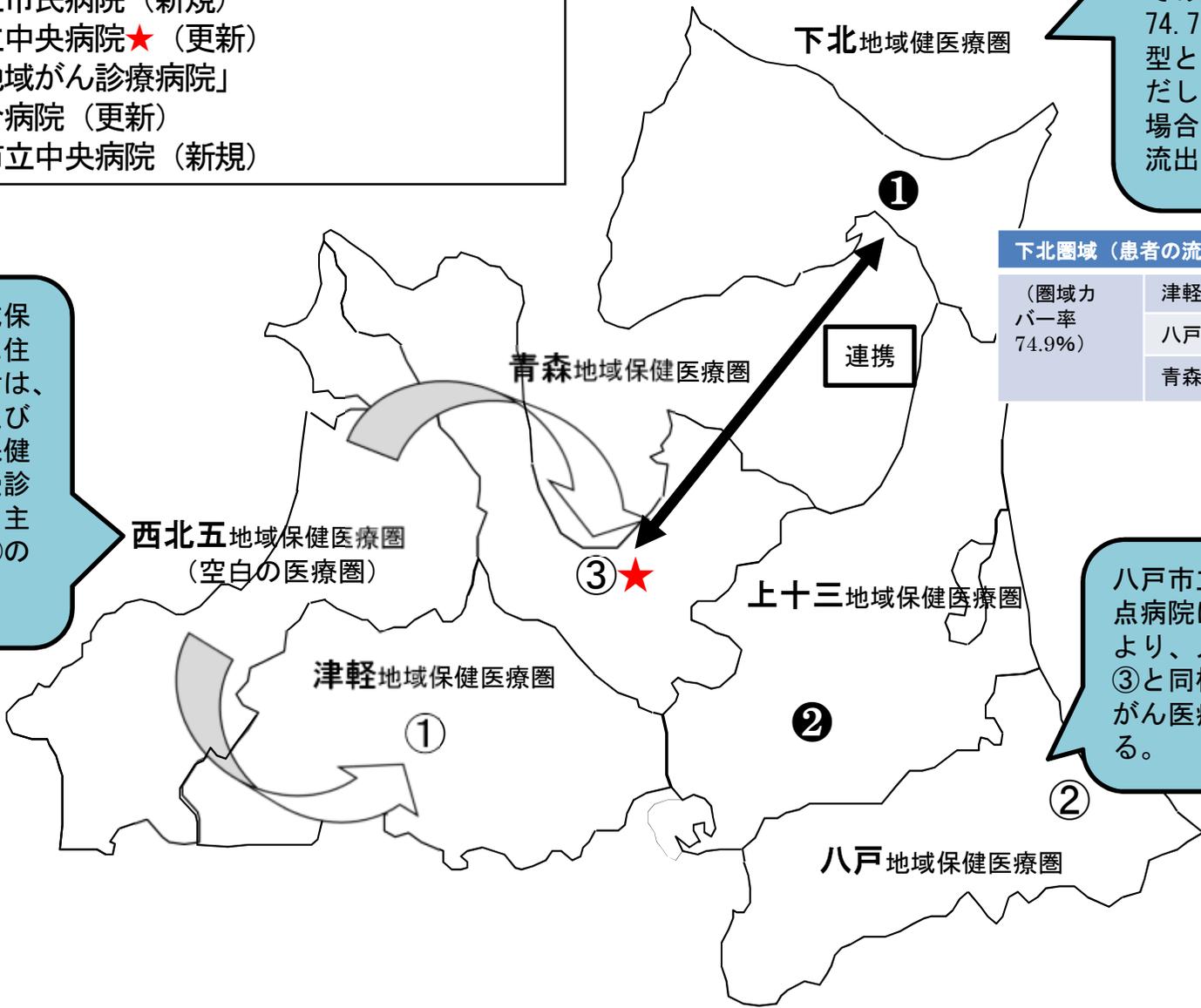
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	相談件数(年間)
1	下北	更新	むつ総合病院	1,071	17.2	561	300	550	231	86	177
2	上十三	新規	十和田市立中央病院	1,214	18.1	547	344	543	135	118	671

青森県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①弘前大学医学部附属病院（更新）
- ②八戸市立市民病院（新規）
- ③青森県立中央病院★（更新）
- ※以下「地域がん診療病院」
- ①むつ総合病院（更新）
- ②十和田市立中央病院（新規）

西北五地域保健医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び③の両病院でカバーする。



下北地域保健医療圏での圏域カバー率は74.7%で、圏域完結型となっている。ただし、高度な医療の場合は、青森地域に流出している。

下北圏域（患者の流出入）	
（圏域カバー率 74.9%）	津軽地域（4.2%）
	八戸地域（2.7%）
	青森地域（15.8%）

八戸市立市民病院ががん拠点病院に指定されることにより、人口規模の多い①、③と同様に地域の核となるがん医療の提供が可能となる。

青森県 がん医療連携体制に関する考え方

資料5

青森県の現状

～平均寿命及びがんの年齢調整死亡率ともに全国最下位～

- 青森県の平均寿命
男女とも全国最下位となっている。（平成27年都道府県別生命表）
- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位となっており、死亡原因の約3割を占めている。
- がんの年齢調整死亡率
年齢調整死亡率が最も高く、男女とも全国最下位で推移している。

～健康で長生きな青森県の実現に向けて～

- ヘルスリテラシー（健やか力）の向上とライフステージに応じた生活習慣の改善
- 戦略的ながん対策の推進
- がん医療の充実とがんになっても安心して暮らせる環境づくり

■ 第三期青森県がん対策推進計画

- ・ 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・ 患者本位のがん医療の実現
- ・ 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制



県がん対策推進計画では、本県のがん医療体制や地域連携については、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院と、拠点病院に準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付けられている。

まとめ

青森県では、令和元年9月現在において、青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院及び十和田市立中央病院の3つの病院ががん診療連携拠点病院に指定され、むつ総合病院が地域がん診療病院に指定されている。

本県のがん医療提供体制を継続していくため、

- ・人口規模が大きい市に所在する青森県立中央病院（青森圏域）及び弘前大学医学部附属病院（津軽圏域）のほか、八戸市立市民病院（八戸圏域）を新規にてがん診療連携拠点病院として推薦し、
- ・他の人口規模が少ない市に所在するむつ総合病院及び十和田市立中央病院を指定更新・新規指定推薦し、今後の人口減少社会へも対応していきたい。

補足事項

○空白の医療圏（西北五地域保健医療圏）について

当圏域では、6市町において自治体病院機能再編成マスタープランを策定し、自治体病院を再編した経緯があり、今般、当圏域の中核病院であった西北中央病院を母体とした「つがる総合病院」が開院（平成26年4月1日）したところである。

当病院においては、地域がん診療病院の指定要件を充足し、指定が受けられるよう取り組む意向を示している。

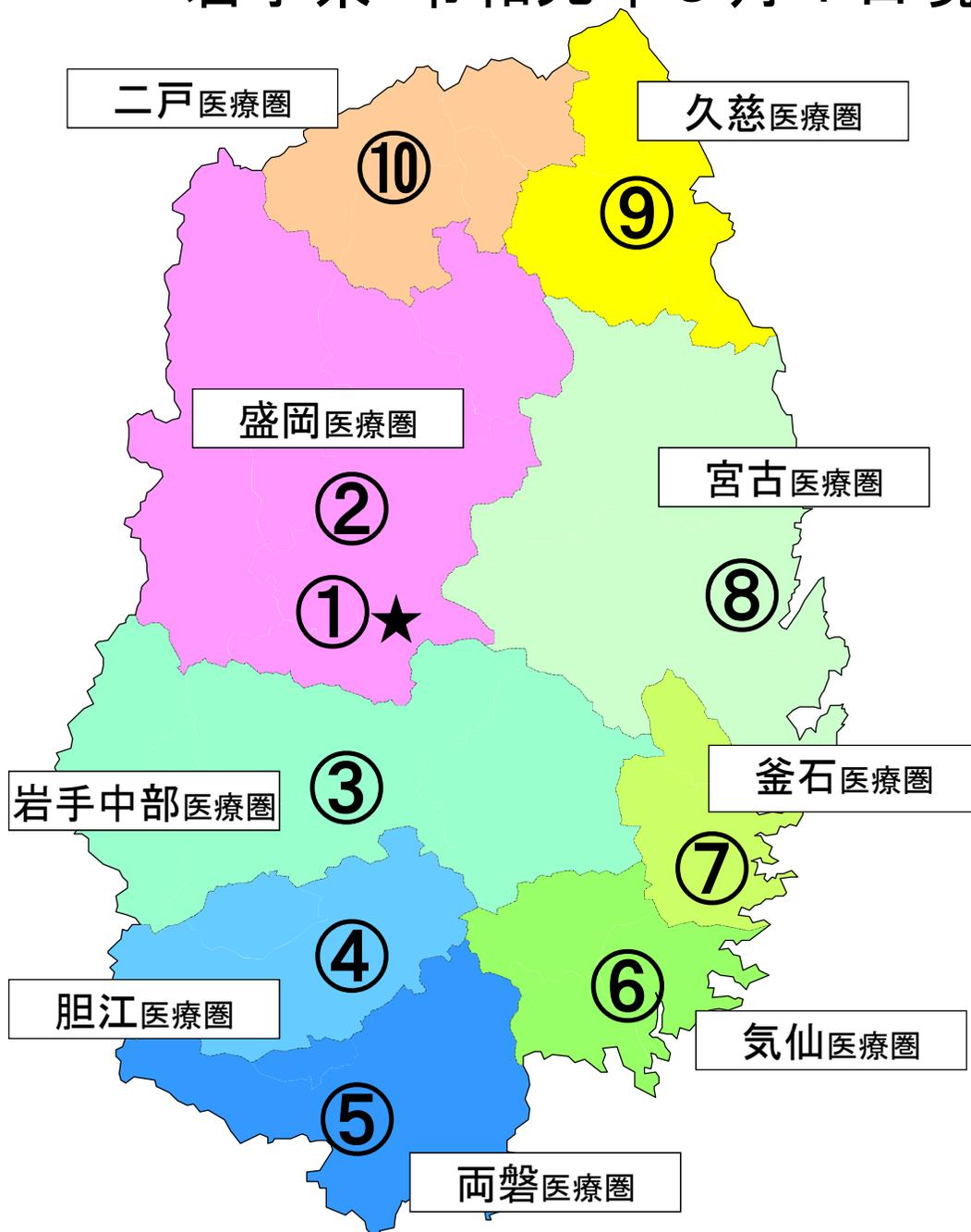
岩 手 県

岩手県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
盛岡保健医療圏	3,641.77	467,117	38.1%	128.3	38	1	1		2						
岩手中部保健医療圏	2,762.65	217,731	17.7%	78.8	12		1		1						
胆江保健医療圏	1,173.06	129,760	10.6%	110.6	9	1			1						
両磐保健医療圏	1,319.81	121,990	9.9%	92.4	10		1		1						
気仙保健医療圏	889.29	59,254	4.8%	66.6	3		1		1						
釜石保健医療圏	640.76	45,213	3.7%	70.6	6		1		1						
宮古保健医療圏	2,670.51	79,362	6.5%	29.7	6		1		1						
久慈保健医療圏	1,076.88	55,389	4.5%	51.4	4		1		1						
二戸保健医療圏	1,100.29	51,417	4.2%	46.7	3		1		1						
計	15,275.01	1,227,233	100.0%	80.3	91	2	8	0	10	0	0	0	0	0	0

岩手県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



★：都道府県拠点

- ①岩手医科大学附属病院★（平成31年4月1日）
- ②岩手県立中央病院（平成31年4月1日）
- ③岩手県立中部病院（平成31年4月1日）
- ④岩手県立胆沢病院（平成31年4月1日）
- ⑤岩手県立磐井病院（平成31年4月1日）
- ⑥岩手県立大船渡病院（平成31年4月1日）
- ⑦岩手県立釜石病院（平成31年4月1日）
- ⑧岩手県立宮古病院（平成31年4月1日）
- ⑨岩手県立久慈病院（平成31年4月1日）
- ⑩岩手県立二戸病院（平成31年4月1日）

盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院★】

- がんセンターを設置し、高度ながん医療を提供
- がん医療を担う専門的人材の養成
- 県内各医療圏の拠点病院との緊密な連携

【県立中央病院】

- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施
- 県立病院（20病院・6診療所）のセンター病院

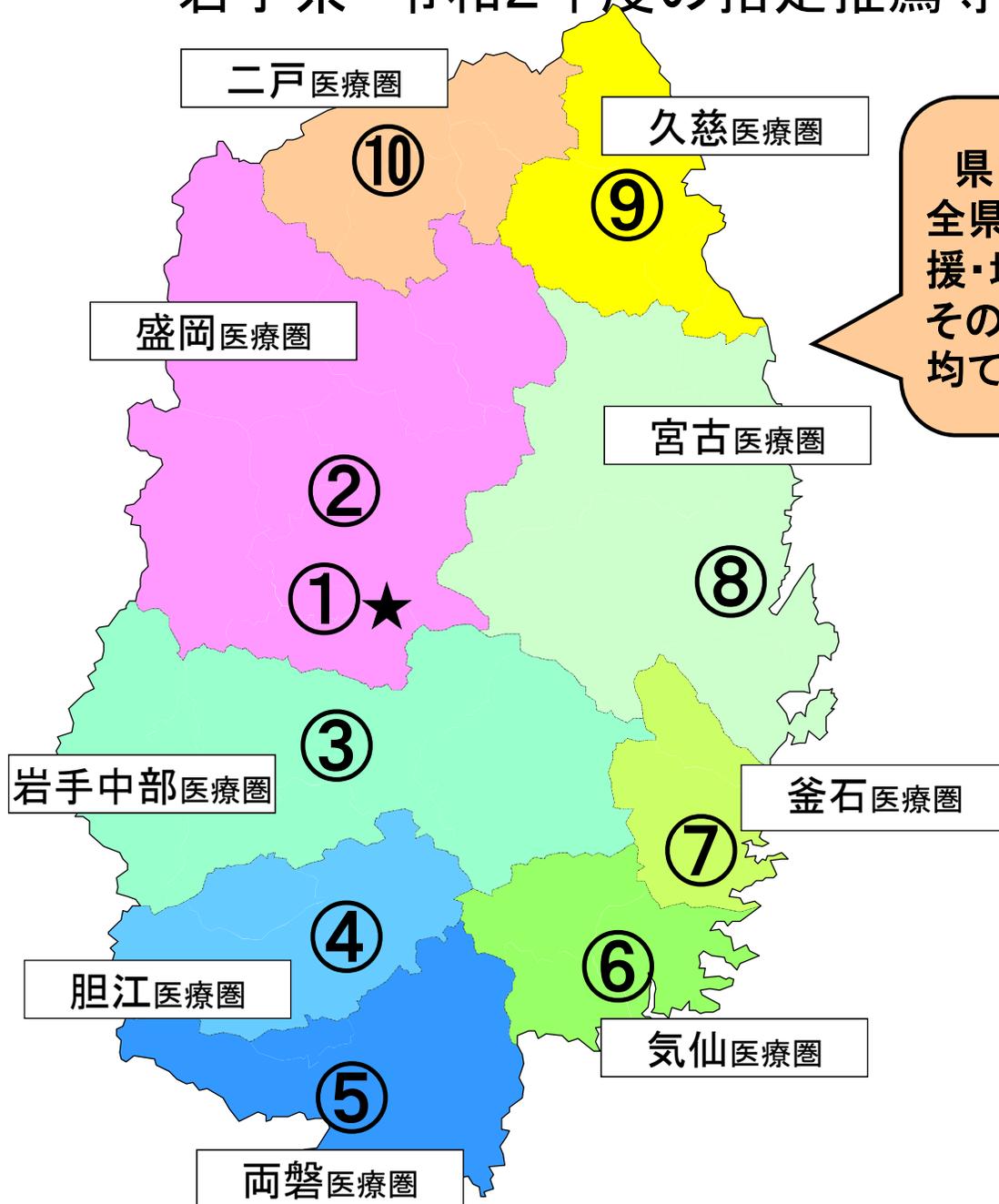
がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院がん 患者数	年間新入 院患者数に 占めるがん 患者の割 合(%)							
1 盛岡	★	現況	岩手医科大学 附属病院	(5,655) 6,227	(24.8) 27.8	(3,208) 2,429	(1,894) 1,925	(2,797) 1,685	(767) 837	(351) 330	(20) 20	(904) 799
2 盛岡		更新	県立中央病院	(3,576) 3,661	(22.4) 22.5	(1,713) 1,658	(1,442) 1,327	(2,026) 2,149	(529) 565	(128) 125	(20) 28	(2,845) 1,234
3 岩手中部		更新	県立中部病院	(2,667) 2,493	(22.9) 21.9	(1,137) 1,162	(963) 826	(1,348) 1,428	(489) 626	(326) 372	(66) 61	(4,085) 511
4 胆江		現況	県立胆沢病院	(1,784) 1,869	(21.6) 22.0	(889) 939	(571) 630	(890) 1,200	(156) 170	(72) 54	(59) 64	(534) 402
5 両磐		更新	県立磐井病院	(1,432) 1,359	(18.4) 16.5	(588) 571	(530) 572	(534) 548	(201) 179	(64) 85	(54) 52	(769) 516
6 気仙		更新	県立大船渡病院	(817) 774	(13.7) 13.5	(523) 387	(316) 296	(650) 499	(98) 97	(119) 111	(64) 57	(1,254) 1,052
7 釜石		更新	県立釜石病院	(694) 681	(18.0) 18.6	(265) 253	(194) 175	(164) 173	(75) 87	(16) 78	(54) 53	(332) 242
8 宮古		更新	県立宮古病院	(725) 833	(13.3) 15.1	(510) 399	(194) 190	(990) 429	(109) 105	(68) 37	(59) 68	(116) 208
9 久慈		更新	県立久慈病院	(582) 560	(12.3) 12.6	(363) 354	(220) 190	(1,445) 1,600	(47) 38	(42) 57	(48) 42	(229) 218
10 二戸		更新	県立二戸病院	(536) 525	(12.2) 12.6	(333) 369	(168) 144	(350) 285	(65) 76	(56) 35	(40) 39	(229) 2396

岩手県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



県内10箇所のがん診療連携拠点病院が、全県及び各圏域におけるがん診療・相談支援・地域連携の中心的役割を引き続き担い、その機能を強化しながら本県のがん医療の均てん化を図るもの。

- ①岩手医科大学附属病院★ (現況)
- ②県立中央病院(更新)
- ③県立中部病院(更新)
- ④県立胆沢病院(現況)
- ⑤県立磐井病院(更新)
- ⑥県立大船渡病院(更新)
- ⑦県立釜石病院(更新)
- ⑧県立宮古病院(更新)
- ⑨県立久慈病院(更新)
- ⑩県立二戸病院(更新)

指定推薦等に係る岩手県の考え方

■ 基本的考え方

- がん医療の水準を向上し、標準的治療の普及によるがん医療の均てん化を図るため、「第3次岩手県がん対策推進計画」に基づき、引き続き県拠点に加え、県内全てのがん医療圏(9圏域)で、国が指定する「がん診療連携拠点病院」による診療体制を確保
- ※ 各医療圏は、最小(釜石)でも東京23区、最大(盛岡)でも奈良県に匹敵する面積を有し、地勢的に峠や山地で隔てられた地域が多い。



- 医療従事者の確保・育成の有効活用を図りながら、チーム医療等による標準的な治療の提供、手術・薬物・放射線療法等を組み合わせた集学的治療の質の向上、盛岡圏域と県北・沿岸部等との医療機関のネットワーク連携による医療提供体制の確保、相談支援等の一層の機能強化による患者・家族の療養生活の質の向上を推進

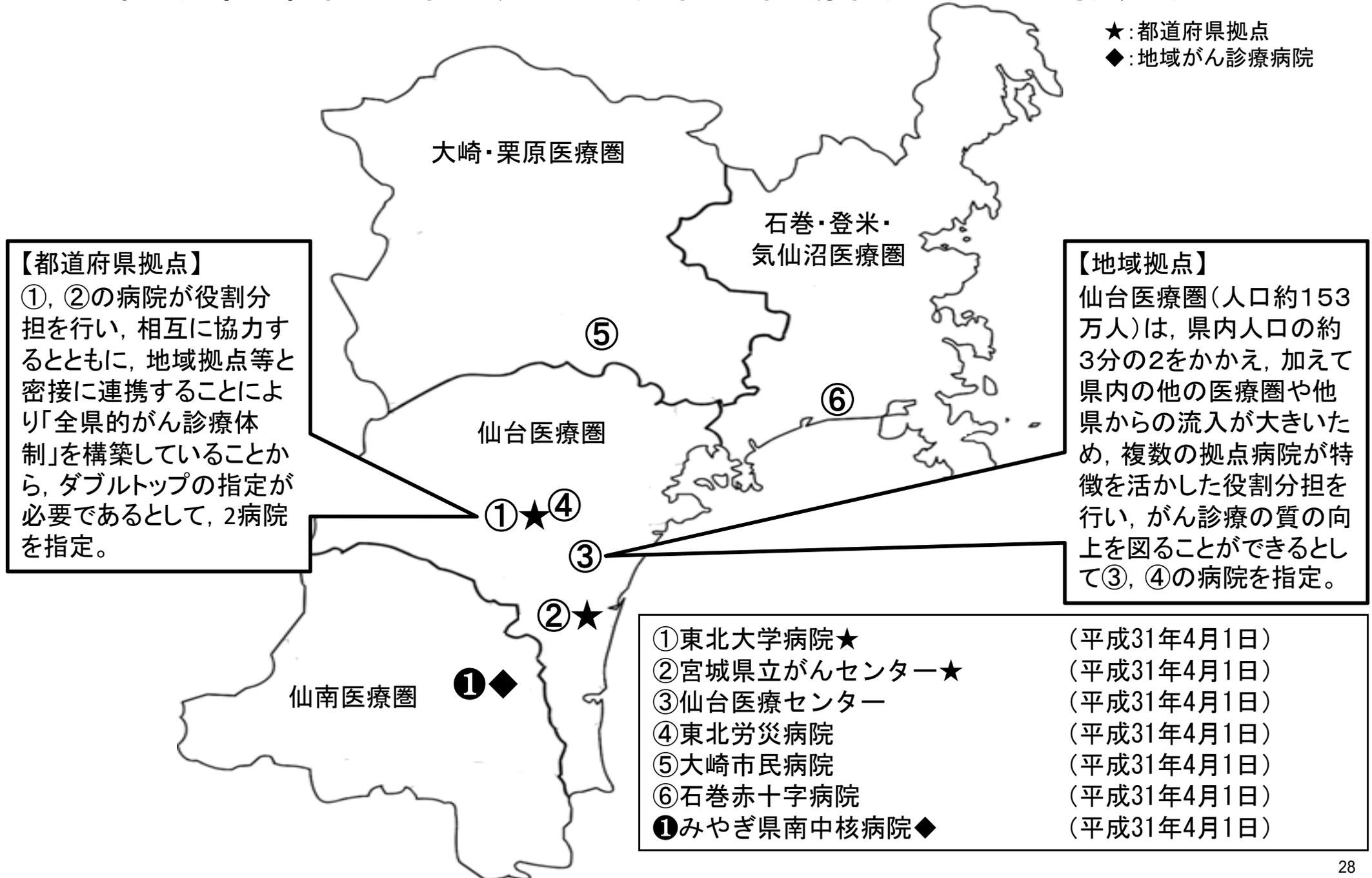
宮城県

宮城県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携 拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
仙南医療圏	1,551.40	169,870	7.4%	109.5	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
仙台医療圏	1,648.80	1,533,958	66.3%	930.3	78	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0
大崎・栗原 医療圏	2,328.77	263,281	11.5%	113.1	25	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
石巻・登米・ 気仙沼医療圏	1,753.25	336,433	14.8%	191.9	22	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	7,282.22	2,313,892	100%	317.7	138	3	1	2	6	0	0	0	1	0	0

宮城県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	仙台	★	現況報告	東北大学病院	(6,919) 6,795	(30.9) 29.8	(3,533) 2,615	(2,279) 2,140	(4,273) 3,969	(1,044) 1,008	(241) 357	(17) 18	(2,341) 1,347
2	仙台	★	現況報告	宮城県立がんセンター	(5,291) 5,639	(90.0) 90.4	(1,907) 1,671	(1,230) 1,205	(1,842) 2,000	(693) 734	(213) 213	(11) 18	(2,226) 1,934
3	仙台		現況報告	仙台医療センター	(3,271) 3,140	(22.6) 20.8	(1,550) 1,477	(1,106) 955	(1,891) 2,365	(431) 469	(231) 376	(7) 9	(3,496) 298
4	仙台		更新	東北労災病院	(2,343) 2,355	(20.3) 20.2	(1,150) 969	(710) 530	(1,044) 1,016	(275) 254	(228) 231	(8) 9	(1,610) 1,049
5	大崎栗原	◇	新規	大崎市民病院	(3,881) 3,909	(27.7) 27.2	(1,630) 1,646	(1,185) 1,122	(2,368) 1,484	(556) 460	(61) 47	(65) 65	(497) 568
6	石巻登米気仙沼	◇	新規	石巻赤十字病院	(2,459) 2,528	(18.7) 18.9	(1,553) 1,626	(1,132) 1,126	(1,868) 1,957	(351) 363	(71) 140	(32) 35	(342) 410

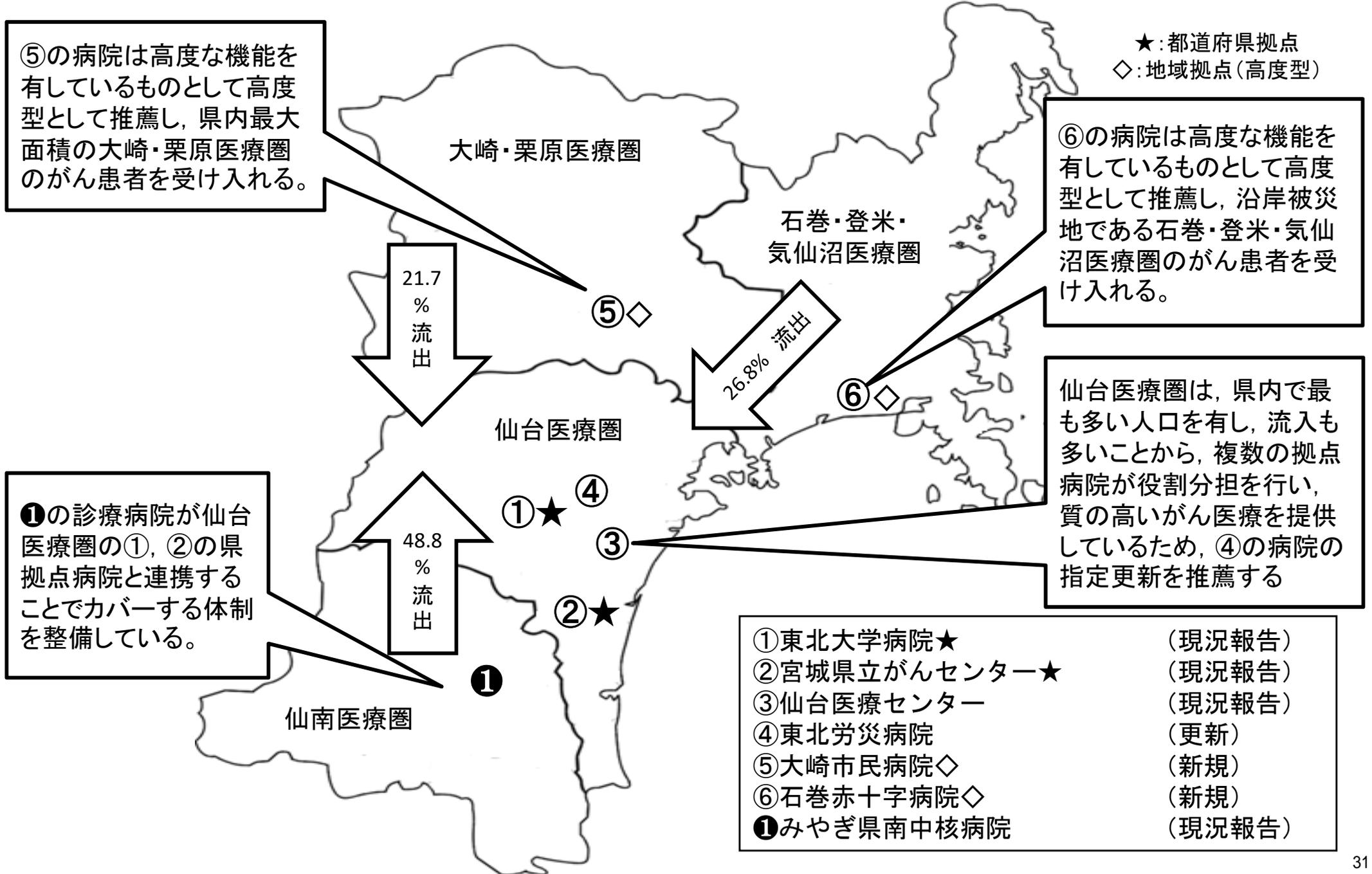
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	仙南	現況報告	みやぎ県南中核病院	(767) 674	(10.7) 9.0	(798) 860	(463) 464	(726) 969	(113) 83	(133) 72	(1,637) 996

宮城県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



宮城県の指定に係る考え方

○地域がん診療連携拠点病院の整備方針について

【仙台医療圏】

県内人口の約3分の2をかかえる、最大の2次医療圏であり、県内の他の医療圏や他県からの流入が大きいことから、既指定の2病院を引き続き指定して、がん診療の質の向上及び連携協力体制の整備を図る。

【石巻・登米・気仙沼医療圏】

既指定の病院は、沿岸被災地における医療機関復興の要となっており、質の高いがん医療を提供していることから、高度型に推薦し、がん診療機能をさらに強化する。

【大崎・栗原医療圏】

既指定の病院は、県北部のがん医療の中心的役割を担い、質の高いがん医療を提供していることから、高度型に推薦し、県北部のがん診療機能をさらに強化する。

秋 田 県

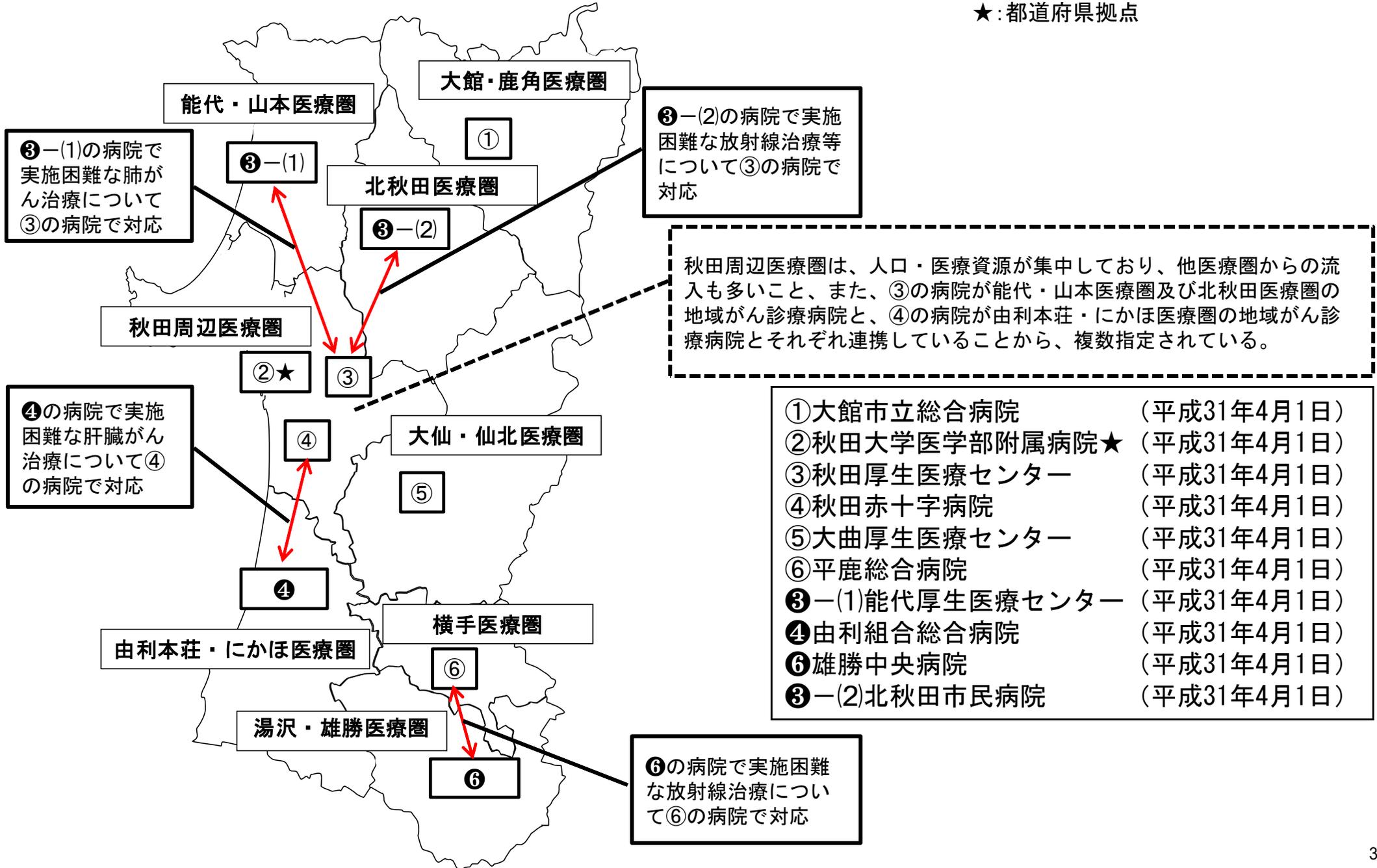
秋田県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
大館・鹿角	1845.96	104,760	10.8	56.8	10	1	0	0	1	0	0	0	0
北秋田	1409.39	32,708	3.4	23.2	2	0	0	0	0	0	1	0	1
能代・山本	1190.88	76,114	7.9	63.9	6	0	0	0	0	0	1	0	1
秋田周辺	1693.69	385,849	39.9	227.8	27	1	2	0	3	0	0	0	0
由利本荘・にかほ	1449.65	99,141	10.3	68.4	8	0	0	0	0	0	1	0	1
大仙・仙北	2128.12	122,330	12.7	57.5	8	0	0	0	0	0	0	1	1
横手	693.59	86,635	9.0	124.9	4	0	0	0	0	0	0	1	1
湯沢・雄勝	1225.04	59,476	6.2	48.6	3	0	0	0	0	0	1	0	1
計	11636.32	967,013	100.0	83.1	68	2	2	0	4	0	4	2	6

秋田県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	大館・鹿角		現況	大館市立総合病院	(1542) 1773	(21.5) 25.4	901	(471) 510	(4354) 4591	(171) 148	23	68	1130
2	秋田周辺	★	更新	秋田大学医学部附属病院	(4232) 4104	(36.3) 35.2	1723	(1592) 1303	(3859) 5404	(605) 834	189	23	3789
3	秋田周辺		更新	秋田厚生医療センター	(2115) 2006	(22.3) 20.9	968	(513) 613	(1277) 1329	(173) 134	105	18	702
4	秋田周辺		現況	秋田赤十字病院	(3625) 3868	(34.7) 36.8	1172	(680) 728	(1831) 1798	(236) 221	129	27	631

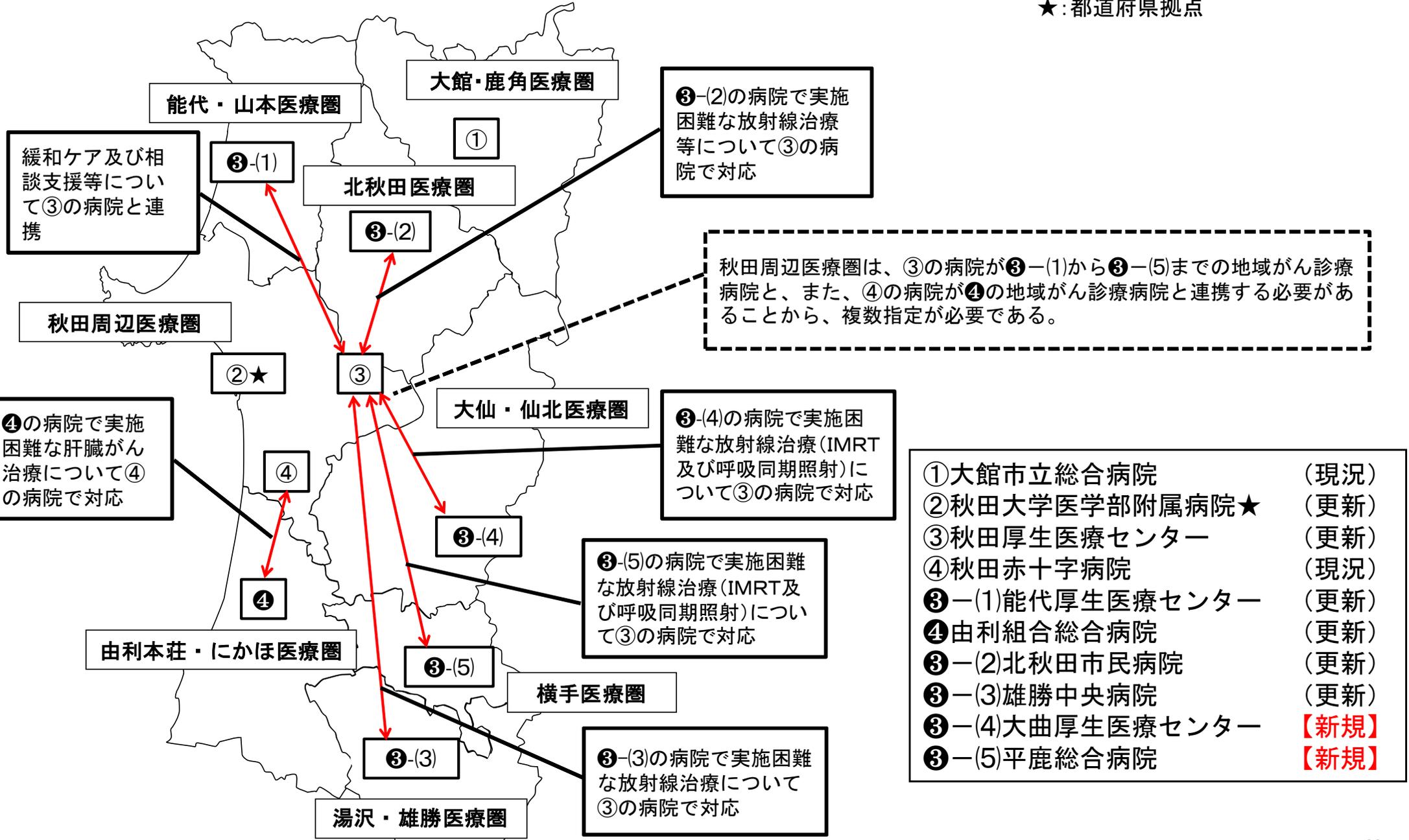
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施していれば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	がん相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)						
1	能代・山本	更新	能代厚生医療センター	(1150) 1284	(17.3) 18.7	558	(288) 259	(2528) 2629	(141) 114	113	162
2	由利本荘・にかほ	更新	由利組合総合病院	(1350) 1455	(16.0) 18.0	568	(320) 317	(149) 337	(113) 118	31	2363
3	北秋田	更新	北秋田市民病院	(420) 405	(15.3) 13.9	162	(81) 94	(257) 355	実施なし	40	39
4	湯沢・雄勝	更新	雄勝中央病院	(396) 520	(9.6) 14.4	342	(158) 166	(192) 188	実施なし	252	189
5	大仙・仙北	新規	大曲厚生医療センター	(2887) 3016	(33.6) 33.9	883	(535) 564	(1401) 1039	(177) 163	263	322
6	横手	新規	平鹿総合病院	(1332) 1063	(15.6) 12.6	820	(560) 534	(1259) 1288	(191) 213	117	169

秋田県 令和2年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



- | | |
|---------------|-------------|
| ①大館市立総合病院 | (現況) |
| ②秋田大学医学部附属病院★ | (更新) |
| ③秋田厚生医療センター | (更新) |
| ④秋田赤十字病院 | (現況) |
| ③-①能代厚生医療センター | (更新) |
| ④由利組合総合病院 | (更新) |
| ③-②北秋田市民病院 | (更新) |
| ③-③雄勝中央病院 | (更新) |
| ③-④大曲厚生医療センター | 【新規】 |
| ③-⑤平鹿総合病院 | 【新規】 |

秋田県のがん診療体制に関する考え方

【現状】

医療圏：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：5 地域がん診療病院：4

【R2.4.1以降】

医療圏：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：3 地域がん診療病院：6

1. 県内のがん診療連携体制について

- 秋田大学医学部附属病院を引き続き都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 秋田周辺医療圏については、秋田厚生医療センターと秋田赤十字病院の2病院が、各地域がん診療病院で実施困難な放射線治療等について、グループ指定により連携して対応する体制を維持する。
- 新たな整備指針に基づき、大曲厚生医療センター及び平鹿総合病院については、薬物療法医（専従常勤）や緩和ケアチームの精神症状緩和医（常勤）の要件を満たすことが困難なため、地域がん診療病院へ新たに申請する。

2. 指定により期待される効果

- 拠点病院を中心とした集学的治療や標準的治療の提供体制の強化
- がんの種類や病態等に応じた適切な医療や緩和ケアの提供、相談支援の実施
- 医療圏内の各医療機関と連携したがんに係る地域医療の充実及び質の向上

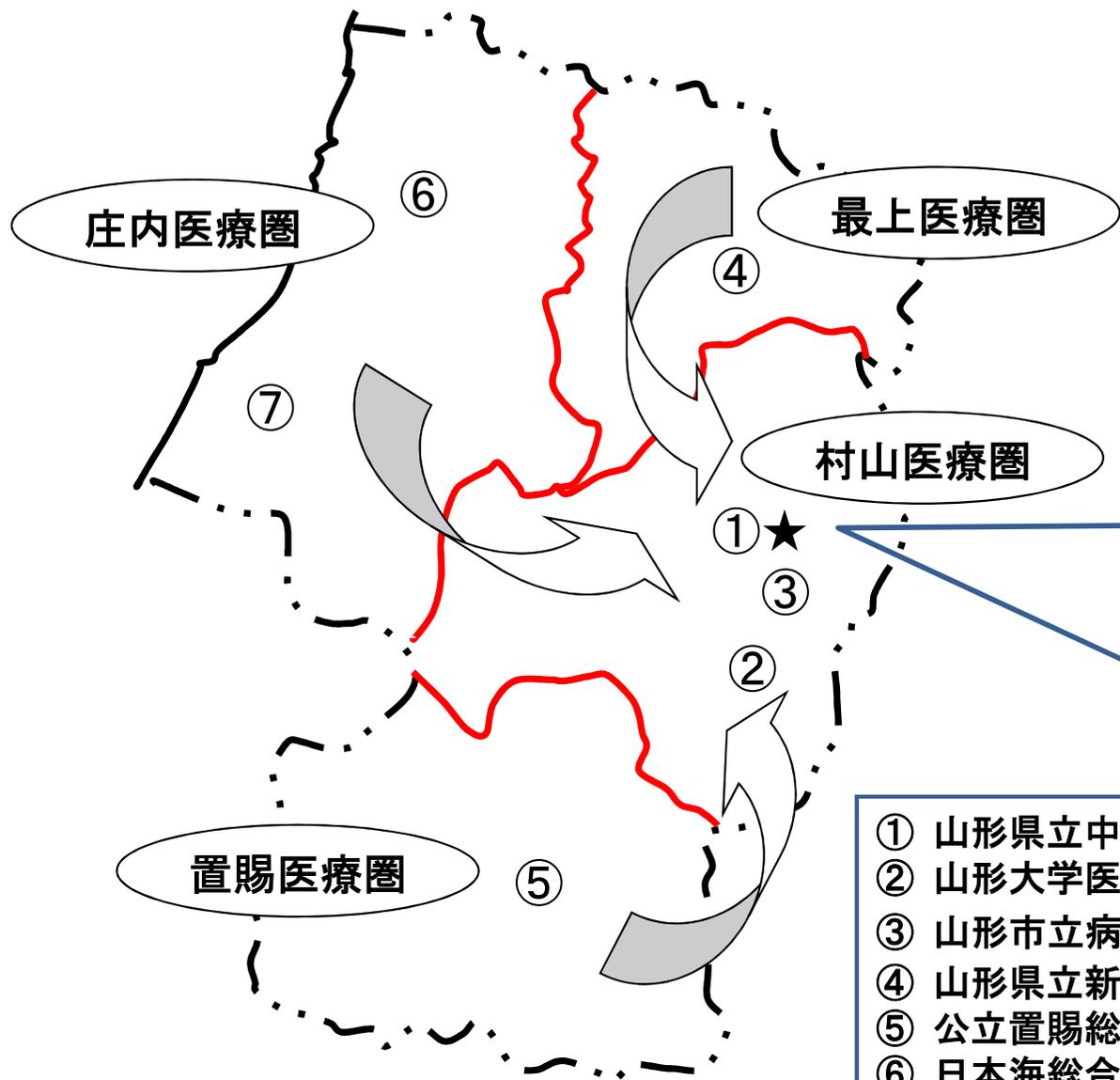
山形県

山形県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²) 国土地理院 面積調	人口 (人) R元. 9. 1 山形県社会的 移動人口調査	人口 割合 (%)	人口 密度 (人)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん 診療連携拠点 病院		地域がん診療 病院	
						現況 報告 病院 数	新規 申請 病院 数	更新 申請 病院 数	計	既 指定 病院 数	計	既 指定 病院 数	計
村山医療圏	2, 619. 39	536, 190	49. 8	204. 8	33	1		2	3		0		0
最上医療圏	1, 803. 23	72, 138	6. 7	40. 0	5			1	1		0		0
置賜医療圏	2, 495. 24	203, 682	18. 9	81. 6	15			1	1		0		0
庄内医療圏	2, 405. 28	265, 730	24. 7	110. 5	15		1		1		0		0
計	9, 323. 15	1, 077, 740	100. 0	115. 6	68	1	1	4	6	0	0	0	0

山形県令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



最上、置賜及び庄内医療圏に住むがん患者は、より高度な或いは稀少がんの治療が必要な場合、①の県拠点病院と②の特定機能病院を受診する。①、②、③の病院が、村山二次医療圏のがん患者と、その他の二次医療圏のがん患者の一部をカバーする。

- ① 山形県立中央病院★ (平成31年4月1日)
 - ② 山形大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
 - ③ 山形市立病院済生館 (平成31年4月1日)
 - ④ 山形県立新庄病院 (平成31年4月1日)
 - ⑤ 公立置賜総合病院 (平成31年4月1日)
 - ⑥ 日本海総合病院 (平成31年4月1日)
 - ⑦ 鶴岡市立庄内病院 (平成30年4月1日)
- 《参考》県がん診療連携指定病院

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

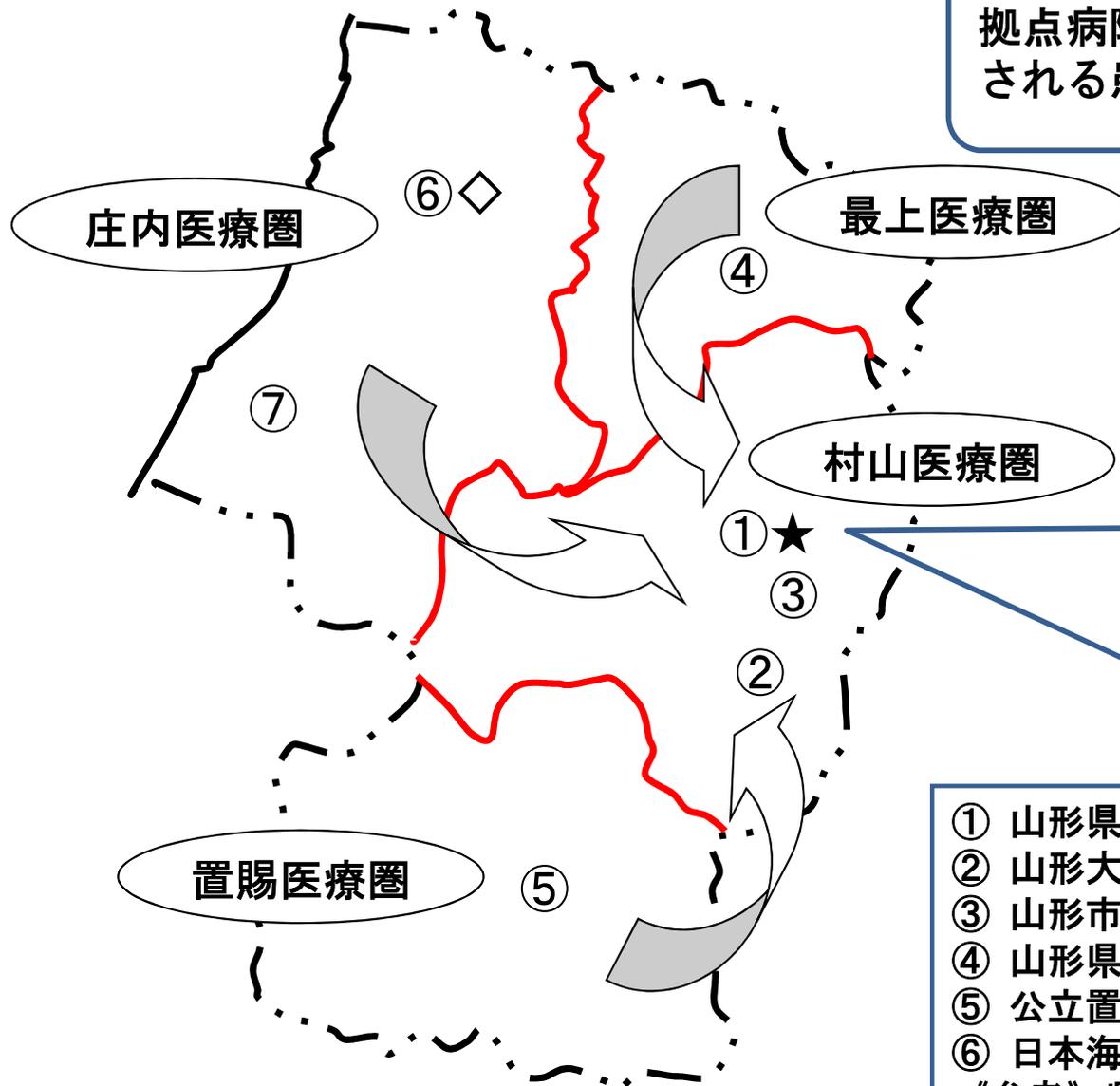
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
						500件以上	400件以上	1,000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1 村山医療圏	★	更新	山形県立中央病院	(4,652)	(29.4)	(1,841)	(1,415)	(2,578)	(552)	(269)	(39)	(2,367)
				4,522	29.2	1,844	1,427	1,621	496	268	38	2,215
2 村山医療圏		現況報告	山形大学医学部附属病院	(4,845)	(37.6)	(1,817)	(1,093)	(4,518)	(586)	(158)	(37)	(162)
				4,870	37.3	1,821	960	20,432	592	131	37	194
3 村山医療圏		更新	山形市立病院 済生館	(1,787)	(16.0)	(990)	(512)	(1,605)	(177)	(206)	(15)	(360)
				1,977	17.4	1,063	625	1,121	146	192	16	400
4 最上医療圏		更新	山形県立新庄病院	(1,305)	(19.5)	(612)	(294)	(506)	(115)	(228)	(108)	(498)
				1,136	17.4	582	323	479	121	188	95	502
5 置賜医療圏		更新	公立置賜総合病院	(2,299)	(22.2)	(1,020)	(710)	(1,012)	(230)	(60)	(48)	(543)
				2,225	21.3	1,002	485	1,101	247	50	62	442
6 庄内医療圏	◇	新規	日本海総合病院	(6,017)	(36.2)	(1,978)	(866)	(1,279)	(357)	(44)	(72)	(1,210)
				6,021	35.9	1,858	1,520	1,279	307	67	63	1,163
7 庄内医療圏		(参考)	鶴岡市立庄内病院	(1,890)	(18.0)	(786)	(436)	(400)	(141)	(110)	(26)	(198)
				1,777	17.3	760	415	498	130	70	21	209

山形県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

拠点病院数及び配置の変更はないため、想定される患者の受療動向にも変化はない。



最上、置賜及び庄内医療圏に住むがん患者は、より高度な或いは稀少がんの治療が必要な場合、①の県拠点病院と②の特定機能病院を受診する。①、②、③の病院が、村山二次医療圏のがん患者と、その他の二次医療圏のがん患者の一部をカバーする。

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 山形県立中央病院★ | (更新) |
| ② 山形大学医学部附属病院 | (現況報告) |
| ③ 山形市立病院済生館 | (更新) |
| ④ 山形県立新庄病院 | (更新) |
| ⑤ 公立置賜総合病院 | (更新) |
| ⑥ 日本海総合病院◇ | (新規) |
| 《参考》県がん診療連携指定病院 | |
| ⑦ 鶴岡市立荘内病院 | |

山形県のがん対策について

がん診療連携拠点病院の役割

基本的な方向

「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服を目指す」

○がん予防、早期発見、医療の提供、がん患者とその家族への相談支援等を総合的に推進し、がんによる死亡者の減少を図るとともに、全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の維持向上を図り、尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築を目指す。

・がん医療の推進

- 1) 手術療法、放射線療法、薬物療法等について単独又はこれらを組み合わせた集学的治療を行う。
- 2) がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようがんと診断された時からの緩和ケアの提供とともに診断から治療、在宅医療まで切れ目のないがん医療の提供を行う。
- 3) 地域におけるがん医療の連携と質の高いがん医療の提供を行うため、がん診療連携拠点病院及び山形県がん診療連携拠点病院を配置する。

役割（主なもの）

- ・都道府県がん診療連携拠点病院は、「山形県がん診療連携協議会」を設置運営し、本県がん医療の向上と均てん化のため、がん医療に関する情報交換、がん登録の分析評価、専門がん研修、がん診療拠点病院の機能強化、機能分担、連携強化を行う。また、緩和ケアセンターを設置し、緩和ケア提供体制の構築を図る
- ・がん診療連携拠点病院及び県指定病院は、地域におけるがん医療の拠点としてがん患者及びその家族への相談支援、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅医療支援診療所訪問看護ステーション、保健薬局等の関係機関との地域連携の構築を行う。
- ・がん診療連携拠点病院等と地域の医療機関等との密接な連携により、切れ目のない医療を提供する。



がん診療連携拠点病院を核にがん対策を行う必要があり、現在の拠点病院の設置は不可欠である。

福島県

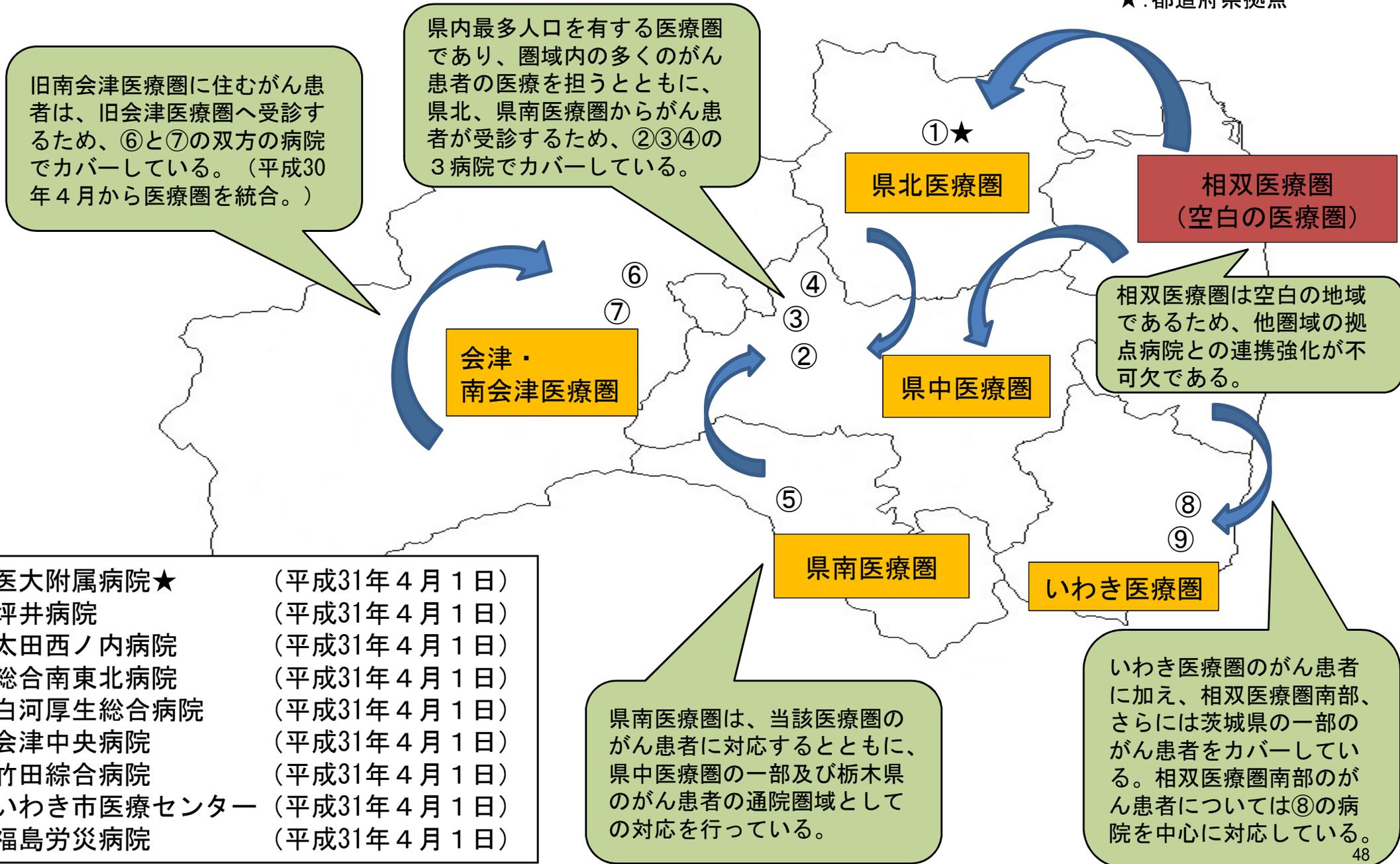
福島県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
県北医療圏	1,753.34	474,827	25.73%	270.8	31	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
県中医療圏	2,406.25	526,747	28.55%	218.9	32	1	2	0	3	0	0	1	0	0	0	0
県南医療圏	1,233.07	138,982	7.53%	112.7	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
会津・南会 津医療圏	5,420.31	262,833	14.24%	48.5	18	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
相双医療圏	1,738.91	101,523	5.50%	58.4	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき医療 圏	1,232.02	340,375	18.45%	276.3	27	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
計	13,783.90	1,845,287	100.00%	133.9	133	2	7	0	9	0	0	1	0	0	0	0

福島県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・ () 内は平成30年の数値、下段は令和元年の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 県北	★	現況	医大附属病院	(3376) 3610	(29.6) 31.6	1960	(1646) 1826	(12852) 13496	(780) 779	213	38	930
2 県中		更新	坪井病院	(2765) 2693	(64.5) 62.0	471	(755) 769	(2318) 1980	(173) 195	159	26	5073
3 県中		更新	太田西ノ内病院	(4030) 3945	(25.6) 25.4	1362	(1121) 1077	(3303) 3498	(310) 299	53	38	2804
4 県中		現況	総合南東北病院	(3014) 3076	(25.1) 26.7	1710	(1172) 1097	(1452) 1259	(852) 501	154	20	1710
5 県中	◎	新規	星総合病院	1464	15.0	963	646	1252	0	50	15	131
6 県南		更新	白河厚生総合病院	(1619) 1649	(19.2) 18.6	708	(337) 289	(2196) 1235	(158) 187	78	42	272
7 会津・南会津		更新	会津中央病院	(2011) 1974	(21.4) 22.5	571	(315) 417	(783) 743	(182) 132	55	30	959
8 会津・南会津		更新	竹田総合病院	(2222) 2019	(15.5) 14.1	1473	(747) 819	(6214) 3120	(244) 250	250	33	512
9 いわき		更新	いわき市医療センター	(1931) 2033	(14.2) 14.0	1468	(730) 771	(2292) 2145	(266) 260	53	26	1316
10 いわき		更新	福島労災病院	(2868) 1787	(53.1) 34.6	945	(536) 506	(3171) 3550	(201) 191	174	24	718

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院（乳がんについて）

資料3-1-②

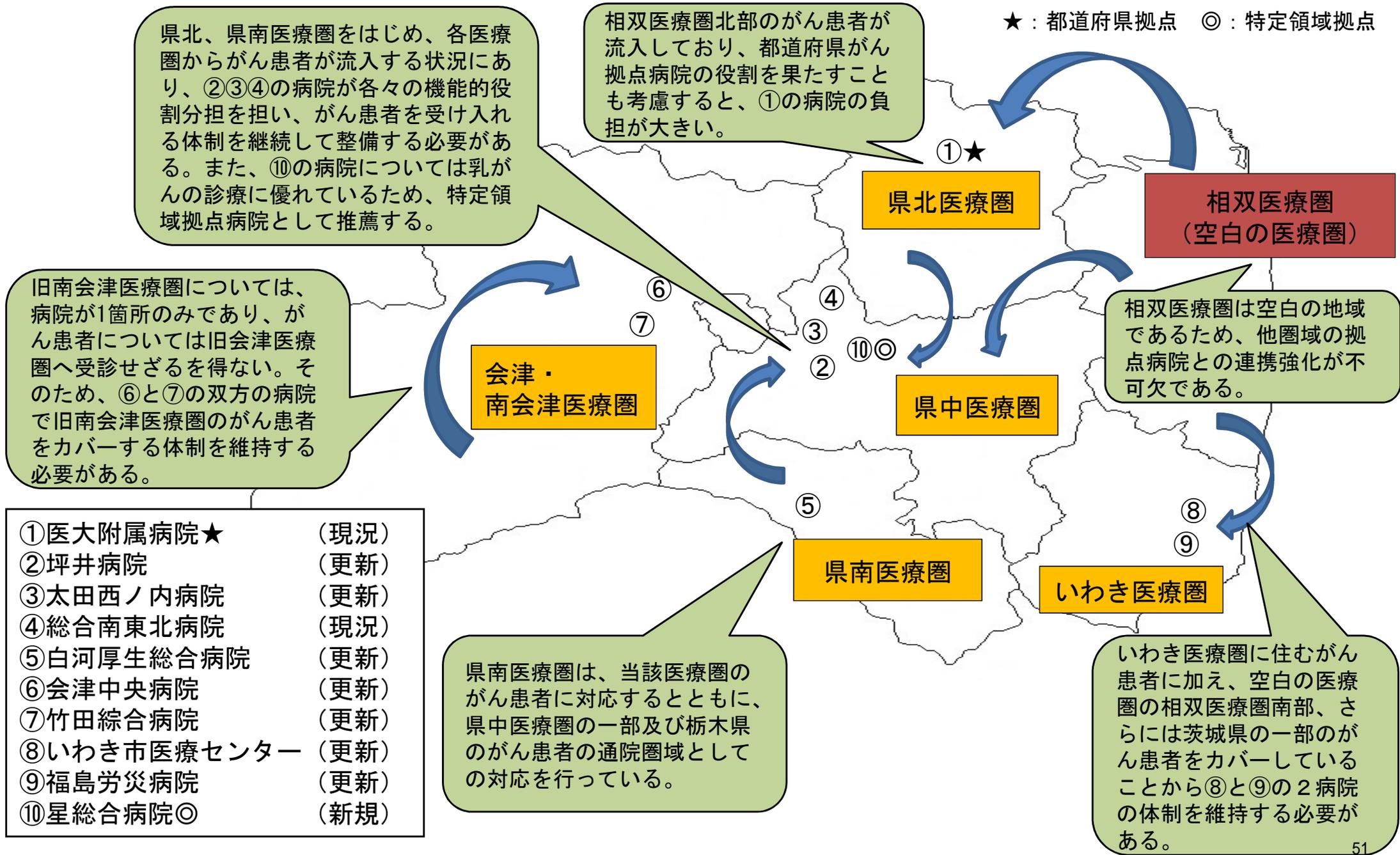
特定領域とするがん種の診療実績について、記載してください。

・診療実績は、H30年1月1日～12月31日の実績を記載のこと。

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	新規がん患者数 (年間)	手術件数 (年間)	薬物療法のべ患者数 (年間)	放射線治療のべ患者数 (年間)
	県中	◎	新規	星総合病院	310	237	1290	0
1	県北	★	更新	医大附属病院	601	157	1684	118
2	県中		更新	坪井病院	37	39	1077	34
3	県中		更新	太田西ノ内病院	236	55	324	96
4	県中		更新	総合南東北病院	84	75	403	60
5	県南		更新	白河厚生総合病院	92	35	204	21
6	会津・南会津		更新	会津中央病院	238	80	118	47
7	会津・南会津		更新	竹田総合病院	83	72	121	39
8	いわき		更新	いわき市医療センター	82	65	325	48
9	いわき		更新	福島労災病院	53	36	445	48

福島県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



福島県 がん診療連携拠点病院等の指定推薦について

1 1 医療圏に複数の拠点病院を整備する理由

(1) 県中医療圏

- ▶ 現在、圏域内の多くのがん患者の医療を担うとともに、県北医療圏をはじめ各圏域からのがん患者の診療に対応している。
- ▶ また、がん専門病院として開設した坪井病院、県内最大の病床を有する太田西ノ内病院、民間施設で陽子線治療施設を整備している総合南東北病院が地域拠点病院の指定を受けているほか、特定領域がん拠点病院の新規指定を目指す星総合病院が中心となりがん医療を提供している。
- ▶ それぞれの病院の特徴
 - ・坪井病院 緩和ケア病棟年間新入院患者数（医療圏内最多）
 - ・太田西ノ内病院 延べ入院がん患者数（県内最多）
 - ・総合南東北病院 放射線治療延べ患者数（医療圏内最多）

【参考】延べ外来患者数（人）

	県中医療圏内	県中医療圏外
坪井病院	17,016	3,849
太田西ノ内病院	54,663	9,738
総合南東北病院	18,515	13,081

(2) 会津・南会津医療圏

- ▶ 南会津地域（旧南会津医療圏）をカバーしていくために2病院体制を維持する必要がある。※平成30年4月から医療圏を統合。
- ▶ 旧南会津医療圏から旧会津医療圏へのがん患者（延べ外来患者数）流入状況
 - ・会津中央病院 2,524人
 - ・竹田総合病院 2,525人

【参考】がん診療連携拠点病院等の延べ外来患者数（相双医療圏からの流入分）（人）

県立医大	8,729
坪井病院	63
太田西ノ内病院	1,443
総合南東北病院	1,193
星総合病院	1,165
白河厚生総合病院	16
会津中央病院	185
竹田総合病院	228
いわき市医療センター	3,095
福島労災病院	1,172

(3) いわき医療圏

- ▶ 相双医療圏南部及び日立医療圏のがん患者をカバーするため、2病院体制を維持する必要がある。

2 特定領域がん診療連携拠点病院（乳がん）を整備する理由

- ▶ 星総合病院の乳がん手術件数（237件）は県内最多。
- ▶ 放射線治療が必要な患者には県内で連携している医療機関と連携し、適宜紹介しており、治療後は外来化学療法、緩和ケア医療等の受入れや総合的な調整・情報提供を行っている。
- ▶ 緩和ケア研修会の開催、院内がん登録全国集計への参加、がん診療連携協議会各部会への参加など、積極的にがん医療・相談支援の向上や情報共有に取り組んでいる。
- ▶ 平成3年に「がんの遺伝外来」を開設。遺伝カウンセリング及び遺伝学的検査を実施した家族性腫瘍は500例以上。東北各地からも数多く患者が来院している。

茨 城 県

茨城県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
水戸	909.73	459,728	16.0%	505.3	39		2		2						
日立	606.16	246,253	8.6%	406.3	21		1		1						
常陸太田・ひたちなか	1281.98	351,125	12.2%	273.9	21	1			1						
鹿行	754.49	269,710	9.4%	357.5	11				0					1	
土浦	495.02	252,432	8.8%	509.9	21		1		1						
つくば	486.52	350,861	12.2%	721.2	22	1		1	2						
取手・竜ヶ崎	656.14	459,832	16.0%	700.8	19		1		1						
筑西・下妻	590.99	254,547	8.9%	430.7	10				0						
古河・坂東	316.31	223,660	7.8%	707.1	9		1		1						
									0						
計	6097.34	2,868,148	1	4612.7	173	2	6	1	9	0	0	0	0	1	0

茨城県令和元年9月1日現在の指定状況と患者受療動向



筑西・下妻医療圏は、がん診療連携拠点病院の空白地域であるため、隣接するつくば、古河・坂東医療圏において指定を受けている⑥、⑦及び⑨の病院がカバーしている。

古河・坂東医療圏のがん医療を確保し、筑西・下妻医療圏のがん医療をカバーするために、⑨の病院が指定を受けている。

鹿行医療圏は、がん診療連携拠点病院の空白地域であるため、①小山記念病院が地域がん診療病院として、隣接する水戸保健医療圏に所在する①と②の拠点病院と連携し、がん医療を提供している。

- ① 県立中央病院★(平成31年4月1日)
- ② 国立病院機構水戸医療センター(平成31年4月1日)
- ③ 日立製作所日立総合病院(平成31年4月1日)
- ④ 日立製作所ひたちなか総合病院(平成31年4月1日)
- ⑤ 総合病院土浦協同病院(平成31年4月1日)
- ⑥ 筑波大学附属病院(平成31年4月1日)
- ⑦ 筑波メディカルセンター病院(平成31年4月1日)
- ⑧ 東京医科大学茨城医療センター(平成31年4月1日)
- ⑨ 友愛記念病院(平成31年4月1日)
- ① 小山記念病院(平成31年4月1日)

特定機能病院であり、がん医療従事者の教育・研修等の人材育成、医師の派遣さらに全圏域のがん患者を対象に、高度な治療を提供する機能を果たしている⑥の病院と、地域の医療連携の中核を担い、茨城県地域がんセンターである⑦の病院が連携・機能分担により対応している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	水戸	★ 更新	茨城県立中央病院	(4,498) 4,444	(40.0) 40.1	(1,741) 1,858	(1,244) 1,018	(2,029) 2,123	(569) 614	(276) 422	(35) 26	(4,673) 608
2	水戸	更新	水戸医療センター	(3,562) 3,553	(37.1) 38.1	(1,280) 1,331	(787) 718	(1,313) 1,448	(261) 251	(57) 66	(31) 23	(1,486) 624
3	日立	更新	日立総合病院	(2,500) 2,342	(25.2) 24.4	(1,600) 1,541	(1,011) 1,254	(1,670) 1,781	(323) 341	(218) 131	(89) 41	(4,446) 3,475
4	常陸太田・ひたちなか	現況報告	ひたちなか総合病院	(1,654) 1,654	(26.0) 25.1	(712) 652	(439) 411	(1,215) 1,175	(235) 202	(18) 51	(69) 40	(980) 1,073
5	土浦	更新	土浦協同病院	(3,422) 3,477	(17.8) 18.1	(1,616) 1,807	(751) 1,308	(1,571) 1,649	(425) 398	(274) 515	(76) 37	(233) 125
6	つくば	◇ 新規	筑波大学附属病院	(5,417) 6,855	(27.8) 35.6	(3,042) 3,041	(1,561) 1,605	(4,522) 4,216	(779) 773	(580) 615	(57) 38	(271) 322
7	つくば	現況報告	筑波メディカルセンター病院	(2,283) 2,318	(20.7) 20.8	(1,320) 1,019	(620) 676	(1,008) 1,130	(487) 495	(223) 201	(41) 20	(1,423) 1,567
8	取手・竜ヶ崎	更新	東京医科大学茨城医療センター	(1,932) 1,790	(21.6) 20.5	(956) 763	(484) 460	(1,104) 1,129	(249) 234	(59) 60	(28) 13	(446) 293
9	古河・坂東	更新	友愛記念病院	(1,374) 1,313	(19.5) 19.1	(680) 678	(472) 464	(1,019) 1,018	(210) 213	(132) 101	(41) 40	(905) 936

地域がん診療病院の診療実績等

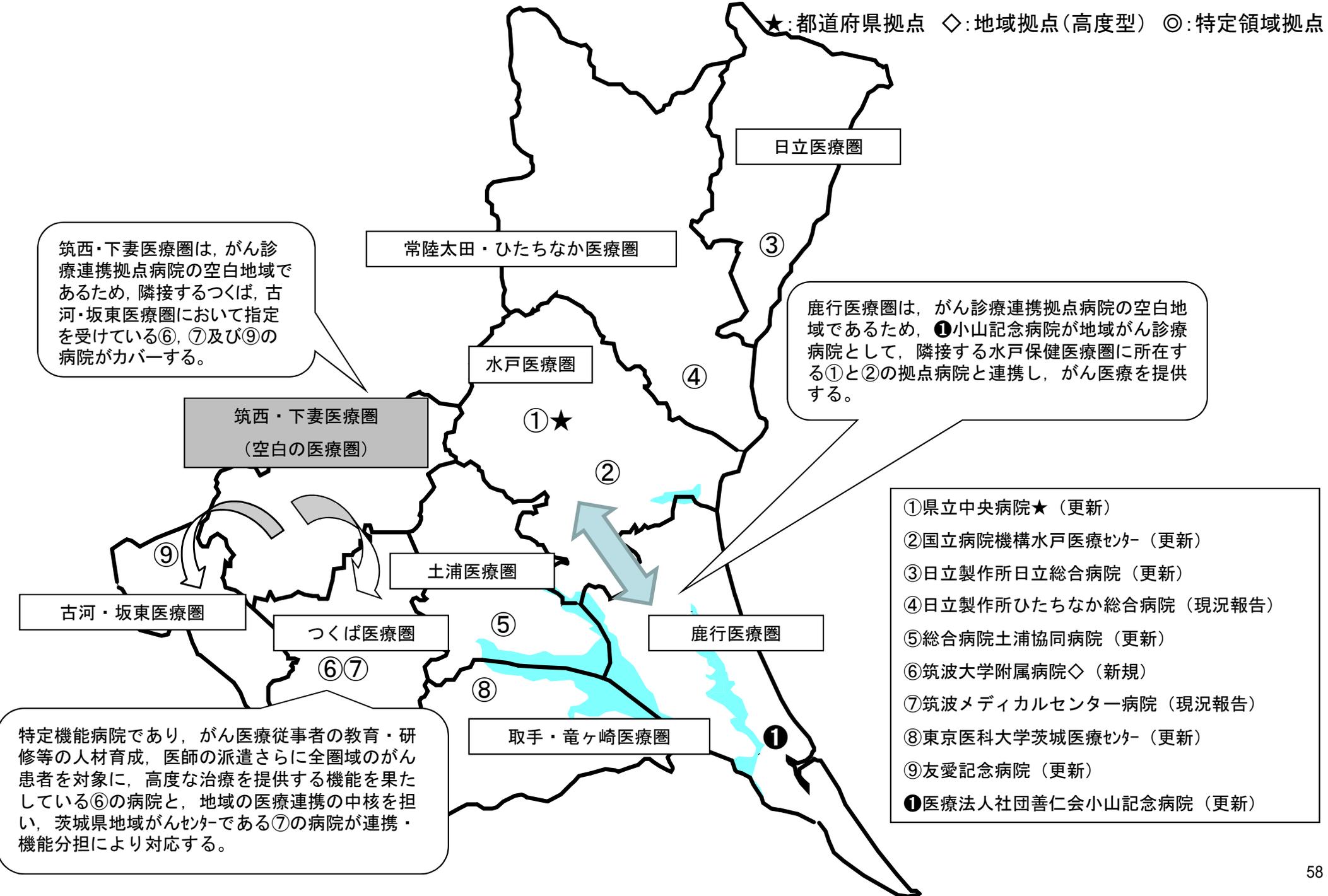
資料 3 - 2

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
①	鹿行	更新	小山記念病院	(602) 1,227	(10.5) 20.5	(585) 1,018	(310) 316	(189) 233	実施なし	(92) 77	(408) 367

茨城県令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



筑西・下妻医療圏は、がん診療連携拠点病院の空白地域であるため、隣接するつくば、古河・坂東医療圏において指定を受けている⑥、⑦及び⑨の病院がカバーする。

鹿行医療圏は、がん診療連携拠点病院の空白地域であるため、①小山記念病院が地域がん診療病院として、隣接する水戸保健医療圏に所在する①と②の拠点病院と連携し、がん医療を提供する。

特定機能病院であり、がん医療従事者の教育・研修等の人材育成、医師の派遣さらに全圏域のがん患者を対象に、高度な治療を提供する機能を果たしている⑥の病院と、地域の医療連携の中核を担い、茨城県地域がんセンターである⑦の病院が連携・機能分担により対応する。

- ① 県立中央病院★ (更新)
- ② 国立病院機構水戸医療センター (更新)
- ③ 日立製作所日立総合病院 (更新)
- ④ 日立製作所ひたちなか総合病院 (現況報告)
- ⑤ 総合病院土浦協同病院 (更新)
- ⑥ 筑波大学附属病院◇ (新規)
- ⑦ 筑波メディカルセンター病院 (現況報告)
- ⑧ 東京医科大学茨城医療センター (更新)
- ⑨ 友愛記念病院 (更新)
- ⑩ 医療法人社団善仁会小山記念病院 (更新)

茨城県 指定推薦に係る考え方

本県では、平成27年12月に「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」を策定し、がん対策を推進している。

これまで、がん医療の水準の向上及びがん医療の均てん化を図るため、9医療圏のうち8医療圏に、がん診療連携拠点病院を9か所、地域がん診療病院を1か所整備してきたところである。

平成31年4月1日付で、新たながん診療連携拠点病院の整備に関する指針に基づいて、上記の10病院が指定されたが、10病院中8病院に未充足要件があり、経過措置として指定期間が1年となっていることから、診療機能及び病院の意向等を踏まえ、次のとおり推薦する。

○新規推薦

本県唯一の大学病院（本院）かつ特定機能病院であり、人材育成やがん研究などで中心的な役割を担っている「筑波大学附属病院」については、高度な医療機能を有しているため、「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」として推薦する。

○更新推薦

7病院（がん診療連携拠点病院6か所、地域がん診療病院1カ所）については、指定要件を充足しているか、又は令和2年3月31日までに充足の見込みを確認しているため、引き続き推薦する。

茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制（令和2年4月1日以降）

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん，進行・再発がん，我が国に多いがん（肺，胃，肝，大腸，乳）の治療に対応

特定機能病院

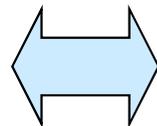
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院の医療従事者に対する高度ながん医療に関する研修を実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣
- ・全県の希少がん，小児がん（小児がん連携病院）に対応
- ・陽子線治療，がんゲノム医療（がんゲノム医療拠点病院），がん生殖医療の実施

都道府県がん診療連携拠点病院

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- ・茨城県がん診療連携協議会の運営（緩和ケア，各種研修に関する計画作成，PDCAサイクルの確保の中心的役割）
- ・緩和ケアセンター
- ・がんゲノム医療連携病院



連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺，胃，肝，大腸，乳）を中心に治療を提供，5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応，地域の医療従事者の研修会開催，相談支援センターを設置し，ピアサポート相談・就労支援窓口，患者サロンを開設

水戸医療圏

県立中央病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肺がん，肝がん，膵がん等の進行・再発がん
- ・緩和ケア病棟（23床）
- ・IMRTの実施

水戸医療センター

- ・乳がん，血液がん，肺がん
- ・緩和ケア病棟（28床）
- ・救命救急センター

鹿行医療圏

小山記念病院

- ・地域がん診療病院として，拠点病院と連携してがん医療を提供

日立医療圏

(株)日製日立総合病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・緩和ケア病棟（20床）

常陸太田・ひたちなか医療圏

(株)日製ひたちなか総合病院

- ・地域医療支援病院
- ・IMRTの実施

土浦医療圏

総合病院土浦協同病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

取手・竜ヶ崎医療圏

東京医科大学茨城医療センター

- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・IMRTの実施

古河・坂東医療圏

友愛記念病院

- ・緩和ケア病棟（14床）
- ・がん患者家族デイケアサロンの実施

つくば医療圏

筑波大学附属病院

- ・県内の医療従事者の人材育成
- ・IMRTの実施

筑波がんリハビリセンター病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・県内の緩和ケア体制の整備，普及に対し指導的な役割
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

3病院でカバー

筑西・下妻医療圏

栃 木 県

栃木県 がんの医療圏の概要

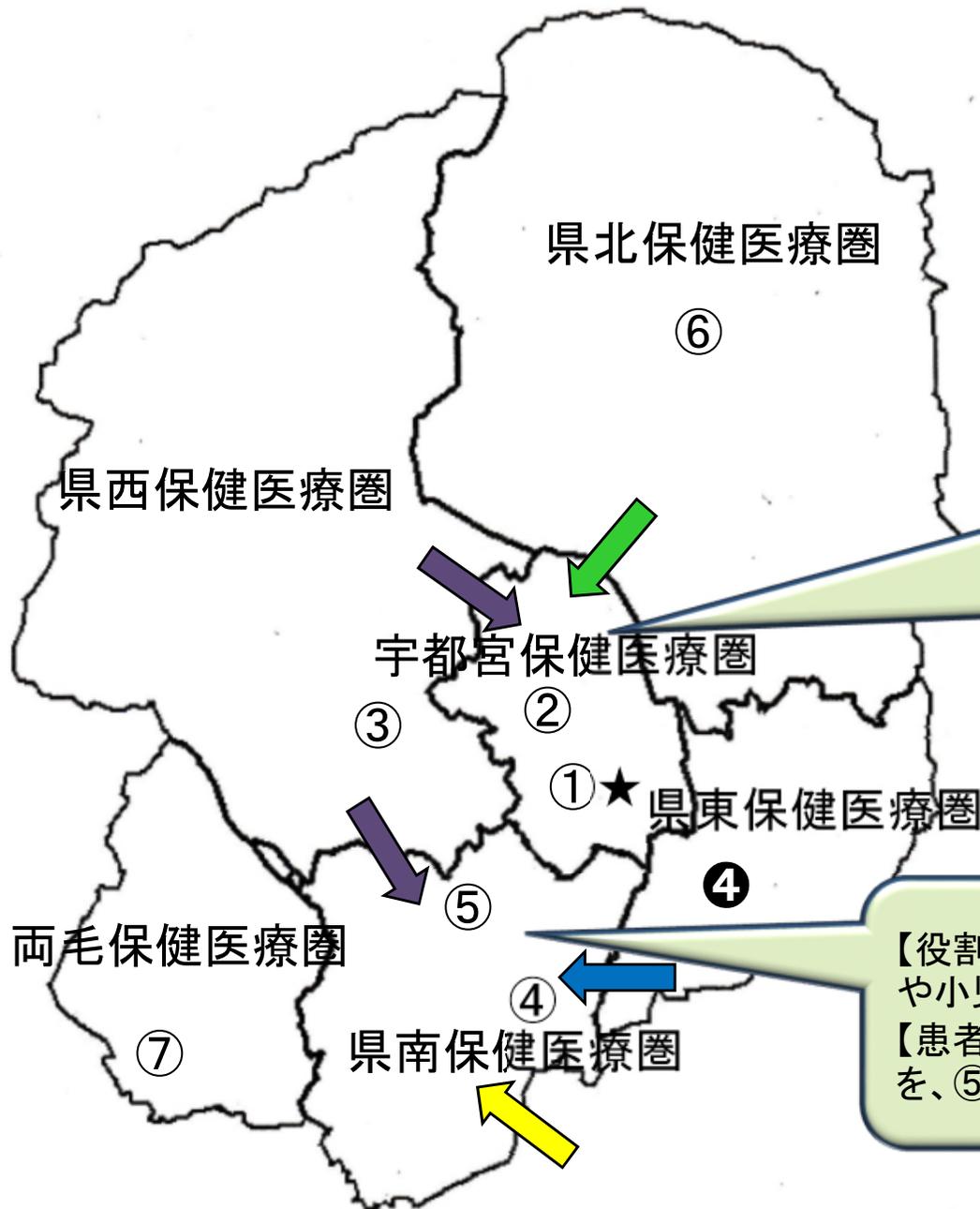
令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北保健医療圏	2,229.5	370,383	19.0	166.1	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県西保健医療圏(※)	1,940.5	174,667	8.9	90.0	11	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
宇都宮保健医療圏	416.9	519,343	26.6	1,245.7	31	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
県東保健医療圏(※)	563.8	139,553	7.1	247.5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
県南保健医療圏	723.6	478,381	24.5	661.1	22	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
両毛保健医療圏(※)	533.8	260,601	13.3	488.2	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	6,408.1	1,942,928	100	303.2	106	5	2	0	7	0	0	0	0	1	0

※印は、医師数がおおむね300人を下回る医療圏

栃木県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ① 栃木県立がんセンター★(2019年4月1日)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(2019年4月1日)
- ③ 上都賀総合病院(2019年4月1日)
- ④ 自治医科大学附属病院(2019年4月1日)
- ⑤ 獨協医科大学病院(2019年4月1日)
- ⑥ 那須赤十字病院(2019年4月1日)
- ⑦ 足利赤十字病院(2019年4月1日)
- ④ 芳賀赤十字病院(2019年4月1日)

【役割】①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC特定病院群の総合病院として合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県西・県北のがん患者を、②は県北のがん患者を多く診療している。

【役割】④及び⑤は特定機能病院として、高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】④は茨城県・宇都宮・県東等のがん患者を、⑤は宇都宮・県西等のがん患者を多く診療している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型) ◎：特定領域拠点

- ・()内は平成30年度提出の数値、下段は令和元年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の 診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援 センター 相談件数 (年間)
					年間新 入院が ん患者 数	年間新入院 患者数に 占めるがん 患者の割合 (%)							
1	宇都宮	★	現況	栃木県立 がんセンター	(3254) 3143	(77.6) 78.6	1593	(1088) 1130	(1617) 2283	(489) 517	111	17	3009
2	宇都宮		更新	栃木県済生会 宇都宮病院	(4089) 3914	(23.7) 22.8	1747	(1105) 1136	(1881) 1890	(444) 367	84	26	622
3	県西		更新	上都賀総合 病院	(928) 1206	(18.6) 20.9	521	(141) 209	(1690) 275	(76) 68	74	47	438
4	県南		現況	自治医科大学 附属病院	(6226) 6091	(26.6) 26.4	3000	(2717) 2604	(5354) 5428	(784) 983	266	24	16833
5	県南		現況	獨協医科大学 病院	(6802) 6981	(28.0) 27.1	2573	(2826) 2937	(2202) 4796	(567) 517	180	21	4517
6	県北		現況	那須赤十字 病院	(1826) 2043	(17.1) 19.4	807	(428) 529	(1108) 1224	(204) 200	61	41	634
7	両毛		現況	足利赤十字 病院	(1870) 1952	(14.6) 15.9	1147	(842) 916	(1544) 1256	(305) 303	235	32	601

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年度提出の数値、下段は令和元年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施していれば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチームに対する 新規診療 依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患者数に占める がん患者の割合(%)						
④	県東	更新	芳賀赤十字病院	(1195) 804	(15.7) 10.5	502	(265) 262	(1825) 815	実施なし	57	500

栃木県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ①栃木県立がんセンター★(現況)
- ②栃木県済生会宇都宮病院(更新)
- ③上都賀総合病院(更新)
- ④自治医科大学附属病院(現況)
- ⑤獨協医科大学病院(現況)
- ⑥那須赤十字病院(現況)
- ⑦足利赤十字病院(現況)
- ④芳賀赤十字病院(更新)

県北保健医療圏

県西保健医療圏

宇都宮保健医療圏

県東保健医療圏

両毛保健医療圏

県南保健医療圏

【役割】④及び⑤は特定機能病院として高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】共に県域にとどまらず県域を越えたがん患者も受け入れる。県域では特に④が宇都宮・県東等のがん患者を、⑤が宇都宮・県西等のがん患者をカバーする。

⑦は圏内トップのがん診療実績を有し、圏域のみならず群馬県のがん患者も受け入れる。

【役割】①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県全域のがん患者を、②は県北等のがん患者をカバーする。

④は④との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

栃木県 今回の指定更新推薦について

病 院 名	医療圏	特 徴 ・ 役 割 分 担 等
②栃木県済生会宇都宮病院 (地域拠点)	宇都宮	・DPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等に対応
③上都賀総合病院(地域拠点)	県 西	・地域に密着した中核病院 ・5大がんを中心としたがん医療を提供
④芳賀赤十字病院(地域がん診療)	県 東	・④自治医科大学附属病院との連携により、圏内のがん患者に対応

⇒ 充足できていなかった要件については、経過措置期間中に3病院とも充足している。いずれの病院も地域のがん医療の中核的な役割を果たしており、今後も県民が求める質の高いがん医療を適切に提供していくため、引き続き指定を得られるよう推薦する。

群馬県

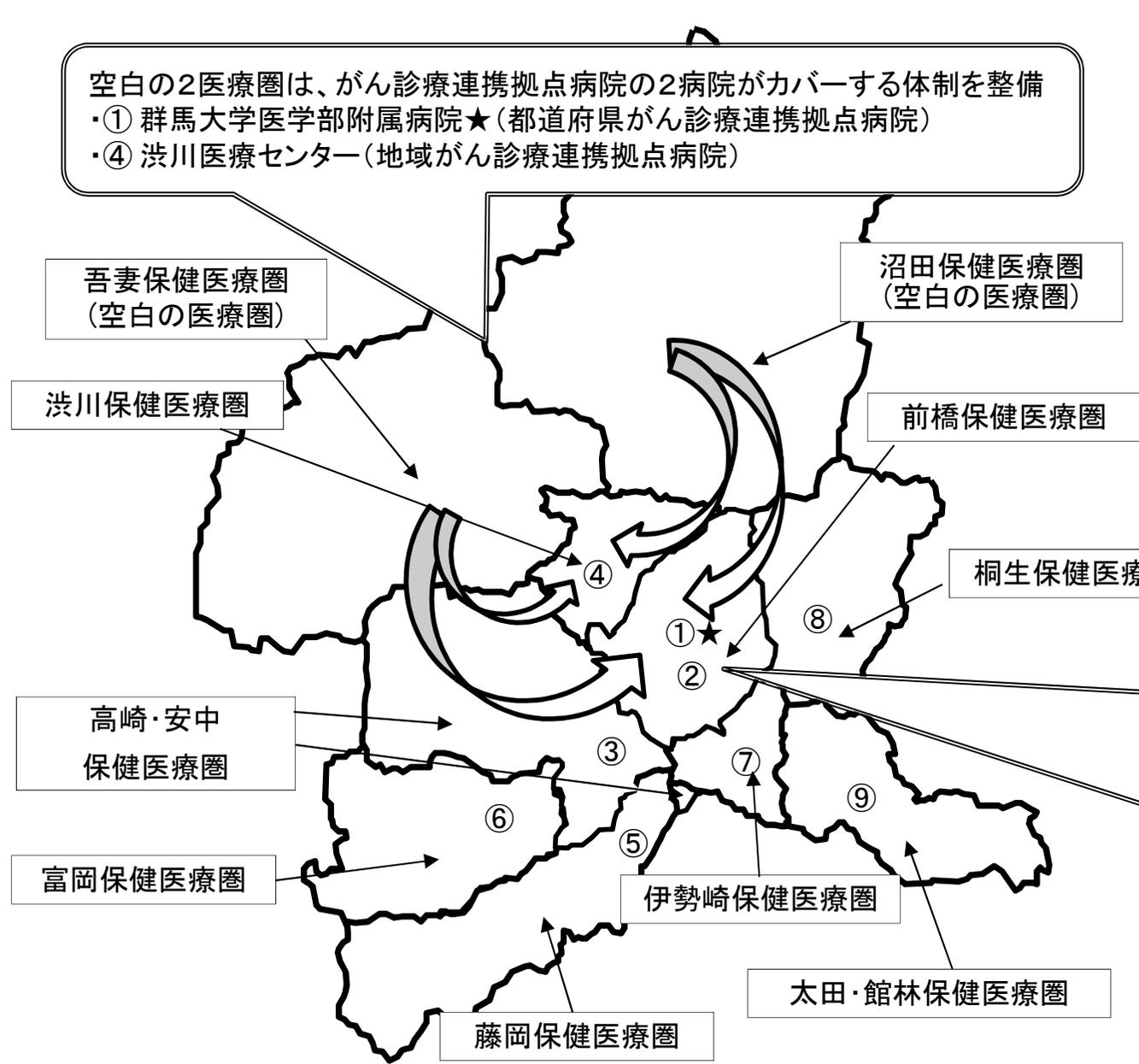
群馬県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
前橋保健医療圏	311.6	333,377	17.2%	1,069.9	21	2			2
高崎・安中保健医療圏	735.5	424,701	21.9%	577.4	32		1		1
渋川保健医療圏	288.7	110,989	5.7%	384.4	10		1		1
藤岡保健医療圏	476.7	66,651	3.4%	139.8	5	1			1
富岡保健医療圏	488.7	69,142	3.6%	141.5	4	1			1
吾妻保健医療圏	1,278.6	52,766	2.7%	41.3	9				0
沼田保健医療圏	1,765.7	78,616	4.0%	44.5	7				0
伊勢崎保健医療圏	165.2	246,594	12.7%	1,492.7	11		1		1
桐生保健医療圏	482.9	158,321	8.2%	327.9	12		1		1
太田・館林保健医療圏	368.9	400,038	20.6%	1,084.4	19		1		1
計	6,362.5	1,941,195	100%	5303.8	130	4	5	0	9

群馬県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

空白の2医療圏は、がん診療連携拠点病院の2病院がカバーする体制を整備
 ・① 群馬大学医学部附属病院★(都道府県がん診療連携拠点病院)
 ・④ 渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)



①	群馬大学医学部附属病院★	R1. 7. 1
②	前橋赤十字病院	H31. 4. 1
③	高崎総合医療センター	H31. 4. 1
④	渋川医療センター	H31. 4. 1
⑤	公立藤岡総合病院	H31. 4. 1
⑥	公立富岡総合病院	H31. 4. 1
⑦	伊勢崎市民病院	H31. 4. 1
⑧	桐生厚生総合病院	H31. 4. 1
⑨	群馬県立がんセンター	H31. 4. 1

複数配置による役割分担

①★の病院の役割

- ・ 県内のがん医療の中核
- ・ 人材育成及び高度医療の提供
- ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
- ・ 群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援

②の病院の役割

- ・ 地域のがん医療の中核
- ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
- ・ 地域連携クリティカルパスの利用促進

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

★：都道府県拠点

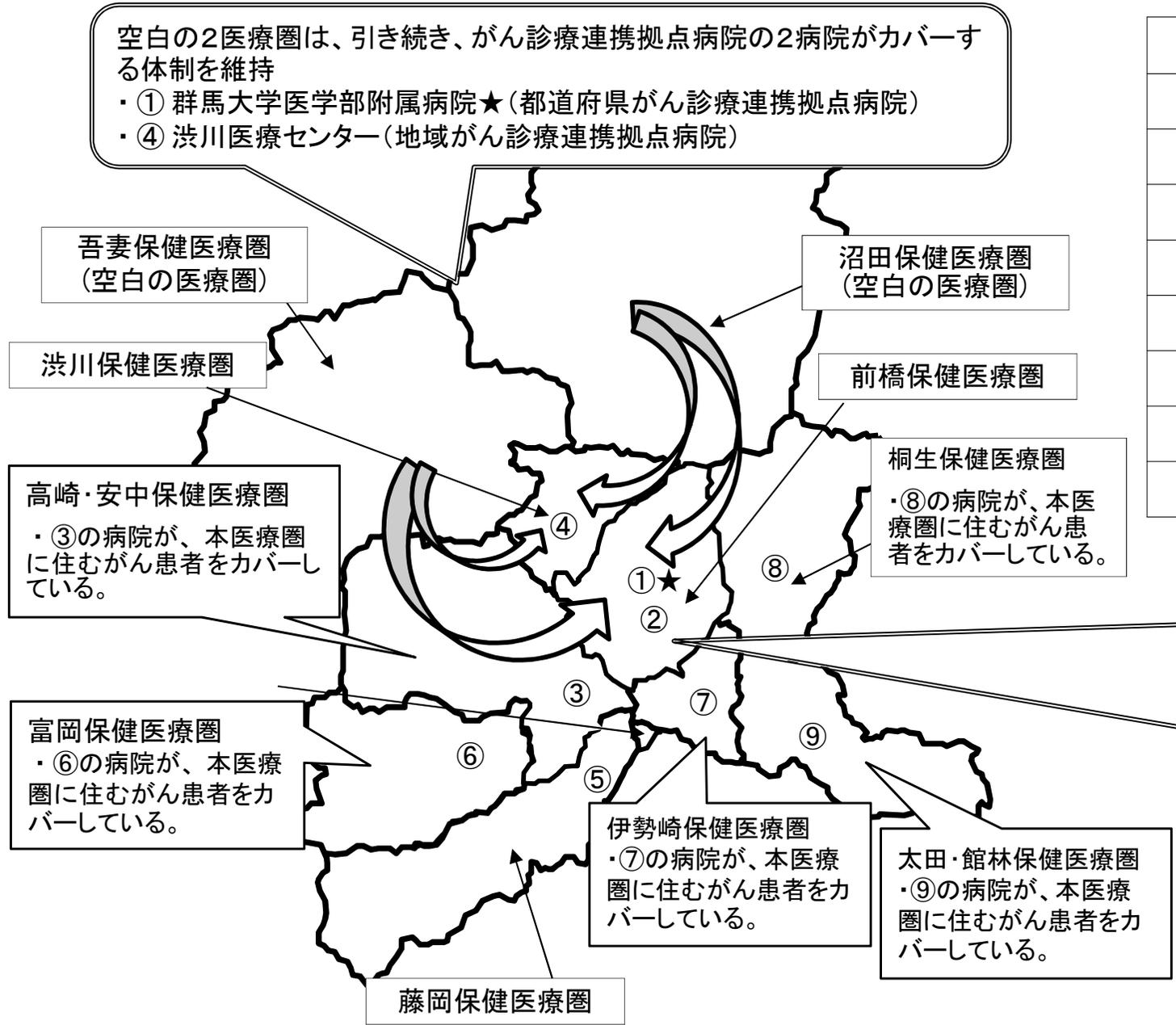
・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	前橋	★ 現況	群馬大学医学部附属病院	(5,432) 5,432	(39.3) 36.9	2,525	(1,760) 1,670	(2,706) 1,930	(1,060) 1,185	110	29	1,493
2	前橋	現況	前橋赤十字病院	(2,836) 3,062	(18.9) 21.1	1,662	(762) 722	(3,009) 1,053	(306) 228	116	36	1,261
3	高崎・安中	更新	高崎総合医療センター	(3,348) 3,017	(26.6) 24.1	1,580	(986) 999	(1,050) 1,171	(367) 369	118	26	3,579
4	渋川	更新	渋川医療センター	(3,072) 3,131	(50.0) 46.8	1,164	(622) 816	(1,713) 2,565	(331) 354	113	34	961
5	藤岡	現況	公立藤岡総合病院	(1,941) 1,844	(24.1) 20.6	736	(416) 463	(1,746) 1,953	(289) 320	264	66	381
6	富岡	現況	公立富岡総合病院	(1,339) 1,189	(15.6) 14.2	707	(488) 403	(338) 539	(118) 129	91	60	1,021
7	伊勢崎	更新	伊勢崎市民病院	(2,880) 2,797	(21.9) 21.1	1,311	(1,251) 999	(619) 682	(229) 271	478	41	651
8	桐生	更新	桐生厚生総合病院	(1,732) 1,553	(20.5) 18.7	619	(472) 427	(538) 449	(119) 167	51	65	90
9	太田・館林	更新	県立がんセンター	(5,459) 5,180	(90.7) 87.1	2,696	(1,875) 1,584	(4,981) 3,870	(877) 839	69	55	13,655

群馬県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点

①	群馬大学医学部附属病院★	現況
②	前橋赤十字病院	現況
③	高崎総合医療センター	更新
④	渋川医療センター	更新
⑤	公立藤岡総合病院	現況
⑥	公立富岡総合病院	現況
⑦	伊勢崎市民病院	更新
⑧	桐生厚生総合病院	更新
⑨	群馬県立がんセンター	更新



引き続き複数配置により、以下の役割を分担

- ①★の病院の役割
 - ・ 県内のがん医療の中核
 - ・ 人材育成及び高度医療の提供
 - ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
 - ・ 群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援
- ②の病院の役割
 - ・ 地域のがん医療の中核
 - ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
 - ・ 地域連携クリティカルパスの利用促進

今回の指定推薦に関する本県の考え方

本県における拠点病院整備に関する基本方針

群馬県がん対策推進計画(平成30年度～35年度)

- ① 県民がどこに住んでいても適切ながん医療が受けられる体制の維持
- ② がん医療圏(2次保健医療圏)ごとに、がん診療連携拠点病院を整備
 - ・都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療連携拠点病院の相互連携による機能の維持・強化
- ③ 空白の医療圏は、がん診療連携拠点病院と本県独自指定の「群馬県がん診療連携推進病院」との連携による地域がん医療提供体制を整備

地域がん診療連携拠点病院5病院の推薦

- ・5保健医療圏のがん医療の中核である5病院が、指定必須要件を全て満たしているため推薦
- ・5病院は、地域のがん医療を支えるとともに、地域のがん医療水準向上のための中心的な役割
- ・県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられる体制の維持・強化のため、地域がん診療連携拠点病院としての5病院の存在が必要不可欠

空白の医療圏のがん医療提供体制

【吾妻保健医療圏、利根沼田保健医療圏】

- ・当該保健医療圏のがん患者の受診を、群馬大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)と渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)がカバーする体制の維持

埼玉県

埼玉県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
南部	85.25	808,944	11%	9489.1	29	0	3	0	3
南西部	110.95	726,276	10%	6546.0	29	0	1	0	1
東部	249.71	1,160,988	16%	4649.3	50	1	1	0	2
さいたま	217.43	1,307,146	18%	6011.8	39	2	1	0	3
県央	172.91	527,951	7%	3053.3	18	1	0	0	1
川越比企	626.53	797,023	11%	1272.1	50	0	0	1	1
西部	406.32	772,959	11%	1902.3	53	1	0	0	1
利根	473.95	638,238	9%	1346.6	32	0	0	0	0
北部	562.12	501,081	7%	891.4	34	0	1	0	1
秩父	892.62	95,918	1%	107.5	8	0	0	0	0
計	3797.79	7,336,524	100%	35269.498	342	5	7	1	13

埼玉県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①川口市立医療センター（平成31年4月1日）
- ②済生会川口総合病院（平成31年4月1日）
- ③戸田中央総合病院（平成31年4月1日）
- ④国立病院機構埼玉病院（平成31年4月1日）
- ⑤春日部市立医療センター（平成31年4月1日）
- ⑥獨協医科大学埼玉医療センター（平成31年4月1日）
- ⑦さいたま市立病院（平成31年4月1日）
- ⑧さいたま赤十字病院（平成31年4月1日）
- ⑨自治医科大学さいたま医療センター（平成31年4月1日）
- ⑩埼玉県立がんセンター★（平成31年4月1日）
- ⑪埼玉医科大学総合医療センター（平成31年4月1日）
- ⑫埼玉医科大学国際医療センター◇（平成31年4月1日）
- ⑬深谷赤十字病院（平成31年4月1日）

★：都道府県拠点

利根医療圏に住むがん患者は、県央医療圏、さいたま医療圏、又は東部医療圏へ受診するため、主に⑩、⑨、⑤でカバーしている。

秩父医療圏に住むがん患者は、西部医療圏又は北部医療圏へ受診するため、⑫、⑬でカバーしている。

秩父医療圏
(空白の医療圏)

⑬
北部医療圏

利根医療圏
(空白の医療圏)

川越比企
医療圏

県央
医療圏

⑤
東部医療圏

⑫◇
西部医療圏

⑧
さいたま
医療圏

⑪
南西部
医療圏

④
南部医療圏

※同一医療圏に複数の拠点病院が指定されている場合の過去の申請理由等

○さいたま医療圏

当該医療圏は、非常に多くの人口を抱えていることから、質の高いがん医療の提供のためには、複数の配置が適当。

⑦⑧⑨の病院は市内にバランスよく位置し、⑦の病院はさいたま医療圏内の患者を主体に、⑧⑨の病院は近隣医療圏からも多くの患者を受け入れている。

○東部医療圏

当該医療圏の人口は100万人を超えている。⑤の病院は圏域の最北部に位置するとともに、空白医療圏の利根医療圏の患者を受け入れていることから、主に人口集中地域の圏域南部の患者を受け入れている⑥の病院と併せ、圏域全体におけるがん医療提供の均てん化が図られる。

○南部医療圏

当該医療圏に加え、人口増加傾向にある隣接医療圏の東部、南西部の患者も受け入れている。3病院はバランスよく位置し、日頃から連携をとっている。

①の病院は、乳がん、肺がんの手術を多く実施。②の病院は、県内有数のPET-CTを導入。③の病院は、唯一緩和ケア病棟を有し、地域の医療機関からの新規紹介緩和ケア外来患者数も多い。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型)

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 南部		更新	川口市立医療センター	(2,349) 2,195	(19.0) 18.3	1,010	(542) 620	(1,018) 1,102	(375) 318	145	24	1,435
2 南部		更新	済生会川口総合病院	(1,820) 1,895	(15.5) 15.8	950	(637) 788	(1,853) 1,337	(104) 233	54	20	538
3 南部		更新	戸田中央総合病院	(1,718) 1,695	(14.5) 14.0	881	(439) 764	(1,036) 1,242	(228) 214	184	16	6,838
4 南西部		更新	国立病院機構埼玉病院	(475) 2,207	(4.0) 17.7	1,328	(782) 770	(3,564) 1,219	(362) 242	241	21	327
5 東部		現況	春日部市立医療センター	(2,306) 2,435	(26.5) 27.1	907	(672) 701	(1,052) 1,158	(267) 275	50	12	2,121
6 東部		更新	獨協医科大学埼玉医療センター	(4,740) 5,141	(23.6) 24.0	2,638	(680) 1,279	(2,253) 2,654	(278) 427	125	22	1,399

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センター 相談件数 (年間)	
			年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者 数に占 める がん患 者の割 合(%)								
さい たま	現況	さいたま市 立病院	(2,033) 1,831	(14.4) 12.8	1,061	(641) 597	(1,359) 1,151	(204) 218	194	10	110	
さい たま	更新	さいたま赤 十字病院	(3,374) 3,921	(19.2) 21.0	1,726	(1,936) 1,348	(1,705) 1,890	(625) 662	130	18	526	
さい たま	現況	自治医科大 学さいたま 医療センター	(3,920) 4,015	(23.8) 23.1	1,900	(1,528) 1,552	(5,773) 1,750	(312) 362	119	16	5,667	
10 県央	★	現況	埼玉県立が んセンター	(9,216) 9,855	(95.0) 100.0	4,065	(1,822) 2,411	(1,432) 5,214	(1,432) 1,512	787	40	12,201
11 川越 比企	◇	新規	埼玉医科大 学総合医療 センター	(5,165) 5,374	(25.1) 26.1	3,095	(927) 1,586	(2,739) 2,579	(608) 793	173	24	5,217
12 西部	◇	現況	埼玉医科大 学国際医療 センター	(3,522) 3,504	(43.2) 44.5	3,833	(2,620) 2,675	(2,845) 4,495	(1,349) 1,877	257	9	3,621
13 北部	更新	深谷赤十字 病院	(1,993) 1,289	(20.3) 13.2	877	(452) 502	(1,139) 1,006	(150) 228	85	31	336 78	

埼玉県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

秩父医療圏に住むがん患者の1/3は西部医療圏へ受診しているため、⑫がカバーするとともに、隣接する⑬もフォローする体制が整備されている。

利根医療圏に住むがん患者は、県央医療圏、さいたま医療圏又は東部医療圏へ受診するため、主に⑩、⑨、⑤で受け入れる体制を整備している。

縦に長い医療圏であり、利根医療圏の患者も受け入れていることから、圏域北部及び南部を担う2病院の指定が必要である。

⑪は、高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

人口増加傾向にある南部、東部、南西部の患者に対応していることから、複数指定が必要である。

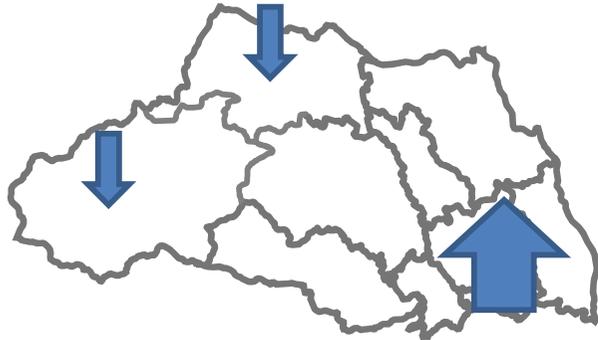
圏域に非常に多くの人口を抱えていることから、複数指定が必要である。



- ①川口市立医療センター (更新)
- ②済生会川口総合病院 (更新)
- ③戸田中央総合病院 (更新)
- ④国立病院機構埼玉病院 (更新)
- ⑤春日部市立医療センター (現況)
- ⑥獨協医科大学埼玉医療センター (更新)
- ⑦さいたま市立病院 (現況)
- ⑧さいたま赤十字病院 (更新)
- ⑨自治医科大学さいたま医療センター (現況)
- ⑩埼玉県立がんセンター★ (現況)
- ⑪埼玉医科大学総合医療センター◇ (新規)
- ⑫埼玉医科大学国際医療センター◇ (現況)
- ⑬深谷赤十字病院 (更新)

1 埼玉県の地域特性と現状

- 人口は約733万人。（全国第5位）
- 平成30年の人口増加率は0.28%
（全国第3位）
- 県内でも北部・秩父地域は人口が減少。
県南東部は人口が増加し、患者が集中。
- 人口100万人を超える医療圏は2カ所。
（さいたま、東部）



- 今後、高齢化が急速に進むことが予想される。
- 人口10万人当たりの医師数は169.8人。
（全国最下位）
- 県内の拠点病院数は13カ所。
- 10医療圏うち8医療圏で拠点病院を指定。
（利根・秩父医療圏が空白）

2 がん診療連携体制の整備方針

- (1) 都道府県拠点病院は、引き続き埼玉県立がんセンターとし、連携体制を維持。
- (2) 地域拠点病院は、①～④のとおり体制をつくる。
 - ①原則、各医療圏1カ所に拠点病院を整備。
 - ②複数の拠点病院が必要な3つの医療圏は引き続き、特性や役割を活かし、質の高いがん医療の提供を維持。
 - ③空白医療圏(利根・秩父)は、隣接医療圏の拠点病院や、県が拠点病院に準じて医療を提供できるとして指定した「埼玉県がん診療指定病院」で補填。
 - ④地域拠点病院のうち、特に診療機能等が高い病院には、高度型として県内のがん医療を牽引する役割を担っていただく。

3 同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

〈さいたま〉

さいたま市立病院は、当該医療圏の患者を中心に地域医療に貢献。
さいたま赤十字病院は、幅広いがん種と合併症に対応可能であり、またIMRT等機器を導入するなど、高度な医療を提供。
自治医科大学さいたま医療センターは、空白医療圏である利根医療圏の患者も多く受け入れるとともに、希少がんや他の拠点病院で治療ができないがんに対応。

〈南部〉

川口市立医療センターは、公立病院として地域医療を支えながら、特に乳がんや肺がんの手術を多く実施。
済生会川口総合病院は、人材育成や、地域の医療機関との積極的な医療連携に貢献。
戸田中央総合病院は、医療圏唯一の緩和ケア病棟を有し、多くの緩和ケア外来患者に対応。

〈東部〉

春日部市立医療センターは、初診から末期がん在宅医療まで切れ目のない医療を提供し、利根医療圏のがん医療も補填。
獨協医科大学埼玉医療センターは、人口が増加する圏域南部を支えるとともに、腫瘍センターを立ち上げて積極的にがん診療を推進。

4 埼玉県の推薦への考え方

(1) 指定更新病院 地域がん診療連携拠点病院

5医療圏から7病院の更新を推薦する。

昨年度の指定更新において、指定期間が1年となった病院である。

理由は、新整備指針の経過措置項目の必須要件が未充足であった、若しくは、施設改修や機器の入れ替え等の理由で未充足要件があったためである。未充足だった要件は、今年度充足していることを確認したため、7つの病院を継続して拠点病院として推薦する。

また、これまで7病院は、専門的ながん医療を提供する体制を有し、都道府県がん診療連携拠点病院を中心に地域連携を進めて、県内のがん医療提供体制の構築に貢献してきた。

更に今後、当県は他県と比べ、急速な高齢化の進行が見込まれている。昭和56年以降、がんは死亡原因第1位であり、死亡者の約3割を占める。これらを勘案すると、がん患者数の増加とがんによる死亡数の増加がしばらく見込まれるため、がん医療提供体制の充実と強化を担う7病院は、欠かせない存在である。

引き続き、現在の連携体制の維持を強く望まれる。

(2) 新規推薦病院 地域がん診療連携拠点病院（高度型）

1医療圏から1病院を高度型で推薦する。

埼玉医科大学総合医療センターは、埼玉県の13の拠点病院の中で最大病床数を有し、様々な合併症にも対応できる点で、当該医療圏で抜きん出た医療機関である。

各種専門資格を有している医師や医療従事者が多く、放射線治療装置等の機器の充実も進めている。緩和ケアにおいては、緩和ケアセンターを拠点に、各分野の専門家で構成したチームが、積極的に患者に介入している。がん相談支援センターには、社会福祉士や看護師等を配置し、年間5200件を超える相談支援を行っている。

これらの診療体制に加え、がんゲノム医療、小児・AYA世代の妊孕性温存治療、がん教育における外部講師の派遣等にも特に力を入れており、県のがん対策推進計画の推進において、リードする病院となっている。

今後も埼玉県のがん対策の推進に、より一層貢献してもらおう観点から、高度型に推薦する。

千葉県

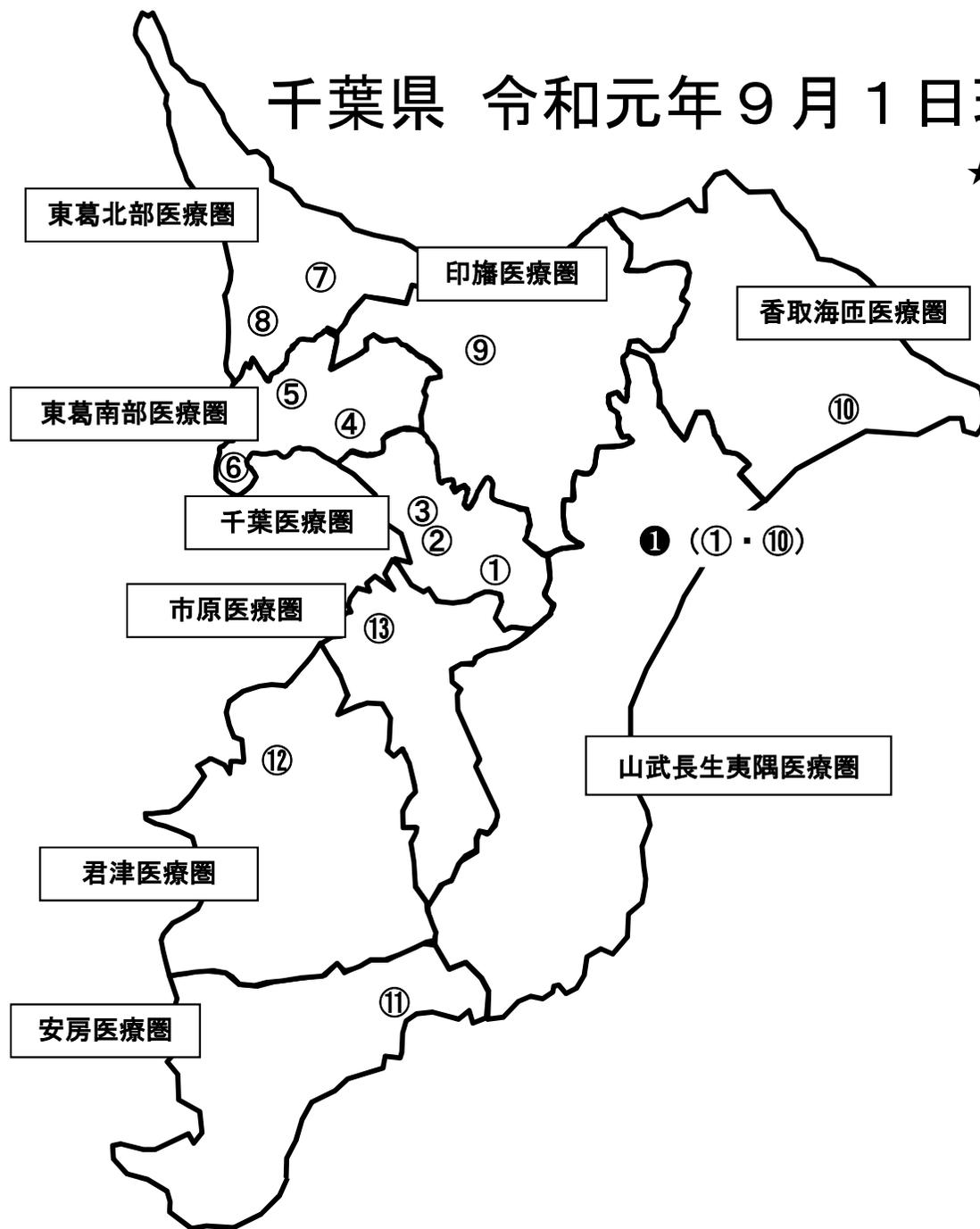
千葉県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
千葉	271.77	979,825	15.6%	3,605.3	47	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,785,698	28.4%	7,032.8	62	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,398,586	22.3%	3,905.1	58	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	716,039	11.4%	1,035.2	30	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
香取海匝	717.47	265,328	4.2%	369.8	21	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1,161.75	415,494	6.6%	357.6	23	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
安房	576.50	121,439	1.9%	210.6	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
君津	758.22	324,622	5.2%	428.1	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
市原	368.17	270,728	4.3%	735.3	13	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	5,157.59	6,277,759	100%	17,680.1	289	5	6	2	13	0	0	0	0	1	0

千葉県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★（平成30年4月1日）
- ②千葉大学医学部附属病院（平成27年4月1日）
- ③(独)国立病院機構 千葉医療センター（平成27年4月1日）
- ④船橋市立医療センター（平成27年4月1日）
- ⑤東京歯科大学市川総合病院（平成27年4月1日）
- ⑥(学)順天堂 順天堂大学医学部附属浦安病院（平成28年4月1日）
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院（平成27年4月1日）
- ⑧松戸市立総合医療センター（平成27年4月1日）
- ⑨(学)日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院（平成27年4月1日）
- ⑩総合病院国保旭中央病院（平成27年4月1日）
- ⑪亀田総合病院（平成27年4月1日）
- ⑫国保直営総合病院 君津中央病院（平成27年4月1日）
- ⑬(独)労働者健康安全機構 千葉労災病院（平成28年4月1日）
- さんむ医療センター（平成28年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 千葉	★	現況	千葉県がんセンター	(6,146) 6,378	(91.8) 91.2	(2,484) 3,503	(1,942) 2,047	(3,104) 3,227	(683) 677	(521) 437	(17) 17	(2,606) 2,749
2 千葉		現況	千葉大学病院	(5,741) 5,968	(29.5) 29.9	(3,924) 3,862	(2,138) 2,217	(4,292) 4,343	(745) 735	(211) 235	(23) 23	(11,339) 9,814
3 千葉		更新	千葉医療センター	(2,629) 2,421	(28.3) 27.0	(1,019) 978	(881) 775	(2,172) 2,222	(204) 206	(227) 182	(15) 13	(927) 472
4 東葛南部	◇	新規	船橋医療センター	(4,049) 3,324	(33.0) 26.1	(1,832) 1,853	(1,088) 1,026	(1,149) 2,059	(329) 347	(117) 57	(13) 12	(1,513) 1,573
5 東葛南部		更新	市川総合病院	(2,609) 2,627	(20.2) 21.1	(1,172) 1,236	(809) 922	(1,017) 1,024	(286) 301	(144) 150	(10) 8	(1,212) 1,316
6 東葛南部		更新	順天堂浦安病院	(4,085) 3,999	(21.1) 19.4	(1,731) 1,852	(1,001) 1,008	(1,384) 1,428	(480) 484	(803) 1,144	(14) 11	(546) 673
7 東葛北部		現況	慈恵大柏病院	(4,152) 4,180	(26.8) 27.1	(2,094) 2,554	(486) 1,985	(2,497) 2,627	(411) 372	(173) 193	(15) 12	(1,122) 1,195
8 東葛北部		更新	松戸総合医七	(1,435) 1,613	(12.3) 12.5	(818) 964	(472) 473	(1,582) 1,578	(273) 260	(65) 80	(5) 4	(653) 1,078
9 印旛		現況	日医北総	(2,634) 2,543	(17.8) 17.8	(1,291) 1,211	(1,113) 1,242	(1,481) 1,494	(243) 212	(248) 218	(24) 19	(1,834) 1,556

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
10	香取海匝	◇	新規	旭中央病院	(4,466) 4,498	(21.2) 22.6	(2,445) 2,494	(1,631) 1,651	(1,791) 1,609	(613) 611	(133) 129	(52) 51	(3,919) 3,910
11	安房		更新	亀田総合病院	(5,381) 4,916	(25.3) 22.6	(2,504) 2,306	(2,194) 1,902	(4,369) 3,428	(581) 582	(190) 282	(84) 58	(1,202) 1,267
12	君津		現況	君津中央病院	(3,337) 3,381	(21.7) 21.7	(1,411) 1,525	(904) 865	(1,161) 1,392	(299) 302	(130) 204	(53) 53	(1,439) 1,792
13	市原		更新	千葉労災病院	(3,047) 2,765	(27.6) 25.1	(1,429) 1,483	(828) 661	(1,493) 1,313	(5,130) 224	(117) 72	(35) 32	(2,006) 2,272

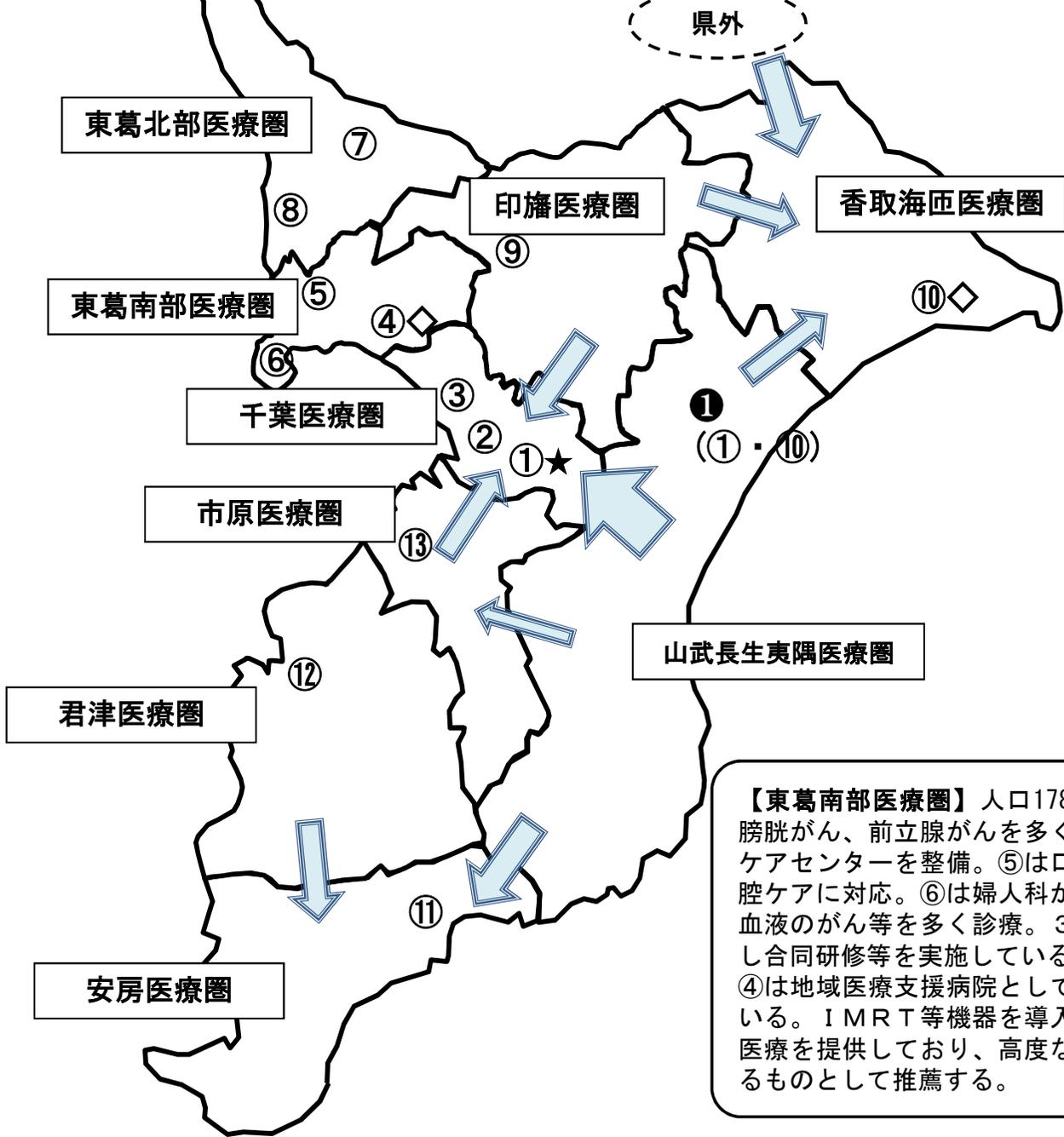
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
①	山武長生夷隅	更新	さんむ医療センター	(603) 705	(25.5) 19.5	(181) 181	(89) 92	(616) 680	実施なし	(6) 67	(261) 419

千葉県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★ (現況)
- ②千葉大学医学部附属病院 (現況)
- ③(独)国立病院機構 千葉医療センター (更新)
- ④船橋市立医療センター◇ (新規)
- ⑤東京歯科大学市川総合病院 (更新)
- ⑥(学)順天堂 順天堂大学医学部附属浦安病院 (更新)
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院 (現況)
- ⑧松戸市立総合医療センター (更新)
- ⑨(学)日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院 (現況)
- ⑩総合病院国保旭中央病院◇ (新規)
- ⑪亀田総合病院 (更新)
- ⑫国保直営総合病院 君津中央病院 (現況)
- ⑬(独)労働者健康安全機構 千葉労災病院 (更新)
- さんむ医療センター (更新)

【東葛南部医療圏】人口178万人。④は膀胱がん、前立腺がんを多く診療、緩和ケアセンターを整備。⑤は口腔がんや口腔ケアに対応。⑥は婦人科がん、脳神経、血液のがん等を多く診療。3病院が連携し合同研修等を実施している。④は地域医療支援病院として指定されている。IMRT等機器を導入し、高度な医療を提供しており、高度な機能を有するものとして推薦する。

【香取海匝医療圏】人口72万人。⑩は香取海匝医療圏の中核病院であり、地域医療支援病院として指定されている。地域を対象とした懇談会や研修会等を定期的に開催しており、地域連携を推進している。また、ダヴィンチやIMRT等を導入し、高度な医療を提供しており、高度な機能を有するものとして推薦する。

今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速に進む人口の高齢化
 - ー平成22年から15年間で
全国第3位のスピードで高齢化ー

今後さらになん患者が増加
がん対策への取組は重要課題



2 がん診療連携拠点病院等の整備

【基本方針】

県民の誰もが、自らが選択し、安心して
納得した質の高いがん医療を、身近な地域
で受けられるように整備を進める。

二次医療圏に1か所を基本に、
一定人口規模（概ね人口50万人
程度）単位に地域がん診療連携
拠点病院を整備し機能的役割分担

【現状】・県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に12の地域がん診療連携拠点病院が、
1医療圏に地域がん診療病院がある。

【今回】・今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保
は必須
・地域がん診療連携拠点病院の内、特に診療機能が高いものとして、高度型の指
定要件を充足しており、ふさわしいと認められる病院について、千葉県がん対策
審議会において確認を行い、2病院を推薦する

東 京 都

東京都がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
区中央部	63.64	933,323	6.7%	14,665.7	49	5	2	1	8	0	0	0	0	0	0
区南部	83.67	1,150,636	8.3%	13,752.1	44	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
区西南部	87.83	1,459,590	10.5%	16,618.4	52	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
区西部	67.87	1,275,470	9.2%	18,792.8	42	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
区西北部	113.92	1,979,472	14.2%	17,376.0	95	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
区東北部	98.21	1,355,972	9.7%	13,806.9	91	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
区東部	103.83	1,483,530	10.6%	14,288.1	54	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
西多摩	572.7	383,123	2.7%	669.0	30	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
南多摩	324.46	1,441,205	10.3%	4,441.9	76	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
北多摩西部	90.05	651,569	4.7%	7,235.6	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
北多摩南部	96.1	1,053,080	7.6%	10,958.2	46	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
北多摩北部	76.51	743,564	5.3%	9,718.5	41	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
島しょ	406.58	25,117	0.2%	61.8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
計	2185.37	13,935,651	1	142385	647	17	8	3	28	0	0	0	1	0	0

東京都 令和元年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料2

北多摩南部

患者との連携に特色がある⑭、大学病院として人材育成の実績がある⑮、多摩地域唯一の都立総合病院である⑯が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

区西北部

圏域内人口（約198万人）、医療機関数（約1,770施設）ともに多く、緩和ケア推進に積極的な高度型の⑰と⑱が連携してカバーする。

区東北部

①と都道府県拠点病院の①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して①と⑧が引き続きがん診療をフォローする。

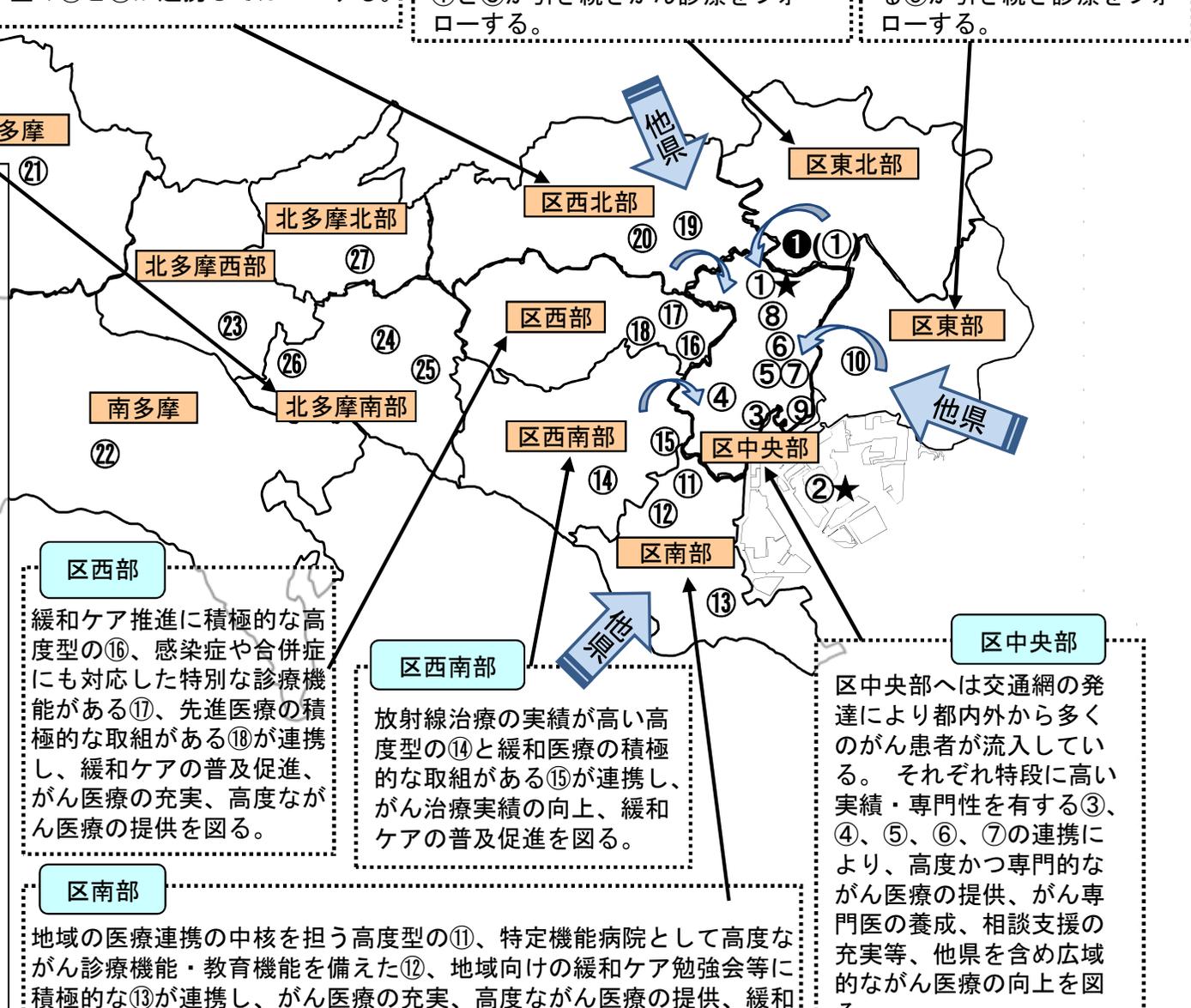
区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接する⑨が引き続き診療をフォローする。

島しょ
(空白の医療圏)



- ① 東京都立駒込病院★ (平成31年4月1日)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (平成31年4月1日)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (平成31年4月1日)
- ④ 虎の門病院 (平成31年4月1日)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (平成31年4月1日)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (平成31年4月1日)
- ⑨ 聖路加国際病院 (平成31年4月1日)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (平成31年4月1日)
- ⑪ NTT東日本関東病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑫ 昭和大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (平成31年4月1日)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター◇ (平成31年4月1日)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (平成31年4月1日)
- ⑯ 慶應義塾大学病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑰ 国立国際医療研究センター病院 (平成31年4月1日)
- ⑱ 東京医科大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (平成31年4月1日)
- ㉑ 青梅市立総合病院 (平成31年4月1日)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (平成31年4月1日)
- ㉓ 国立病院機構災害医療センター (平成31年4月1日)
- ㉔ 武蔵野赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ㉕ 杏林大学医学部付属病院 (平成31年4月1日)
- ㉖ 東京都立多摩総合医療センター (平成31年4月1日)
- ㉗ 公立昭和病院 (平成31年4月1日)
- ① 東京女子医科大学東医療センター (平成27年4月1日)



区西部

緩和ケア推進に積極的な高度型の⑰、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑱、先進医療の積極的な取組がある⑲が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

放射線治療の実績が高い高度型の⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う高度型の⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向けの緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、⑦の連携により、高度かつ専門的ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域的ながん医療の向上を図る。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間)	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 (%)	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
							500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	区中央部	★	現況	都立駒込病院	(15324) 15939	(64.1%) 63.5%	3717	(2665) 3023	(4903) 5441	(1977) 1730	335	4	14791
2	区東部	★	現況	がん研有明病院	(18825) 19188	(100.0%) 89.8%	8866	(6612) 6575	(8292) 8138	(1557) 1804	1373	1	4258
3	区中央部		現況	慈恵医大病院	(25637) 25458	(23.0%) 25.7%	2732	(1812) 1758	(2119) 2232	(1051) 1032	502	4	1102
4	区中央部		現況	虎の門病院	(18037) 17892	(32.9%) 33.2%	2982	(1586) 4046	(3334) 3006	(567) 590	198	3	4134
5	区中央部		現況	順天堂医院	(28674) 29193	(26.7%) 25.5%	3676	(3368) 3191	(4357) 5045	(883) 885	512	3	1718
6	区中央部		現況	東大病院	(27167) 27203	(38.1%) 38.7%	3091	(2619) 2498	(8145) 11798	(1180) 1045	960	7	1307
7	区中央部	◇	新規	東京医科歯科大学病院	(20692) 19294	(23.9%) 26.5%	2503	(1517) 2453	(8071) 8629	(801) 801	342	2	2478
8	区中央部 (区東北部)		更新	日本医科大学病院	(20489) 21051	(34.0%) 16.6%	2832	(1941) 1970	(2679) 2822	(604) 662	244	6	9754
9	区中央部 (区東部)		更新	聖路加国際病院	(19082) 18185	(16.7%) 16.6%	2630	(1499) 1700	(1894) 2374	(783) 742	193	3	7480
10	区東部		更新	都立墨東病院	(16638) 17265	(19.4%) 18.7%	1429	(834) 971	(1222) 1176	(350) 254	88	11	757

8 日本医科大学病院は、区中央部に所在するが、区東北部を担当する。

9 聖路加国際病院は、区中央部に所在するが、区東部を担当する。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
							500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
11	区南部	◇	現況	NTT関東病院	(14800) 15546	(32.5%) 32.3%	3348	(1491) 1541	(3314) 3814	(525) 515	340	11	3973
12	区南部		現況	昭和大学病院	(20417) 20511	(24.1%) 23.5%	2606	(1657) 1654	(2488) 2215	(784) 693	624	24	11346
13	区南部		現況	東邦大森病院	(22037) 22728	(20.5%) 19.9%	1893	(1953) 1159	(5905) 8700	(476) 464	316	22	301
14	区西南部	◇	現況	東京医療センター	(18161) 17828	(21.4%) 22.8%	1890	(1168) 979	(2990) 2057	(912) 969	237	14	2499
15	区西南部		現況	日赤医療センター	(19094) 19188	(21.9%) 22.0%	1245	(1310) 1284	(2750) 2735	(892) 771	244	5	2111
16	区西部	◇	現況	慶応義塾大学病院	(24462) 24504	(23.6%) 22.8%	2967	(2744) 2440	(4663) 3146	(791) 887	466	5	6016
17	区西部		現況	国立国際医療研究センター病院	(17164) 17190	(4.7%) 18.3%	1266	(850) 714	(1871) 2117	(481) 440	312	10	1818
18	区西部		更新	東京医科大学病院	(25956) 26411	(28.9%) 31.0%	3340	(2061) 1685	(5995) 6062	(998) 1160	369	18	3164
19	区西北部	◇	現況	帝京大学病院	(21559) 21856	(20.3%) 21.8%	1766	(1353) 1353	(2482) 2656	(548) 539	376	11	2932
20	区西北部		現況	日大板橋病院	(22032) 22046	(23.7%) 25.3%	2245	(1626) 1839	(2695) 3601	(529) 580	183	10	1272

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-3

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度
21	西多摩		更新	青梅市立総合病院	(11256) 11167	(21.4%) 19.0%	909	(599) 563	(1194) 1079	(163) 181	173	43	1042
22	南多摩		現況	東医大八王子医療センター	(15520) 15334	(25.2%) 24.9%	1412	(1103) 1164	(1444) 1624	(356) 359	235	14	3759
23	南多摩		新規	東海大八王子病院	13464	28.3%	1384	1102	1842	379	116	15	1397
24	北多摩西部		現況	災害医療センター	(11053) 11672	(15.9%) 17.2%	963	(696) 676	(1160) 1200	(203) 246	113	15	3083
25	北多摩南部	◇	新規	武蔵野赤十字病院	(19264) 19983	(21.5%) 20.6%	2677	(1314) 1380	(3064) 3377	(545) 577	463	14	1697
26	北多摩南部		更新	杏林大学病院	(25053) 24873	(28.1%) 13.7%	2532	(1889) 1978	(2562) 3055	(1778) 1738	193	12	765
27	北多摩南部		更新	都立多摩総合医療センター	(20037) 20336	(22.2%) 29.8%	2539	(1194) 1184	(2991) 3038	(741) 781	441	10	1155
28	北多摩北部		更新	公立昭和病院	(12471) 12927	(18.5%) 18.3%	1372	(945) 962	(1106) 1205	(277) 352	113	19	2544

地域がん診療病院の診療実績について

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	区東北部	現況	東京女子医科大学東医療センター	(12461)	(18.0%)	1239	(986)	(909)	0	39	2147
				12818	17.6%		925	920	0		

東京都 令和2年度の指定推薦等と想定される患者受療動向

北多摩南部

患者との連携に特色がある高度型の⑮、大学病院として人材育成の実績がある⑮、多摩地域唯一の都立総合病院である⑮が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

南多摩

圏域内人口（約144万人）を⑮と⑮で連携してカバーするとともに、拠点病院の少ない西多摩圏域もフォローする。

区西北部

圏域内人口（約198万人）、医療機関数（約1,770施設）ともに多く、緩和ケア推進に積極的な高度型の⑮と⑮が連携してカバーする。

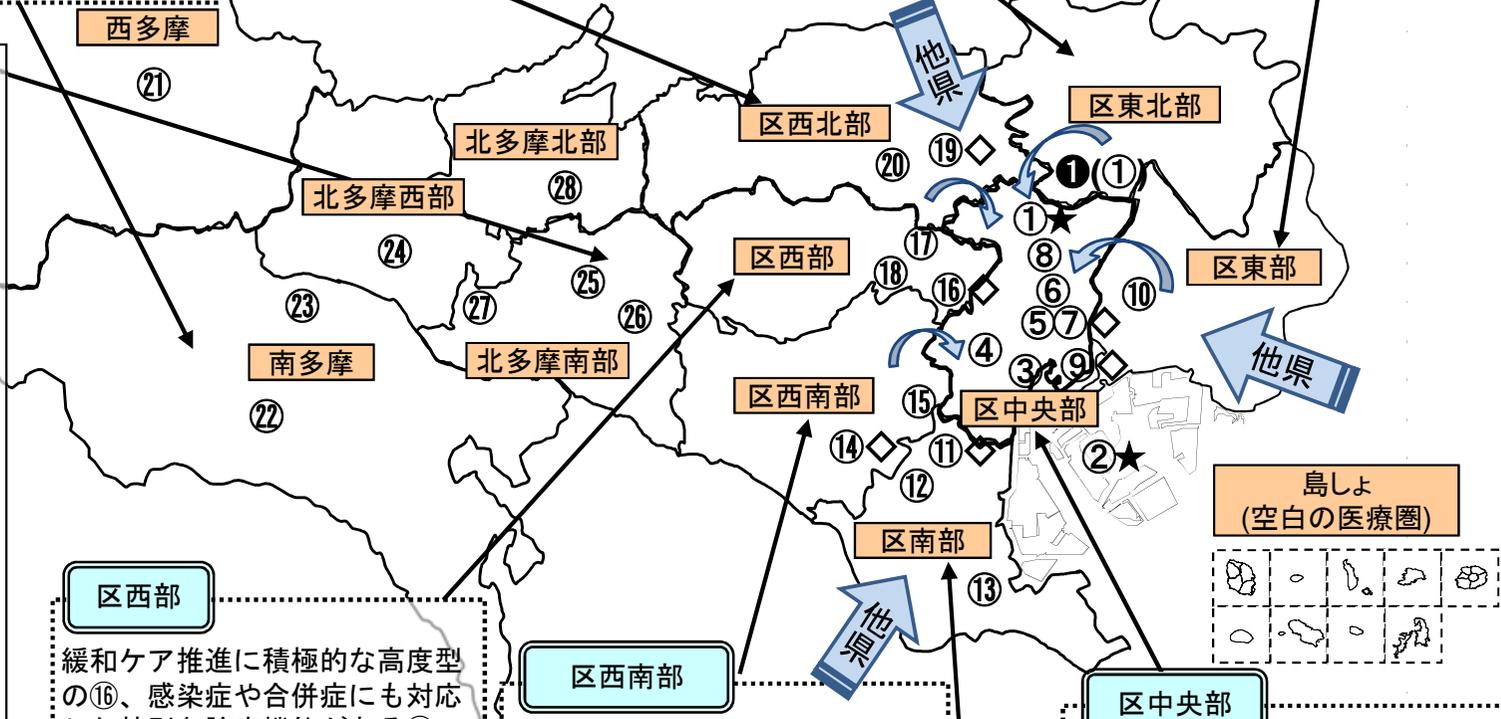
区東北部

①と都道府県拠点病院①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して①と⑧が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接する⑨が引き続き診療をフォローする。

- ① 東京都立駒込病院★ (現況)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (現況)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (現況)
- ④ 虎の門病院 (現況)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (現況)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院◇ (新規)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (更新)
- ⑨ 聖路加国際病院 (更新)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (更新)
- ⑪ NTT東日本関東病院◇ (現況)
- ⑫ 昭和大学病院 (現況)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (現況)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター◇ (現況)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (現況)
- ⑯ 慶應義塾大学病院◇ (現況)
- ⑰ 国立国際医療研究センター病院 (現況)
- ⑱ 東京医科大学病院 (更新)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院◇ (現況)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (現況)
- ㉑ 青梅市立総合病院 (更新)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (現況)
- ㉓ 東海大学医学部附属八王子病院 (新規)
- ㉔ 国立病院機構災害医療センター (現況)
- ㉕ 武蔵野赤十字病院◇ (新規)
- ㉖ 杏林大学医学部附属病院 (更新)
- ㉗ 東京都立多摩総合医療センター (更新)
- ㉘ 公立昭和病院 (更新)
- ① 東京女子医科大学東医療センター (現況)



区西部

緩和ケア推進に積極的な高度型の⑯、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰、先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

放射線治療の実績が高い高度型の⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う高度型の⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向け緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、緩和ケアセンターを持つ高度型の⑦の連携により、高度かつ専門ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域ながん医療の向上を図る。

島しょ (空白の医療圏)

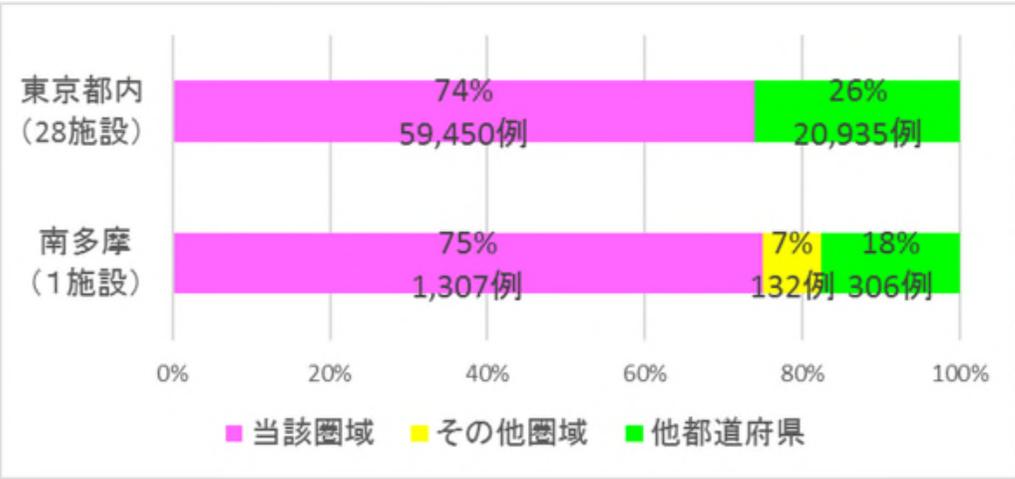


東京都の地域特性

- ① がん患者が全国の10分の1、一方、拠点病院数が全国の14分の1
～拠点病院が足りない～
- ◆ 都の人口 約1,394万人⇒ 全国の1/9
- ◆ 都民の総がん患者数(推計) 約19万人⇒ 全国の1/10
- ◆ がんの医療圏の平均人口 約107万人⇒ 全国平均の約2.8倍
- ◆ 都内の拠点病院数 28か所⇒ 全国の1/14
- ◆ 高齢者数(65歳以上) 2015年:307万人 ⇒ 2040年:375万人

- ② 大学病院が多数あり、交通網や道路網が高度に発達し、昼間人口も多いため、他道府県からの流入患者3割も含め、がんの医療圏を越えて患者が受診

その他圏域及び他都道府県からの患者流入割合
(「平成29年院内がん登録患者住所地別流入割合」調査)



東京都における拠点病院の必要数及び整備方針

- ◆ 都の人口や患者数、他都道府県からの流入状況を見ても、都内の拠点病院数は不足
- ◆ がんの医療圏を超えて患者が受診

さらに、

- ◆ 地域連携の推進に当たり、東京都は診療所の数が多く、1施設当たりが連携する診療所数が全国平均と比較し2倍程度
- ◆ 都平均 13,429か所/28病院≒480か所
- ◆ 全国平均 102,105か所/436病院≒234か所
※地域がん診療病院を含む。



現状の拠点病院数では不足しており、さらなる整備が必要
(※都が独自に東京都がん診療連携拠点病院を整備し、拠点病院数の不足を補っている。)

《効果1》 がん患者の通院圏域に応じたがん医療の提供

◆交通網の発達による多様な受療行動



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇患者・家族のニーズに合った医療提供の推進

◆治療と就労の継続



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇職場の近くで治療可能な体制確保

《効果2》 専門的ながん医療提供体制の充実

◆全国トップクラスの医療機関が集結



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇高度かつ専門的ながん医療提供の推進

《医師緩和ケア研修》

◆1か所の拠点病院で研修を受けられる医師数には限りがある

◆既に複数回開催している拠点病院が多数あり



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇医師緩和ケア研修修了者数の拡大

《効果3》 相談支援体制の充実

◆高齢化の進展により多くの医療提供・相談支援ニーズの増加・複雑化



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇身近な地域での医療提供体制の充実

◇きめ細かい相談支援の推進

《効果4》 地域の診療所・中小病院との連携促進

《拠点病院1か所あたりの診療所数》

◆都平均 480か所

◆全国平均 234か所



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

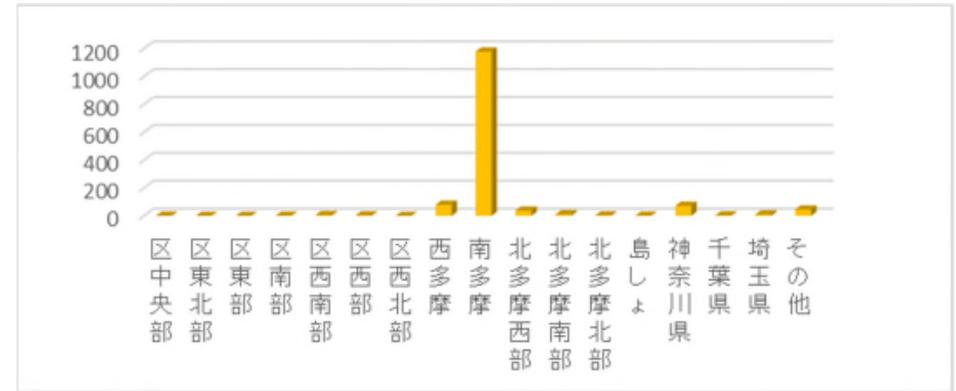
◇切れ目ないがん医療提供の推進

推薦する病院の状況

「平成29年院内がん登録患者住所地別流入割合」調査

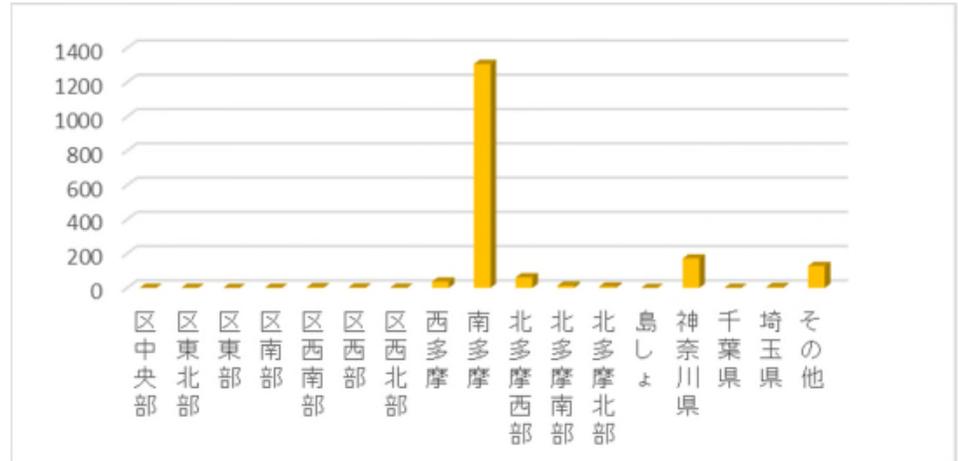
東海大学医学部附属八王子病院

(人)



【参考】東京医科大学八王子医療センター

(人)



病院の特徴

<医療提供体制>

- ◆ 圏域内で唯一の強度変調放射線治療実施施設として、多摩地区で実績を重ねている
- ◆ 造血管腫瘍の専門医が不足する中、3人の専門医により地域診療をカバー

<緩和ケア>

- ◆ 緩和ケアチームにより、特に精神・心理面、リハビリテーション、栄養面、口腔内ケアなどのサポートが受けやすい体制
- ◆ 院内、地域の緩和ケアの質の向上のため、緩和ケア研修会並びに地域医療従事者向け講習会、市民向け講演会等を実施

<相談支援>

- ◆ 相談の内容に応じて、医師、看護師、管理栄養士、心理士、薬剤師等が連携して相談に対応

<地域連携>

- ◆ 血液腫瘍につき、化学療法を実施できる医療機関に対し、医師の派遣や施設内での教育活動を通じ、地域での治療の分散化及び治療水準の平均化に努めている
- ◆ 地域の開業医、勤務医を対象としたセミナーを開催し、がん治療の内容についての情報提供を実施

東海大学医学部附属八王子病院を指定する必要性

- ◆ 南多摩圏域は、人口約144万人(都内医療圏で4番目)、面積約324キロ平米(都内医療圏で2番目)であり、現在、東京医科大学八王子医療センターが1施設でカバー
- ◆ 1施設当たりがカバーする人口は都内医療圏で最大であり、今後、高齢化に伴いがん患者の増加が予測されることから、身近に対応できる拠点病院を整備
- ◆ 2施設が連携して南多摩圏域をカバーするとともに、拠点病院が1施設しかない西多摩圏域の患者のフォローも実施

高度型の推薦基準

都では、外部の有識者や患者代表等で構成される選考委員会を開催し、以下の基準で高度型に推薦する病院を選定した。

- 1 令和元年9月1日時点で、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（以下「指針」という。）に定められた「指定要件」（必須要件）を満たしていること（指針Ⅷ2）。
- 2 指針に定められた「指定要件」（原則要件）を満たしていること。
- 3 高度型の推薦にあたっては、以下について確認の上、選考する（指針Ⅱ8）。
 - （1）指針Ⅱ1～7において「望ましい」とされる要件を複数満たしている
 - （2）診療実績が当該医療圏において最も優れている
 - （3）高度な放射線治療を提供できる
 - （4）緩和ケアセンターに準じた緩和ケアの提供体制を整備している
 - （5）相談支援センターに看護師等の医療従事者を配置し、相談支援業務の強化が行われている
 - （6）医療に係る安全管理体制について第三者による評価を受けているか、外部委員を含めた構成員からなる医療安全に関する監査を目的とした監査委員会を整備している
- 4 なお、高度型のない圏域で複数の申請があった場合、3（1）～（6）を確認するとともに、以下の順番で確認を行った。
 - （1）「望ましい」とされる要件の数を比較（特定機能病院分を除く）
 - （2）診療実績の数を比較（4（1）で決まらない場合）
- 5 さらに、既に高度型がある圏域で非高度型病院から申請があった場合、3（1）～（6）を確認するとともに、以下について、非高度型病院が既高度型病院を（1）については同数か上回ること、（2）については上回ることを満たし、かつ相当の理由が認められる場合のみ入れ替えることとし、確認を行った。
 - （1）「望ましい」とされる要件の数を比較（特定機能病院分を除く）
 - （2）診療実績の数を比較（5（1）で決まらない場合）

神奈川県

神奈川県がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
横浜	437.55	3,748,322	40.7%	8566.614	132	1	6	1	8						
川崎北部	64.28	865,162	9.4%	13459.27	20			1	1						
川崎南部	78.72	664,628	7.2%	8442.937	19	1	1		2						
相模原	328.91	722,570	7.9%	2196.862	37	1	1		2						
横須賀・三浦	206.86	697,521	7.6%	3371.947	29		1	1	2						
湘南東部	118.6	724,690	7.9%	6110.371	24		1		1						
湘南西部	253.4	584,013	6.3%	2304.708	22			1	1						
県 央	292.75	853,168	9.3%	2914.323	33		1		1						
県 西	635.09	338,963	3.7%	533.7244	23		1		1						
計	2416.16	9,199,037	100%	47,901	339	3	12	4	19	0	0	0	0	0	0

神奈川県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター
(平成31年 4 月 1 日)
- ②横浜市立市民病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ③☆横浜市立大学附属病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ④横浜労災病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑦済生会横浜市東部病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑨☆聖マリアンナ医科大学病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑩川崎市立井田病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑪関東労災病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑫相模原協同病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑬☆北里大学病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑭横須賀共済病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑮藤沢市民病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑯☆東海大学医学部附属病院
(平成31年 4 月 1 日)
- ⑰大和市立病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑱小田原市立病院 (平成31年 4 月 1 日)

相模原医療圏は、特定機能病院である⑬☆が、圏域を越えた患者を対象とした高度ながん医療の提供や診療支援、研修会等を実施し、⑫が、地域の患者へのがん医療の提供や地域の医療従事者への研修会等を実施する。

川崎南部医療圏は、⑩が「緩和ケア」を軸とした「在宅ケア」「地域連携」に力を注ぎ、⑪が多くの入院患者の受入れ、地域のニーズに合わせた幅広い取り組みを行うことで、圏域内のがん診療が質・量ともに向上する。



横浜医療圏は、平成30年4月から北部(④⑤⑦の3病院)・西部(②)・南部(③⑥⑧の3病院)の3つの二次医療圏が1つに統合された。

申請当時、北部及び南部に各3病院が必要であった理由は次のとおりである。

北部二次医療圏は 労災病院である④、大学の附属病院である⑤、総合病院で高度ながん医療に力を注いでいる⑦が機能的に役割分担をすることで、圏域内のがん診療が、量・質ともに向上するため。

南部二次医療圏は、特定機能病院である③☆が、圏域を越えた高度ながん医療を提供し、圏域唯一の緩和ケア病棟を有する⑥と当該医療圏の診療実績が最も多い⑧が連携することで、圏域内の患者が身近な地域でがん診療を受けられるため。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	横浜	★	現況	県立がんセンター	(10,515) 10,811	(96.9) 95.5	(3,555) 3,473	(3,566) 3,495	(5,096) 5,425	(1,172) 1,324	(80) 79	(21) 9	(9,157) 8,465
2			更新	横浜市民病院	(4,152) 6,773	(23.4) 37.5	(2,039) 2,168	(1,072) 1,271	(1,081) 2,595	(439) 521	(63) 179	(10) 5	(1,240) 1,209
3		◇	新規	横浜市大附属病院	(4,815) 5,097	(32.5) 32.7	(2,525) 2,550	(1,899) 1,917	(2,903) 3,579	(641) 640	(196) 334	(11) 5	(7,458) 5,191
4			更新	横浜労災病院	(3,802) 3,204	(20.3) 17.0	(2,450) 2,437	(2,134) 1,493	(1,979) 1,690	(973) 796	(164) 155	(16) 4	(904) 388
5			更新	横浜市北部病院	(5,688) 5,549	(30.6) 29.6	(1,705) 1,725	(1,088) 1,159	(1,310) 1,330	(319) 281	(90) 129	(22) 6	(514) 626
6			更新	みなと赤十字病院	(2,030) 2,321	(12.6) 13.7	(1,289) 1,270	(868) 885	(1,371) 1,474	(352) 286	(176) 152	(7) 3	(7,474) 5,592
7			更新	横浜市東部病院	(3,101) 2,951	(17.1) 16.6	(1,627) 2,112	(1,114) 1,064	(1,281) 1,298	(453) 330	(58) 81	(14) 4	(1,631) 2,169
8			更新	市大附属市民総合医療センター	(4,918) 5,364	(26.0) 26.9	(2,345) 3,028	(2,846) 2,505	(1,721) 2,374	(405) 416	(213) 305	(12) 7	(580) 671
9	川崎北部	◇	新規	聖マリアンナ病院	(4,564) 4,811	(20.0) 20.2	(1,654) 1,856	(1,808) 2,554	(4,530) 4,457	(785) 781	(272) 255	(23) 23	(1,895) 1,377
10	川崎南部		更新	川崎市立井田病院	(1,587) 1,681	(22.4) 27.4	(805) 827	(502) 554	(1,481) 1,750	(250) 219	(353) 323	(5) 5	(4,242) 2,874

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援セ ンター 相談件数 (年間)
					年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数に 占めるがん 患者の割 合(%)							
11	川崎南部		現況	関東労災病院	(2,506) 2,258	(16.1) 14.7	(1,213) 983	(613) 483	(1,219) 1,411	(236) 242	(60) 107	(11) 10	(884) 790
12	相模原		更新	相模原協同病院	(2,441) 2,542	(21.4) 22.1	(1,111) 924	(639) 684	(1,018) 1,269	(234) 398	(200) 195	(16) 17	(3,706) 1,973
13		◇	新規	北里大学病院	(7,739) 7,518	(28.8) 28.2	(3,246) 3,108	(2,945) 2,681	(5,121) 4,230	(1,299) 1,351	(237) 242	(30) 30	(5,975) 5,394
14	横須賀・三浦		更新	横須賀共済病院	(4,198) 4,291	(20.2) 20.5	(2,191) 2,307	(1,460) 1,615	(2,887) 3,293	(222) 230	(140) 236	(34) 32	(785) 274
15			新規	湘南鎌倉総合病院	3,106	13.8	1,721	1,000	1,594	320	117	11	169
16	湘南東部		更新	藤沢市民病院	(2,008) 2,266	(22.2) 13.7	(1,612) 1,690	(1,367) 938	(719) 1,806	(258) 339	(138) 138	(18) 24	(1,118) 916
17	湘南西部	◇	新規	東海大学医学部付属病院	(6,720) 6,914	(30.8) 31.3	(3,482) 3,063	(1,913) 2,031	(8,155) 8,788	(1,109) 1,118	(194) 222	(25) 23	(5,874) 2,854
18	県央		更新	大和市立病院	(2,066) 2,014	(20.3) 19.1	(963) 961	(524) 602	(1,228) 1,003	(195) 144	(77) 122	(22) 19	(2,959) 2,813
19	県西		更新	小田原市立病院	(2,666) 1,336	(24.2) 12.4	(848) 1,096	(697) 636	(1,346) 1,408	(224) 214	(135) 157	(50) 27	(379) 478

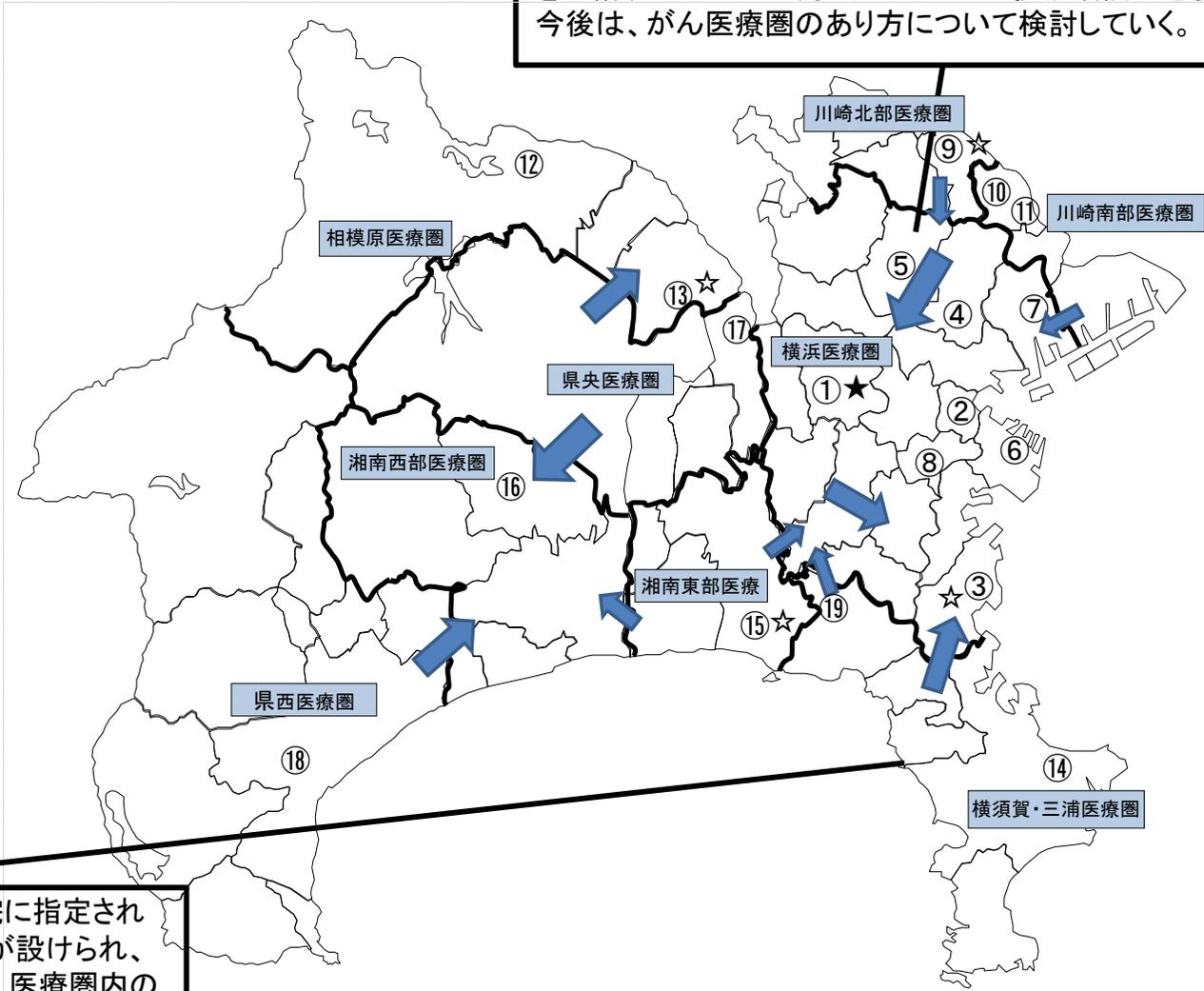
神奈川県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院 ◇:地域拠点(高度型)

- ①★神奈川県立がんセンター(現況)
- ②横浜市立市民病院(更新)
- ③☆◇横浜市立大学附属病院(新規)
- ④横浜労災病院(更新)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院(更新)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院(更新)
- ⑦済生会横浜市東部病院(更新)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター(更新)
- ⑨☆◇聖マリアンナ医科大学病院(新規)
- ⑩川崎市立井田病院(更新)
- ⑪関東労災病院(現況)
- ⑫相模原協同病院(更新)
- ⑬☆◇北里大学病院(新規)
- ⑭横須賀共済病院(更新)
- ⑮藤沢市民病院(更新)
- ⑯☆◇東海大学医学部附属病院(新規)
- ⑰大和市立病院(更新)
- ⑱小田原市立病院(更新)
- ⑲湘南鎌倉総合病院(新規)

横浜の3つの二次医療圏が1つに統合されたことから、1つの医療圏に7つ(都道府県拠点病院を除く)の拠点病院が存在することになった。しかし、約375万人の人口を有する横浜市内において、がん患者が身近な地域で高度ながん治療を受けられる体制を整備するためには、少なくとも7つの拠点病院は必要である。今後は、がん医療圏のあり方について検討していく。



横須賀・三浦医療圏には⑭に加え、⑲が拠点病院に指定されることで医療圏の北部と南部にがん診療連携拠点が設けられ、今まで以上に近隣の診療所や病院との連携を図り、医療圏内の患者の利便を図ることができる。

神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】 県立がんセンター

【地域がん診療連携拠点病院】 県内9の二次医療圏に17病院整備(空白医療圏なし)

2 神奈川県状況を踏まえた整備方針

- 県立がんセンターを中心に、拠点病院が連携・協力し、本県のがん医療の充実を推進する。
- 特定機能病院である地域がん診療連携拠点病院4カ所を分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治療を推進する。
- 本県の中でも人口が集中する大都市部では、二次医療圏の人口が多いことから、がん患者が身近な地域で高度ながん医療を受けられるよう、複数の拠点病院を整備する必要がある。

3 新規推薦についての考え方

(1) 地域がん診療連携拠点病院(高度型)

- 横浜、川崎北部、相模原、湘南西部の4医療圏において、高度型の指定要件を充足していると認められる病院(横浜市立大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東海大学医学部付属病院)について、新規指定推薦を行う。

神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

3 新規推薦についての考え方

(2) 地域がん診療連携拠点病院

- 湘南鎌倉総合病院は、合併症や併存症、高齢者を含めて対応できる総合病院の強みを活かし、特に循環器科、腎臓内科が充実していることから、当該医療圏に限らず他の拠点病院で対応困難な低心機能症例、腎不全症例（腎移植後症例を含む）の合併症例等のがん患者を多数受け入れてきた実績がある。
- 今後、県内唯一となる陽子線施設が導入されることから、同一医療圏のみならず、県全域からがん患者を受け入れることになると想定され、県立がんセンターにおける重粒子線治療に並ぶ放射線治療の重要な拠点となることが期待される。
- 横須賀・三浦医療圏は既に横須賀共済病院が拠点病院として指定されているが、地理的に医療圏の北部と南部に大きく離れており、湘南鎌倉総合病院が指定されることでそれぞれの病院を中心として地域の病院や診療所との診療連携体制の推進を図ることができる。
- 以上の理由から、当該医療圏のみならず県内のがん診療の質の向上を図るため、湘南鎌倉総合病院をがん診療連携拠点病院として新規指定推薦することとした。

新潟県

新潟県 がんの医療圏※1 の概要

(平成31年4月1日現在)

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
下越(※2)	2319.2	204,534	9.0%	88.19	17		1		1				0
新潟	2224.0	902,426	40.2%	405.77	50	1	2		3				0
県央(※2)	733.5	220,519	9.7%	300.63	10				0				0
中越	1636.8	437,295	19.5%	267.16	19	1	1		2				0
魚沼(※2)	2649.2	161,469	7.2%	60.95	11				0				0
上越(※2)	2165.8	265,816	11.8%	122.74	14		1		1				0
佐渡(※2)	855.7	54,227	2.4%	63.37	6				0		1		1
計	12584.2	2,246,286	100.0%	178.50	127	2	5	0	7	0	1	0	1

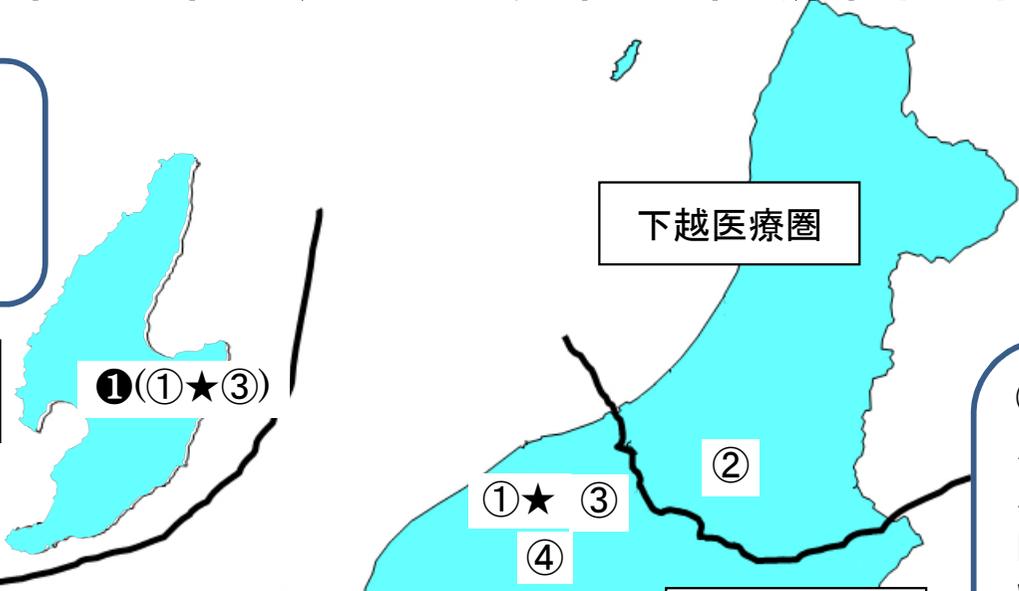
※1 新潟県のがんの医療圏は2次医療圏と一致している。

※2 「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値が概ね300人を下回る2次医療圏。

新潟県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

佐渡医療圏に住むがん患者を新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して対応している。

佐渡医療圏



①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院で対応している。

空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院で対応している。

中越医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏

魚沼医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏に住むがん患者は1病院で対応している。

★: 都道府県拠点

- ① 県立がんセンター新潟病院★（平成27年4月1日）
- ② 県立新発田病院（平成28年4月1日）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（平成27年4月1日）
- ④ 新潟市民病院（平成28年4月1日）
- ⑤ 長岡赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 長岡中央総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 県立中央病院（平成27年4月1日）
- ① 佐渡総合病院（平成29年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	新潟	★	更新	県立がんセンター新潟病院	(8,996) 8,305	(84.8) 85.4	(3,494) 3,030	(4,338) 2,103	(1,189) 1,611	(994) 1,024	387	39	17,581
2	下越		現況	県立新発田病院	(2,359) 2,120	(22.0) 20.3	(1,425) 1,479	(777) 806	(4,765) 5,462	(229) 261	44	49	583
3	新潟		現況	新潟大学医歯学総合病院	(2,994) 3,500	(19.2) 22.0	(2,564) 2,073	(2,928) 2,683	(1,695) 1,923	(637) 721	134	13	2,575
4	新潟		更新	新潟市民病院	(4,303) 4,383	(25.8) 27.1	(1,696) 1,648	(1,503) 1,523	(1,412) 1,390	(334) 253	70	20	792
5	中越		現況	長岡赤十字病院	(3,782) 3,804	(26.1) 25.7	(1,698) 1,829	(1,318) 1,241	(1,873) 2,176	(378) 382	93	35	734
6	中越		更新	長岡中央総合病院	(4,075) 4,006	(31.4) 31.6	(1,845) 1,772	(1,296) 949	(6,700) 7,426	(271) 284	52	41	511
7	上越		更新	県立中央病院	(2,923) 2,578	(24.9) 22.6	(1,420) 1,355	(882) 836	(1,135) 5,119	(431) 385	19	19	449

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
①	佐渡	更新	佐渡総合病院	(1,129) 864	(19.4) 15.0	(464) 441	(216) 171	(1,405) 424	(106) 97	30	138

新潟県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して佐渡医療圏に住むがん患者に対応するため、①の病院を推薦する。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院を推薦する。

空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院を推薦する。

中越医療圏

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★:都道府県拠点

魚沼医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏

⑦

上越医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

- ① 県立がんセンター新潟病院★（更新）
- ② 県立新発田病院（現況）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（現況）
- ④ 新潟市民病院（更新）
- ⑤ 長岡赤十字病院（現況）
- ⑥ 長岡中央総合病院（更新）
- ⑦ 県立中央病院（更新）
- ① 佐渡総合病院（更新）

1. 今回推薦に係る新潟県の考え方

- 本県におけるがん患者の受療動向及びがん医療提供体制等を踏まえ、現在指定を受けている全病院を引き続き推薦したい。
※本県におけるがん患者の受療動向については【参考1】を、がん医療提供体制については、次ページ【参考2】を参照
- 空白となっている以下の2医療圏については、引き続き、がん診療連携拠点病院等の指定を検討していく。
 - ・魚沼医療圏・・・県立魚沼基幹病院(H27年度開院)における受療動向や体制整備を踏まえ、指定推薦を検討。
 - ・県央医療圏・・・H35年度開院予定の「県立県央基幹病院」の動向を踏まえ、指定推薦を検討。

2. 同一医療圏における複数の拠点病院の指定について

(1)新潟医療圏

- 県立がんセンター新潟病院は、5大がん以外のがんについて全県的に対応しており、特に血液がん等では全国有数の診療実績
- 新潟大学医歯学総合病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応
- 政令指定都市である新潟市を含む新潟医療圏は人口が集中(90万人強・県人口の40%)し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、新潟市民病院を含む3病院で対応する必要有

(2)中越医療圏

- 隣接する空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、長岡赤十字病院及び長岡中央総合病院の2病院が必要

⇒以上は、本県における患者の受療動向とも一致しており、推薦する全病院は本県のがん医療提供体制の充実・向上に必要である。

【参考1】新潟県におけるがん患者の受療動向

- 新潟医療圏は、県内で唯一全県から患者が流入している。
- 新潟医療圏では、人口が集中し、患者も多い中、同圏域内での受療率は9割を超えている。
- 空白の県央医療圏に住む患者の4割は、隣接する新潟・中越医療圏で受療している。
- 空白の魚沼医療圏に住む患者の2割は、隣接する中越医療圏で受療している。

		受療先医療機関							
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡	合計
患者 居住 地	下越	患者数(人)	5,393	1,205					6,598
		自足率(%)	81.7%	18.3%					100.0%
	新潟	患者数	571	27,383	371	59		33	28,417
		自足率	2.0%	96.4%	1.3%	0.2%		0.1%	100.0%
	県央	患者数	14	1,967	4,583	823			7,387
		自足率	0.2%	26.6%	62.0%	11.1%			100.0%
	中越	患者数	10	408	232	12,820	36	21	13,527
		自足率	0.1%	3.0%	1.7%	94.8%	0.3%	0.2%	100.0%
	魚沼	患者数		141		1,020	3,919	35	5,115
		自足率		2.8%		19.9%	76.6%	0.7%	100.0%
	上越	患者数		114		54		8,091	8,259
		自足率		1.4%		0.7%		98.0%	100.0%
	佐渡	患者数							1,938
		自足率							80.3%
			19.7%					100.0%	

※集計対象となっているレセプトは国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度の平成28年度の診療分

※二次医療圏単位で10未満の数は集計対象外となっている

【参考2】新潟県におけるがん医療提供体制

【全県レベルの機能】

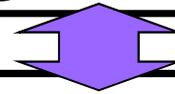
- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)以外のがんに対応
- ・高度な診断・診療機能
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携による県全体のがん医療提供体制の充実・向上(県立がんセンター新潟病院)

県立がんセンター新潟病院 (県がん診療連携拠点病院)

- ・5大がん以外のがんについて、全県的に対応(特に、血液がん等では全国有数の診療実績)
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携

新潟大学医歯学総合病院

- ・県内唯一の特定機能病院、大学病院として、5大がんを含むすべてのがんに対する治療と研究を実施



連携によるがん医療提供体制の充実・向上

【2次医療圏レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)に対応。その他、各病院が得意とするがんに対応
- ・地域のがん診療を担う病院やかかりつけ医と連携し、地域のがん医療提供体制を充実・向上

下越医療圏

【下越医療圏を1病院で対応】

県立新発田病院

- ・圏域の基幹的な医療機関
- ・圏域内の医療従事者の研修の実施等、地域のがん診療の質の向上に寄与

佐渡医療圏

【新潟医療圏と連携して対応】

佐渡総合病院

- ・佐渡島内唯一の総合病院として、がん患者の大半を診療しているがん医療の中心的病院

新潟医療圏

【新潟医療圏、県央医療圏の一部を3病院で対応】

県立がんセンター新潟病院

- ・定位照射装置、PET等で高度な医療を提供
- ・がん登録の向上に重要な役割

新潟市民病院

- ・消化器がんへの鏡視下手術は県内最多の手術数、手術の後進育成に中心的役割
- ・県内病院の緩和ケア体制整備・普及に指導的役割

新潟大学医歯学総合病院

- ・希少ながんに全県的対応
- ・放射線療法・薬物療法・手術の全てで高度な治療
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

中越医療圏

【中越医療圏、県央医療圏の一部、魚沼医療圏の一部を2病院で対応】

長岡赤十字病院

- ・肺がん等で高い実績
- ・患者支援チームによる質の高いがん医療の提供

長岡中央総合病院

- ・がん予防に尽力
- ・外来薬物療法の充実

上越医療圏

【上越医療圏を1病院で対応】

県立中央病院

- ・上部消化器腫瘍に重点
- ・隣接圏域も対象に高度な放射線治療の提供

富山県

富山県がんの医療圏の概要

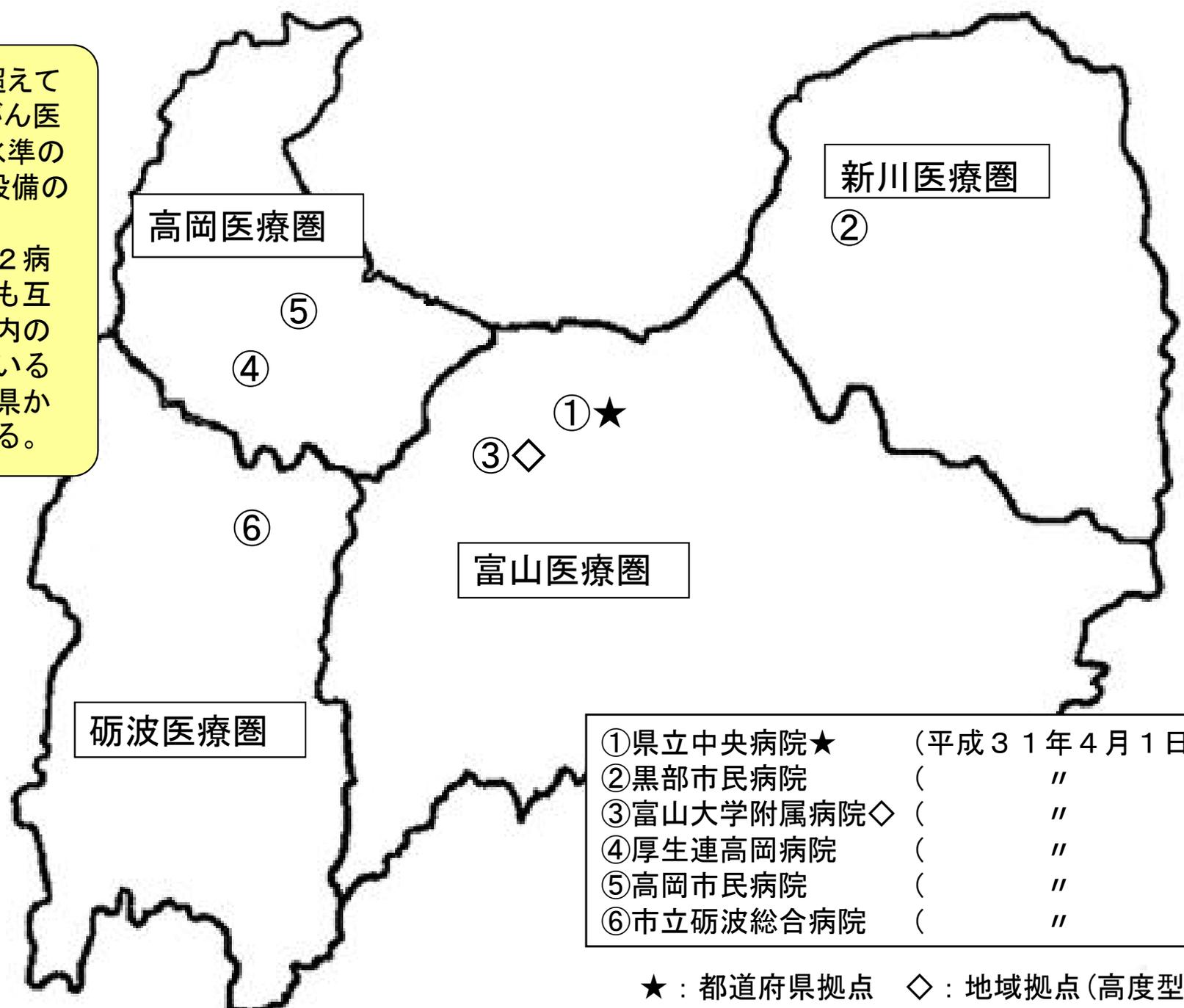
令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
新川	924	117,232	11.2%	126.87	14	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
富山	1,844	496,792	47.6%	269.41	51	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高岡	549	303,678	29.1%	553.15	26	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
砺波	930	125,755	12.1%	135.22	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,247	1,043,457	100.0%	245.69	107	2	4	0	6	0	0	0	0	0	0

富山県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

6つの拠点病院が圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化、がん医療水準の強化、人材育成及び診療設備の充実を図っている。
 高岡医療圏では④と⑤の2病院が地域的にも機能的にも互いに補完しながら、圏域内のがん患者診療に対応しているほか、砺波医療圏や石川県からの患者も受け入れている。



- ① 県立中央病院★ (平成31年4月1日)
- ② 黒部市民病院 (")
- ③ 富山大学附属病院◇ (")
- ④ 厚生連高岡病院 (")
- ⑤ 高岡市民病院 (")
- ⑥ 市立砺波総合病院 (")

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・「類型」については、★:都道府県拠点、◇:地域拠点(高度型)で表示

医療圏名	累計	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線 治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数(年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入 院患者数に 占めるがん 患者の割 合(%)							
1 新川		更新	黒部市民病院	(1235) 1217	(14.5) 14.0	713	(433) 395	(1142) 1212	(161) 181	131	51	398
2 富山	★	現況 報告	富山県立中 央病院	(4357) 4103	(24.0) 23.2	2115	(1329) 1496	(2524) 2543	(442) 384	100	30	1343
3 富山	◇	現況 報告	富山大学附 属病院	(3163) 3418	(26.6) 27.0	1530	(1042) 1062	(1445) 1555	(294) 471	77	15	592
4 高岡		更新	厚生連高岡 病院	(2462) 2499	(20.7) 21.0	1277	(771) 793	(1310) 1333	(319) 306	80	34	153
5 高岡		更新	高岡市民病 院	(1115) 1107	(14.1) 14.2	558	(457) 447	(1027) 900	(18※) 80※	124	18	56
6 砺波		更新	市立砺波総 合病院	(1258) 1508	(13.9) 16.9	638	(414) 381	(631) 665	(85) 141	65	55	411

※機器更新のため、H29.4～H30.6休止。H30.7より診療を再開

富山県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

④の病院は、県西部の中核病院として地域医療に貢献する。

⑤の病院は、女性がんや認知症・精神疾患を有するがん患者への診療に強みを有している。緩和ケア病棟を有し、精神科専門医を交えた緩和ケアを提供しており、他病院では対応困難な重篤な精神疾患を有するがん患者に対する緩和ケアも可能である。

両医院は、圏域内のがん患者の5割強を診療するとともに、砺波医療圏のがん患者や、能越自動車道が直結していることから、石川県からのがん患者も受け入れる。

②の病院は、新川医療圏内の5割強のがん患者を診療し、当該医療圏における中核病院として、同医療圏内のがん診療について中心的な役割を担う。

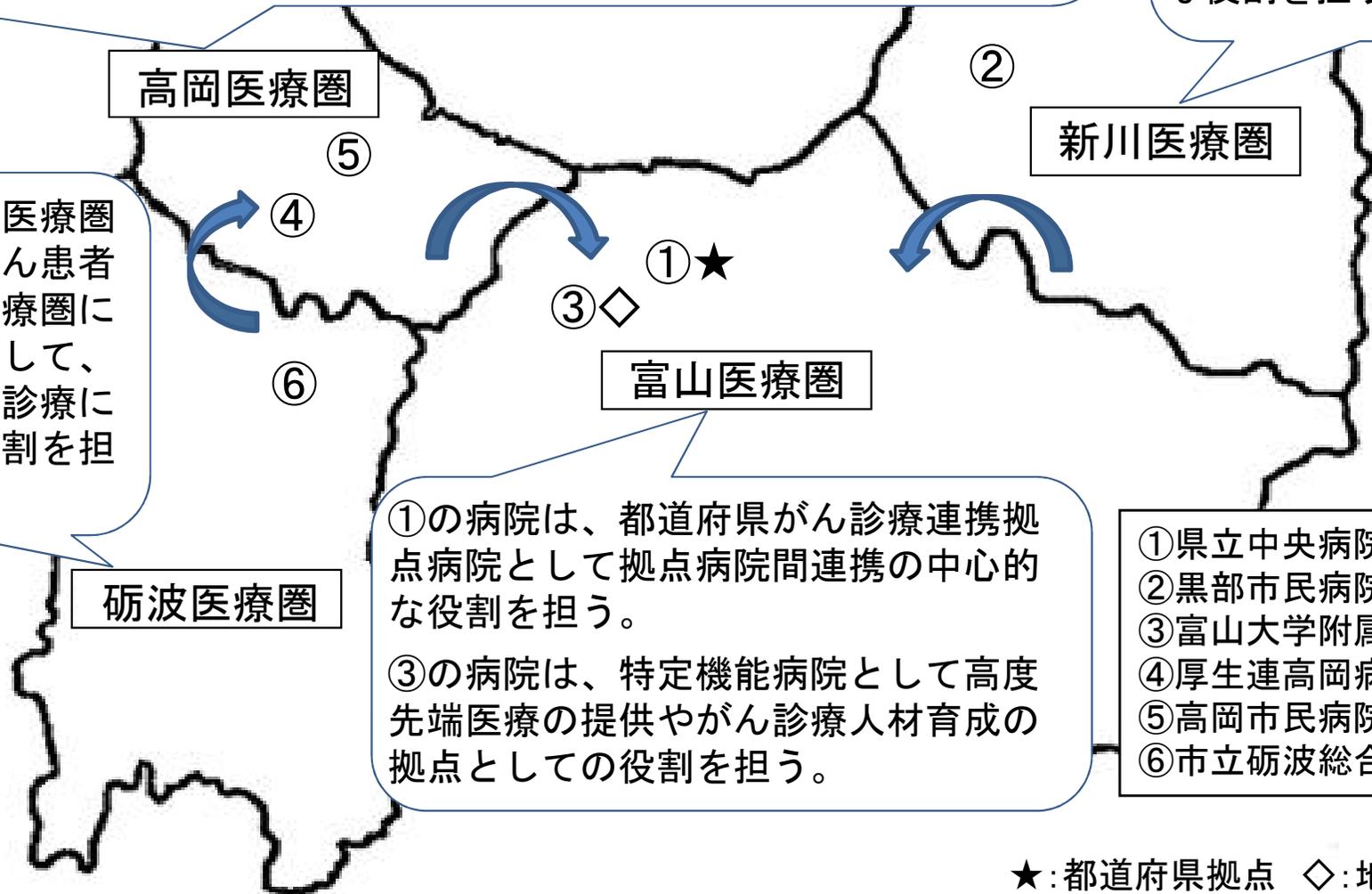
⑥の病院は、砺波医療圏内の6割近くのがん患者を診療し、当該医療圏における中核病院として、同医療圏内のがん診療について中心的な役割を担う。

①の病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として拠点病院間連携の中心的な役割を担う。

③の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供やがん診療人材育成の拠点としての役割を担う。

- ① 県立中央病院★（現況）
- ② 黒部市民病院（更新）
- ③ 富山大学附属病院◇（現況）
- ④ 厚生連高岡病院（更新）
- ⑤ 高岡市民病院（更新）
- ⑥ 市立砺波総合病院（更新）

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型）



本県では6つのがん診療連携拠点病院が、医療圏別又は圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化や、がん医療水準の強化に努めている。

基本的な考え方

全国より早く高齢化が進展する本県のがん罹患率は全国を上回って推移しており、今後のさらなる高齢化に伴いがん患者、認知症を有するがん患者の増加が見込まれる中で、これまでと同様に、県民が安心して質の高いがん医療を受けられるようにするため、下記のとおり、本県の拠点病院がこれまで担ってきた役割を継続・強化する必要がある。

- ①手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療や各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等ががん患者の状態に応じて適切に施していくこと
- ②緩和ケアチームの介入によるがん患者の負担軽減
- ③医師・看護師等のがん専門人材の育成・医療安全に対応する人材の育成・配置
- ④高度な先端技術等を用いた治療やがんゲノム医療の実践に向けた取組みといった最新の医療技術への対応

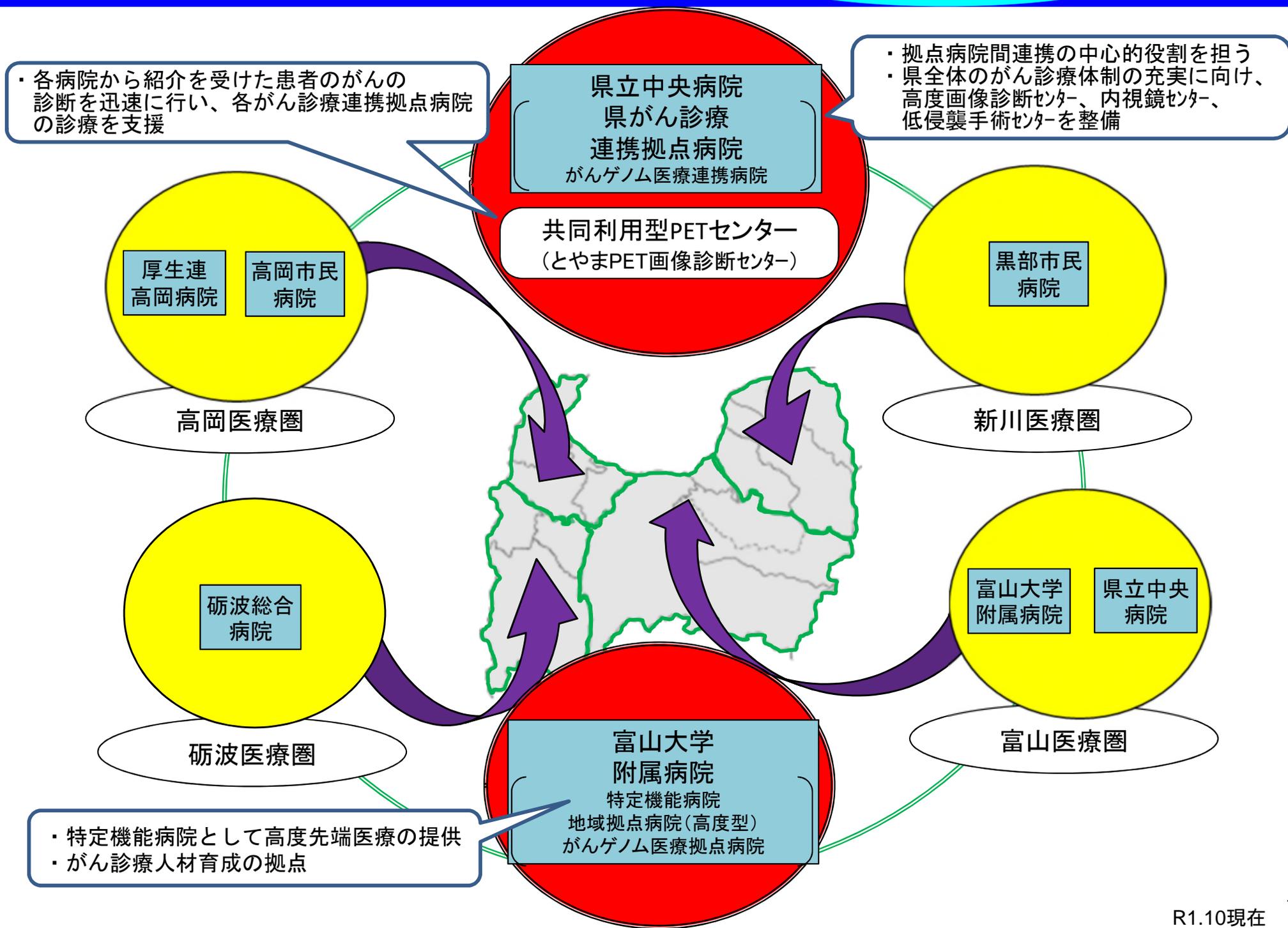
同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

<高岡医療圏>

高岡医療圏は、厚生連高岡病院と高岡市民病院の2病院により圏域内に居住するがん患者の54%を診療している。

- ・厚生連高岡病院は院内がん登録や放射線治療に関して都道府県がん診療連携拠点病院に次ぐ実績を有する県西部の中核病院である。
- ・高岡市民病院は特有の強みである女性がんの対応、認知症・精神疾患を有するがん患者への診療及び精神科専門医を交えた、重篤な精神疾患を有するがん患者に対する緩和ケアの提供を行っている。

両拠点病院は、地域的にも機能的にも互いに補完しながら、圏域内及び隣接する圏域のがん患者診療に対応するとともに、本県のがん診療の質の向上に寄与している。



石川 県

石川県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

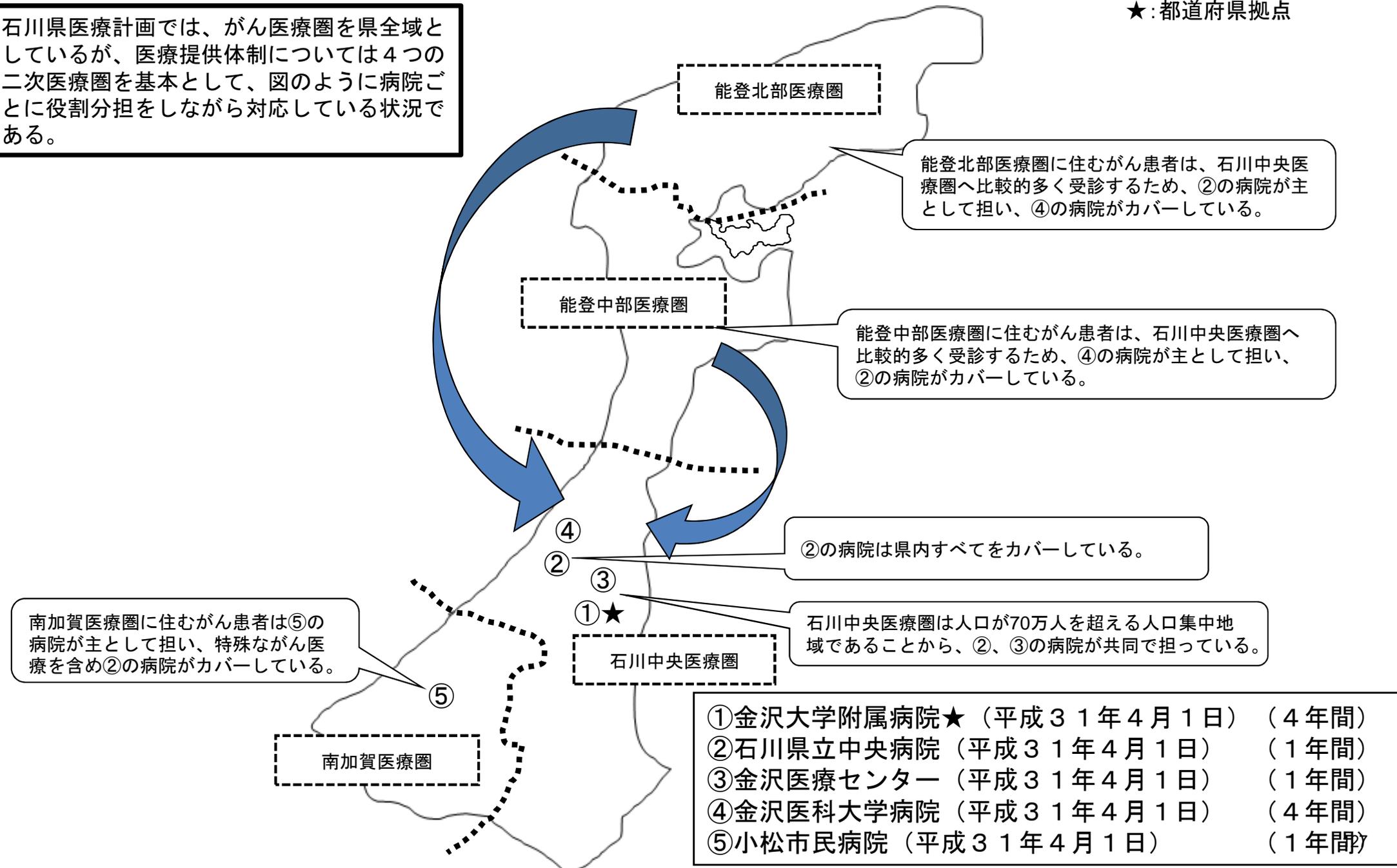
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	
二次 医療圏	能登北部医療圏	1,129.99	61,871	5.4	54.8	5	0	0	0	0
	能登中部医療圏	847.91	120,605	10.6	142.2	11	0	0	0	0
	石川中央医療圏	1,432.49	728,707	64.1	508.7	58	2	2	0	4
	南加賀医療圏	775.7	226,427	19.9	291.9	20	0	1	0	1
石川県		4,186.09	1,137,610	100.0	997.6	94	2	3	0	5

※ 特定領域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院は該当なし

石川県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応している状況である。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・ () 内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

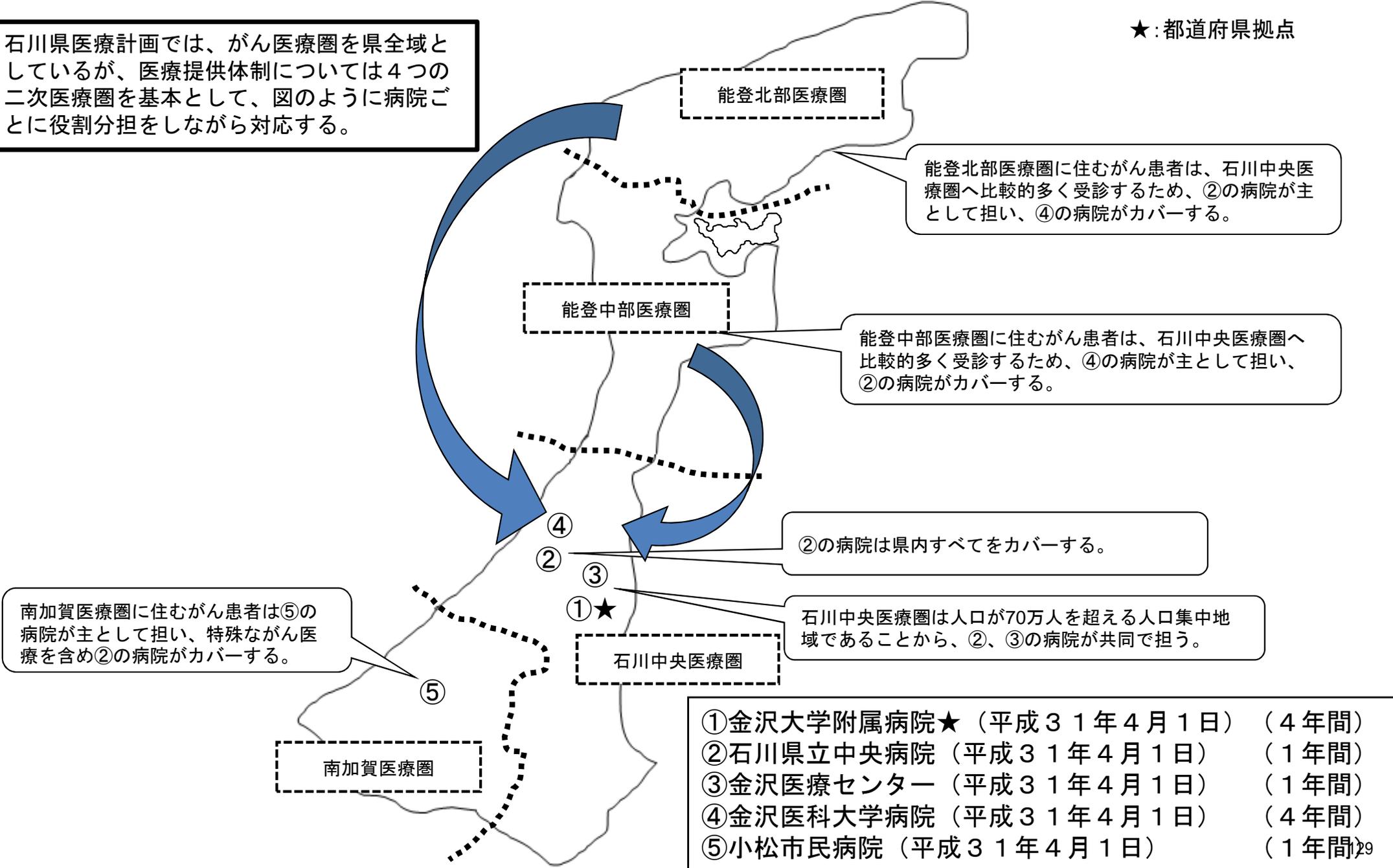
★：都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	★	現況報告	金沢大学附属病院	(5,766) 5,818	(39.4) 39.1	2,183	(1,732) 1,283	(2,751) 9,301	(570) 484	161	24	3,764
2		更新	石川県立中央病院	(4,222) 4,911	(26.4) 29.5	1,826	(1,289) 1,508	(2,240) 2,323	(374) 378	357	34	930
3		更新	金沢医療センター	(1,630) 1,743	(15.2) 16.5	790	(504) 474	(1,535) 1,746	(222) 207	152	14	2,998
4		現況報告	金沢医科大学病院	(3,088) 3,109	(20.6) 20.1	1,207	(780) 933	(1,572) 1,197	(368) 350	260	35	2,011
5		更新	小松市民病院	(1,325) 1,274	(19.4) 18.9	713	(462) 424	(916) 737	(168) 142	156	51	1,239

石川県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応する。

★: 都道府県拠点



能登北部医療圏に住むがん患者は、石川中央医療圏へ比較的多く受診するため、②の病院が主として担い、④の病院がカバーする。

能登中部医療圏に住むがん患者は、石川中央医療圏へ比較的多く受診するため、④の病院が主として担い、②の病院がカバーする。

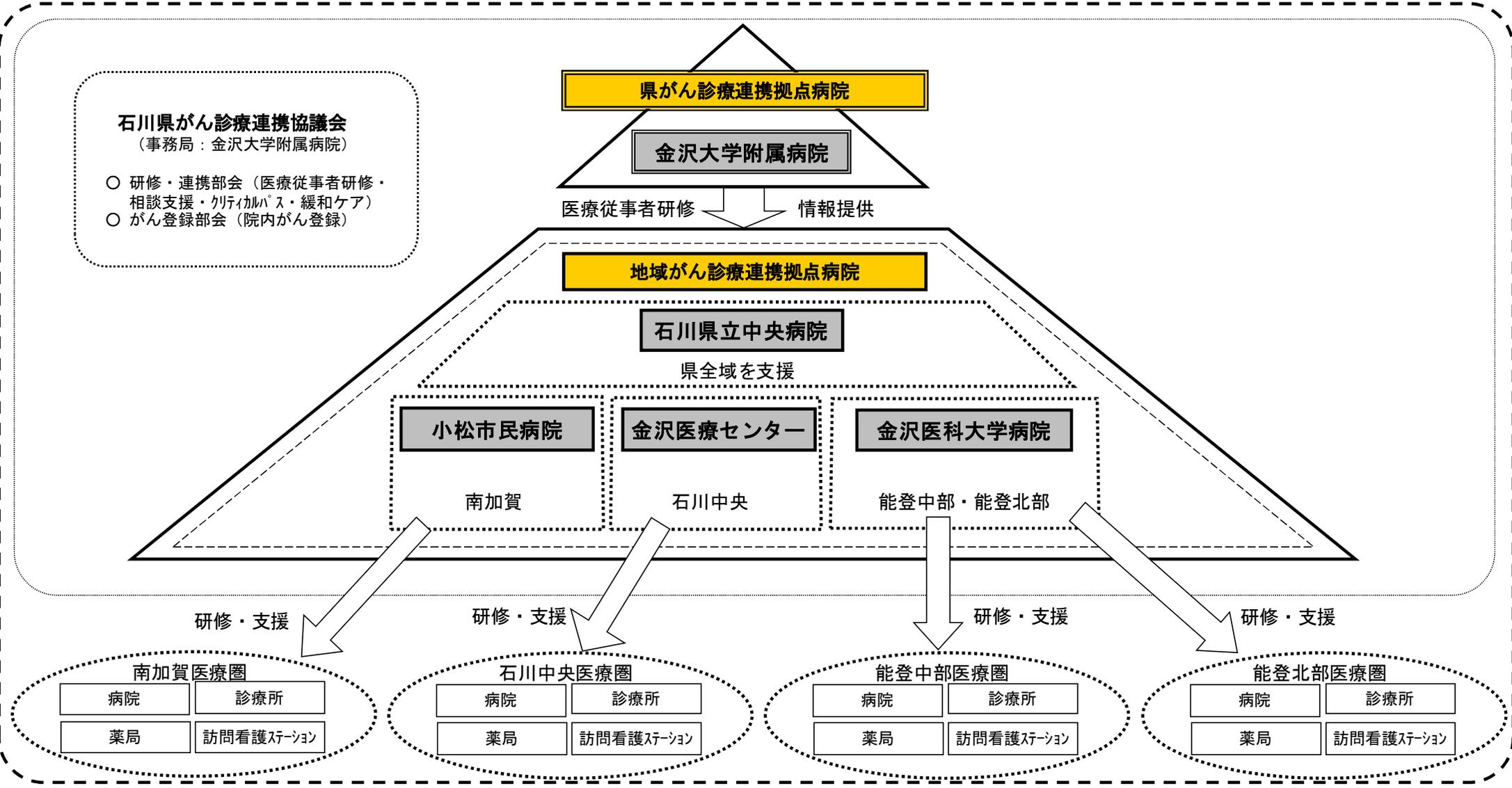
②の病院は県内すべてをカバーする。

石川中央医療圏は人口が70万人を超える人口集中地域であることから、②、③の病院が共同で担う。

南加賀医療圏に住むがん患者は⑤の病院が主として担い、特殊ながん医療を含め②の病院がカバーする。

- | | | | |
|---|-----------|-------------|-------|
| ① | 金沢大学附属病院★ | (平成31年4月1日) | (4年間) |
| ② | 石川県立中央病院 | (平成31年4月1日) | (1年間) |
| ③ | 金沢医療センター | (平成31年4月1日) | (1年間) |
| ④ | 金沢医科大学病院 | (平成31年4月1日) | (4年間) |
| ⑤ | 小松市民病院 | (平成31年4月1日) | (1年間) |

石川県のがん医療対策



1 本県の地域特性と整備にあたっての方針

がん診療については基本的に二次医療圏内で対応しているが、専門的で高度ながん診療については二次医療圏の枠を超えて県全域で対応している。

このため、地域がん診療連携拠点病院については4つの二次医療圏を基本として整備しているところであるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中しており、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベル等は単独でがん診療の核となるには十分とは言えない状況にある。

地域がん診療連携拠点病院の整備にあたっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が役割分担をしながらがん診療を担う体制の構築を目指す。

2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、薬物療法や放射線治療などの専門部署であるがんセンターを置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした薬物療法、放射線治療、緩和ケア等に関する研修を行うなど、地域がん診療連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内すべての地域の医療機関との間で患者の受入や紹介といった地域連携を進めているほか、積極的な診療支援を行うなど、県全域を支援する。

福井県

福井県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						現況報告病院数	今回更新病院数	計
福井・坂井	957.49	400,032	51.7%	417.8	35	2	0	2
奥越	1126.31	54,715	7.1%	48.6	6	1	0	1
丹南	1006.78	182,924	23.6%	181.7	16	1	0	1
嶺南	1099.94	135,967	17.6%	123.6	10	0	1	1
計	4190.52	773,638		184.6	67	4	1	5

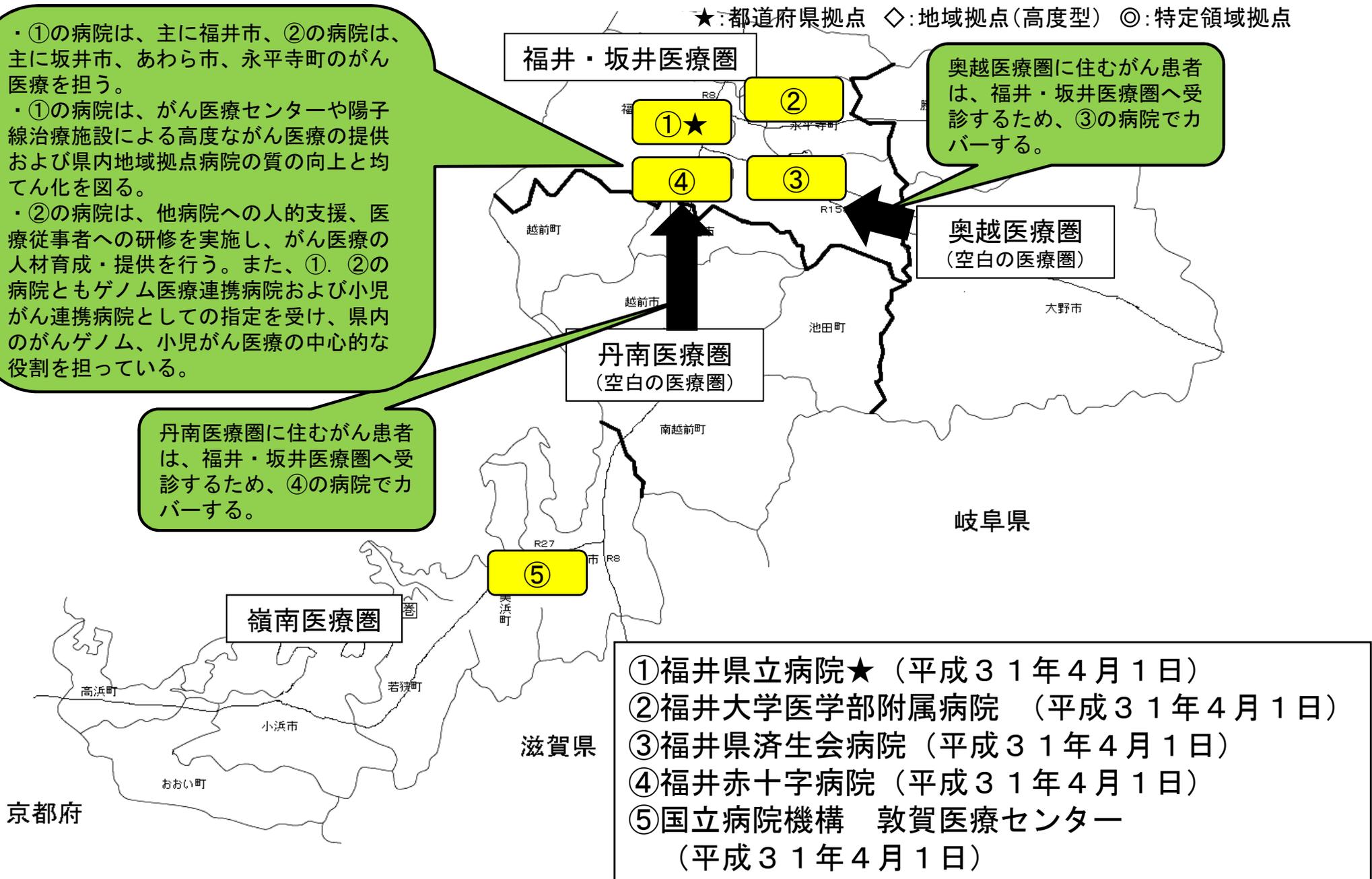
福井県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。
 ・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。
 ・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。また、①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	福井・坂井医療圏	★	現況	福井県立病院	(2,697) 2,801	(23.5) 23.6	1,309	(839) 828	(1,308) 1,253	(262) 334	251	29	856
2	福井・坂井医療圏		現況	福井大学医学部附属病院	(3,606) 3,919	(26.3) 27.8	1,661	(1,189) 1,227	(1,625) 1,788	(308) 289	353	27	1,643
3	奥越医療圏		現況	福井県済生会病院	(3,007) 2,986	(25.6) 25.2	1,362	(796) 793	(2,017) 2,156	(335) 327	470	42	1,350
4	丹南医療圏		現況	福井赤十字病院	(3,170) 2,979	(22.8) 21.7	1,146	(938) 879	(1,320) 1,241	(257) 293	84	52	1,804
5	嶺南医療圏		更新	国立病院機構敦賀医療センター	(451) 313	(20.4) 15.8	179	(220) 56	(438) 438	(11) 12	48	26	973 135

福井県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

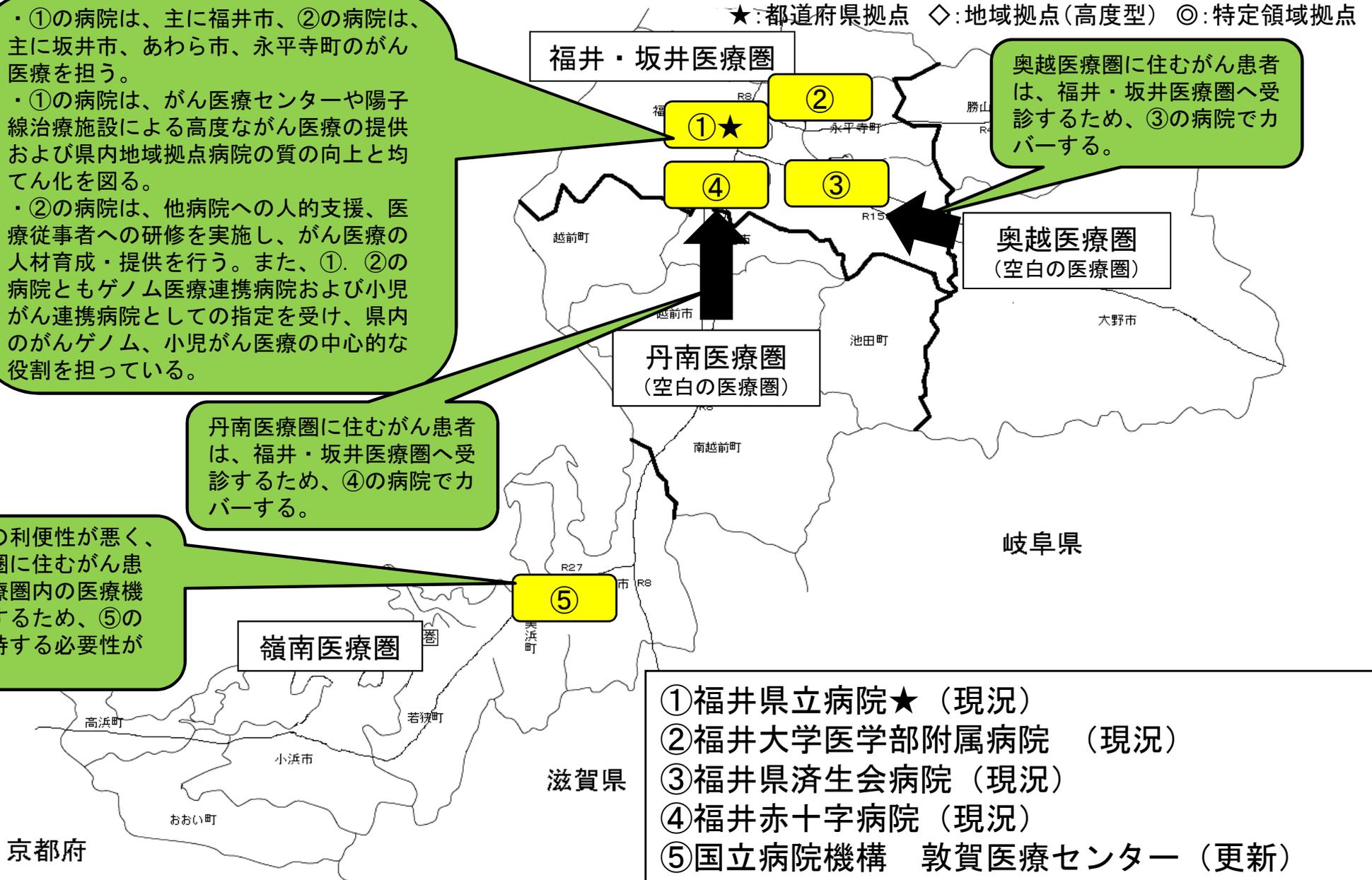
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。
 ・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。
 ・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。また、①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

道路交通の利便性が悪く、嶺南医療圏に住むがん患者は自医療圏内の医療機関に受診するため、⑤の病院を維持する必要性が高い。



(1) がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

- ・全国でもトップクラスの健康長寿県
- ・昭和55年以降、死因の第1位ががんであり、死因の約3割を占めている。
- ・がん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つのがんの医療圏に1か所ずつ、都道府県がん診療連携拠点病院をそれとは別に1か所整備する。
- ・今回、既指定の病院が引き続き指定を受けることにより、それぞれが担当するがんの医療圏で構築された病診連携体制をさらに発展させることができる。

(2) 福井・坂井医療圏 県がん診療連携拠点病院1か所指定（福井県立病院）、地域がん診療連携拠点病院1か所指定（福井大学医学部附属病院）

- 担当地域と医療機能の分担による、限られた医療資源の効果的な発展
 - ・福井県立病院は主に福井市、福井大学医学部附属病院は主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担当している。
 - ・福井県立病院はがん医療センターや陽子線施設による高度ながん医療の提供やがん登録の推進および各地域がん診療連携拠点病院間の連携および地域のがん診療を行う医療機関との連携体制の構築等において中核的役割を果たしている。
 - ・福井大学医学部附属病院は専門医の育成や他病院への医師派遣など県内全域におけるがん医療の人材育成・提供機能を有している。
 - ・両病院とも、がんゲノム医療連携病院および小児がん連携病院の指定を受け、県内のがんゲノムおよび小児がん医療を集約し、提供している。

(3) 奥越医療圏、丹南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 各1か所指定（奥越：福井県済生会病院、丹南：福井赤十字病院）

- 空白の医療圏からのがん患者流入の実態を考慮した指定による受療機会の均てん化
 - ・両医療圏には、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがない。
 - ・各医療圏から地理的に近く、各医療圏のがん患者を多く受け入れている病院を地域がん診療連携拠点病院として指定している。

福井県済生会病院	奥越医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	42%
福井赤十字病院	丹南医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	52%
 - ・福井県済生会病院は、最新の放射線治療機器であるトモセラピーを導入し高度な医療を行うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援やがん哲学外来、多職種と相談できるメディカルカフェの開設等を行うなど、がん患者の支援に力を入れている。
 - ・福井赤十字病院は、最新の放射線治療機器であるVero4DRTの導入し、高度な医療を行うとともに、県の地域連携クリティカルパスの整備、令和元年度から小児がん連携病院としての指定を受け、地域の医療機関との病診連携体制の構築において中心的な役割を担っている。

(4) 嶺南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定（国立病院機構敦賀医療センター）

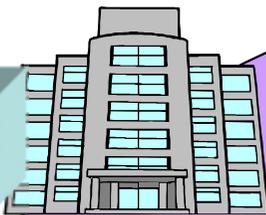
- 地元医師会や医療機関との連携による医療体制の充実
 - ・東西に長い地形に加え、交通の便が悪く、他医療圏への患者の流出が少ないため、当医療圏内での拠点整備の必要性が高い。
 - ・敦賀医療センターは、地元医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、在宅緩和ケアを推進するなど、医療圏内におけるがん診療の中心的役割を担うとともに、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携したがん患者の就労支援にも力を入れている。
 - ・福井県立病院と連携した陽子線治療の相談外来の開設や福井大学医学部附属病院との連携強化によるがん医療従事者の充実が見込まれる。

福井県のがん医療連携体制

資料5-2

県がん診療連携拠点病院

緩和ケア
センター
緩和ケア病棟



**福井県立病院
(がん医療センター)**

陽子線がん治療
施設

がんゲノム医療連携病院
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・がん診療連携拠点病院間の連携促進および地域のがん治療を行う医療機関との病診連携の促進
- ・がん医療の全県的な向上
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進
- ・チーム医療の実施、医療従事者の各種研修の実施
- ・がん登録の推進、病院等への技術的支援(分析・評価)
- ・がんゲノム、小児がん医療の推進

協力・連携・分担

- ・がん登録の推進
- ・がん相談支援
- ・情報交換 等

福井県がん診療 連携協議会

地域がん診療連携拠点病院(福井・坂井)



**福井大学医学部附属病院
(がん診療推進センター)**

がんゲノム医療連携病院
(H30.4.1指定)
がんゲノム外来
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・高度先端医療の実施
- ・医師、看護師の人材育成、確保
- ・病院等への人的、技術的支援
- ・圏域内病院等との連携
- ・がんゲノム、小児がん医療の実施

地域がん診療連携拠点病院(丹南)



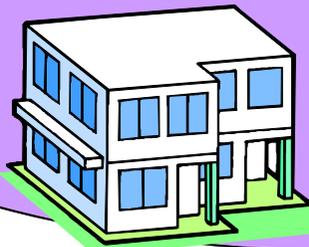
緩和ケア
病棟

**福井赤十字病院
(がん診療センター)**

小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・圏域内病院等との連携
- ・情報連携体制の整備
- ・緩和ケア体制の推進
- ・小児がん医療の推進

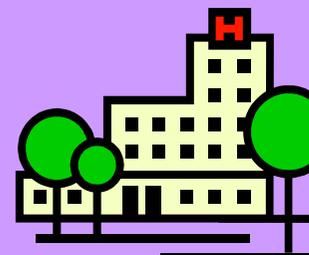
地域がん診療連携拠点病院(嶺南)



国立病院機構 敦賀医療センター

- ・圏域内病院等との連携
- ・嶺南地域の医療水準の向上
- ・患者相談支援の推進

地域がん診療連携拠点病院(奥越)



緩和ケア
病棟

**福井県済生会病院
(集学的がん診療センター)**

- ・圏域内病院等との連携
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進

山 梨 県

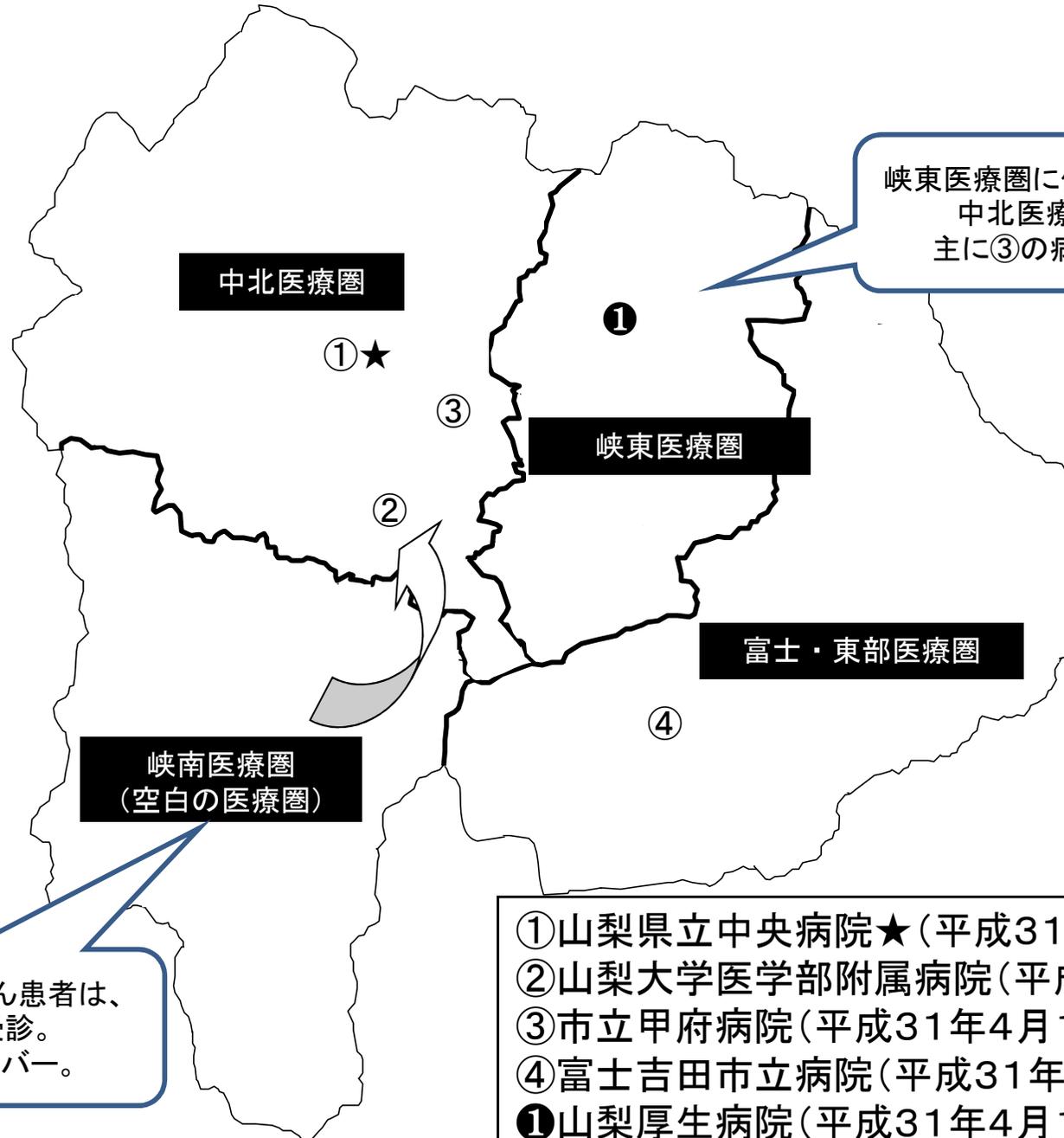
山梨県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
中北医療圏	1,335.99	458,354	56.43	343	32	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
峡東医療圏	755.80	131,422	16.18	174	14	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
峡南医療圏	1,059.54	48,545	5.98	46	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士・東部 医療圏	1,309.34	173,992	21.42	133	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,460.67	812,313	100.00	182	60	2	2	0	4	0	0	0	0	1	0

山梨県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



峡東医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に③の病院でカバー。

峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

- ①山梨県立中央病院★(平成31年4月1日)
- ②山梨大学医学部附属病院(平成31年4月1日)
- ③市立甲府病院(平成31年4月1日)
- ④富士吉田市立病院(平成31年4月1日)
- ①山梨厚生病院(平成31年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★：都道府県拠点

- ・()内は平成30年11月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	中北	★	現況報告	山梨県立中央病院	(3170) 3187	(21.5) 21.2	(1697) 1843	(644) 1311	(8654) 8273	(349) 490	(288) 331	(22) 48	(4134) 3956
2	中北		指定更新	市立甲府病院	(1029) 1001	(13.6) 13.5	(638) 589	(370) 282	(981) 939	(219) 151	(207) 220	(10) 8	(1011) 617
3	中北		指定更新	山梨大学医学部附属病院	(2187) 2268	(21.6) 21.9	(2058) 2247	(1298) 1502	(2115) 1959	(752) 665	(393) 353	(23) 26	(5640) 931
4	富士・東部		指定更新	富士吉田市立病院	(698) 575	(10.1) 8.9	(448) 463	(198) 186	(1040) 238	(140) 148	(40) 48	(28) 23	(1351) 1056

地域がん診療病院の診療実績等

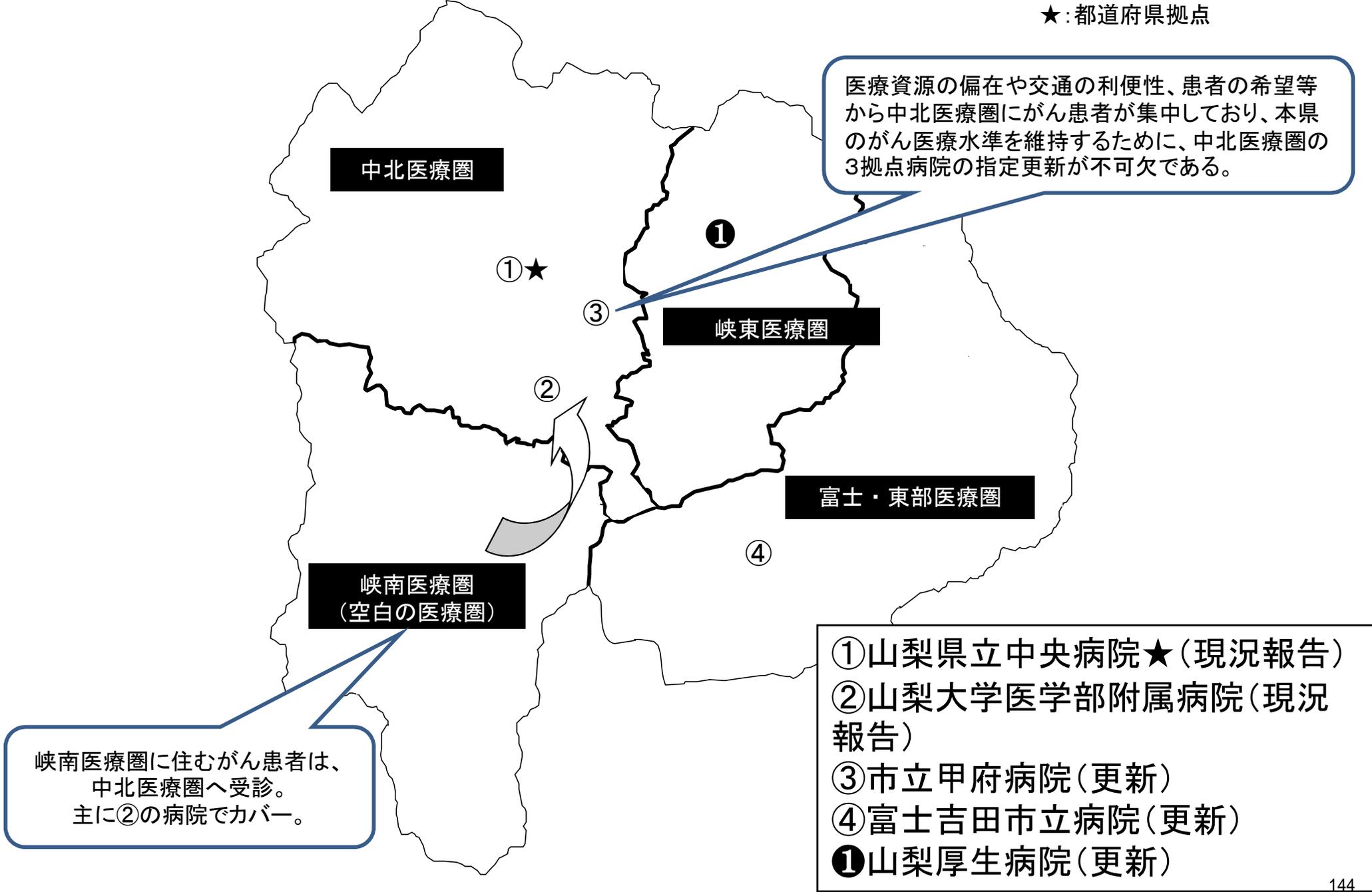
資料3-2

- ・上段は平成30年11月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	峡東	指定更新	山梨厚生病院	(1051) 1003	(17.3) 16.0	(485) 423	(316) 331	(1359) 1261	実施なし	(113) 107	(1110) 1120

山梨県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点

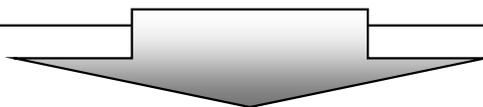


今回の指定推薦に係る山梨県の考え方

がん医療の質の向上、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化と集約化及び効率的かつ持続可能ながん医療を実現することを目標とする。

現 状

- 高度で専門的な医療機関が、中北医療圏に集中しており、全ての医療圏において、質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を図ってきた。
- 空白の医療圏となっている峡南医療圏については、中北医療圏内の拠点病院がカバーしている。



今後の方針

- **これまでどおり、4拠点病院＋1診療病院体制を維持**
 - **各拠点病院等が連携・協力することにより、県全体のがん医療の充実を図っていく。**
-
- 今後も各拠点病院が行う診療体制の強化・充実に対して、積極的に支援し、中北医療圏と富士・東部医療圏については、自圏域内のがん医療を完結する体制を維持。
 - 峡東医療圏については、地域がん診療病院である山梨厚生病院が県立中央病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的がん診療の体制を継続する。
 - 峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等から、今後も中北医療圏内の拠点病院でカバーする体制を継続する。

長野県

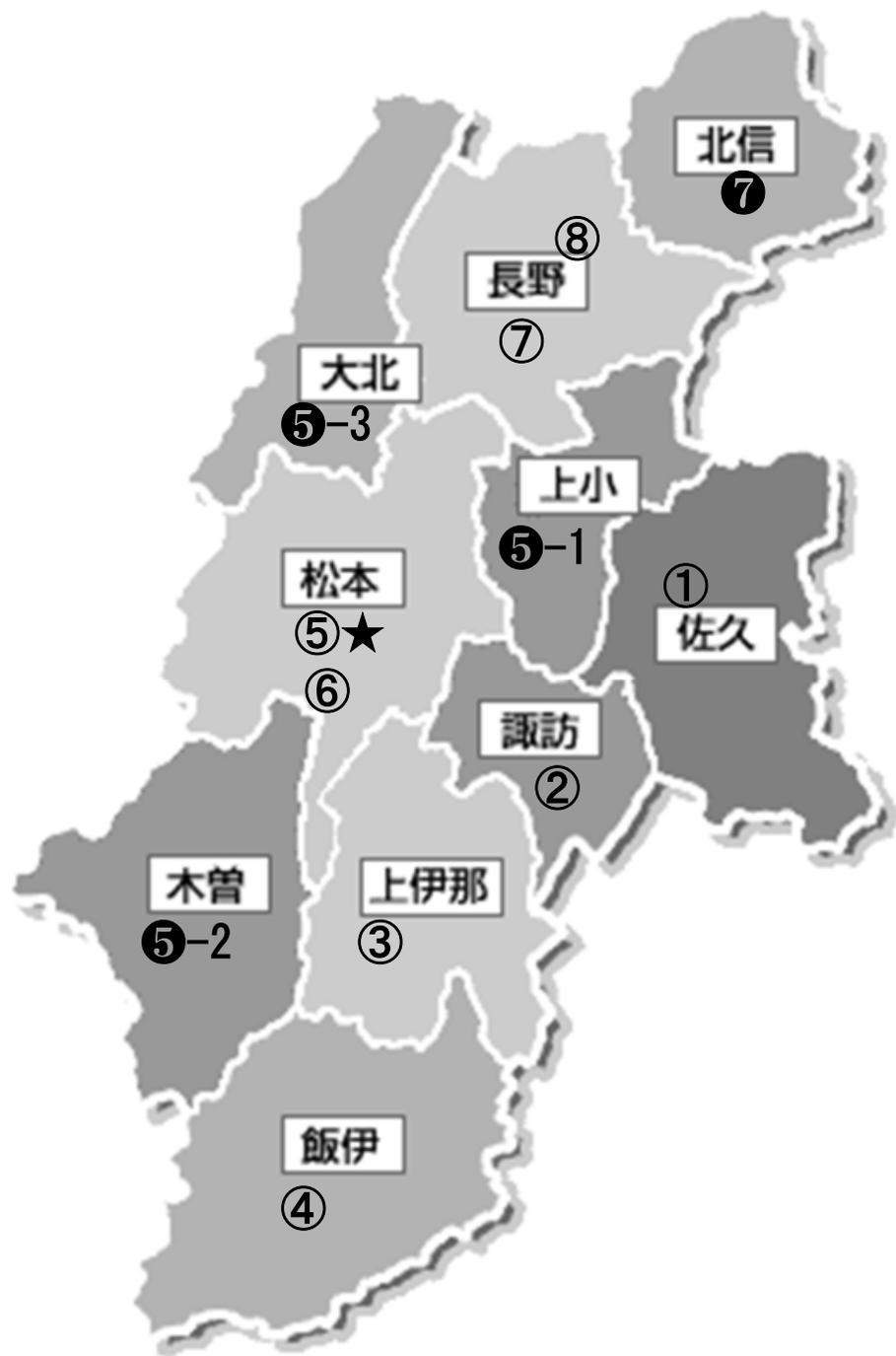
長野県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			計
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
佐久医療圏	1,571.62	206,244	10.1%	131.2	14		1								1
上小医療圏	905.34	199,502	9.7%	220.4	16								1		1
諏訪医療圏	715.40	193,518	9.4%	270.5	11			1							1
上伊那医療圏	1,348.28	180,842	8.8%	134.1	10		1								1
飯伊医療圏	1,929.19	156,005	7.6%	80.9	10		1								1
木曾医療圏	1,546.26	26,003	1.3%	16.8	1							1			1
松本医療圏	1,869.14	422,791	20.6%	226.2	26	2									2
大北医療圏	1,109.53	56,855	2.8%	51.2	2							1			1
長野医療圏	1,558.39	531,177	25.9%	340.8	35	2									2
北信医療圏	1,009.08	83,149	4.1%	82.4	2							1			1
計	13,562.23	2,050,086	100%	1547.8	127	4	3	1	0	0	0	3	1	1	12

長野県令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



①	佐久総合病院佐久医療センター	(平成31年4月1日)
②	諏訪赤十字病院	(平成31年4月1日)
③	伊那中央病院	(平成31年4月1日)
④	飯田市立病院	(平成31年4月1日)
⑤	信州大学医学部附属病院★	(平成31年4月1日)
⑥	相澤病院	(平成31年4月1日)
⑦	長野赤十字病院	(平成31年4月1日)
⑧	長野市民病院	(平成31年4月1日)
⑤-1	信州上田医療センター	(平成31年4月1日)
⑤-2	県立木曾病院	(平成31年4月1日)
⑤-3	北アルプス医療センターあづみ病院	(平成31年4月1日)
⑦	北信総合病院	(平成31年4月1日)

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	佐久		更新	佐久総合病院佐久医療センター	(2,380) 3,351	(17.9) 23.6	1,606	(1,168) 1,169	(1,713) 2,573	(484) 511	114	56	696
2	諏訪	◇	新規	諏訪赤十字病院	(2,439) 2,530	(21.8) 22.5	1,272	(750) 838	(1,223) 2,067	(382) 365	252	53	1,189
3	伊那		更新	伊那中央病院	(1,425) 1,318	(15.1) 13.9	932	(568) 559	(658) 668	(215) 207	202	55	640
4	飯伊		更新	飯田市立病院	(1,952) 1,693	(18.0) 16.0	1,103	(603) 508	(597) 913	(320) 337	96	96	1,253
5	松本	★	現況	信州大学医学部附属病院	(4,174) 4,351	(26.7) 27.3	1,765	(1,174) 1,203	(1,630) 1,771	(524) 463	260	28	823
6	松本		現況	相澤病院	(1,807) 1,756	(14.4) 14.2	1,487	(727) 618	(1,027) 990	(516) 601	99	19	345
7	長野		現況	長野赤十字病院	(3,640) 3,539	(22.5) 21.6	1,560	(972) 900	(2,119) 2,221	(628) 582	308	32	2,175
8	長野		現況	長野市民病院	(3,072) 3,199	(27.9) 28.4	1,835	(1,401) 1,390	(1,125) 1,212	(574) 575	407	20	2,838

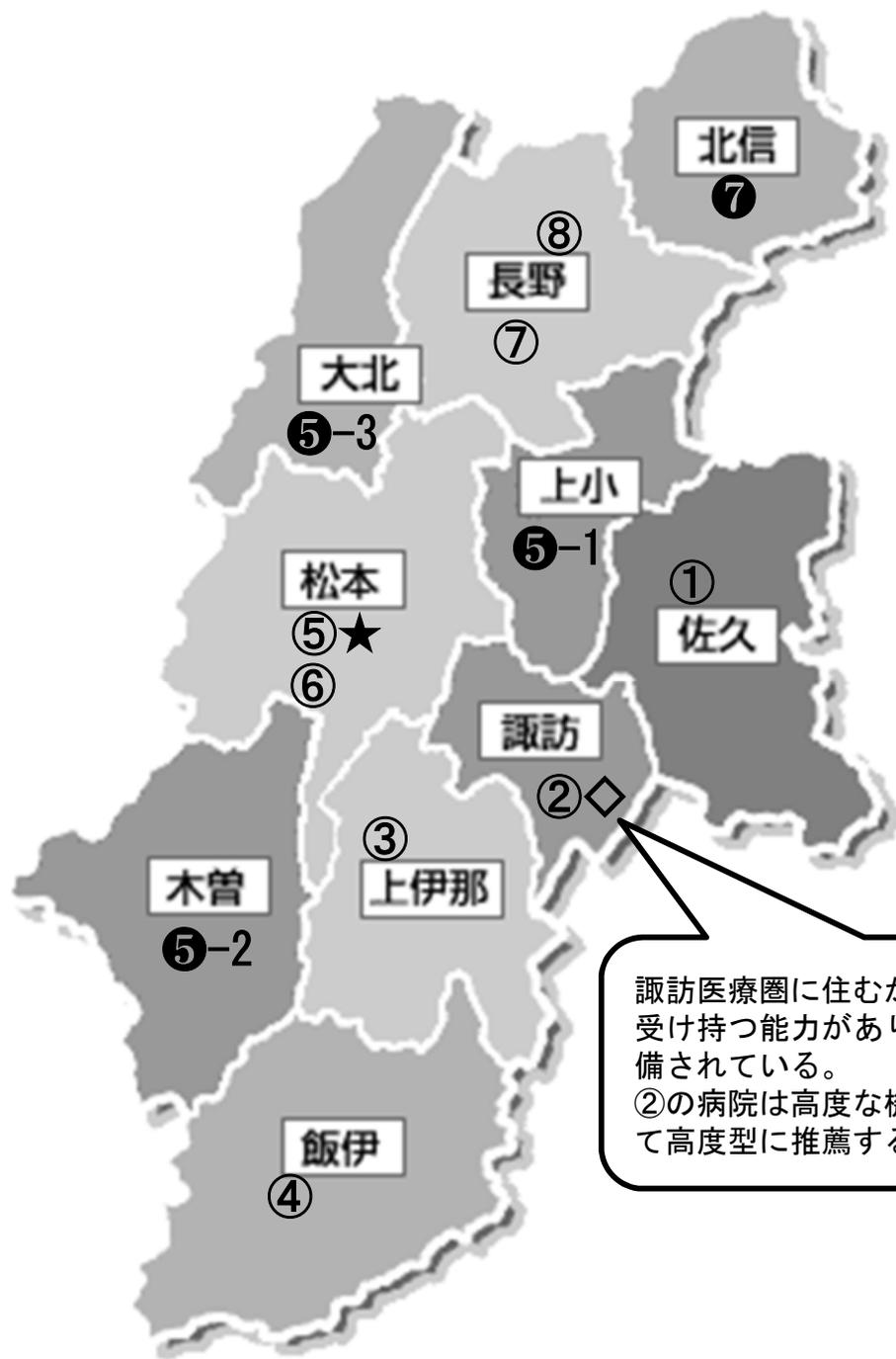
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施してい れば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチ ームに対する新 規診療依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患 者数に占める がん患者の割 合 (%)						
⑤	上田	更新	信州上田医療センター	(1,290) 1,303	(17.7) 16.3	707	(378) 525	(641) 655	(164) 178	203	1,555
⑤	木曾	現況	県立木曾病院	(375) 346	(15.1) 12.8	163	(99) 107	(436) 390	(29) 13	44	696
⑤	大北	現況	北アルプス医療センター あづみ病院	(414) 404	(7.8) 8.0	348	(148) 162	(163) 1,320	(-) -	61	252
⑦	北信	現況	北信総合病院	(871) 949	(11.7) 13.0	593	(325) 287	(393) 451	(87) 86	17	794

長野県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- | | | |
|-----|------------------|------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (更新) |
| ② | 諏訪赤十字病院◇ | (新規) |
| ③ | 伊那中央病院 | (更新) |
| ④ | 飯田市立病院 | (更新) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (現況) |
| ⑥ | 相澤病院 | (現況) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (現況) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (現況) |
| ⑤-1 | 信州上田医療センター | (更新) |
| ⑤-2 | 県立木曽病院 | (現況) |
| ⑤-3 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (現況) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (現況) |

諏訪医療圏に住むがん患者は②の病院が受け持つ能力があり、受け入れ体制が整備されている。
②の病院は高度な機能を有するものとして高度型に推薦する。

今回の指定推薦等に係る長野県の考え方

◇ 基本的な考え方

平成30年3月に策定した、長野県がん対策推進計画を包括する、第2期信州保健医療総合計画では、第3期がん対策推進基本計画を踏まえ、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」・「患者本位のがん医療の実現」・「がんになっても尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築」の実現を目指し、県民及び関係機関・団体と連携したがん対策に取り組むこととしています。

がんの医療提供体制については、平成31年4月から全ての2次医療圏にがん診療連携拠点病院等を整備することができました。今後も、がん医療の質の維持・向上に向けて一層取り組んでいきます。

◇ 指定推薦について

本県では、県独自にがん診療連携拠点病院等におけるがん診療機能の維持向上を図るため機能評価（書面審査・現地調査）を実施しており、各病院では、がん診療連携拠点病院等として機能向上に努めております。

今回推薦する病院は、地域におけるがん診療の中核を担い、十分な実績と機能を有し、地域住民からの信頼も得ていることから、それぞれがん診療連携拠点病院等としての指定を望むものです。

岐 阜 県

岐阜県がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	新規申請 病院数
岐 阜	992.52	793,011	39.9	799.0	41	3	0	0	3	0	0	0	0
西 濃	1433.37	361,763	18.2	252.4	15	0	0	1	1	0	0	0	0
中 濃	2454.87	367,367	18.5	149.6	18	1	0	1	2	0	0	0	0
東 濃	1562.82	325,530	16.4	208.3	14	0	1	0	1	0	0	0	0
飛 騨	4177.59	141,774	7.1	33.9	10	0	1	0	1	0	0	0	0
計	10621.17	1,989,445	100.0	187.3	198	4	2	2	8	0	0	0	0

岐阜県 令和1年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ①岐阜大学医学部附属病院★
(平成31年4月1日) | ②岐阜県総合医療センター
(平成31年4月1日) |
| ③岐阜市民病院 (平成31年4月1日) | ④大垣市民病院 (平成31年4月1日) |
| ⑤木沢記念病院 (平成31年4月1日) | ⑥岐阜県立多治見病院 (平成31年4月1日) |
| ⑦高山赤十字病院 (平成31年4月1日) | |

【中濃】

可茂地域（南部）と武儀・郡上地域（北部）と広く、武儀・郡上地域については拠点病院が遠方のため、高速道路を利用して岐阜医療圏（①～③）に受診する。

【岐阜】

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。

（複数設置の理由）

- ・ 県民の約40%が在住している人口密集地域である
- ・ ②は岐阜医療圏東部、③は西部のがん医療をカバー
- ・ 高度医療を求め他圏域からもがん患者が流入
- ・ 医療機関数も多く、医療連携体制整備・推進の観点からも複数設置が必要

【西濃】

④の所在地に向かう交通の便がよく、ほとんどが④に受診する。

飛騨医療圏

【飛騨】

面積が広大で山間僻地であり高齢化率も高い。⑦は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関であり、圏域内から多くの患者が受診する。

岐阜医療圏

中濃医療圏

西濃医療圏

東濃医療圏

【東濃】

西部と恵那地域に分かれている。おおむね⑥に受診するが、西部は⑤、恵那地域北部は⑦にも受診する

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1,000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	岐阜	★	現況報告	岐阜大学医学部附属病院	(6,258)	(41.6)	2,510	(1,533)	(2,433)	(611)	113	27	1,533
					4,511	28.8		1,807	2,433	666			
2	岐阜		現況報告	岐阜県総合医療センター	(2,789)	(18.8)	2,040	(1,390)	(1,444)	(510)	239	16	1,019
					3,143	20.6		1,313	1,623	409			
3	岐阜		現況報告	岐阜市民病院	(3,758)	(29.1)	1,578	(832)	(1,510)	(428)	186	24	1,727
					3,955	29.5		880	1,612	394			
4	西濃	◇	新規	大垣市民病院	(3,317)	(16.8)	2,418	(1,315)	(1,814)	(471)	152	64	893
					3,856	19.6		1,328	1,860	556			
5	中濃		現況報告	木沢記念病院	(1,702)	(17.9)	906	(492)	(1,613)	(347)	83	23	453
					1,700	16.8		669	1,784	348			
6	中濃		新規	中濃厚生病院			721				62	29	101
					1,357	16.0		461	2,112	203			
7	東濃		更新	岐阜県立多治見病院	(2,893)	(20.0)	1,746	(783)	(1,145)	(542)	93	44	540
					3,170	21.4		820	1,290	543			
8	飛騨		更新	高山赤十字病院	(1,346)	(16.2)	565	(416)	(1,667)	(246)	81	36	894
					1,305	17.0		402	1,920	214			

岐阜県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

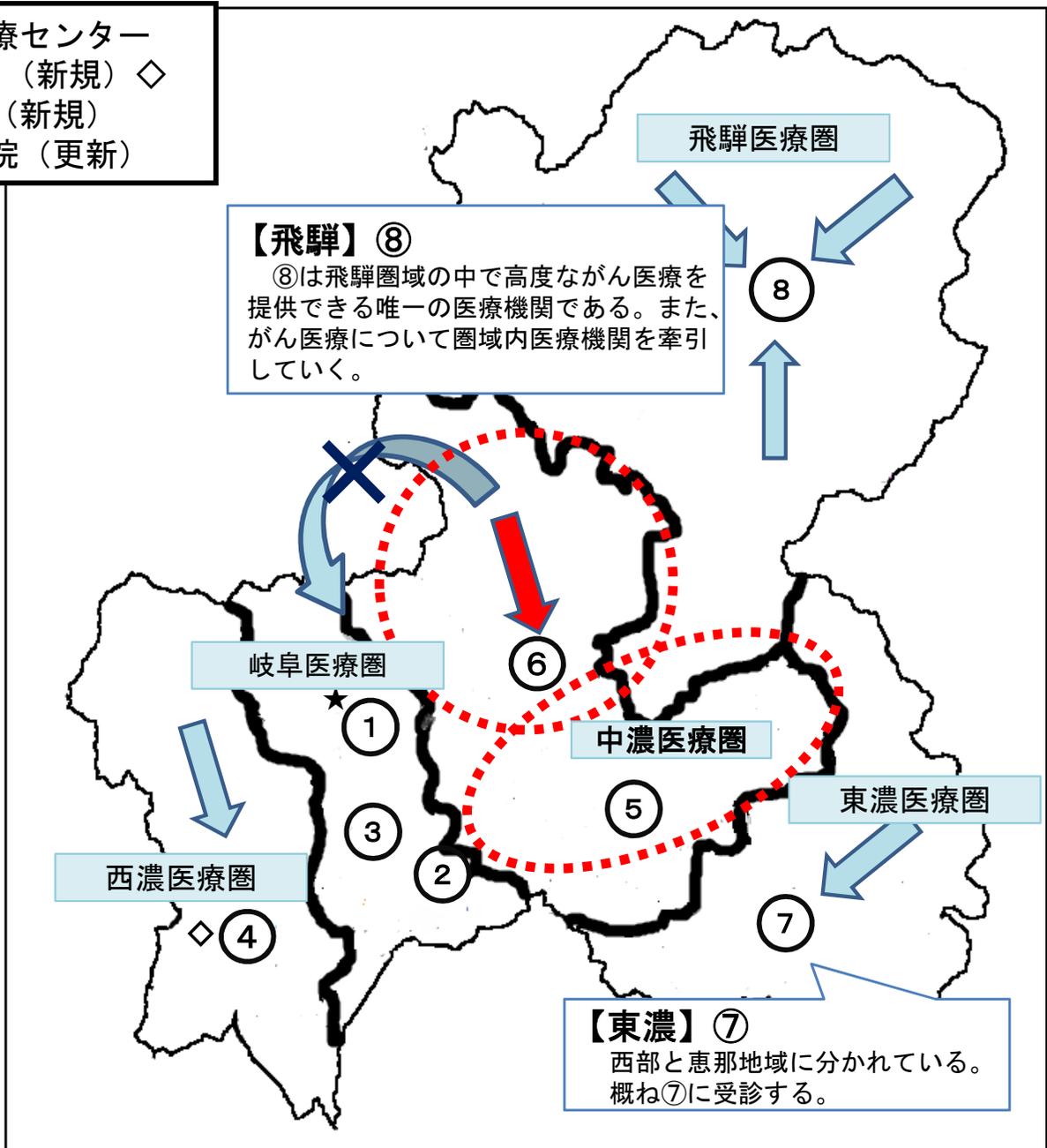
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①岐阜大学医学部附属病院 ★ | ②岐阜県総合医療センター |
| ③岐阜市民病院 | ④大垣市民病院 (新規) ◇ |
| ⑤木沢記念病院 | ⑥中濃厚生病院 (新規) |
| ⑦岐阜県立多治見病院 (更新) | ⑧高山赤十字病院 (更新) |

【中濃】⑤⑥ (⑥新規)
 ⑤が木曾川流域(南部)に居住するがん患者の医療を主に担っており、長良川流域(北部)のがん患者は、遠方の岐阜圏域の地域拠点病院を紹介されることが多く、患者にとって通院治療等が負担となっている。
 また、⑤は乳がん診療の治療実績が高く、⑥は肺がん治療の実績が高いなど、中濃圏域内ではがん医療におけるすみ分けができてきている面もある。
 ⑥ががん拠点病院に指定されることで、中濃北部地域のがん患者が、身近な地域で等しくがん医療やがん相談及び緩和ケアの提供を受けられる体制が整備され、中濃圏域全体のがん医療の質の向上が期待できる。

【岐阜】①★ ②③
 都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。
 ①は都道府県拠点病院及び大学病院として、岐阜県全体のがん医療を牽引する。
 ②③は、地域がん診療連携拠点病院として、岐阜圏域及び隣接圏域のがん患者の受入や、①と協力のうへ、圏域内医療機関等を牽引する。

【西濃】④(新規)◇
 ④高度型の指定要件をすべて満たしており、厚労省への推薦は可能である。



今回の指定推薦等にかかる岐阜県の考え方

1. 基本的な考え方

第7期保健医療計画及び第3次岐阜県がん対策推進計画にある「患者本位のがん医療の実現」に向け、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るとともに、がん患者の共住する地域で最適ながん医療及びがん相談支援が受けられるよう、全ての二次医療圏域に1か所以上のがん診療連携拠点病院等を整備することを目指しています。

2. 指定推薦病院

①書面による審査、②現地調査、③「岐阜県がん診療連携拠点病院支援委員会」による推薦可否に関する協議の結果を踏まえ、以下の病院をがん診療連携拠点病院として推薦します。

【地域がん診療連携拠点病院】

指定更新 岐阜県立多治見病院（東濃圏域）
高山赤十字病院（飛騨圏域）

新規指定 中濃厚生病院（中濃圏域）

【地域がん診療連携拠点病院（高度型）】 新規指定 大垣市民病院（西濃圏域）

3. 県の推薦方針

○更新（地域がん診療連携拠点病院）

<p>岐阜県立多治見病院 （東濃圏域）</p>	<p>【要件を充足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度未充足部分を満たしている。 （専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の配置） ・圏域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。また、緩和ケア病棟を設置し、緩和ケアの充実に努めている。
<p>高山赤十字病院 （飛騨圏域）</p>	<p>【要件を充足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度未充足部分を満たしている。 （①専任かつ常勤の放射線治療に携わる医師、②専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師、③緩和ケアチームの精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の配置） ・圏域の中核的な医療機関として飛騨圏域で唯一リニアックを有し、がん診療を実施。

○新規（地域がん診療連携拠点病院）

<p>中濃厚生病院 （中濃圏域）</p>	<p>【要件を充足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域の中核的な医療機関として、血液専門外来、呼吸器病センターを整備しており、中濃圏域の血液疾患や肺がん治療を担っている。 ・緩和ケア病棟を設置し、緩和ケアの充実に努めている。 ・がん相談支援センターを設置している。また、社会保険労務士による就労支援や、がんサロンでのピアサポーターによる相談を実施しており、がん相談支援体制の構築ができています。 <p>【中濃圏域に2病院を推薦する理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中濃圏域は南北に広がり、北部のがん患者の多くは高速道路等を活用して、遠方の岐阜圏域の拠点病院を受診している。指定されることで、身近な地域で、専門的ながん医療やがん相談支援が受けられる体制が整う。 ・中濃厚生病院は中濃圏域の肺がん治療を担っている一方、木沢記念病院は乳がん治療の実績が高く、中濃圏域内でのがん医療におけるすみ分けができています。
--------------------------	---

○新規（高度型）

<p>大垣市民病院 （西濃圏域）</p>	<p>【要件を充足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の地域がん診療連携拠点病院で最も診療実績に優れ、都道府県拠点病院と遜色ない。また、指針上の「望ましい」とされる項目を89.7%を満たしているなど、高度な診療機能を有している。
--------------------------	--

静岡県

静岡県 2 次医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病 院 数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院 数	今回 更新 病院 数	新規 申請 病院 数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
賀 茂	583.6	61,123	1.7	104.7	8				0						
熱海伊東	185.9	101,733	2.8	547.3	7				0				1		
駿東田方	1,276.9	642,683	17.7	503.3	47	1	1		2						
富 士	634.0	373,636	10.3	589.3	18				0				1		
静 岡	1,411.9	691,509	19.0	489.8	29	1		1	2						
志太榛原	1,209.4	454,149	12.5	375.5	14			1	1						
中東遠	831.1	464,995	12.8	559.5	19		1		1						
西 部	1,644.6	850,615	23.4	517.2	35	2	2		4						
計 (県全体)	7,777.4	3,640,443	100	468.1	177	4	4	2	10	0	0	0	0	2	0

静岡県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①静岡県立静岡がんセンター★（平成31年4月1日）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（平成31年4月1日）
- ③静岡県立総合病院（平成31年4月1日）
- ④静岡市立静岡病院（平成31年4月1日）
- ⑤藤枝市立総合病院（平成31年4月1日）
- ⑥磐田市立総合病院（平成31年4月1日）
- ⑦聖隷三方原病院（平成31年4月1日）
- ⑧聖隷浜松病院（平成31年4月1日）
- ⑨浜松医科大学医学部附属病院（平成31年4月1日）
- ⑩浜松医療センター（平成31年4月1日）
- ①-（1）国際医療福祉大学熱海病院（平成31年4月1日）
- ①-（2）富士市立中央病院（平成31年4月1日）

駿東田方医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、2病院で駿東田方、賀茂、熱海伊東及び富士医療圏のがん医療を担っているため。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

志太榛原医療圏

地域医療の中核を担う公立病院の医師不足に伴い、一部が隣接する医療圏等を受診

熱海伊東医療圏

賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏のがん患者は駿東田方医療圏へ受診するため、①、②及び①-（1）の病院が駿東田方医療圏、賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏をカバーする。

賀茂医療圏 (空白の医療圏)

富士医療圏

富士医療圏のがん患者の一部は隣接医療圏の拠点病院を受診するが、①-（2）の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

静岡医療圏

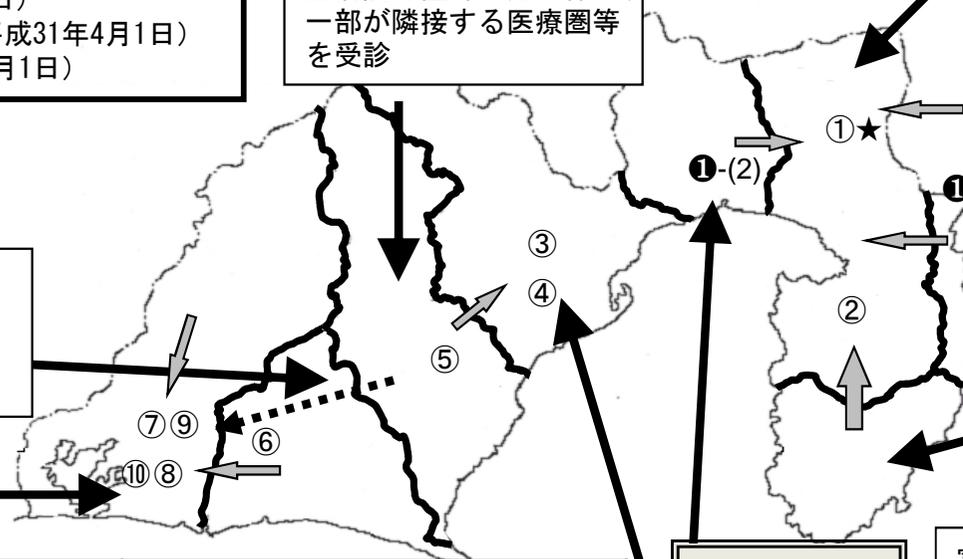
病院名	複数必要である理由	機能分担
③静岡県立総合病院	人口約70万人、県内で西部医療圏に次いで2番目に多い医療圏であり、既指定の2病院だけで約5割のがん患者を受け入れているため。	集学的治療
④静岡市立静岡病院		地域連携 共同診療

中東遠医療圏

中東遠医療圏のがん患者の一部は隣接医療圏を受診するが、診療連携体制の充実・強化により、医療圏内の受診患者数が増加している。

西部医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑦聖隷三方原病院	人口約85万人、県内で最も多く、また、地形も南北に広く、既指定の4つの拠点病院が連携して、それぞれの特長を活かしながら、機能等を分担し、がん医療体制を維持しているため。	地域における緩和ケアネットワークの構築（在宅緩和ケア）
⑧聖隷浜松病院		多職種チーム医療による集学的治療の実践（手術療法、放射線療法等）
⑨浜松医科大学医学部附属病院		がん専門医の育成と医師派遣（がんプロ、医師派遣、臨床試験）
⑩浜松医療センター		地域連携（在宅医療）体制の構築（共同診療、病診連携、就労支援）



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点病院(高度型)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の 手術件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患者 数に占めるがん 患者の割合(%)							
1 駿東田方	★	現況	県立静岡がんセンター	(14467) 14476	(95.1) 95.5	5375	(4520) 4485	(9988) 10821	(1983) 1933	985	31	13146
2 駿東田方		更新	順天堂大学医学部附属静岡病院	(2530) 2443	(15.9) 14.6	1292	(892) 885	(1216) 1289	(249) 290	99	13	2336
3 静岡	◇	新規	静岡県立総合病院	(5744) 5662	(32.4) 31.9	3051	(1445) 1857	(3478) 3661	(760) 709	442	39	2279
4 静岡		現況	静岡市立静岡病院	(2319) 2395	(18.3) 18.9	1441	(748) 1063	(1575) 1435	(285) 305	101	18	3512
5 志太榛原	◇	新規	藤枝市立総合病院	(2051) 2198	(15.8) 16.9	1102	(816) 777	(1313) 1206	(340) 432	162	22	2089
6 中東遠		更新	磐田市立総合病院	(2158) 1963	(18.6) 16.9	1099	(710) 764	(1142) 1313	(383) 406	163	32	1827
7 西部		更新	聖隷三方原病院	(3104) 4094	(18.9) 25.4	1308	(808) 844	(1233) 1296	(435) 423	266	24	2500
8 西部		現況	聖隷浜松病院	(3740) 3850	(17.8) 18.4	1756	(1385) 1469	(1639) 1725	(756) 573	257	21	4727
9 西部		更新	浜松医科大学医学部附属病院	(3522) 3817	(24.9) 25.8	1509	(1091) 1434	(1996) 2004	(468) 512	240	18	3672
10 西部		現況	浜松医療センター	(2328) 2396	(17.4) 17.1	947	(538) 553	(1502) 1465	(253) 218	210	16	4449

地域がん診療病院の診療実績等

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

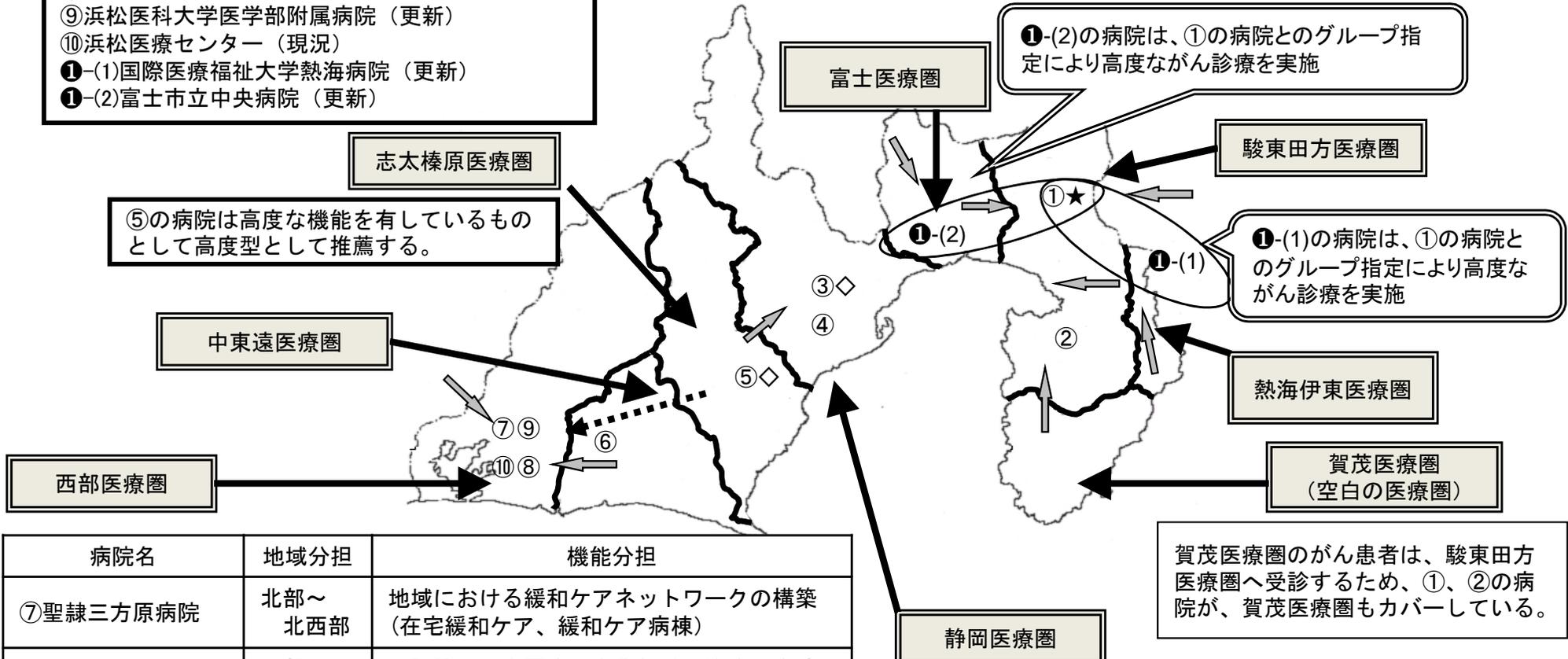
	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①-(1)	熱海伊東	更新	国際医療福祉大学熱海病院	(591) 619	(10.9) 11.3	293	(291) 249	(160) 168	実施なし	73	944
①-(2)	富士	更新	富士市立中央病院	(2008) 1980	(17.0) 17.1	819	(647) 627	(1018) 1050	(203) 130	154	656

静岡県 令和元年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

資料 4

- ①静岡県立静岡がんセンター★（現況）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（更新）
- ③静岡県立総合病院◇（新規）
- ④静岡市立静岡病院（現況）
- ⑤藤枝市立総合病院◇（新規）
- ⑥磐田市立総合病院（更新）
- ⑦聖隷三方原病院（更新）
- ⑧聖隷浜松病院（現況）
- ⑨浜松医科大学医学部附属病院（更新）
- ⑩浜松医療センター（現況）
- ①-(1)国際医療福祉大学熱海病院（更新）
- ①-(2)富士市立中央病院（更新）

病院名	地域分担	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、当該2病院で駿東田方、賀茂及び熱海伊東医療圏における連携体制の充実・強化を図る。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携 ①-(1)及び①-(2)のグループ指定先病院
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携



病院名	地域分担	機能分担
⑦聖隷三方原病院	北部～北西部	地域における緩和ケアネットワークの構築（在宅緩和ケア、緩和ケア病棟）
⑧聖隷浜松病院	中部～南東部	多職種チーム医療による集学的治療の実践（手術療法、放射線療法、化学療法）
⑨浜松医科大学医学部附属病院	東部～北東部	がん専門医の育成と医師派遣（がんプロフェッショナル養成、医師派遣、臨床試験）
⑩浜松医療センター	西部～南西部	地域連携（在宅医療）体制の構築（共同診療、病診連携）

病院名	地域分担	機能分担
③静岡県立総合病院	中心部～北部 隣接医療圏の一部	集学的治療
④静岡市立静岡病院	中心部～南部	地域連携 共同診療

③の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。
165

○ 第3次静岡県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院等の位置付け

これまで県では、県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように2次医療圏ごとにがん診療連携拠点病院等を整備することを目標とし、医療体制の整備を進めてきたところである。

第3次静岡県がん対策推進計画では、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が県指定のがん診療連携推進病院等と連携することにより、地域差のないがん対策を進めることとしており、既存の国指定12病院が今後も国の指定要件を満たすことを目標の1つとして設定している。

第3次静岡県がん対策推進計画

Ⅱ 患者一人ひとりに合わせたがん医療の実現

5 がん診療連携拠点病院等の整備

【目標】

県内のがん診療連携拠点病院等12病院は、今後も新しい国指定要件を満たします。

項目	現状値 (2017年)	目標値 (2023年)
国指定要件を満たす がん診療連携拠点病院及び 地域がん診療病院の数	12施設	12施設

○第3次静岡県がん対策推進計画を踏まえた当県の指定推薦の考え方

1 がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院の指定更新について

指定期間満了を迎えるがん診療連携拠点病院6施設及び地域がん診療病院2施設について、指定要件の充足が確認できたことから、継続更新の推薦をする。

2 拠点病院が複数ある2次医療圏の推薦について

拠点病院が複数ある駿東田方、静岡、西部の3医療圏域については、広域で人口が多く、隣接医療圏から患者の流入が生じていることから、連携を図る必要がある。

特に、西部医療圏においては4病院が連携を図り、緩和ケア、多職種チーム医療、がん専門医の育成、地域連携体制などの機能を分担し、がん医療の均てん化の推進が図られており、引き続き、複数での指定を推薦する。

3 既存の地域がん診療病院について

地域がん診療病院2施設については、将来的に拠点病院の指定を目指す。

4 国指定病院が空白の2次医療圏について

「空白の医療圏」である賀茂医療圏については、隣接の医療圏の拠点病院ががん医療を担っているが、「地域がん診療病院」の指定推薦を目指し支援していく。

5 地域がん診療連携拠点病院（高度型）の新規推薦について

2つの2次医療圏から、地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定推薦希望があった。いずれの施設も高度型の指定要件を充足していると判断したので、新規指定の推薦をする。

愛 知 県

愛知県がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
名古屋・尾張中部	368.35	2,498,306	33.1	6782.4	129	6	2	0	8	0	0	0	0	0	0
海部	208.38	327,908	4.3	1573.6	11	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張東部	230.14	476,145	6.3	2068.9	19	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
尾張西部	193.17	515,204	6.8	2667.1	20	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張北部	295.96	733,372	9.7	2477.9	25	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
知多半島	392.20	626,301	8.3	1596.9	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河北部	950.51	489,156	6.5	514.6	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部東	443.92	429,163	5.7	966.8	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部西	363.76	705,442	9.3	1939.3	23	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
東三河北部	1,052.43	53,248	0.7	50.6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河南部	671.04	697,756	9.2	1039.8	37	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	5,169.86	7,552,001	100	21677.9	322	14	5	0	19	0	0	0	0	0	0

※面積：所属未定地は各医療圏値に含んでいないため、各医療圏値の合計と一致しない。

愛知県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

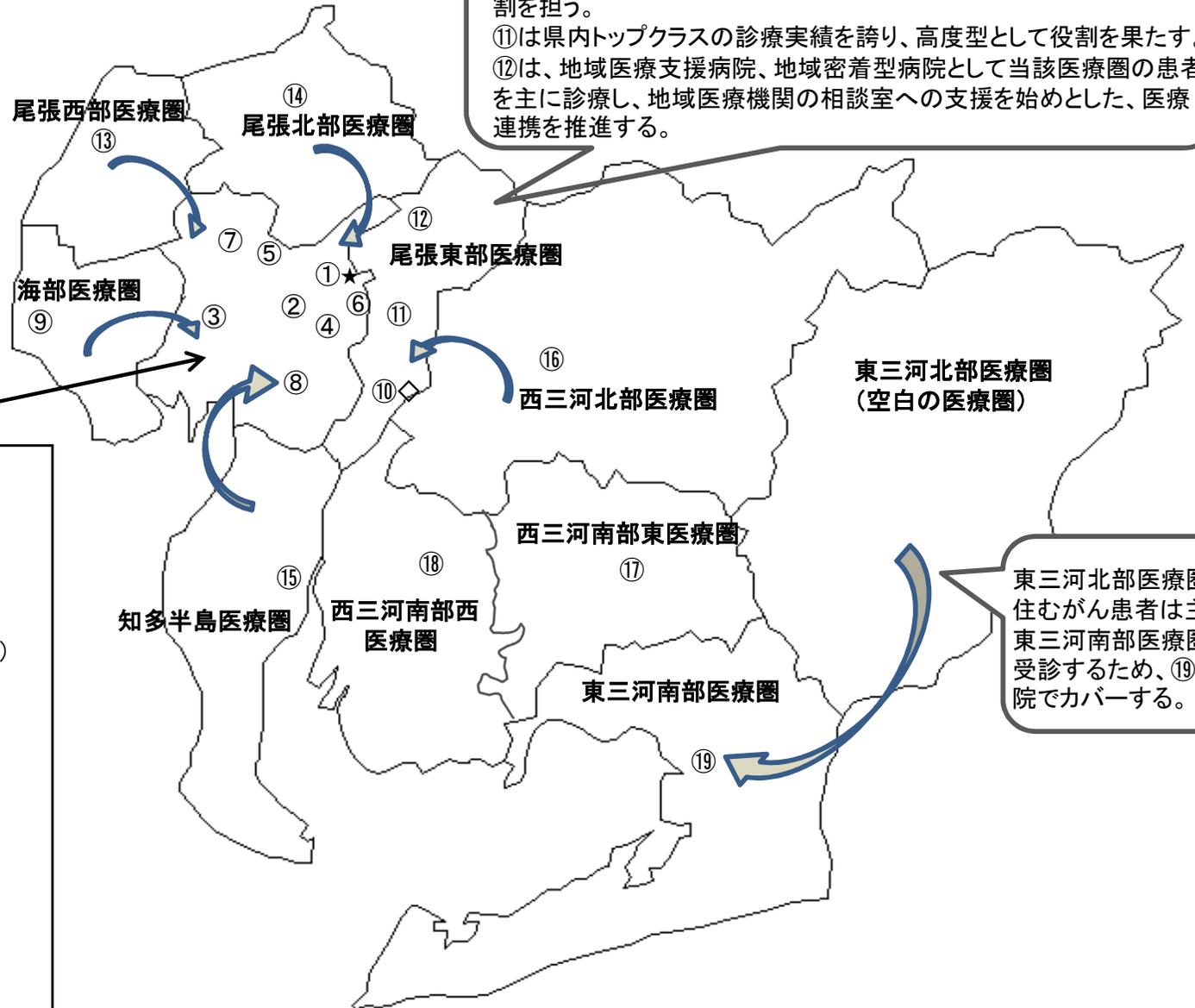
①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を③⑥⑧⑤⑦が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

⑦は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

⑩、⑪の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑪は県内トップクラスの診療実績を誇り、高度型として役割を果たす。⑫は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。



名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ②名古屋大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③名古屋第一赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ④名古屋市立大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑤名古屋医療センター (平成31年4月1日)
- ⑥名古屋第二赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ⑦名古屋市立西部医療センター (平成31年4月1日)
- ⑧地域医療推進機構中京病院 (平成31年4月1日)
- ⑨厚生連 海南病院 (平成31年4月1日)
- ⑩藤田医科大学病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑪愛知医科大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑫公立陶生病院 (平成31年4月1日)
- ⑬一宮市立市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑭小牧市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑮半田市立半田病院 (平成31年4月1日)
- ⑯厚生連 豊田厚生病院 (平成31年4月1日)
- ⑰岡崎市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑱厚生連 安城更生病院 (平成31年4月1日)
- ⑲豊橋市民病院 (平成31年4月1日)

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 名古屋・尾張中部	★	現況	愛知県がんセンター	(9,807) 10,070	(92.3) 93.8	2,931	(2,232) 1,994	(5,197) 5,585	(856) 1,117	559	8	6,860
2 名古屋・尾張中部		現況	名古屋大学医学部附属病院	(9,011) 9,200	(37.0) 37.9	3,129	(3,092) 3,075	(3,076) 3,355	(946) 941	150	20	2,609
3 名古屋・尾張中部		現況	名古屋第一赤十字病院	(5,557) 5,905	(26.2) 26.9	2,382	(1,767) 1,676	(3,168) 4,608	(663) 632	189	6	3,039
4 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学病院	(8,325) 5,962	(43.7) 30.9	2,459	(1,375) 1,545	(2,522) 1,175	(677) 810	445	10	338
5 名古屋・尾張中部		更新	名古屋医療センター	(3,690) 3,376	(25.1) 22.7	1,934	(1,058) 756	(2,381) 1,877	(343) 315	387	5	3,389
6 名古屋・尾張中部		更新	名古屋第二赤十字病院	(4,009) 3,715	(16.7) 15.5	1,854	(1,110) 987	(1,465) 1,796	(406) 402	132	3	1,915
7 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立西部医療センター	(3,675) 3,709	(28.3) 27.3	1,676	(836) 779	(1,565) 1,850	(951) 1,114	121	6	758
8 名古屋・尾張中部		現況	中京病院	(2,763) 2,687	(17.5) 17.4	1,145	(739) 851	(1,300) 1,371	(333) 289	88	5	1,335
9 海部		現況	海南病院	(2,455) 2,365	(19.3) 17.8	1,268	(905) 893	(1,193) 1,320	(356) 342	281	49	2,280
10 尾張東部	◇	現況	藤田医科大学病院	(6,580) 8,500	(22.8) 28.6	2,969	(1,825) 2,299	(3,894) 3,999	(945) 1,010	623	88	4,604 171

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	尾張東部	現況	愛知医科大学病院	(3,551) 3,672	(15.1) 15.5	2,013	(1,163) 1,066	(1,737) 1,899	(532) 604	445	38	3,133
2	尾張東部	現況	公立陶生病院	(3,283) 3,195	(21.0) 20.5	1,124	(596) 625	(1,208) 1,140	(204) 178※	371	33	2,390
3	尾張西部	現況	一宮市民病院	(2,453) 2,319	(17.5) 16.8	1,454	(618) 563	(1,093) 1,093	(513) 410	72	21	1,486
4	尾張北部	現況	小牧市民病院	(4,993) 4,622	(34.3) 32.7	1,477	(989) 1,166	(1,240) 1,138	(497) 574	299	38	177
5	知多半島	更新	半田市立半田病院	(1,451) 1,868	(12.6) 15.4	959	(633) 679	(891) 880	(258) 234	60	38	744
6	西三河北部	更新	豊田厚生病院	(3,140) 2,943	(18.7) 17.6	1,463	(1,090) 1,040	(1,251) 1,460	(265) 339	227	33	2,072
7	西三河南部東	現況	岡崎市民病院	(1,893) 2,185	(11.8) 13.3	1,382	(556) 707	(976) 1,273	(238) 240	233	30	614
8	西三河南部西	現況	安城更生病院	(7,009) 7,085	(32.8) 32.9	2,175	(1,567) 1,479	(2,973) 2,984	(479) 456	425	41	2,010
9	東三河南部	更新	豊橋市民病院	(6,282) 2,569	(31.7) 12.6	2,551	(1,329) 722	(2,068) 2,355	(524) 612	89	22	1,074
									※機器の更新を行い患者制限を行ったため未充足			

愛知県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を③⑥⑧⑤⑦が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

⑦は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。

また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

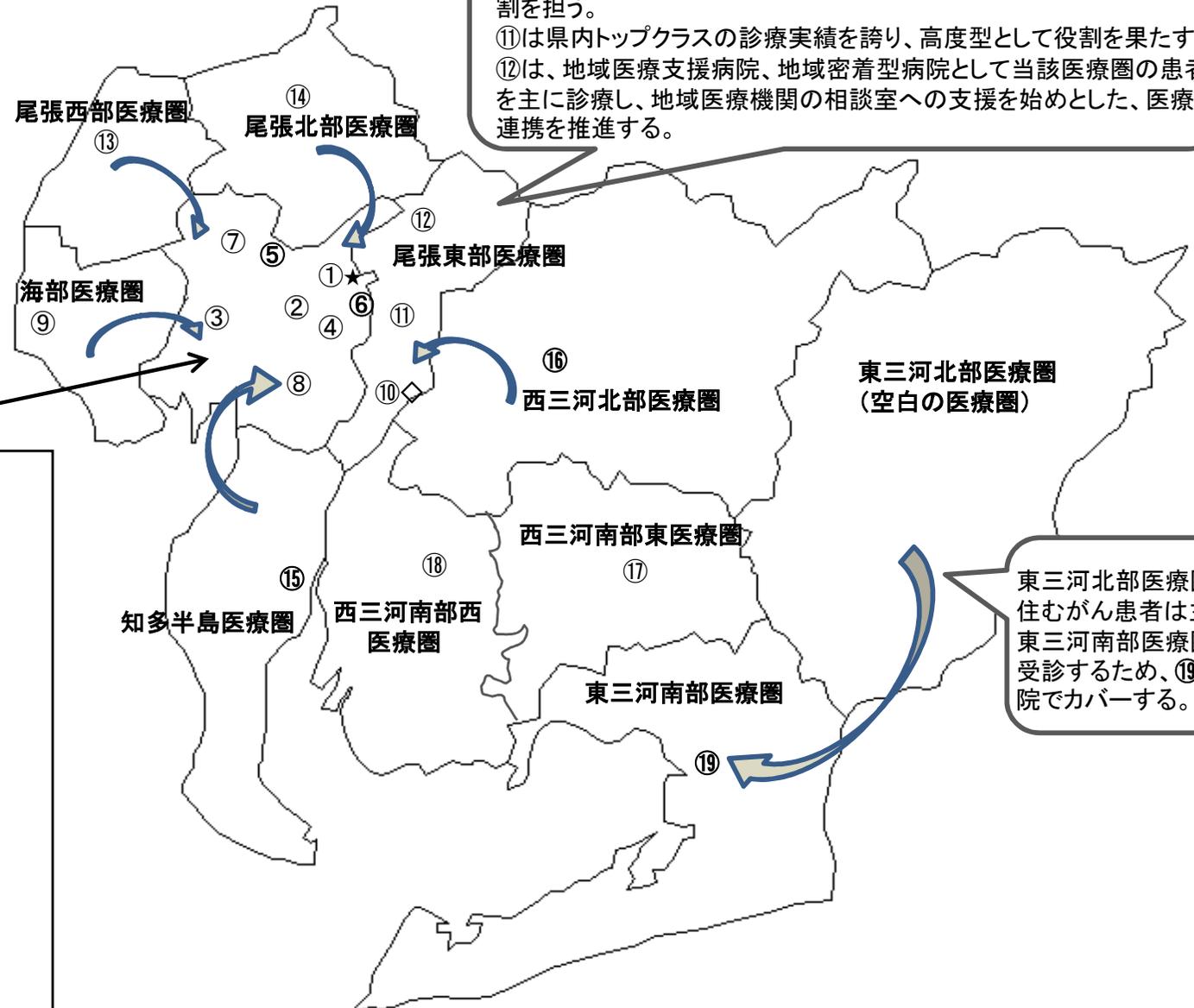
⑩、⑪の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑪は県内トップクラスの診療実績を誇り、高度型として役割を果たす。

⑫は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★(現況)
- ②名古屋大学医学部附属病院(現況)
- ③名古屋第一赤十字病院(現況)
- ④名古屋市立大学病院(現況)
- ⑤名古屋医療センター(更新)
- ⑥名古屋第二赤十字病院(更新)
- ⑦名古屋市立西部医療センター(現況)
- ⑧地域医療推進機構中京病院(現況)
- ⑨厚生連 海南病院(現況)
- ⑩藤田医科大学病院◇(現況)
- ⑪愛知医科大学病院(現況)
- ⑫公立陶生病院(現況)
- ⑬一宮市立市民病院(現況)
- ⑭小牧市民病院(現況)
- ⑮半田市立半田病院(更新)
- ⑯厚生連 豊田厚生病院(更新)
- ⑰岡崎市民病院(現況)
- ⑱厚生連 安城更生病院(現況)
- ⑲豊橋市民病院(更新)



東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

愛知県の拠点病院推薦にあたっての考え方

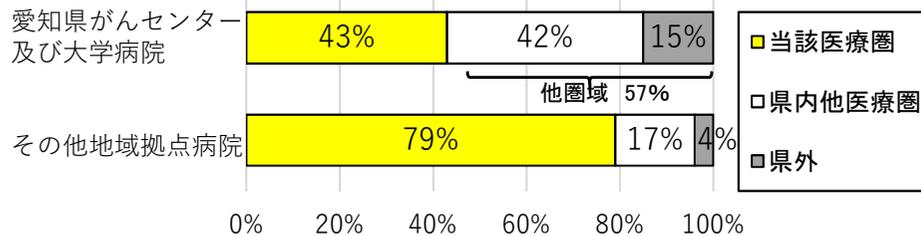
愛知県の地域特性

- ◇県の人口 約755万人(5年間で約10.5万人増加)
- ◇新規がん患者数 約4.5万人(5年間で約0.4万人増加)
- ◇名古屋・尾張中部医療圏の人口 約249万人(県人口の3分の1)
 ←全国平均37万人の約6.7倍
- ◇上記以外の2次医療圏の平均人口 約50万人 ←全国の約1.36倍

課題1

- ・都市部に人口が集中している
- ・人口に対し拠点病院が足りない

≪都道府県拠点である「愛知県がんセンター」及び大学病院であるがん診療連携拠点病院の入院患者の受け入れ割合≫



課題2

- ・大学病院が都市部及び近郊に集中している
- ・愛知県がんセンター及び大学病院へ他圏域から高度な医療を求めて患者が流入している

拠点病院の整備指針

県内どこに住んでいても病状に応じた適切ながん治療や緩和ケアを受けられるがん対策を推進するため、高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援し、がん医療の均てん化を図る。

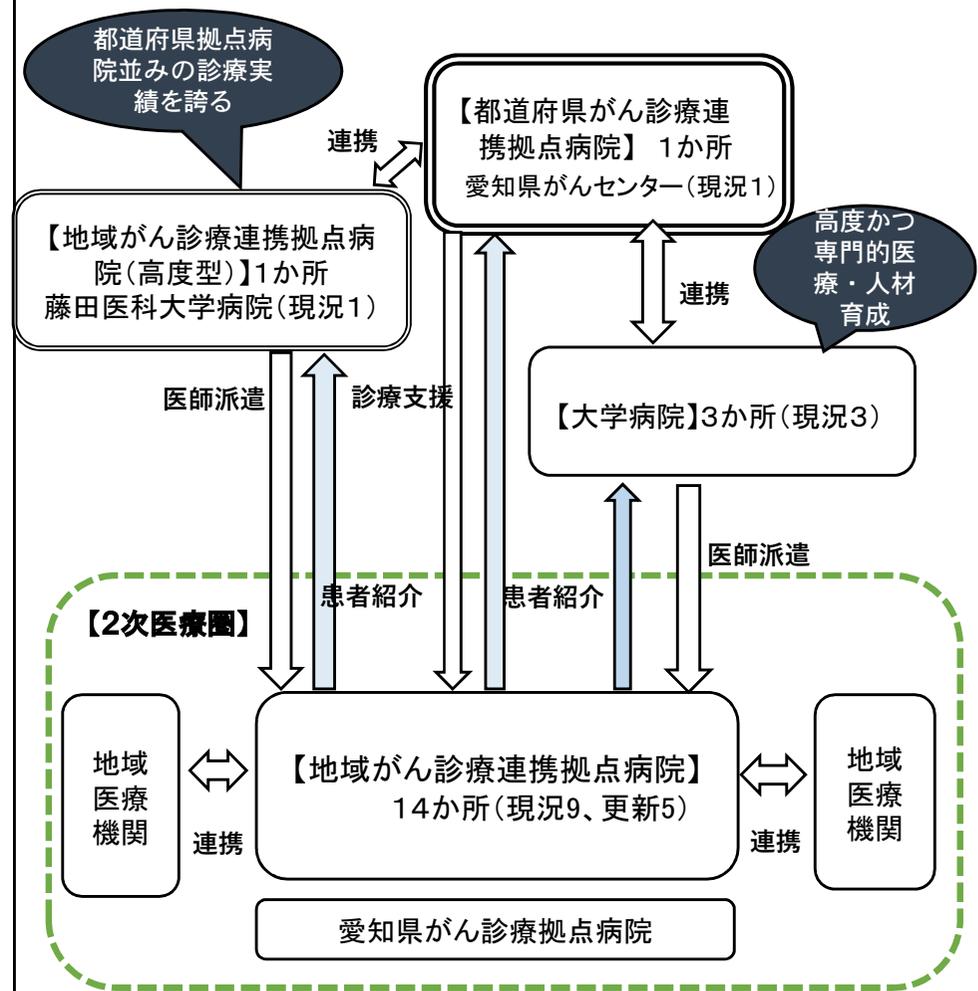
≪必要拠点病院数≫

- 名古屋・尾張中部医療圏 人口249万人÷37万人=6.7か所
 - 上記以外の2次医療圏 人口506万人÷37万人=13.6か所
- 合計 20か所

現在、拠点病院は19か所であるが、さらに質の高いがん医療を提供するためには20か所必要

がん拠点病院の役割分担

- 都道府県拠点病院：拠点病院の統括
 - 大学病院：高度かつ専門的な医療の提供
 - その他の拠点病院：地域の患者の生活環境に合わせた医療の提供
- 全県的な拠点



三重県

三重県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点 病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
北勢	1,108.6	838,813	47.1	756.6	41	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
中勢伊賀	1,399.2	438,965	24.7	313.7	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
南勢志摩	2,276.3	436,122	24.5	191.6	19	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
東紀州	990.3	66,135	3.7	66.8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5,777.4	1,780,035	100.0	308.3	93	3	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0

三重県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

がん患者の受療動向

拠点病院のない空白の医療圏である東紀州医療圏の圏外への流出割合が高くなっています。また、北勢医療圏、中勢伊賀医療圏では、県外への流出割合が高い状況にあります。

流出状況

医療圏名	(入院 (県外分) : 外来 (県外分))
北勢医療圏	(18.2% (10.9%) : 14.4% (9.5%))
中勢伊賀医療圏	(16.5% (9.7%) : 14.7% (8.5%))
南勢志摩医療圏	(7.8% (0.9%) : 5.9% (1.3%))
東紀州医療圏	(44.4% (8.6%) : 33.6% (14.9%))

東紀州医療圏に住むがん患者は、南勢志摩医療圏へ受診するため、おもに④の病院でカバーしている。

東紀州医療圏
(空白の医療圏)

- ①三重大学医学部附属病院★ (平成31年 4 月 1 日)
- ②市立四日市病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ③鈴鹿中央総合病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ④松阪中央総合病院 (平成31年 4 月 1 日)
- ⑤伊勢赤十字病院 (平成31年 4 月 1 日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

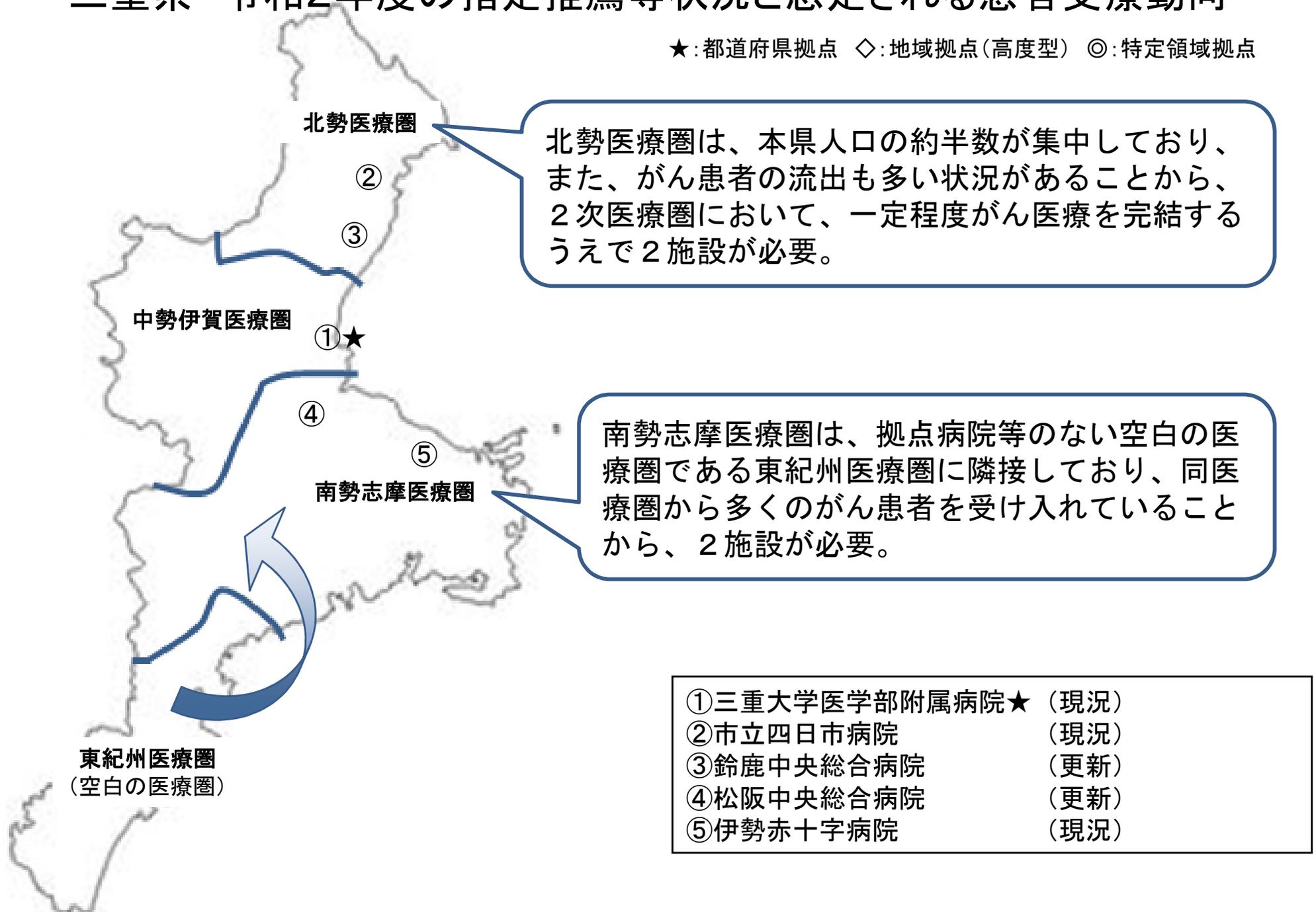
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
1	中勢伊賀	★	現況	三重大学医学部附属病院	(6910) 7231	(44.0) 44.0	(2342) 2734	(1824) 2014	(2443) 2693	(620) 721	(330) 375	34	520
2	北勢		現況	市立四日市病院	(3190) 2969	(20.6) 18.9	(1676) 1659	(1236) 1247	(1463) 1758	(233) 262	(82) 76	25	2006
3	北勢		更新	鈴鹿中央総合病院	(2297) 2699	(25.4) 31.0	(1439) 1299	(710) 685	(1057) 1038	(200) 200	(114) 87	21	1389
4	南勢志摩		更新	松阪中央総合病院	(1756) 1628	(19.2) 18.0	(903) 909	(515) 503	(1008) 1016	(233) 236	(71) 62	12	2077
5	南勢志摩		現況	伊勢赤十字病院	(3693) 3776	(21.0) 21.3	(1914) 1917	(1193) 795	(1732) 1806	(345) 366	(80) 103	33	3549

三重県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



今回の指定推薦等に係る三重県の考え方について

本県では、県内5施設所のがん診療連携拠点病院を中心として各医療機関の連携による医療提供体制の整備・充実に取り組んでいるところです。引き続き、5施設を指定することにより、すべての県民が身近な地域においてより質の高いがん治療が受けられる体制づくりを推進することを目指します。

1 がん診療連携体制の整備にかかる課題

(1) 地勢上の特性

本県は南北に長い地勢であることに加え、一定規模の人口を擁する都市が長軸方向に点在しており、各地域で一定の生活圏が形成される傾向にあります。

(2) 医療圏ごとの人口割合

北勢医療圏の人口が県内人口の約47%を占める一方、東紀州医療圏の人口割合は約4%と大きな隔たりがあるなど、医療圏ごとに対策を講じる必要があります。

(3) 受療動向

患者流出率は入院で16.4%、外来で13.1%（厚生労働省「NDB」平成27年度）と高い状況にあります。

県民に、居住する地域で質の高いがん医療を提供するため、一定の診療実績を有する医療機関に医療資源を一定程度集約化し、地域の拠点としての役割を担えるよう環境を整える必要があります。

2 医療圏ごとの体制整備の考え方

これらの状況や課題に鑑み、各医療圏の特性を踏まえて拠点となる医療機関を整備することで、県内全域のがん診療提供体制の強化を図ります。

【北勢医療圏】

本県人口の約47%が居住する人口集中地域で、桑員、三泗、鈴亀それぞれの区域で一定の生活圏が形成されていることから、複数の拠点病院が連携してがん医療を提供することが必要です。

市立四日市病院は主に三泗区域、桑員区域、鈴鹿中央総合病院は主に鈴亀区域のがん医療を担っています。

【中勢伊賀医療圏】

三重大学医学部附属病院が、県がん診療連携拠点病院として、高度の専門を必要とするがん患者の受入など中心的な役割を担っています。

【南勢志摩医療圏】

空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。

松阪中央総合病院は松阪区域に加え東紀州医療圏のがん医療を補完する役割を担い、伊勢赤十字病院は地域に離島や多くの中山間地域を含む伊勢志摩区域において医療を提供する役割を担っています。

【東紀州医療圏】

拠点病院等のない空白の医療圏で、高齢化の進行に伴う医療需要への対応が求められます。当面は隣接する医療圏の松阪中央総合病院などを中心にがん医療を提供するとともに、将来的にはそれらと連携した地域がん診療病院の整備等を検討する必要があります。

滋 賀 県

滋賀県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連 携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
大津保健医療圏	464.51	341,968	24.2	736.2	15	1	1	2		0				0
湖南保健医療圏	256.39	344,156	24.3	1342.3	13		1	1		0				0
甲賀保健医療圏	552.02	143,919	10.2	260.7	7			0		0		1		1
東近江保健医療圏	727.97	227,610	16.1	312.7	11			0		0				0
湖東保健医療圏	392.04	155,835	11.0	397.5	4		1	1		0				0
湖北保健医療圏	931.4	152,964	10.8	164.2	4	1		1		0				0
湖西保健医療圏	693.05	47,123	3.3	68.0	3			0		0		1		1
								0		0				0
計	4017.38	1413575	100	3281.6042	57	2	3	5	0	0	0	2		2

滋賀県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1		更新	大津赤十字病院	(3186) 3506	(20.8) 22.0	1412	(888) 763	(1082) 1075	(427) 330	133	34	899
2	★	更新	滋賀県立総合病院	(3222) 3426	(33.0) 34.6	1504	(1032) 1067	(1785) 1745	(558) 518	311	33	2514
3	◇	新規	滋賀医科大学医学部附属病院	(3161) 3031	(22.9) 21.2	1471	(1471) 1792	(1810) 1630	(513) 607	185	10	264
4		更新	彦根市立病院	(1245) 1297	(14.1) 14.1	679	(358) 343	(480) 599	(114) 59	59	23	773
5		現況	市立長浜病院	(1445) 1564	(17.4) 18.4	645	(413) 429	(904) 867	(269) 299	75	38	1650

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①		更新	高島市民病院	(286) 249	(7.4) 6.2	137	(57) 44	(295) 360	(0) 0	25	141
②		更新	公立甲賀病院	(1502) 1284	(19.5) 17.8	605	(286) 230	(273) 218	(123) 98	125	950

滋賀県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



滋賀県 指定推薦に係る考え方について（1）

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,600人以上の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第3期滋賀県がん対策推進計画（平成30年3月策定））および目標

<基本理念>

県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

がん患者を含めた県民全体が、がんの予防およびがんの早期発見を進めるとともに、がんになっても、治療の説明を受けて選択ができ、納得した医療が受けられ、そのために必要な支援が受けられることで、自分らしく暮らせる滋賀を目指すことを基本理念とする。

<全体目標>

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

<取り組みの4つの分野>

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんとの共生
- ・これらを支える基盤の整備

滋賀県 指定推薦に係る考え方について（２）

資料５

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（５病院）、地域がん診療病院（２病院）、県指定のがん診療連携支援病院（６病院）を中心に、我が国に多いがん（５大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も５大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にがん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他 ４病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。
- 甲賀医療圏
公立甲賀病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の滋賀医科大学医学部附属病院との連携を前提にグループとして指定。人材交流等の連携を図りながら、がん診療の提供を行う。

5. 大津医療圏の２つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、また、公立甲賀病院とのグループ元として甲賀医療圏へのがん診療の提供を行うとともに、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。
- ・高度な機能を有しているものとして、高度型として推薦する。

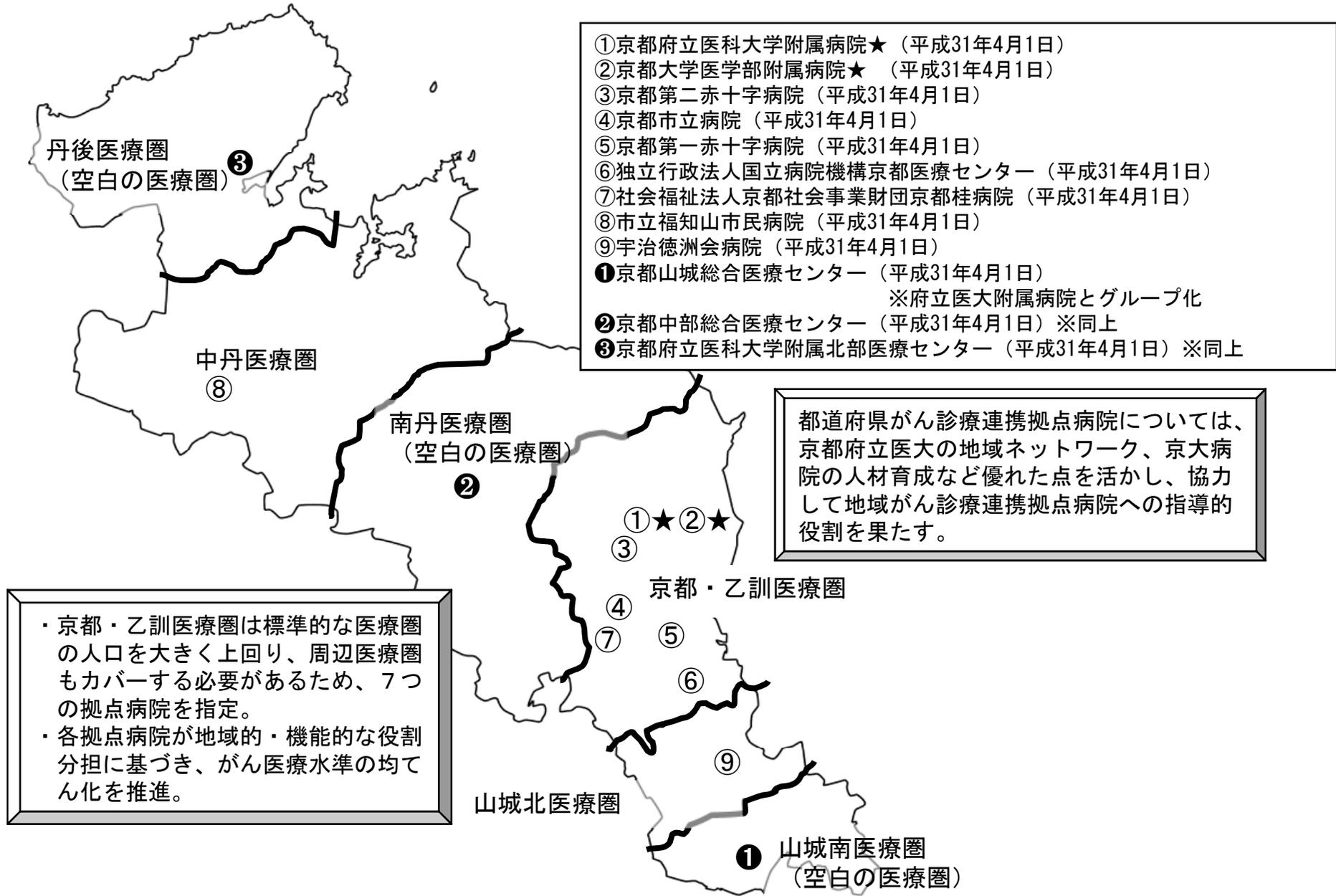
京 都 府

京都府 2 次医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点 病院		特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん 診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数
丹後医療圏	844.5	91,046	3.5	107.8	6	0	0	0	0	1	1
中丹医療圏	1241.76	189,059	7.3	152.3	17	1	0	0	0	0	0
南丹医療圏	1144.29	132,080	5.1	115.4	10	0	0	0	0	1	0
京都・ 乙訓医療圏	860.69	1,621,066	62.7	1883.4	108	7	1	0	0	0	0
山城北医療圏	257.58	432,344	16.7	1678.5	23	1	0	0	0	0	0
山城南医療圏	263.37	120,249	4.7	456.6	3	0	0	0	0	1	1
計	4,612.19	2,585,844	100	560.7	167	8	8	0	0	3	2

京都府 令和元年 9 月 1 日現在の指定状況と患者受療動向



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1

・（ ）内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る化学療法	放射線治	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(20%) 2割程度	相談件数
1	京都・乙訓	★	現況	京都府立医科大学附属病院	(4,999) 5,289	(30.5) 31.0	2,254	(1,124) 1,418	(3,455) 3,375	(574) 641	358	16	2,584
2	京都・乙訓	★	現況	京都大学医学部附属病院	(9,427) 9,583	(43.0) 42.5	2,545	(2,255) 890	(6,320) 6,389	(1,197) 1,176	564	17	3,380
3	京都・乙訓		現況	京都第二赤十字病院	(3,034) 2,930	(18.6) 18.4	1,391	(1,116) 934	(1,767) 1,299	(302) 343	50	8	269
4	京都・乙訓		現況	京都市立病院	(3,300) 1,990	(23.6) 13.8	1,854	(853) 1,104	(2,061) 2,265	(495) 554	99	6	5,579
5	京都・乙訓		現況	京都第一赤十字病院	(3,689) 3,871	(22.9) 24.3	1,515	(1,292) 847	(2,313) 2,187	(331) 268	304	9	764
6	京都・乙訓		更新	京都医療センター	(3,520) 3,829	(25.0) 24.3	2,043	(1,004) 1,304	(1,932) 1,589	(359) 341	158	10	1,841
7	京都・乙訓		現況	京都桂病院	(3,406) 3,456	(28.4) 28.8	1,269	(1,377) 1,035	(2,018) 1,407	(535) 506	178	6	1,597
8	中丹		現況	福知山市民病院	(1,515) 1,683	(18.0) 19.9	809	(463) 469	(797) 902	(289) 239	80	35	2,227
9	山城北		現況	宇治徳洲会病院	(1,519) 1,590	(12.1) 12.5	705	(631) 560	(1,052) 1,021	(230) 227	88	33	451
10	山城北		新規	京都岡本記念病院	1,754	21.1	675	526	1,077	208	62	37	296

地域がん診療病院

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る化学療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	更新	京都山城総合医療センター	(945) 948	(16.1) 16.2	553	(431) 426	(739) 725	—	15	170
②	更新	京都府立医科大学 附属北部医療センター	(1,112) 1,002	(17.3) 15.5	360	(475) 535	(378) 452	—	10	308
③	現況	京都中部総合医療センター	(1,059) 1,193	(14.6) 16.0	592	(437) 487	(772) 684	135	50	48

京都府 平成31年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向



京都府におけるがん診療体制の整備方針

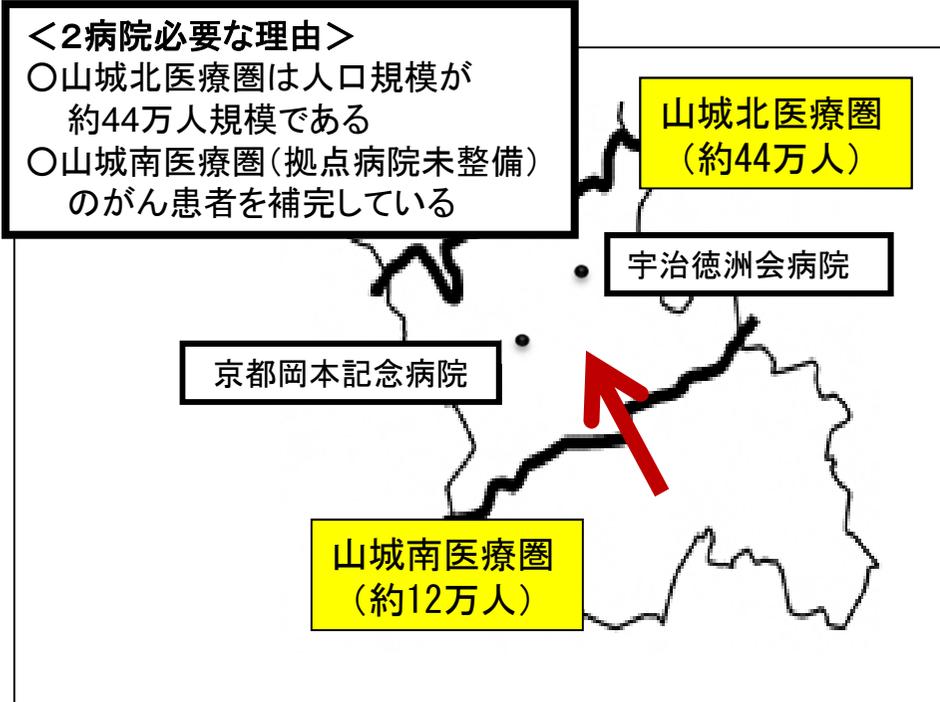
資料5

区分	推薦病院	特色	機能分担
都道府県拠点病院	京都府立医科大学附属病院	各地域への医師派遣 地域ネットワークの構築 質の高い緩和ケアの推進、陽子線治療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 緩和ケア部会・地域連携部会の事務局
	京都大学医学部附属病院	がん医療従事者の養成 臨床研究・医療技術開発 外来化学療法、ゲノム医療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 研修部会・外来化学療法部会の事務局
地域拠点病院	京都第二赤十字病院	消化器系がん治療 地域医療支援	肝がん地域連携パスWGの事務局
	京都市立病院	放射線治療 血液がん・小児がん治療	相談支援部会の事務局
	京都第一赤十字病院	救急医療(化学療法の副作用対策など) 消化器系・婦人科がん治療	乳がん地域連携パスWGの事務局
	国立病院機構京都医療センター	緩和ケア 地域・患者への情報提供	院内がん登録部会の事務局
	京都桂病院	肺がん治療、消化器系がん治療 がん患者支援	肺がん地域連携パスWGの事務局
	福知山市民病院	放射線治療 外来化学療法	大腸がん地域連携パスWGの事務局
	宇治徳洲会病院	消化器系がん治療 緩和ケア	胃がん地域連携パスWGの事務局
	京都岡本記念病院<新規申請>	地域医療支援 放射線治療	前立腺がん地域連携パスWGの事務局
地域がん診療病院	京都府立医科大学附属北部医療センター	内視鏡治療	京都府立医科大学附属病院とのグループ指定によりがん診療機能を向上させるとともに、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、地域におけるがん診療の中核を果たす。
	京都中部総合医療センター	緩和ケア、②⑥リニアック導入	
	京都山城総合医療センター	内視鏡治療	



京都府立医科大学附属病院及び京都大学医学部附属病院を中心として、各地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院がそれぞれの機能・役割を果たすがん診療ネットワークを構築し、住み慣れた地域で、質の高いがん医療が受けられる環境づくりを推進する。

山城北医療圏の2病院の地域がん拠点病院への新規指定について



【拠点病院指定要件充足】

<京都岡本記念病院(新規)>

指定要件の診療実績		H30	
1	院内がん登録数	500件以上	675件
	悪性腫瘍の手術件数	400件以上	526件
	化学療法のべ患者数	1,000人以上	1,077人
	放射線治療のべ患者数	200人以上	208人
	緩和ケアチームの 新規介入患者数	50人以上	62人
2	当該2次医療圏に居住するがん患者の 2割程度について診療実績があること		36%

【地域の現状】

- 宇治徳洲会病院がH27年度、京都岡本記念病院がH28年度に新築移転し、がん診療機能を強化、今後更なる診療実績の増加が見込まれる。
- 人口規模及び隣接する山城南医療圏の補完機能を果たす等の観点から当該医療圏においては、既に地域がん診療連携拠点病院に指定されている宇治徳洲会病院の他、京都岡本記念病院を新規指定することが必要である。

<宇治徳洲会病院(既指定)>

指定要件の診療実績		H30	
1	院内がん登録数	500件以上	705件
	悪性腫瘍の手術件数	400件以上	560件
	化学療法のべ患者数	1,000人以上	1,021人
	放射線治療のべ患者数	200人以上	227人
	緩和ケアチームの 新規介入患者数	50人以上	88人
2	当該2次医療圏に居住するがん患者の 2割程度について診療実績があること		33%

大阪府

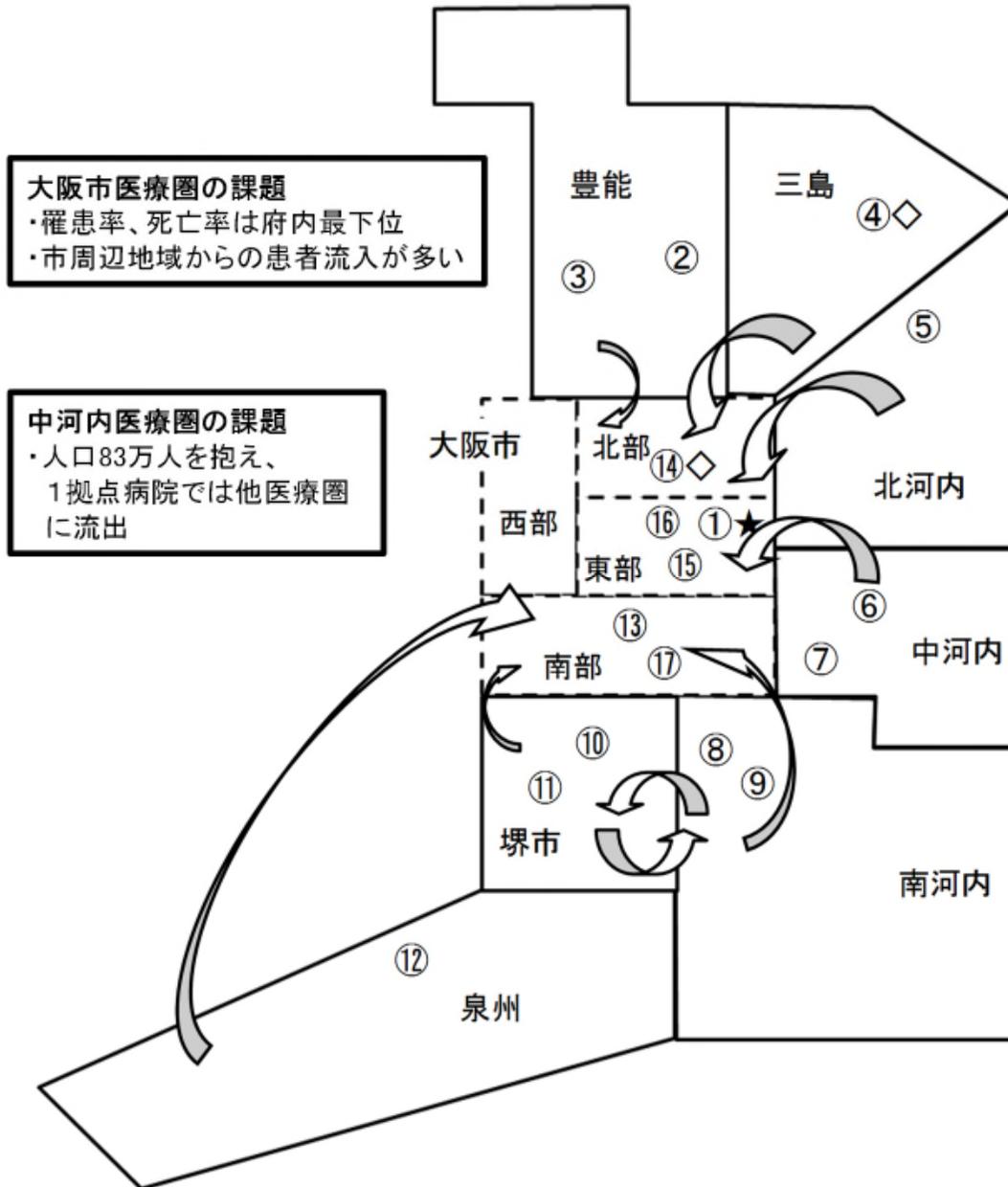
大阪府がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数 (高度型)	計
豊能二次医療圏	275.61	1,049,279	11.9%	3,807.1	47	0	1	1	2
三島二次医療圏	213.46	747,696	8.5%	3,502.7	39	1	0	0	1
北河内二次医療圏	177.34	1,142,783	13.0%	6,444.0	61	0	0	1	1
中河内二次医療圏	128.83	829,436	9.4%	6,438.2	38	1	0	1	2
南河内二次医療圏	290.00	596,919	6.8%	2,058.3	38	0	1	1	2
堺市二次医療圏	149.82	828,182	9.4%	5,527.8	44	1	0	1	2
泉州二次医療圏	444.87	889,907	10.1%	1,998.1	75	0	0	1	1
大阪市二次医療圏	225.21	2,739,775	31.1%	12,165.4	179	5	1	0	6
北部基本保健医療圏	48.65	693,041	7.9%	14,245.4	36	1	0	0	1
西部基本保健医療圏	60.64	485,211	5.5%	8,001.5	30	0	0	0	0
東部基本保健医療圏	47.56	748,191	8.5%	15,731.5	63	2	1	0	3
南部基本保健医療圏	68.36	813,332	9.2%	11,897.8	50	2	0	0	2
計	1905.14	8,822,977	100.0%	41,941.8	521	8	3	6	17

大阪府 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料 2



大阪市医療圏の課題
 ・罹患率、死亡率は府内最下位
 ・市周辺地域からの患者流入が多い

中河内医療圏の課題
 ・人口83万人を抱え、
 1拠点病院では他医療圏に流出

★:都道府県拠点 ◇地域拠点(高度型)

- ①大阪国際がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ②大阪大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③市立豊中病院 (平成31年4月1日)
- ④大阪医科大学附属病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑤関西医科大学附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑥市立東大阪医療センター (平成31年4月1日)
- ⑦八尾市立病院 (平成31年4月1日)
- ⑧近畿大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑨大阪南医療センター (平成31年4月1日)
- ⑩大阪労災病院 (平成31年4月1日)
- ⑪堺市立総合医療センター (平成31年4月1日)
- ⑫市立岸和田市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑬大阪府立大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑭大阪市立総合医療センター◇ (平成31年4月1日)
- ⑮大阪赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ⑯大阪医療センター (平成31年4月1日)
- ⑰大阪急性期・総合医療センター (平成31年4月1日)

前回申請時に複数指定を必要とした理由

- 各医療圏は全国平均の約3倍の人口規模
- 全国最悪レベルの死亡率

↓

- ① 医療圏毎に拠点病院の複数配置が必要
- ② 大阪国際がんセンターと5大学病院は、府内全域での高度医療の提供、人材育成・派遣や先進医療の提供等先導的な役割を果たす

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・ () 内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 大阪市	★	現況	大阪国際がんセンター	(11,721) 12,067	(91.5) 90.3	4,461	(3,689) 3,828	(6,269) 7,634	(1,791) 1,896	113	6	10,535
2 豊能	◇	新規	大阪大学医学部附属病院	(6,031) 6,421	(28.9) 29.6	2,615	(2,709) 3,882	(3,003) 3,087	(832) 797	235	4	1,293
3 豊能		更新	市立豊中病院	(3,969) 4,165	(25.8) 25.8	1,694	(1,288) 1,908	(2,487) 2,346	(342) 252	147	18	2,403
4 三島	◇	現況	大阪医科大学附属病院	(7,931) 7,492	(37.5) 35.4	2,327	(2,375) 2,380	(3,420) 3,537	(904) 859	240	29	4,864
5 北河内	◇	新規	関西医科大学附属病院	(6,204) 6,765	(30.2) 32.4	2,870	(2,433) 2,560	(5,345) 6,003	(1,193) 1,304	535	42	7,096
6 中河内		現況	市立東大阪医療センター	(2,130) 2,350	(15.7) 16.6	1,067	(943) 951	(1,002) 1,168	(220) 270	432	19	2,250
7 中河内	◇	新規	八尾市立病院	(2,570) 2,579	(23.1) 22.5	1,258	(924) 967	(2,227) 2,014	(445) 403	111	24	2,013
8 南河内	◇	新規	近畿大学病院	(5,805) 6,604	(25.5) 28.3	2,610	(3,180) 3,010	(14,498) 3,227	(728) 751	242	16	1,682
9 南河内		更新	大阪南医療センター	(2,442) 2,365	(24.6) 21.5	1,000	(526) 495	(2,693) 3,211	(210) 203	85	18	2,630
10 堺市	◇	新規	大阪労災病院	(2,895) 3,632	(13.5) 17.4	1,594	(1,363) 1,581	(1,117) 3,037	(366) 303	1,197	19	3,122

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

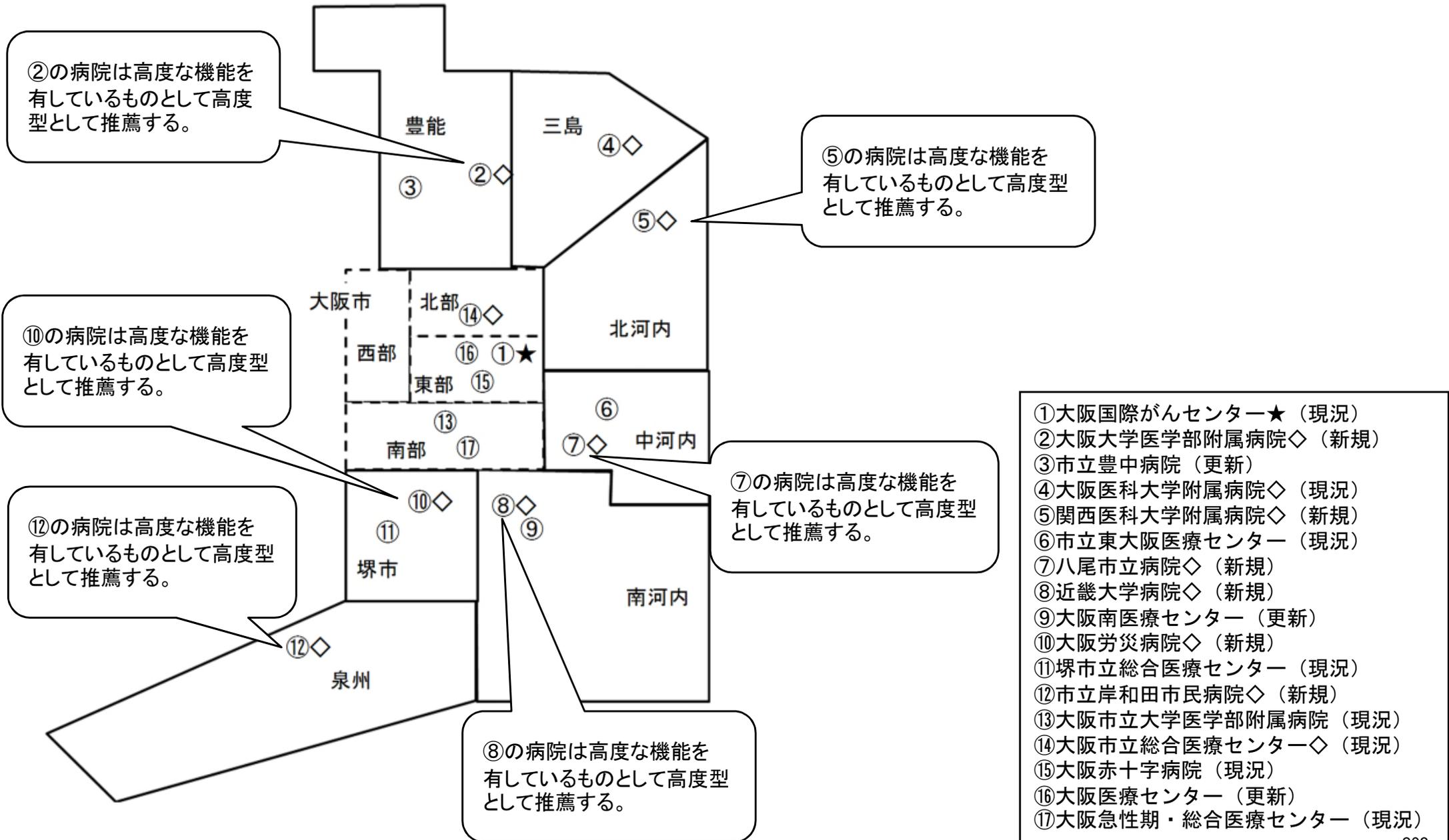
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	申請区分 類型	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11	堺市	現況	堺市立総合医療センター	(4,968) 6,765	(34.2) 32.4	1,544	(1,172) 1,045	(1,833) 1,763	(395) 485	696	22	2,653
12	泉州	◇ 新規	市立岸和田市民病院	(2,548) 3,062	(27.1) 31.5	1,379	(852) 724	(1,175) 1,382	(391) 450	69	26	5,335
13	大阪市	現況	大阪市立大学医学部附属病院	(6,416) 6,592	(31.1) 30.6	3,099	(2,024) 1,725	(9,790) 2,825	(963) 617	107	6	949
14	大阪市	◇ 現況	大阪市立総合医療センター	(8,096) 8,263	(31.0) 31.3	2,540	(1,786) 1,461	(12,323) 3,417	(1,329) 940	1,257	9	1,556
15	大阪市	現況	大阪赤十字病院	(6,720) 6,258	(29.2) 26.5	2,497	(1,861) 1,928	(12,228) 4,041	(618) 705	371	9	5,293
16	大阪市	更新	大阪医療センター	(4,508) 4,165	(28.5) 26.9	1,142	(1,322) 1,177	(2,791) 2,826	(359) 491	467	8	4,776
17	大阪市	現況	大阪急性期・総合医療センター	(3,726) 3,427	(18.3) 15.8	1,819	(1,805) 1,437	(2,504) 2,152	(547) 501	285	5	1,500

大阪府 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)



- ①大阪国際がんセンター★（現況）
- ②大阪大学医学部附属病院◇（新規）
- ③市立豊中病院（更新）
- ④大阪医科大学附属病院◇（現況）
- ⑤関西医科大学附属病院◇（新規）
- ⑥市立東大阪医療センター（現況）
- ⑦八尾市立病院◇（新規）
- ⑧近畿大学病院◇（新規）
- ⑨大阪南医療センター（更新）
- ⑩大阪労災病院◇（新規）
- ⑪堺市立総合医療センター（現況）
- ⑫市立岸和田市民病院◇（新規）
- ⑬大阪市立大学医学部附属病院（現況）
- ⑭大阪市立総合医療センター◇（現況）
- ⑮大阪赤十字病院（現況）
- ⑯大阪医療センター（更新）
- ⑰大阪急性期・総合医療センター（現況）

地域特性

- 府の人口 約882万人
- がん罹患数 約7万人⇒ 約7%
- 2次医療圏の平均人口 約110万人⇒ 全国平均の約3倍
- 1拠点病院あたりの人口 約52万人⇒ 約2倍
- 1拠点病院あたりの医療機関数 約530機関⇒ 約2倍

死亡率 77.5⇒全国36位
 ※年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万人対)

病院機能

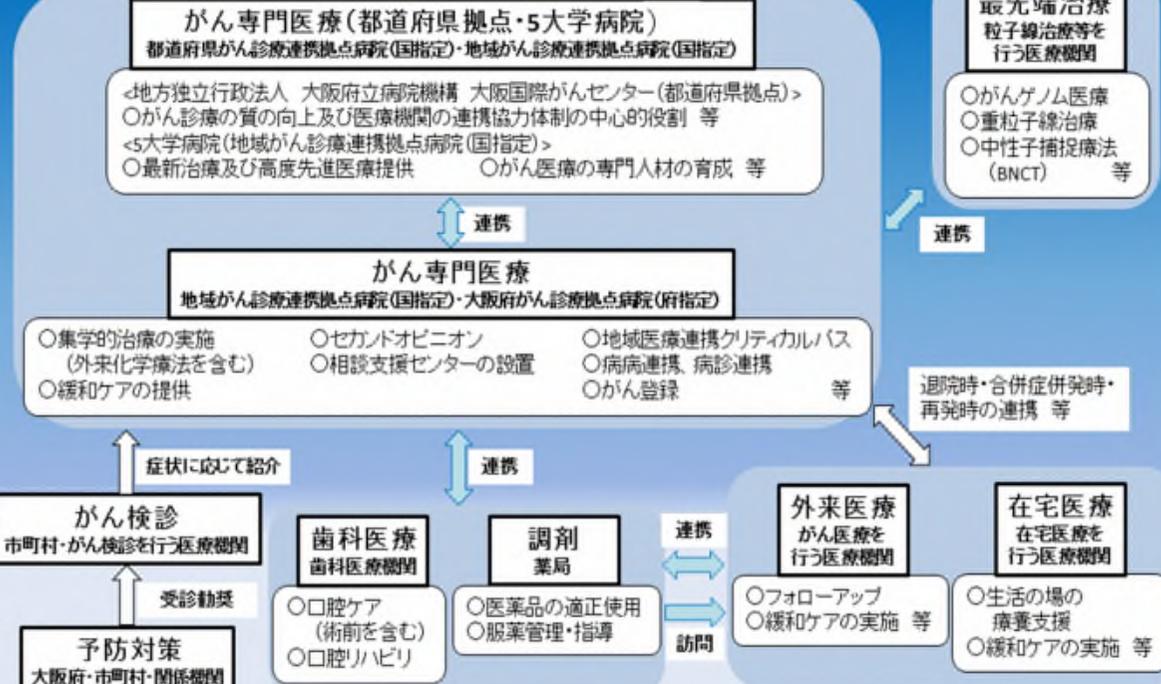
- 1拠点病院あたりの手術件数 約1,779件

がん医療提供体制

三次医療圏

二次医療圏

一次医療圏

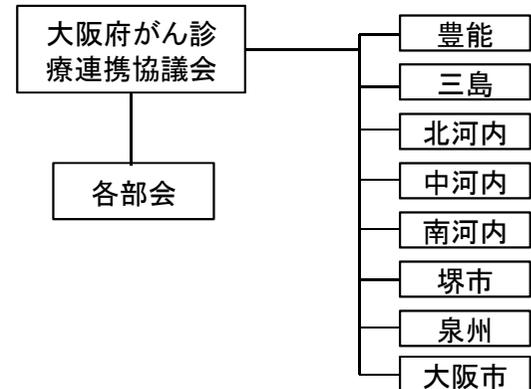


がん診療ネットワーク協議会

2次医療圏毎に国拠点病院が中心となって運営

【メンバー】

圏内の国・府拠点病院 医師会 保健所
 市町村担当課 大阪国際がんセンター 大阪府



大阪府においては、2次医療圏を基本としつつ、面で支えるがん医療提供体制の構築が重要

【既指定拠点病院の指定更新】

大阪府は人口が多く、がんによる死亡率も高い等の課題が多い。府内全域での役割分担と連携体制の強化を図り、より一層、がん医療の充実を図る必要があるため、既指定病院の指定更新が必要不可欠。

【地域拠点病院(高度型)の新規指定】

高度型の指定要件を充足していると認められる病院について大阪府がん対策推進委員会で選考した上で推薦を行った。

兵 庫 県

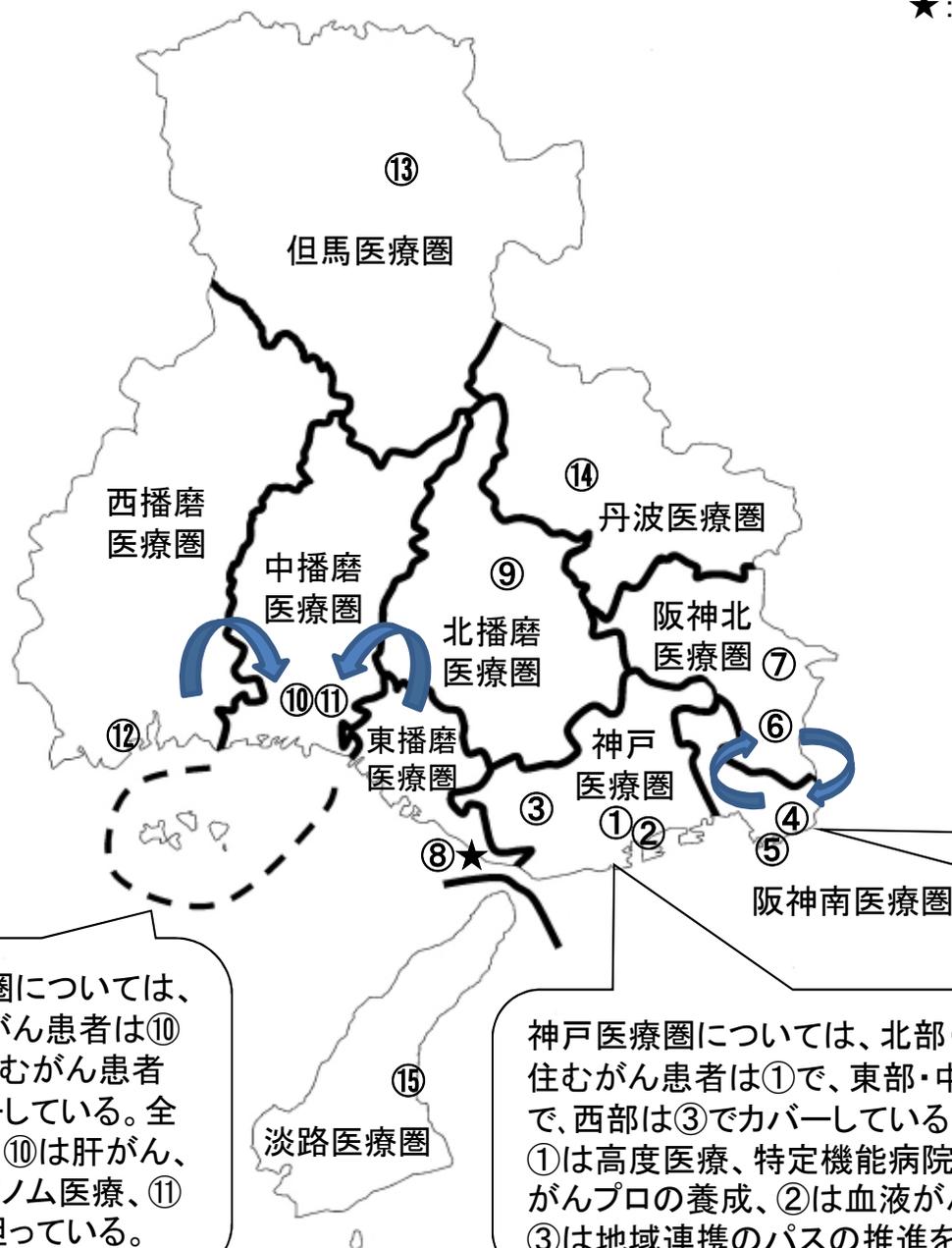
兵庫県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
神戸医療圏	557.0	1,523,024	27.9%	2,734	109	1	1	1	3	0	0	0	0
阪神南医療圏	169.2	1,033,738	18.9%	6,111	52	0	1	1	2	0	0	0	0
阪神北医療圏	480.9	718,084	13.1%	1,493	37	1	1	0	2	0	0	0	0
東播磨医療圏	266.3	713,809	13.1%	2,680	40	1	0	1	2	0	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	265,601	4.9%	297	22	0	1	0	1	0	0	0	0
中播磨医療圏	865.2	572,048	10.5%	661	38	1	1	0	2	0	0	0	0
西播磨医療圏	1567.0	248,852	4.6%	159	23	1	0	0	1	0	0	0	0
但馬医療圏	2133.3	160,053	2.9%	75	11	0	1	0	1	0	0	0	0
丹波医療圏	870.8	101,763	1.9%	117	7	0	1	0	1	0	0	0	0
淡路医療圏	595.7	128,195	2.3%	215	11	0	1	0	1	0	0	0	0
計	8401.0	5,465,167	100%	651	350	5	8	3	16	0	0	0	0

兵庫県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①神戸大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院 (平成31年4月1日)
- ③神戸市立西神戸医療センター (平成31年4月1日)
- ④独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院 (平成31年4月1日)
- ⑤兵庫医科大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑥公立学校共済組合近畿中央病院 (平成31年4月1日)
- ⑦市立伊丹病院 (平成31年4月1日)
- ⑧兵庫県立がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ⑨西脇市立西脇病院 (平成31年4月1日)
- ⑩姫路赤十字病院 ◇ (平成31年4月1日)
- ⑪独立行政法人国立病院機構姫路医療センター (平成31年4月1日)
- ⑫赤穂市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑬公立豊岡病院組合立豊岡病院 (平成31年4月1日)
- ⑭兵庫県立丹波医療センター (令和元年7月1日)
- ⑮兵庫県立淡路医療センター (平成31年4月1日)

中播磨医療圏については、西部に住むがん患者は⑩で、東部に住むがん患者は⑪でカバーしている。全県的役割は、⑩は肝がん、血液がん、ゲノム医療、⑪は肺がんを担っている。

神戸医療圏については、北部・中部(西側)に住むがん患者は①で、東部・中部(東側)は②で、西部は③でカバーしている。全県的役割は、①は高度医療、特定機能病院、ゲノム医療、がんプロの養成、②は血液がん、ゲノム医療、③は地域連携のパスの推進を担っている。

阪神南医療圏については、東部に住むがん患者は④で、西部に住むがん患者は⑤でカバーしている。全県的役割は、④は中皮腫、ゲノム医療、⑤血液がん、中皮腫、ゲノム医療、さらにはがんプロの養成も担っている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録 数(年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1,000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院がん 患者 数	年間新入 院患者数 に占めるがん 患者の 割合(%)							
1 神戸	◇	新規	神戸大学 附属病院	(5,118) 5,182	(27.4) 26.3	2,818	(1,878) 2,345	(9,706) 3,721	(701) 927	512	9	953
2 神戸		現況	神戸市立 MC中央 市民病院	(5,459) 4,942	(23.5) 20.9	2,646	(2,012) 2,028	(4,941) 5,924	(670) 793	574	11	1,030
3 神戸		更新	神戸市立 西神戸 MC	(3,034) 3,127	(22.7) 23.1	1,566	(1,423) 1,424	(2,040) 2,271	(450) 421	291	8	795
4 阪神南		更新	関西労災 病院	(3,817) 3,791	(21.6) 20.2	1,947	(1,676) 2,461	(1,655) 2,299	(685) 753	99	13	643
5 阪神南	◇	新規	兵庫医科 大学病院	(4,325) 4,272	(17.8) 17.6	2,221	(1,984) 1,901	(5,774) 5,678	(643) 544	225	12	1,982
6 阪神北		更新	近畿中央 病院	(1,464) 1,504	(16.8) 17.1	617	(507) 519	(1,237) 1,186	(149) 150	117	8	107
7 阪神北		現況	市立伊丹 病院	(1,783) 1,813	(17.3) 16.7	991	(508) 550	(1,269) 1,684	(255) 260	104	17	60
8 東播磨	★	現況	県立がん C	(6,239) 6,394	(80.0) 80.8	2,789	(2,058) 3,709	(5,600) 5,252	(773) 772	241	25	2,240
9 東播磨		新規	加古川中 央市民病 院	2,684	13.3	1,552	1,404	2,898	311	103	22	363
10 北播磨		更新	市立西脇 病院	(1,029) 1,127	(16.0) 16.7	566	(192) 265	(328) 328	(113) 186	24	22	447 208

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

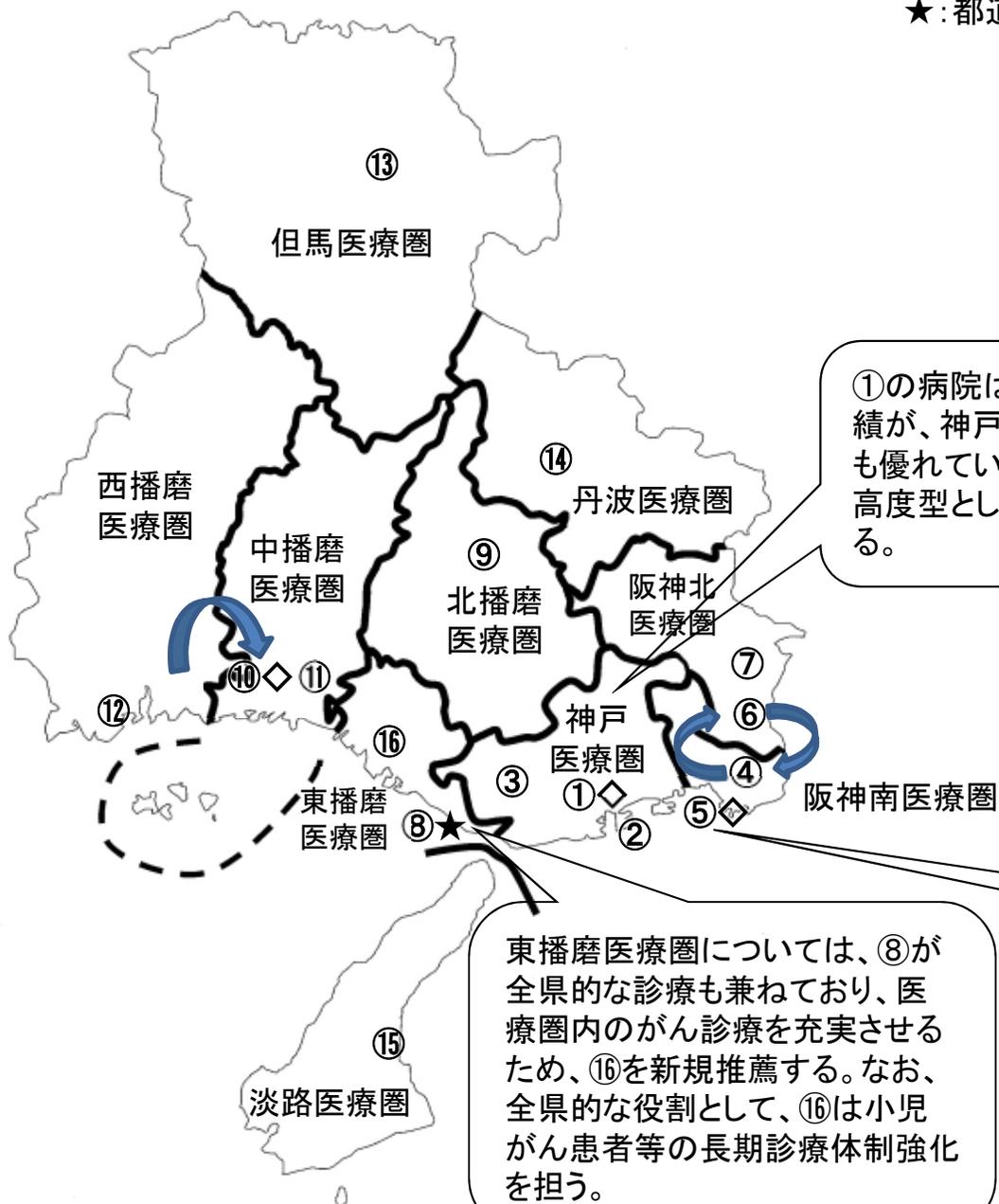
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
11	中播磨	◇	現況	姫路赤十字病院	(5,123) 5,357	(29.0) 30.3	2,113	(1,564) 1,673	(2,111) 2,172	(384) 344	76	27	1,558
12	中播磨		更新	姫路MC	(4,289) 4,450	(45.9) 47.5	1,404	(1,225) 960	(1,439) 1,353	(446) 516	115	24	448
13	西播磨		現況	赤穂市民病院	(1,156) 851	(17.7) 14.7	332	(380) 330	(788) 609	(100) 80	35	22	1,187
14	但馬		更新	公立豊岡病院	(1,773) 1,819	(17.2) 18.0	1,039	(696) 725	(3,936) 841	(136) 145	3	68	141
15	丹波		更新	県立丹波MC	(649) 641	(14.6) 13.3	358	(285) 214	(239) 256	(77) 59	82	50	1,725
16	淡路		更新	県立淡路MC	(954) 1,438	(13.9) 21.0	1,023	(986) 837	(1,686) 1,686	(195) 185	91	39	956

兵庫県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



①の病院は、診療実績が、神戸圏域で最も優れているため、高度型として推薦する。

東播磨医療圏については、⑧が全県的な診療も兼ねており、医療圏内のがん診療を充実させるため、⑬を新規推薦する。なお、全県的な役割として、⑬は小児がん患者等の長期診療体制強化を担う。

⑤の病院は診療実績が、阪神南医療圏で最も優れているため、高度型として推薦する。

- ①神戸大学医学部附属病院◇(新規)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院(現況)
- ③神戸市立西神戸医療センター(更新)
- ④独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院(更新)
- ⑤兵庫医科大学病院◇(新規)
- ⑥公立学校共済組合近畿中央病院(更新)
- ⑦市立伊丹病院(現況)
- ⑧兵庫県立がんセンター★(現況)
- ⑨西脇市立西脇病院(更新)
- ⑩姫路赤十字病院◇(現況)
- ⑪独立行政法人国立病院機構姫路医療センター(更新)
- ⑫赤穂市民病院(現況)
- ⑬公立豊岡病院組合立豊岡病院(更新)
- ⑭兵庫県立丹波医療センター(更新)
- ⑮兵庫県立淡路医療センター(更新)
- ⑯加古川中央市民病院(新規)

本県の拠点病院整備に関する基本的な考え方

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に「がん診療連携拠点病院」を原則1か所整備（現在空白圏域なし）
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は複数か所を整備

県がん対策推進計画上の重点対策がん

- ・ 肝がん（長年の年齢調整死亡率全国値を上回る状況への対応）
- ・ 肺がん（本県が中皮腫好発地域であることから、中皮腫を含む肺がん対策の実施）
- ・ 血液がん（造血幹細胞移植の推進）

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○独)姫路医療センター	中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	他圏域から患者を受入れ
○神戸市立医療センター中央市民病院	
○神戸市立西神戸医療センター	
○独)関西労災病院	全県的なアスベスト疾患に対応
○兵庫医科大学病院	

複数整備された病院が、全県的役割を担う
県立がんセンターを中心に、圏域内に

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○姫路赤十字病院	中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	先進医療（経皮的肝灌流、生体肝移植等）により高度進行肝がんに対応
○兵庫医科大学病院	肝疾患診療連携拠点病院

「血液がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○神戸市立医療センター中央市民病院	自家移植を中心に全国トップクラスの実績
○兵庫医科大学病院	末梢血幹細胞移植を中心に全国トップクラスの実績

高度型の新規指定推薦を行う 医療機関の特徴

- ・当該圏域で資料3-1-①-1に記載する診療実績が最も優れている。
(圏域内で診療実績が同等程度の場合は、がんゲノム医療拠点病院等の指定状況を考慮。)

神戸大学医学部附属病院 (病床数934床)

- ・複数の緩和医療専門医が身体や心の苦痛に専門的に対応できる体制をとり、全国から緩和ケアチームの実施研修を受入れ。
- ・あらゆる臓器の固形がんや造血器悪性腫瘍を対象として薬物療法を行う腫瘍・血液内科があり、希少な悪性腫瘍も他院から患者を受入れ。
- ・がんゲノム医療拠点病院として、地域のがんゲノム医療を牽引。
- ・近畿ブロック小児がん連携病院(地域の小児がん診療を行う連携病院)として、診療を実施。
- ・国立がん研究センター認定「認定がん相談支援センター」。

兵庫医科大学病院 (病床数963床)

- ・「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」の中核施設として、県内の妊孕性温存処置を多く受入れ。
- ・全国でも珍しい中皮腫センターを設置し、悪性中皮腫の症例数は全国トップクラス。
- ・がんゲノム医療拠点病院として、地域のがんゲノム医療を牽引。
- ・近畿ブロック小児がん連携病院(地域の小児がん診療を行う連携病院)として、診療を実施。
- ・国立がん研究センター認定「認定がん相談支援センター」。

新規指定推薦を行う東播磨医療圏の状況

- ・圏域内の都道府県型拠点病院が、がんゲノム医療拠点病院や近畿ブロック小児がん連携病院(特定のがん種等についての診察を行う連携病院)に指定されるなど全県的役割の増大
- ・当該圏域で専門的ながん医療の提供等を行う地域型拠点病院の整備が必要

加古川中央市民病院(新規指定推薦)(病床数600床)

- ・平成28年に旧加古川西市民病院と旧加古川東市民病院が統合し、設立。
統合後、がん治療に力を入れ、集学的治療センターを設置。手術療法、放射線療法、薬物療法、緩和医療の4部門が連携し、診断から治療後のフォローに至るまで一貫して高いがん医療を提供。
- ・動体追尾式高精度放射線治療装置を導入済み。
- ・近畿ブロック小児がん連携病院(小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院)として、診療を実施。
- ・当該圏域の新規血液がん患者の80%以上を受入れ。

奈良県

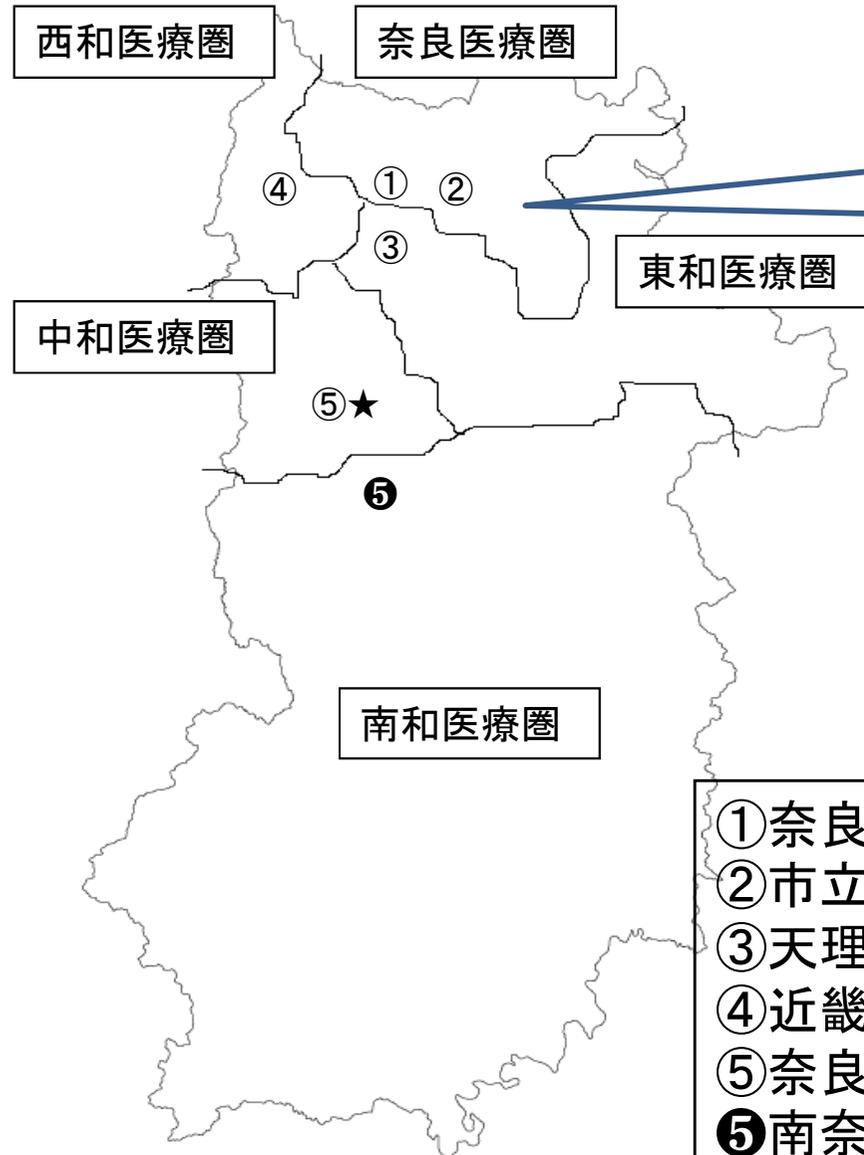
奈良県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	計	現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数
奈良医療圏	276.94	355,489	26.52	1283.6	23	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
東和医療圏	657.77	203,569	15.18	309.5	12	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西和医療圏	168.49	342,024	25.51	2029.9	18	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
中和医療圏	240.79	371,884	27.74	1544.4	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
南和医療圏	2346.92	67,703	5.05	28.8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	3690.91	1,340,669	100	363.2	79	1	4	0	5	0	0	0	0	1	0

奈良県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①奈良県総合医療センター | (平成31年4月1日)(更新) |
| ②市立奈良病院 | (平成31年4月1日)(更新) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (平成31年4月1日)(更新) |
| ④近畿大学奈良病院 | (平成31年4月1日)(更新) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (平成31年4月1日)(現況) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (平成31年4月1日)(更新) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 奈良		更新	奈良県総合医療センター	(2,332) 2,480	(21.5) 21.2	1,836	(971) 1,069	(2,714) 3,970	(258) 290	327	27	1,462
2 奈良		更新	市立奈良病院	(2,080) 2,484	(22.3) 20.9	1,015	(919) 1,113	(1,597) 1,633	(211) 210	101	33	1,046
3 東和		更新	天理よろづ相談所病院	(4,363) 4,305	(26.4) 26.0	2,287	(1,320) 1,278	(2,035) 1,876	(397) 430	73	30	661
4 西和		更新	近畿大学奈良病院	(2,598) 2,655	(27.0) 27.5	1,409	(1,585) 1,565	(5,199) 5,293	(369) 347	96	30	1,397

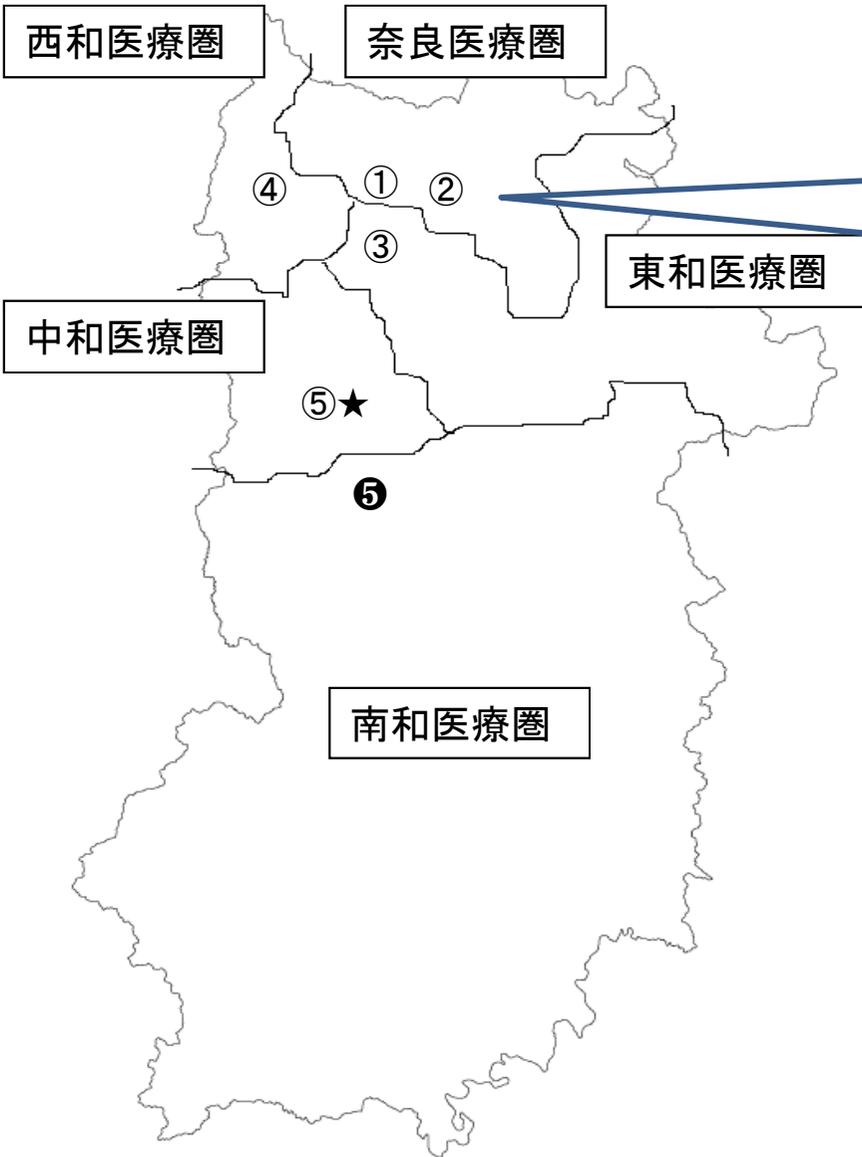
地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和2年2月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
⑤	南和	更新	南奈良総合医療センター	641	11.2	(468) 419	(258) 298	(555) 799	実施なし	35	296

奈良県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)
①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- ①奈良県総合医療センター (更新)
- ②市立奈良病院 (更新)
- ③天理よろづ相談所病院 (更新)
- ④近畿大学奈良病院 (更新)
- ⑤奈良県立医科大学附属病院★ (現況)
- ⑥南奈良総合医療センター (更新)

◆今回の更新に係る奈良県の考え方について(1)

●第3期奈良県がん対策推進計画（平成30年3月策定）におけるがん診療連携拠点病院の位置づけ

都道府県がん診療連携拠点病院〔奈良県立医科大学附属病院〕

- ・ 県のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・ 「奈良県がん診療連携協議会」を運営し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、県全体におけるがん診療の水準の向上とがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療連携拠点病院〔奈良県総合医療センター、市立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院〕

- ・ 地域のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院と連携して、その属する二次医療圏内のがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療病院〔南奈良総合医療センター〕

- ・ 地域のがん診療体制の中核的な存在として、がん診療連携拠点病院とのグループ指定により専門的ながん医療を提供



●本県のがん診療連携拠点病院の現状

医療圏	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏
対象市町村数	1（奈良市のみ）	9	9	8	12
がん診療連携拠点病院	奈良県総合医療センター 市立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学奈良病院	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
人口割合（％）	26.52	15.18	25.51	27.74	5.05

●同一医療圏で重複するがん診療連携拠点病院の役割（奈良医療圏）

<奈良医療圏の特徴>

- ・奈良医療圏は奈良市のみで、市部では面積が最も大きく、県総面積の7.5%を占め、東西長32.02kmと東西に長い。
- ・奈良県の人口の4分の1以上を占める。

<奈良医療圏におけるがん診療の状況>

<p>奈良県総合医療センター</p> <p>主に奈良医療圏の西部のがん患者を受け持つ</p> <p>治療：高度な治療や手術支援ロボットの導入の先進的な療法の実施 緩和ケア：緩和ケアチームの強化</p>	<p>相互協力により質の高い がん医療を提供！</p>	<p>市立奈良病院</p> <p>主に奈良医療圏の東部のがん患者を受け持つ</p> <p>治療：主に大腸がんの内視鏡手術や乳がん手術を多く実施 緩和ケア：緩和ケア病床の設置</p>
<p>へき地医療拠点病院としてへき地へ医師を派遣 へき地における住民の医療を確保・支援し、がん予防や早期発見の機能を担うなど地域医療を補完</p>		

◆今回の更新に係る奈良県の考え方について(2)

●前回未充足の必須要件（猶予要件）の改善状況

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	前回未充足要件 (猶予要件)	前回状況	今回の改善状況
1	奈良	地域拠点(通常)	更新	奈良県総合医療センター	・医療安全管理者は医療安全管理研修を受講している。	・看護師は受講済みだが、医師・薬剤師が未受講	・医療安全管理者の研修修了済
2	奈良	地域拠点(通常)	更新	市立奈良病院	・専従の放射線治療に携わる専門的な知識および技能を有する常勤の医師を1名以上配置する。 ・院内がん登録を担う者として、専従で中級認定者の認定を受けている者を1人以上配置する。 ・医療安全管理者は医療安全管理研修を受講している。	・常勤医師が不在 ・中級認定者が不在 ・看護師は受講済みだが、医師・薬剤師が未受講	・常勤医師1名在籍 ・中級認定者1名在籍 ・医療安全管理者の研修修了済
3	東和	地域拠点(通常)	更新	天理よろづ相談所病院	・緩和ケアチームに、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師を1人以上配置する。 ・院内がん登録を担う者として、専従で中級認定者の認定を受けている者を1人以上配置する。 ・医療安全管理者は医療安全管理研修を受講している。	・常勤医師が不在 ・中級認定者が不在 ・看護師は受講済みだが、医師・薬剤師が未受講	・常勤医師1名在籍 ・中級認定者1名在籍 ・医療安全管理者の研修修了済
4	西和	地域拠点(通常)	更新	近畿大学奈良病院	・院内がん登録を担う者として、専従で中級認定者の認定を受けている者を1人以上配置する。	・中級認定者が不在	・中級認定者1名
⑤	南和	地域がん診療	更新	南奈良総合医療センター	・医療安全管理者は医療安全管理研修を受講している。	・医師・看護師は受講済みだが、薬剤師が未受講	・医療安全管理者の研修修了済

和歌山県

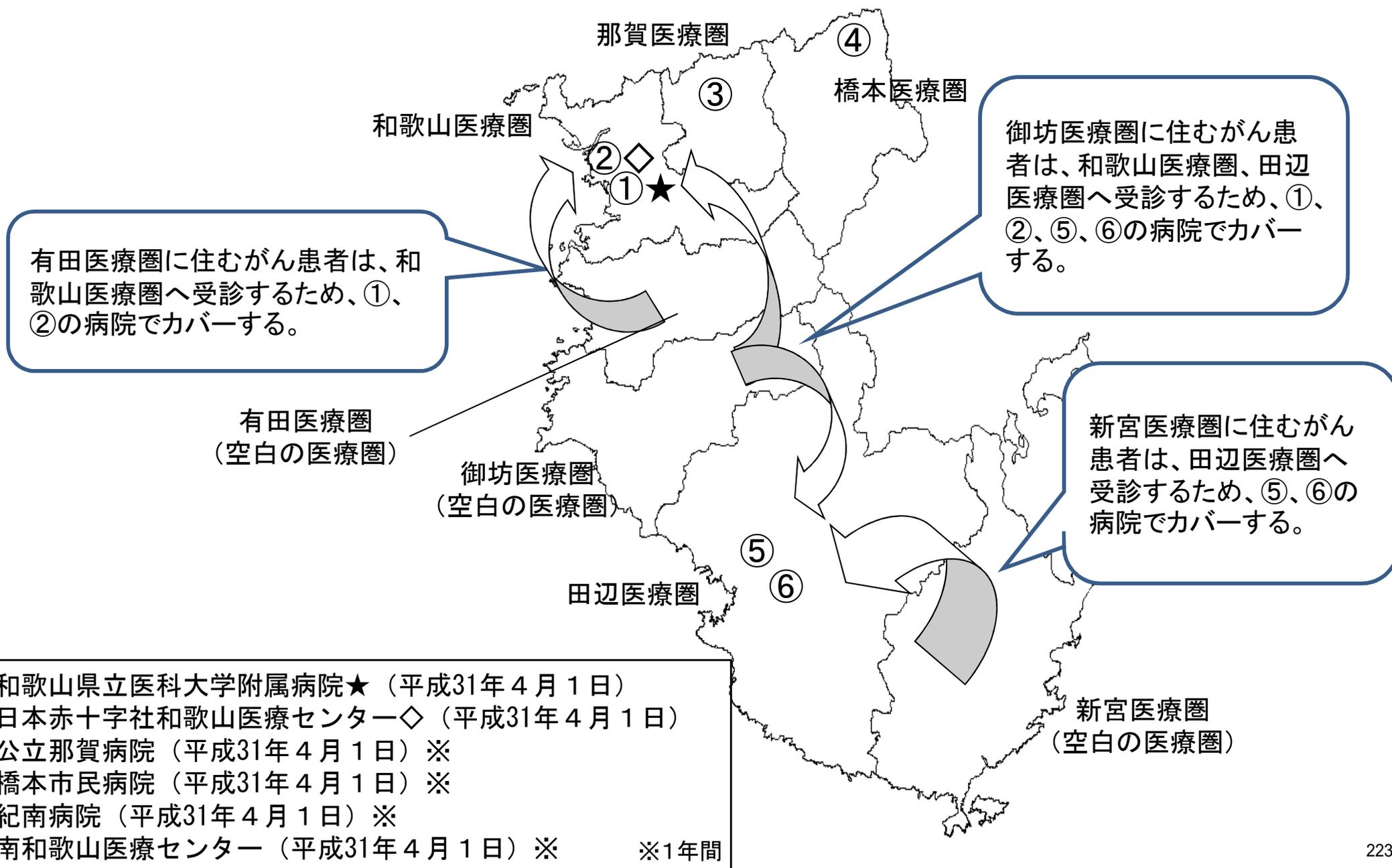
和歌山県のがんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
和歌山医療圏	438.25	413,266	44.7%	943.0	43	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
那賀医療圏	266.72	112,802	12.2%	422.9	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
橋本医療圏	463.42	83,940	9.1%	181.1	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
有田医療圏	474.79	70,067	7.6%	147.6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御坊医療圏	579.02	60,292	6.5%	104.1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田辺医療圏	1,579.99	121,649	13.2%	77.0	9	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
新宮医療圏	922.45	62,583	6.8%	67.8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4,724.65	924,599	100.0%	195.7	83	2	4	0	6	0	0	0	0	0	0

和歌山県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

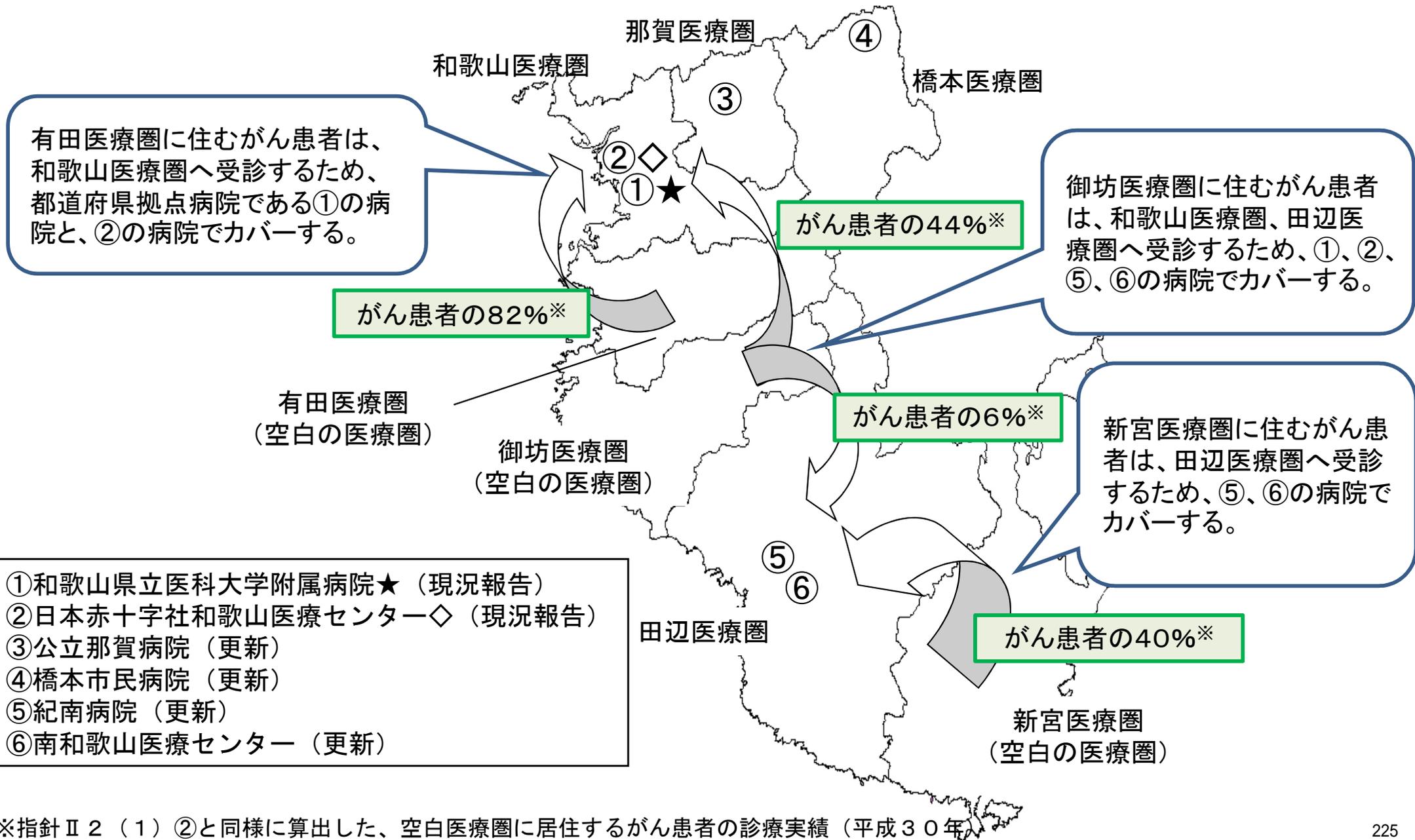
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)	
1	和歌山	★	現況報告	和歌山県立医科大学附属病院	(5,195) 5,558	(30.3) 32.3	(2,912) 3,005	(2,760) 2,707	(8,134) 8,344	(522) 564	(340) 344	(28) 30	(6,209) 3,097
2	和歌山	◇	現況報告	日本赤十字社和歌山医療センター	(5,950) 6,516	(29.9) 34.0	(2,383) 2,309	(1,466) 1,330	(2,023) 2,378	(468) 555	(258) 266	(45) 49	(1,596) 1,471
3	那賀		更新	公立那賀病院	(827) 1,063	(16.1) 20.2	(426) 462	(412) 460	(1,348) 1,808	(77) 114	(80) 85	(57) 71	(1,225) 1,284
4	橋本		更新	橋本市民病院	(765) 710	(12.1) 11.2	(421) 443	(375) 340	(518) 631	(107) 78	(177) 161	(55) 52	(856) 551
5	田辺		更新	紀南病院	(1,153) 1,203	(13.8) 14.1	(672) 616	(457) 458	(1,049) 1,014	(125) 135	(132) 207	(39) 38	(838) 756
6	田辺		更新	南和歌山医療センター	(1,257) 1,151	(21.3) 18.9	(740) 772	(468) 466	(1,235) 1,435	(206) 213	(160) 190	(43) 35	(2,525) 1,873 224

和歌山県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



今回の指定推薦に係る和歌山県の考え方

今回の指定推薦にあたっては、7つの二次医療圏の内3医療圏の計4施設（下図※の医療機関）の指定更新を推薦する。和歌山の2病院は現況報告。

県がん診療連携拠点病院

和歌山県立医科大学附属病院(和歌山医療圏)

県内全域をカバー

- ◆和歌山県がん診療連携協議会の運営（地域連携・相談支援、がん登録、緩和ケア・研修教育、薬物療法 の各部会）
- ◆地域がん診療連携拠点病院への支援
- ◆がん診療に携わる医療従事者の養成 等

北部（和歌山、那賀、橋本、有田）

地域がん診療連携拠点病院

南部（御坊、田辺、新宮）

日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山医療圏) ★高度型

- ◆最も人口の多い和歌山医療圏で、県立医科大学と連携して高度な医療を提供
- ◆患者数が最も多く、隣接する有田医療圏や大阪府南部からも患者受け入れ

公立那賀病院(那賀医療圏) ※

- ◆圏域内で中心的な病院であり、隣接する医療圏からも患者は多い
- ◆在宅緩和ケアなど地域との連携に積極的に取り組んでいる

橋本市民病院(橋本医療圏) ※

- ◆県北東部で中心的な病院であり、隣接する奈良県南西部からも患者は多い
- ◆伊都医療圏で唯一の放射線治療が可能な病院

紀南病院(田辺医療圏) ※

- ◆県南部で南和歌山医療センターと共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆地域の医療機関との連携も強い

協力・連携

南和歌山医療センター(田辺医療圏) ※

- ◆県南部で紀南病院と共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆緩和ケア病棟を備え、患者の病状に応じた医療体制を提供

未充足項目に関する考え方

- 診療従事者要件
 - ・医療安全研修【公立那賀病院、橋本市民病院、紀南病院、南和歌山医療センター】⇒ 各医療機関とも、令和元年9月1日以後に受講修了
 - ・専従常勤の薬物療法医師の配置【公立那賀病院、橋本市民病院】⇒ 公立那賀病院は医師確保済み。橋本市民病院は医師確保及び診療体制の確保に努めている。
- 診療実績要件【紀南病院】
 - ⇒ 放射線治療患者数のみ未充足。他の県内拠点病院との比較や、院内がん登録数から見ると妥当な実績。
 - ・同規模の他の県内の地域拠点病院より多く、県内の拠点病院全体のがん登録件数に対する放射線治療患者数の割合を考慮しても、当該患者数は妥当。
 - ・機器入替でより質の高い医療が提供可能となったことに加え、患者が安心して受診できる体制の構築、周辺医療機関への広報により実績増に努めている。

同一医療圏での複数設置について

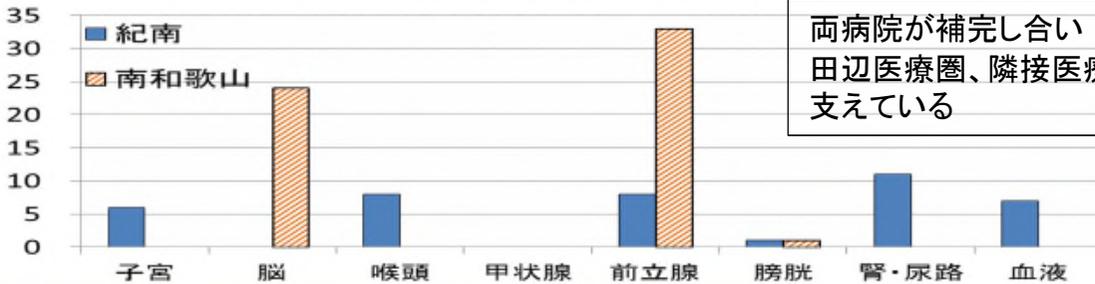
和歌山医療圏 県内の人口の約45%が集まる医療圏であり、県全体のがん診療の中心的な役割を担う和歌山県立医科大学附属病院と、診療実績も多い日本赤十字社和歌山医療センターで、当該医療圏と隣接する空白医療圏の有田医療圏のがん患者もカバーする必要があることから、複数設置が必要

田辺医療圏 隣接空白医療圏の御坊、新宮両医療圏の患者を連携・協力のもとカバーしており、医師数の少ない当該医療圏ではどちらか一方の施設だけでは困難であるため、複数設置は必要。将来的に、両隣の空白医療圏内の基幹病院が「地域がん診療病院」の指定を目指すためのグループ連携を行っていく上でも、両施設の協力・連携が必要。地域医療構想においても病院機能の分化・連携を進めているところであり、がん治療においても病院医師の専門性に基づき治療対象のがん種の棲み分けなどに取り組んでいる。

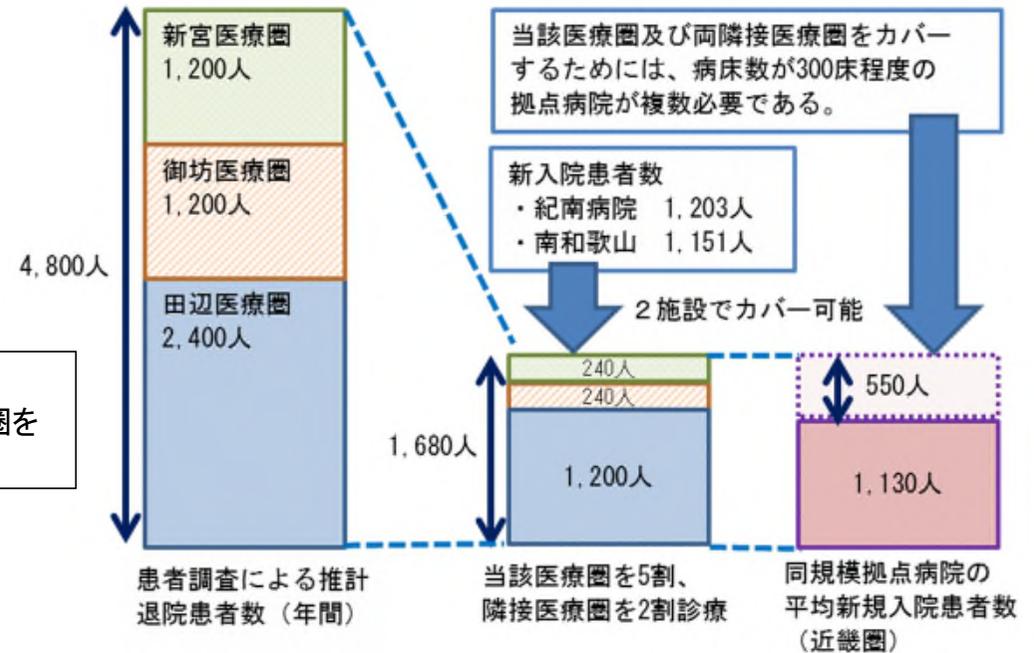
○田辺医療圏における地域拠点病院のそれぞれの役割（強み）

	紀南病院	南和歌山医療センター
がん種 (我が国に多いがんを除く)	頭頸部、子宮、泌尿器、血液腫瘍	脳腫瘍
診療機能	ロボット支援下内視鏡手術	強度変調放射線治療、緩和ケア病棟

○田辺医療圏における放射線治療の状況（5がん以外） 放射線治療のべ患者数



○田辺医療圏及び隣接医療圏の診療について



空白医療圏に関する考え方

本県では空白医療圏が3圏域存在するが、それぞれ隣接医療圏等でカバーする。また、御坊医療圏、新宮医療圏は、県が独自に指定する「県がん診療推進病院」を設置し、一定のがん診療機能の均てん化を図っている。

有田医療圏	和歌山医療圏に隣接。交通アクセスも良いことから和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターでカバー
御坊医療圏	田辺医療圏に隣接。ひだか病院（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）や和歌山医療圏（和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター）でカバー
新宮医療圏	田辺医療圏に隣接。新宮市立医療センター（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）でカバー

鳥 取 県

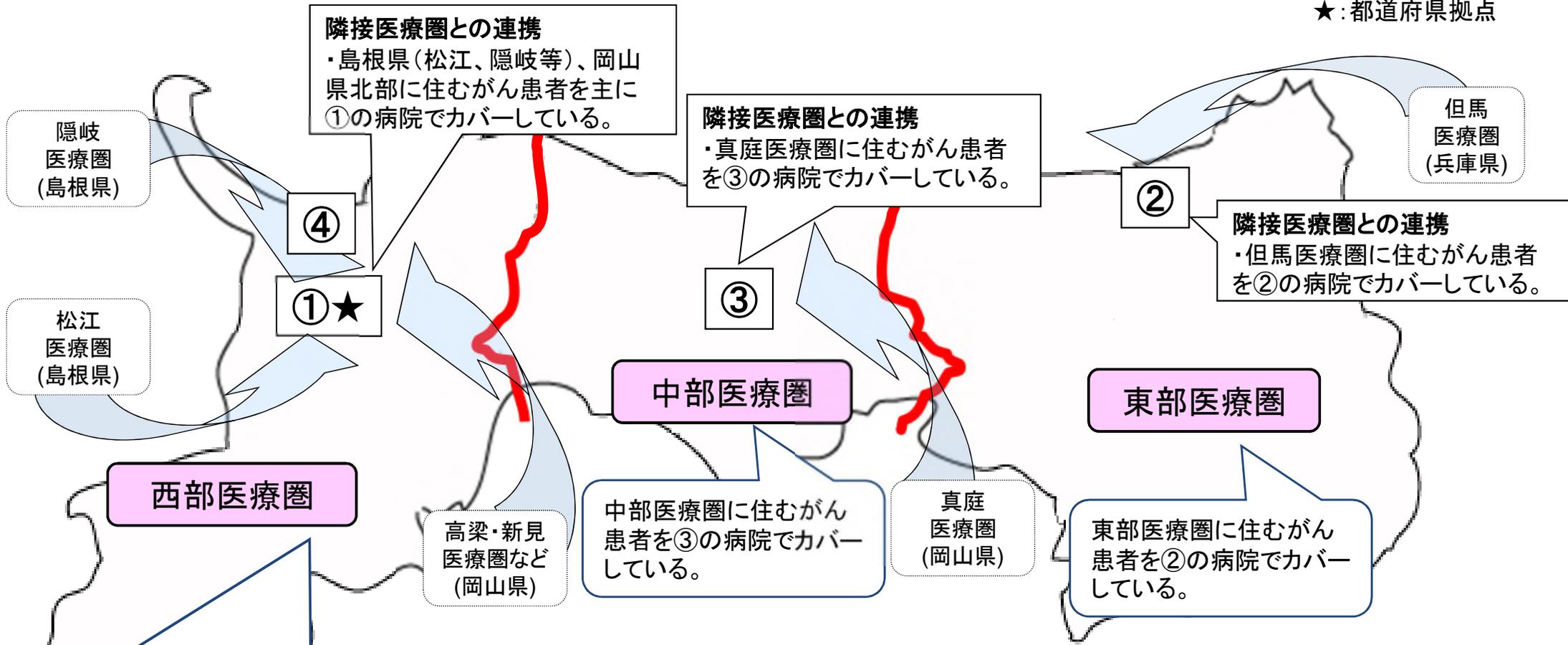
鳥取県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏域名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院				
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	
東部医療圏	1518.67	225,219	40.5%	148.3	14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部医療圏	780.63	99,976	18.0%	128.1	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1207.98	230,704	41.5%	191.0	19	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3507.28	555,899	100.0%	158.5	43	1	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0

鳥取県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



西部医療圏に住むがん患者を①、④の病院でカバーしている。
【複数指定の理由】
○県拠点病院と地域連携拠点病院の役割分担(2病院の役割分担の明確化)
①の病院で全県のがんに関する医療支援、高度医療の提供及び専門医の人材育成等
④の病院で西部医療圏の地域に密着した診療機能・相談支援機能などきめ細かいがん医療を提供

- ①鳥取大学医学部附属病院★
(平成31年3月25日指定)
- ②県立中央病院(平成31年3月25日指定)
- ③県立厚生病院(平成31年3月25日指定)
- ④米子医療センター(平成31年3月25日指定)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

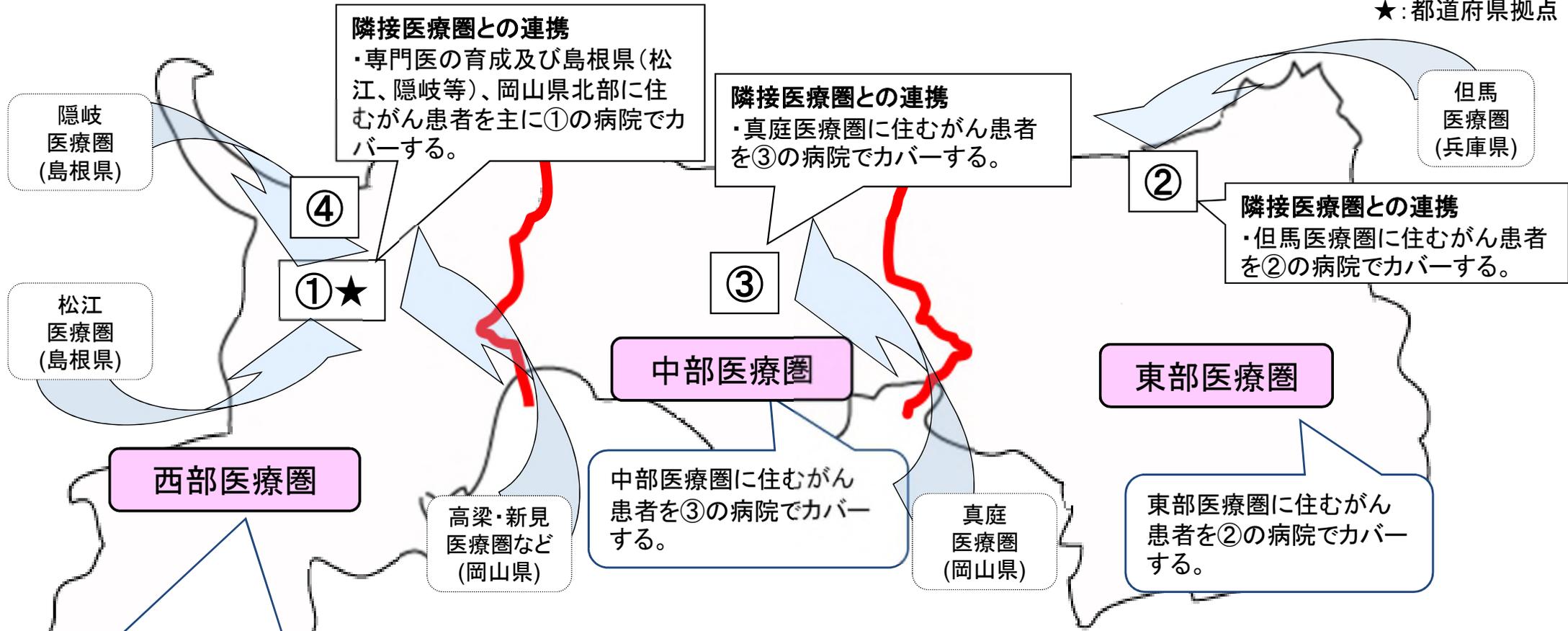
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	西部医療圏	★	更新	鳥取大学医学部附属病院	(5008) 4474	(31.3) 27.2	1755	(1349) 1466	(2338) 2225	(416) 397	76	36	276
2	東部医療圏		現況	県立中央病院	(4360) 2193	(45.3) 22.6	1001	(592) 609	(1056) 1038	(165) 152	124	31	5574
3	中部医療圏		更新	県立厚生病院	(1338) 1856	(22.4) 31.3	501	(465) 428	(284) 376	(107) 109	116	48	3611
4	西部医療圏		更新	米子医療センター	(1837) 2016	(36.6) 38.4	544	(526) 487	(1315) 1430	(181) 162	69	24	2311

★:都道府県拠点

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値

鳥取県 令和2年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



西部医療圏に住むがん患者を①、④の病院でカバーする。

【複数指定の理由】

○県拠点病院と地域連携拠点病院の役割分担(2病院の役割分担の明確化)

①の病院で全県のがんに関する医療支援、高度医療の提供及び専門医の人材育成等

④の病院で西部医療圏の地域に密着した診療機能・相談支援機能・在宅療養支援などきめ細かいがん医療を提供

- ①鳥取大学医学部附属病院★(更新)
- ②県立中央病院(現況)
- ③県立厚生病院(更新)
- ④米子医療センター(更新)

指定推薦に係る鳥取県の考え方

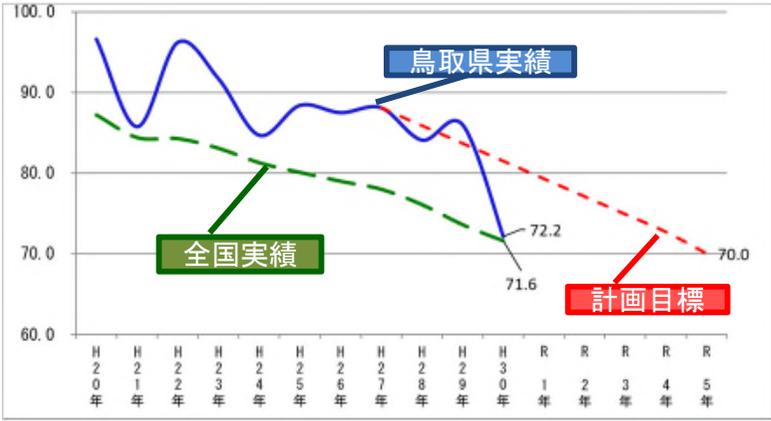
鳥取県の現状

- がんは昭和57年以降死因の第1位となり、全死亡の約3割を占めている。
- 75歳未満年齢調整死亡率は、平成30年は全国30位であったが、平成28年、29年においてはワースト2位～4位である等全国と比べても高い状況が続いている。
- 「全国がん登録」のデータを基に公表された平成28年の年齢調整罹患率は全国ワースト7位



がん対策は喫緊の重要課題！

がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移



都道府県別がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移(順位)

部位	性別	順位	2014		2015		2016		2017		2018	
			都道府県	値								
全部位	男女計	30	愛媛県	78.6	宮崎県	78.2	和歌山県	77.5	鳥取県	73.5	鳥取県	72.2
全部位	男女計	40	大阪府	83.8	長崎県	81.4	栃木県	80.7	長崎県	79.0	大阪府	75.8
全部位	男女計	41	福岡県	83.9	福岡県	82.7	岩手県	81.3	佐賀県	79.8	佐賀県	77.2
全部位	男女計	42	長崎県	85.3	茨城県	83.1	大阪府	81.4	福岡県	80.3	高知県	77.4
全部位	男女計	43	佐賀県	85.9	大阪府	84.4	高知県	81.8	岩手県	81.3	岩手県	78.0
全部位	男女計	44	秋田県	86.5	北海道	87.7	鳥取県	84.1	秋田県	83.8	長崎県	78.7
全部位	男女計	45	鳥取県	87.5	鳥取県	88.1	北海道	85.6	北海道	84.1	秋田県	80.0
全部位	男女計	46	北海道	88.2	秋田県	91.2	秋田県	87.4	鳥取県	86.0	北海道	81.6
全部位	男女計	47	青森県	98.0	青森県	96.9	青森県	93.3	青森県	88.9	青森県	91.1

第3次鳥取県がん対策推進計画

- 全体目標: 1 がんによる死亡者の減少
 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)を70.0未満とする。(男性:90.0未満、女性50.0未満)
 2 がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備するが、必要に応じて複数を整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(鳥取県、岡山県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

指定推薦に係る鳥取県の考え方

西部医療圏における複数の医療機関の推薦について

西部医療圏において複数推薦する理由

- 人口最少県である鳥取県において、診療の延べ患者数の要件を全て満たすことは地域事情として厳しいが、本県のがんを取り巻く厳しい状況に鑑み、県民が身近な地域で安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制を構築するためにも現在の指定病院の更新が必要である。
- 鳥取大学医学部附属病院及び米子医療センターは共に西部医療圏に居住するがん患者の2割以上の診療実績があり、西部医療圏のがん診療に不可欠な病院である。
- 両病院のがん診療における特色を活かした機能分担、連携強化により、医療の均てん化が図られ、がん診療の質的向上が期待される。

病院間の診療機能分担

鳥取大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)

- 全県を見据えた積極的な集学的治療
- 各種がん関連学会専門医を始めとする、県全体でがん医療に携わる人材を育成する機能
- 地域がん診療連携拠点病院等に対する情報提供、診療支援機能(鳥取県がん登録情報センターを設置)
- 隣接する医療圏(松江医療圏及び隠岐医療圏(島根県)並びに高梁・新見医療圏等)のがん医療の提供。

米子医療センター(地域がん診療連携拠点病院)

- 地域に密着した診療機能・相談支援機能・在宅療養支援など
- 圏域内唯一の「緩和ケア病棟」(20床)を開設しており、在宅緩和ケアを行うがん患者等の緊急入院受入れなどバックアップ機能を整備。きめ細かいがん医療を提供。
- 地域の医療従事者を対象とした在宅療養に向けた研修、地域住民を対象としたフォーラム等の開催など、地域密着型の研修、啓発活動

複数指定されることの効果

- 両病院の役割分担を明確にし、それぞれの機能を十分に発揮できるよう、ハード及びソフトの両面からがん診療連携拠点病院を整備することで、がん医療水準の均てん化が推進される。
- 西部医療圏でのより充実したがん診療体制の向上につながるものと期待される。

島根県

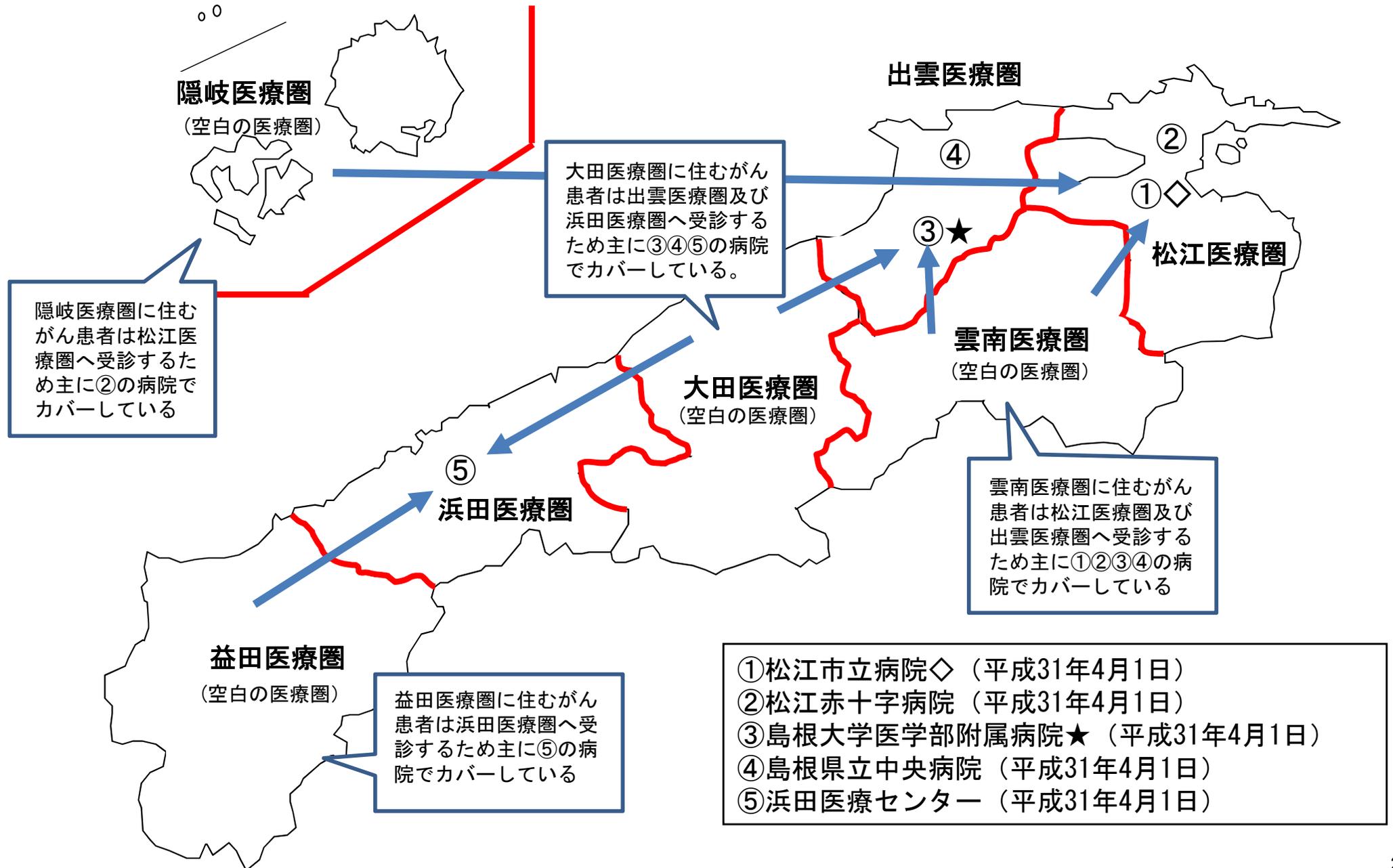
島根県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計
松江	993.92	242,566	35.7	244.1	14	2		2						
雲南	1164.07	54,042	8.0	46.4	5			0						
出雲	624.36	172,849	25.4	276.8	11	2		2						
大田	1244.35	51,761	7.6	41.6	4			0						
浜田	958.90	79,388	11.7	82.8	8		1	1						
益田	1376.72	59,332	8.7	43.1	5			0						
隠岐	345.92	19,969	2.9	57.7	2			0						
計	6708.24	679,907	100	101.4	49	4	1	5	0	0	0	0	0	0

島根県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

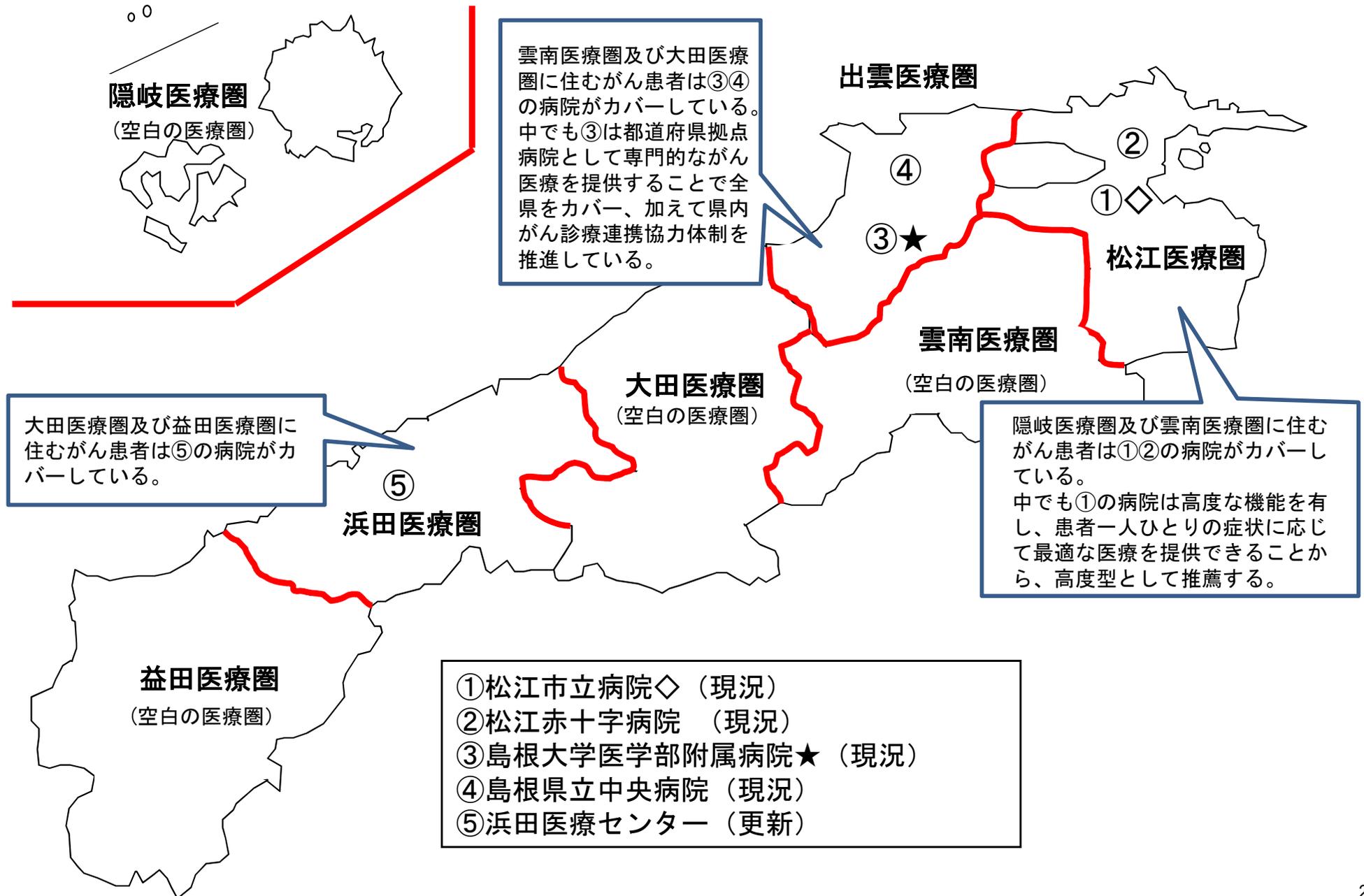
- ・ () 内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 (年間) 1000人以上	放射線治療 (年間) 200人以上	緩和ケア (年間) 50件以上	診療の割合 (%) 2割程度	相談支援センター (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 松江	◇	現況	松江市立病院	(1873) 2018	(21.5) 21.9	730	(484) 481	(2728) 2328	(206) 221	293	30	2510
2 松江		現況	松江赤十字病院	(3197) 3216	(22.5) 23.1	1118	(907) 1021	(1425) 1453	(202) 170	60	44	372
3 出雲	★	現況	島根大学医学部附属病院	(3722) 3933	(27.0) 27.0	1400	(1029) 984	(1218) 1197	(360) 458	159	50	2142
4 出雲		現況	島根県立中央病院	(2102) 1697	(16.8) 13.4	913	(723) 660	(1071) 1082	(253) 220	153	32	1433
5 浜田		更新	浜田医療センター	(1912) 1311	(27.8) 19.2	574	(691) 651	(1742) 1726	(138) 131	155	51	381

島根県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



新規指定及び指定更新推薦に係る島根県の考え方

1. 患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

東西に長く離島や中山間地域からなる本県特有の地理的要因に関わらず、県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられ、患者や家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している状態を目指す。

2. がん医療体制の目指すべき姿

- ①拠点病院体制の維持とがん医療機能の向上
- ②拠点病院と地域の病院の連携・機能分担の促進
- ③都道府県拠点病院を中心に集約化されている医療等へのアクセスの推進

3. 推薦の概要

目指すべき姿の実現のため、都道府県拠点病院及び地域拠点病院について、引き続き推薦を行う。ただし、地域拠点病院のうち松江市立病院については、敷地内にがんセンターを併設、緩和ケア病床もあることなどから高度型として推薦を行う。

4. 指定により期待される効果

拠点病院と空白の医療圏及び拠点病院のある医療圏にある地域の病院等との連携・機能分担を促進させることにより、「できる治療は患者に身近な病院・場所で行う仕組み」を実現する。

補足事項

○浜田医療圏のがん医療

同医療圏に存する浜田医療センターは、資料4のとおり自圏域内だけでなく隣接する空白の医療圏である大田、益田のがん医療も担っており、本県西部地域全域が空白の医療圏にならないよう引き続き地域がん診療連携拠点病院として推薦する。

岡山県

岡山県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回 更新 病院数	計	
県南東部	1,899.48	914,724	49	481.6	78	3	1	4	0	0	0	0	0	0
県内西部	1,124.24	700,307	37	622.9	53	1	1	2	0	0	0	0	0	0
高梁・新見	1,340.28	58,308	3	43.5	8	0	0	0	0	0	0	0	1	1
真庭	895.64	44,102	2	49.2	7	0	0	0	0	0	0	0	1	1
津山・英田	1,847.66	174,473	9	94.4	17	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	7,107.30	1,891,914	100	266.2	163	4	3	7	0	0	0	0	2	2

岡山県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。
川崎医科大学附属病院は、高梁・新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。
倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。
岡山大学病院は県拠点病院として、他の拠点病院等を牽引。
岡山済生会総合病院は、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。
岡山赤十字病院は、相談支援について中心的役割を担う。
岡山医療センターは、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

- ①岡山大学病院★
(平成31年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院
(平成31年4月1日)
- ③岡山赤十字病院
(平成31年4月1日)
- ④岡山医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院
(平成31年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院
(平成31年4月1日)
- ⑦津山中央病院
(平成31年4月1日)
- ④金田病院
(平成31年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院
(平成31年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
④	真庭	更新	金田病院	(162) 146	(9.5) 8.5	167	(31) 16	(1,761) 570	実施なし	実施なし	543
⑤	高梁・新見	更新	高梁中央病院	(97) 113	(6.1) 6.9	126	(28) 23	(22) 48	実施なし	37	284

岡山県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

高梁・新見医療圏及び真庭医療圏に、引き続き地域がん診療病院を指定することにより、患者が自らの医療圏において基本的ながん診療を受けることが可能となる。

なお、高度ながん医療が必要な場合には、グループ先の拠点病院において提供できる体制を構築する。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

⑤の病院は、高梁新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑥の病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

県南の医療圏においては、各拠点病院が自らの医療圏に居住する患者へがん診療を提供する。また、グループを形成する拠点病院(主に④、⑤等)が、地域がん診療病院をサポートする。

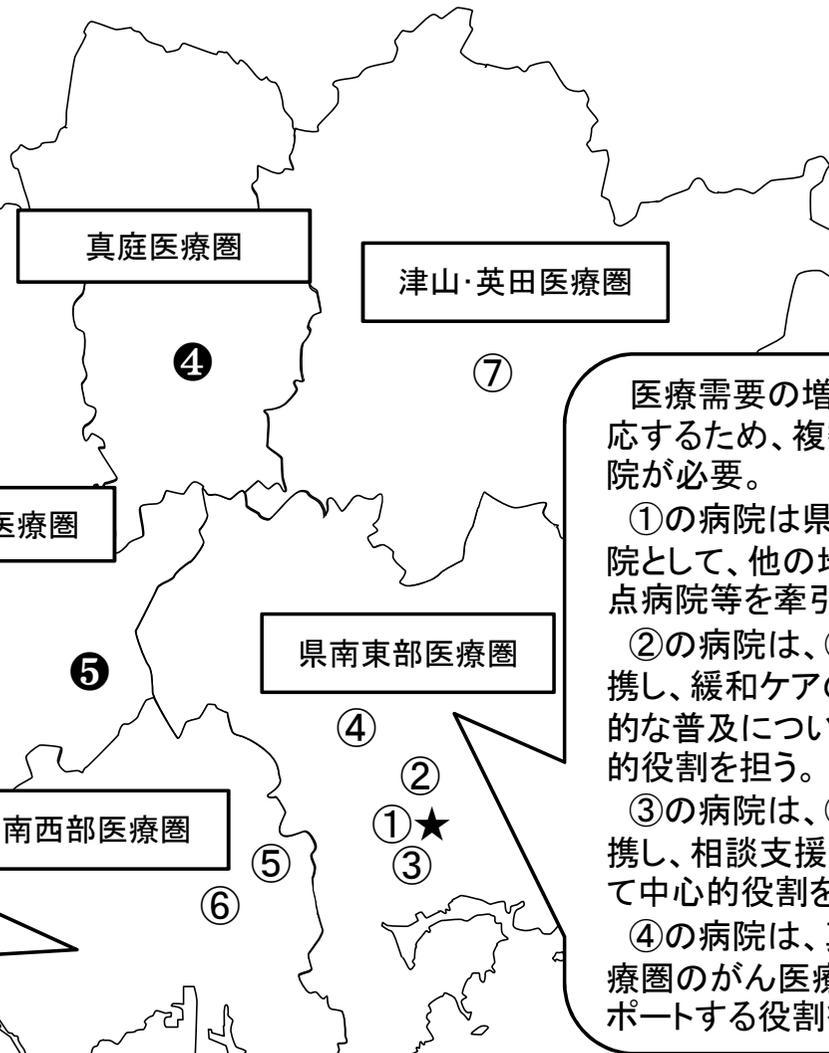
医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

①の病院は県拠点病院として、他の地域拠点病院等を牽引する。

②の病院は、①と連携し、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

③の病院は、①と連携し、相談支援について中心的役割を担う。

④の病院は、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。



- ①岡山大学病院★（現況）
（平成31年4月1日）
- ②岡山済生会総合病院（現況）
（平成31年4月1日）
- ③岡山赤十字病院（現況）
（平成31年4月1日）
- ④岡山医療センター（更新）
（平成31年4月1日）
- ⑤川崎医科大学附属病院（現況）
（平成31年4月1日）
- ⑥倉敷中央病院（更新）
（平成31年4月1日）
- ⑦津山中央病院（更新）
（平成31年4月1日）
- ④金田病院（更新）
（平成31年4月1日）
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院（更新）
（平成31年4月1日）
※⑤を中心に①ともグループ指定

第3次岡山県がん対策推進計画

がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図る

県南東部二次医療圏

- 人口約92万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

岡山大学病院★(855床・現況)

- ・ 県拠点病院として、地域拠点病院・地域がん診療病院を牽引
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成

岡山済生会総合病院(473床・現況)

- ・ 緩和ケア推進の中心的役割
- ・ 岡山市中心域からのアクセスが良好
- ・ 地域の医療機関との医療連携を積極的に推進

岡山赤十字病院(500床・現況)

- ・ がんに特化した相談支援センターを設け、がん相談に注力
- ・ 独立型緩和ケア病棟20床を開設
- ・ 圏域南部からのアクセスが良好

岡山医療センター(609床・更新)

- ・ グループ指定を受ける金田病院が属する真庭医療圏との連携強化
- ・ 血液悪性腫瘍に対応する無菌室23床を設置
- ・ 圏域北部及び圏域外からのアクセスが良好

県南西部二次医療圏

- 人口約70万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

川崎医科大学附属病院(1,182床・現況)

- ・ 最新の機器を用いての高精度放射線治療や先進医療を实践
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成
- ・ 緩和ケア病床25床を設置
- ・ グループ指定を受ける高梁中央病院が属する高梁・新見医療圏との連携強化

倉敷中央病院(1,166床・更新)

- ・ 年間外来患者延べ69万人、うちがん患者が約14万人
- ・ 病床数、職員数、標榜診療科数等、日本でも最大規模
- ・ 5大がん地域連携クリティカルパスを積極的に運用し、県内最大の活用実績
- ・ がん医療に係るさまざまなセンターを設け、設備を充実
- ・ 緩和ケア病床14床を設置、緩和ケア研修会を年間複数回開催

相互に連携、協力

高梁・新見二次医療圏

- 人口約6万人
- 地域がん診療連携拠点病院との密接な連携により、圏域内でのがん医療を提供

真庭二次医療圏

- 人口約4万人

津山・英田二次医療圏

- 人口約18万人

地域がん診療病院

高梁中央病院(192床・更新)

- ・ 地域の中核病院として、救急医療等に尽力
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 高梁市の中心部に位置し、交通アクセス良好

金田病院(172床・更新)

- ・ 地域の中核病院として、外来薬物療法室を設置
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 医療圏内の主要な地域から通院が容易

津山中央病院(515床・更新)

- ・ 県北の中核病院であり、医療圏のほぼ中央に位置している
- ・ 県北で唯一、放射線治療に対応
- ・ がん陽子線治療センターを整備(岡山大学との共同運用)
- ・ プライバシーに配慮した薬物療法室を設置

○本県の指定推薦の考え方

本県では、「第3次岡山県がん対策推進計画」に基づき、各種施策を推進しているが、がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることを目標の一つとしている。

このため、現在のがん医療提供体制を維持し、県拠点病院を中核として、地域拠点病院や地域診療病院等がそれぞれの特徴を活かし、相互に連携、協力することにより、がん医療の均てん化と医療水準の向上を図っていく必要がある。

○二次医療圏における指定推薦の考え方

【県南東部医療圏】

県南東部医療圏は、面積が広大で、県内で最多の人口を擁する医療圏であり、交通網も発達し、高度ながん医療の提供が可能な病院も多く存在しており、今後ながん医療需要の増大が見込まれるため、複数の地域拠点病院が必要である。既に指定を受けている岡山大学病院は、県拠点病院として地域拠点病院や地域診療病院を牽引するとともに、各地域拠点病院はそれぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。また、今回指定更新を申請する岡山医療センターは、金田病院のグループ指定先として真庭医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。

【県南西部医療圏】

県南西部医療圏は、多数の人口を擁し、人口密度が県内で最も高く、交通の利便性もあることから、今後ながん医療需要の増大が見込まれ、複数の地域拠点病院が必要である。各地域拠点病院は、それぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。既に指定を受けている川崎医科大学附属病院は、高梁中央病院のグループ指定先として高梁・新見医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。また、今回指定更新を申請する倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーし、地域連携について中心的な役割を担う。

【高梁・新見医療圏】

高梁中央病院を引き続き、地域診療病院に指定することにより、県南西部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【真庭医療圏】

金田病院を引き続き、地域診療病院に指定することにより、県南東部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【津山・英田医療圏】

津山中央病院を引き続き、地域拠点病院に指定することにより、県北におけるがん医療の中核的な役割を担い、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

広島県

広島県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

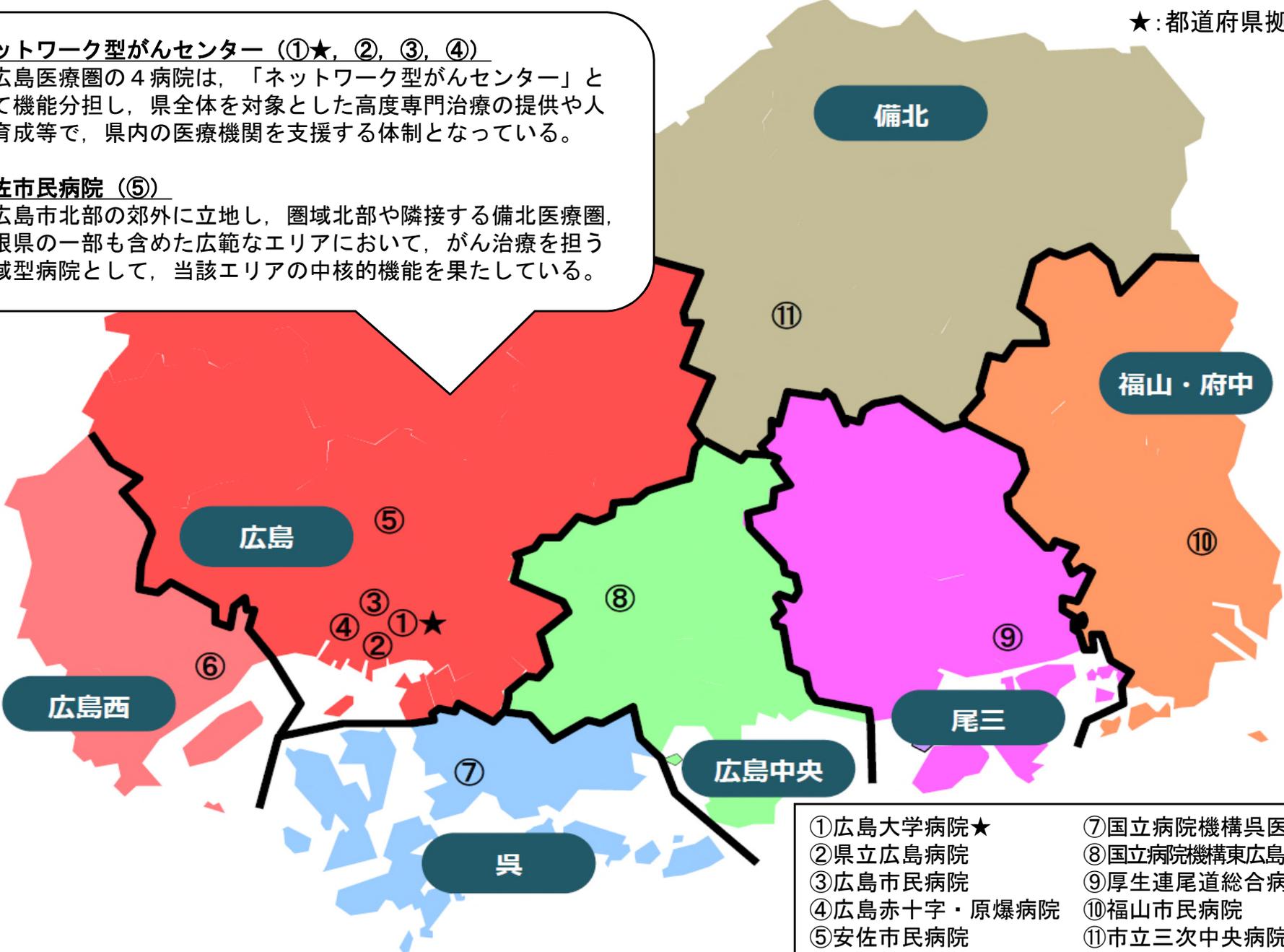
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
広島	2,506.19	1,367,389	48.68	545.60	97	1	3	1	5						
広島西	568.14	141,526	5.04	249.10	13		1		1						
呉	453.52	239,714	8.53	528.56	30		1		1						
広島中央	796.50	227,687	8.11	285.86	20		1		1						
尾三	1,034.76	239,007	8.51	230.98	23		1		1						
福山・府中	1,095.87	508,188	18.09	463.73	46			2	2						
備北	2,024.63	85,275	3.04	42.12	10		1		1						
計	8,479.61	2,808,786	100.00	335.14	239	1	8	3	12	0	0	0	0	0	0

広島県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点

ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③, ④)
 広島医療圏の 4 病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関を支援する体制となっている。

安佐市民病院 (⑤)
 広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏、島根県の一部も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を果たしている。



- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 広島大学病院★ | ⑦ 国立病院機構呉医療センター |
| ② 県立広島病院 | ⑧ 国立病院機構東広島医療センター |
| ③ 広島市民病院 | ⑨ 厚生連尾道総合病院 |
| ④ 広島赤十字・原爆病院 | ⑩ 福山市民病院 |
| ⑤ 安佐市民病院 | ⑪ 市立三次中央病院 |
| ⑥ 厚生連広島総合病院 | (すべて平成31年 4 月 1 日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物 療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数 に占めるが ん患者の 割合(%)	院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 広島	★	更新	広島大学病院	(7,287) 7,963	(39.3) 41.8	2,599	(3,182) 3,113	(2,831) 3,014	(563) 740	310	18	1,142
2 広島		現況	県立広島病院	(4,769) 4,821	(27.9) 28.3	1,642	(819) 988	(1,151) 1,702	(440) 396	195	14	887
3 広島	◇	新規	広島市民病院	(5,108) 5,101	(24.7) 24.6	3,353	(2,167) 1,880	(3,588) 3,452	(812) 784	197	15	1,312
4 広島		更新	広島赤十字病院	(4,511) 4,344	(32.9) 31.6	1,341	(568) 544	(3,322) 3,325	(367) 369	105	12	817
5 広島		更新	安佐市民病院	(3,774) 3,610	(25.3) 23.8	2,072	(1,574) 1,240	(2,199) 2,199	(384) 353	164	12	1,432
6 広島西		更新	広島総合病院	(2,738) 2,555	(20.0) 19.4	1,282	(994) 995	(1,028) 1,245	(269) 283	139	43	597
7 呉		更新	呉医療センター	(4,401) 4,435	(30.6) 32.3	1,607	(1,080) 1,149	(1,141) 1,731	(343) 341	252	53	3,193
8 広島中央		更新	東広島医療センター	(1,883) 1,774	(20.5) 18.9	911	(460) 965	(1,460) 4,399	(344) 359	102	69	442
9 尾三		更新	尾道総合病院	(2,591) 2,451	(23.0) 21.4	1,237	(1,475) 1,398	(841) 1,086	(226) 220	142	34	565
10 福山府中	◇	新規	福山市民病院	(4,087) 4,117	(30.8) 29.7	1,811	(1,384) 1,489	(1,413) 1,427	(453) 435	162	26	252 ⁷⁹⁷

広島県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

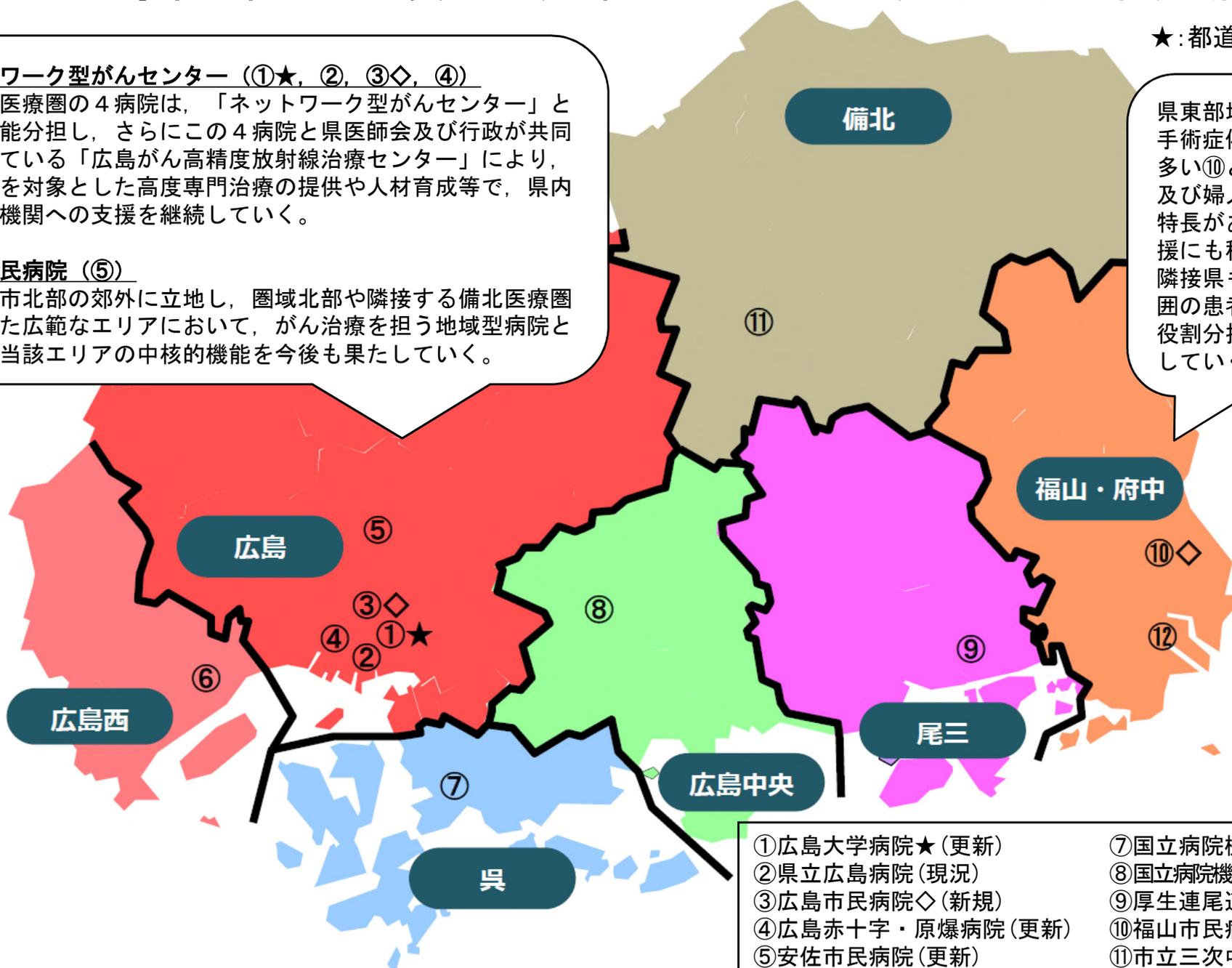
ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③◇, ④)

広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、さらにこの4病院と県医師会及び行政が共同運営している「広島がん高精度放射線治療センター」により、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関への支援を継続していく。

安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を今後も果たしていく。

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑫が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



- | | |
|-----------------|----------------------|
| ①広島大学病院★(更新) | ⑦国立病院機構呉医療センター(更新) |
| ②県立広島病院(現況) | ⑧国立病院機構東広島医療センター(更新) |
| ③広島市民病院◇(新規) | ⑨厚生連尾道総合病院(更新) |
| ④広島赤十字・原爆病院(更新) | ⑩福山市民病院◇(新規) |
| ⑤安佐市民病院(更新) | ⑪市立三次中央病院(更新) |
| ⑥厚生連広島総合病院(更新) | ⑫国立病院機構福山医療センター(新規) |

指定更新等に係る広島県の推薦方針

ネットワークで構築する広島のがん医療提供体制

- 広島医療圏の広島大学病院，県立広島病院，広島市立広島市民病院，広島赤十字・原爆病院の4病院については，「ネットワーク型がんセンター」としてそれぞれの特色を組み合わせることで連携した高度な専門医療機能や人材育成など，県全体のがん対策推進に貢献している。

【具体的な成果】

- 高精度放射線治療が提供可能な「広島がん高精度放射線治療センター」を整備し，4病院からの患者紹介を中心に，県内全域や県外からの紹介患者に対応している。
- また，広島市立安佐市民病院は，広島圏域北部や他県の一部も含めた隣接する圏域の広範なエリアにおいて中核的な機能を果たしている。
- 福山市民病院，福山医療センターの2病院は，両院の機能的特徴と，人口規模が大きく南北に長いといった福山・府中圏域の地域的特徴を踏まえた役割分担を行い，隣接県も含めた広範なエリアにおける患者のニーズに対応する。
- 広島医療圏及び福山・府中医療圏を除く5つの医療圏については，住民が身近な地域で，良質ながん医療や相談支援などのサービスを受けられるように，それぞれ1施設ずつ地域拠点病院を配置し，更なるがん医療水準の向上を推進する。



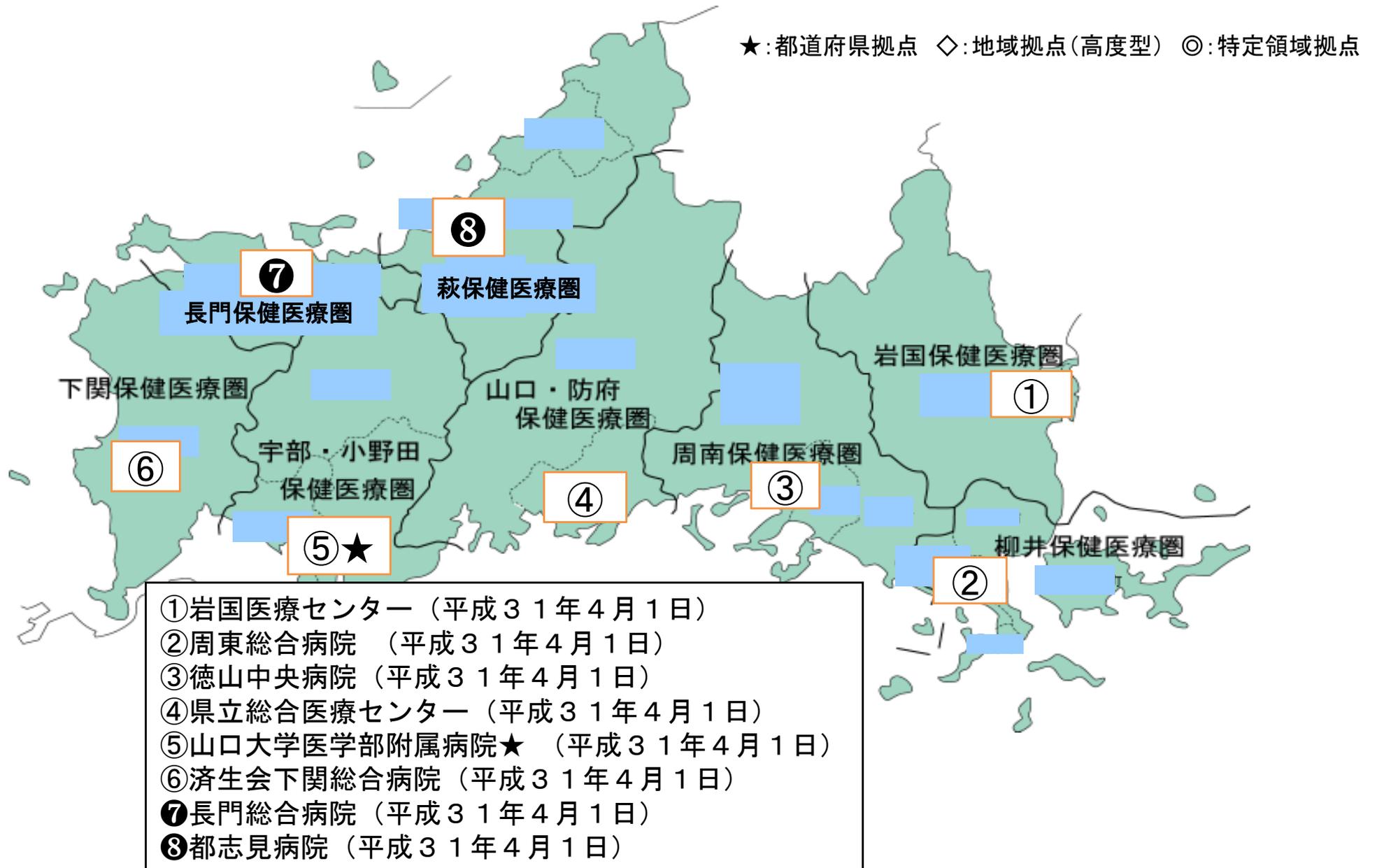
山口県

山口県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
岩国医療圏	884.30	136,740	10.1%	154.6	17	1	0	1	0	0	0	0
柳井医療圏	397.84	75,912	5.6%	190.8	9	1	0	1	0	0	0	0
周南医療圏	837.77	246,225	18.2%	293.9	24	1	0	1	0	0	0	0
山口・防府 医療圏	1,212.60	309,041	22.8%	254.9	27	1	0	1	0	0	0	0
宇部・小野 田医療圏	892.38	249,405	18.4%	279.5	29	1	0	1	0	0	0	0
下関医療圏	716.10	257,154	19.0%	359.1	26	1	0	1	0	0	0	0
長門医療圏	357.31	32,870	2.4%	92.0	6	0	0	0	0	0	1	1
萩医療圏	814.26	48,632	3.6%	59.7	7	0	0	0	0	0	1	1
計	6,112.53	1,355,979	100.0%	221.8	145	6	0	6	0	0	2	2

山口県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

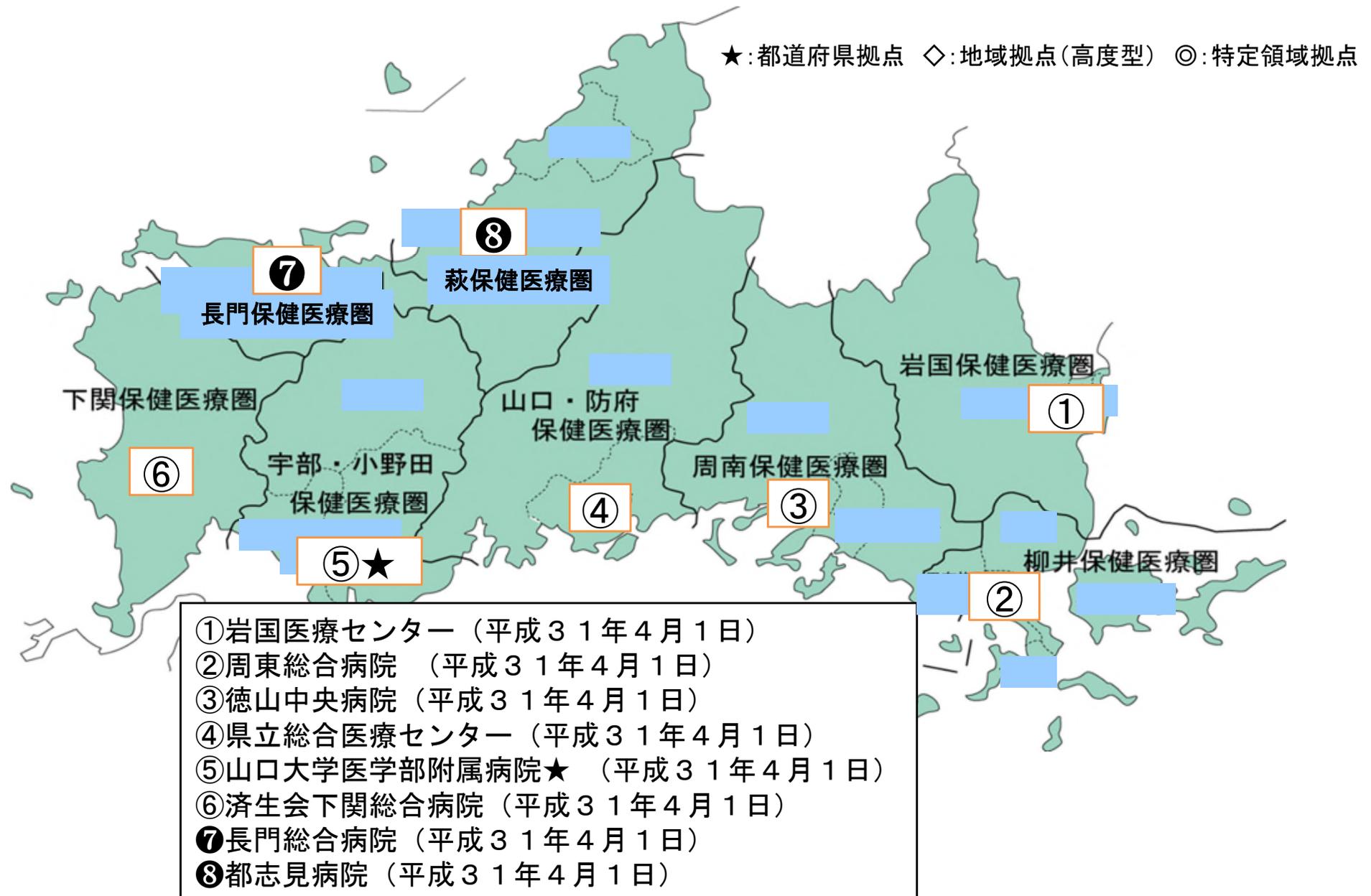
医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数 に占めるが ん患者の 割合(%)							
1 岩国		現況	岩国医療センター	(2,930) 3,085	(25.6) 26.1	1,173	(726) 631	(1,282) 4,194	(214) 241	184	86	821
2 柳井		現況	周東総合病院	(1,192) 1,256	(18.3) 18.8	504	(336) 302	(581) 474	(78) 117	53	105	3,115
3 周南		現況	徳山中央病院	(2,654) 2,946	(20.6) 22.4	1,338	(807) 1,126	(1,838) 1,701	(212) 225	90	61	1,918
4 山口・防府		現況	県立総合医療センター	(1,943) 1,880	(17.7) 17.3	947	(597) 597	(1,317) 1,283	(223) 242	209	26	1,667
5 宇部・小野田	★	現況	山口大学医学部附属病院	(4,250) 4,350	(27.4) 27.7	2,182	(1,323) 1,272	(8,151) 9,464	(475) 431	143	73	941
6 下関		現況	済生会下関総合病院	(1,966) 2,330	(19.4) 21.9	948	(724) 695	(2,140) 2,333	(212) 202	52	32	707

地域がん診療病院の診療実績等

・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑦	長門	現況	長門総合病院	(968) 1,020	(22.7) 21.7	358	(230) 253	(502) 583	(76) 1,208	34	827
⑧	萩	現況	都志見病院	(516) 601	(23.1) 25.5	189	(139) 127	(69) 78	実施なし	73	115

山口県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る本県の考え方について

○がんは昭和56年以来、本県の死亡原因の1位であり、年間約5千人の県民ががんにより亡くなっている。これまで、がん予防や検診に関する普及啓発、がん登録事業、緩和ケア病棟の整備等、各段階に応じたがん対策を講じてきたが、がんによる死亡は今なお増加しており、がん対策は本県の保健・医療施策の中で非常に重要な課題となっている。

○こうしたことから、県では、地域のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院の整備を推進してきたところであり、平成30年3月に策定した「第3期山口県がん対策推進計画」に基づき、がん医療水準の更なる向上を目指して、診療機能の充実等を図ることとしている。

なお、本県においてがんの医療圏（以下「医療圏」という。）と2次医療圏は一致している。

○がん診療連携拠点病院については、各地域において等しく質の高いがん医療を提供するため、医療圏に1箇所の整備を基本とするとともに、その指定要件を充たす病院が医療圏内にない場合には、地理的に隣接する医療圏において、当該医療圏からの患者受入が多いがん診療連携拠点病院とのグループ指定により、地域がん診療病院を整備することで、圏域全体をカバーできるようにすることとしている。

○本県では、8つの医療圏のうち6医療圏においてがん診療連携拠点病院の指定を受けており、そのうち、宇部・小野田医療圏の山口大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として本県がん診療連携の中核的役割を担っている。

また、がん診療連携拠点病院のない2医療圏については地域がん診療病院を整備し、がん診療連携拠点病院と連携して専門的ながん医療の提供等を行っている。

○今回、6医療圏のがん診療連携拠点病院、2医療圏の地域がん診療病院の現況報告を提出する。

徳 島 県

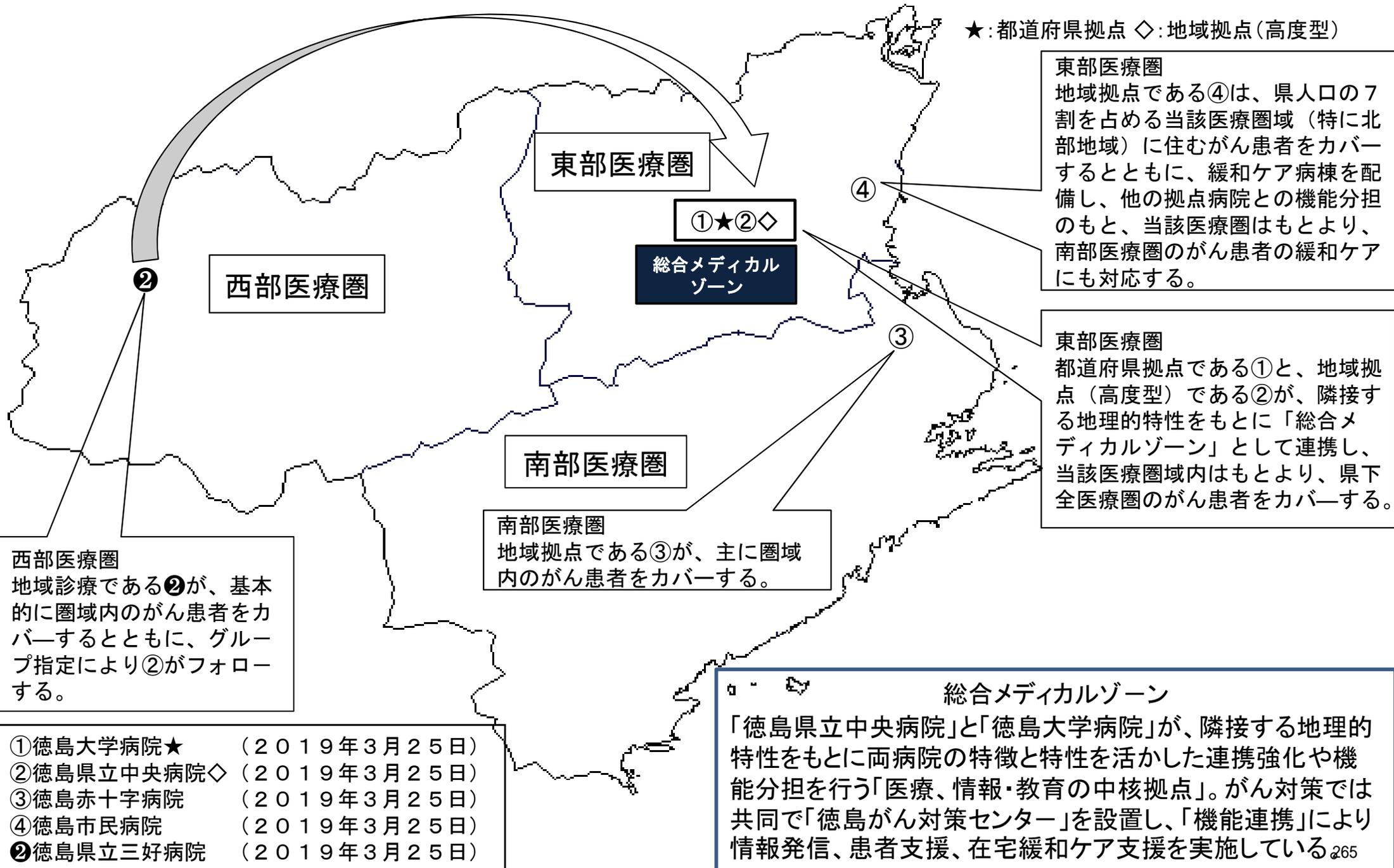
徳島県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	1,016.79	514,906	70.6	506.4	72	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
南部医療圏	1,724.13	139,456	19.1	80.8	20	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,405.88	74,712	10.3	53.1	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4,146.80	729,074	100	175.8	108	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0

徳島県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 東部	★	現況	徳島大学病院	(4737) 5127	(32.8) 33.6	2058	(1186) 1232	(9132) 10061	(672) 694	142	34	2692
2 東部	◇	現況	徳島県立中央病院	(2539) 2498	(22.2) 21.5	1004	(1014) 1070	(1230) 1015	(257) 220	142	22	999
3 南部		現況	徳島赤十字病院	(2011) 2015	(13.1) 12.8	1153	(905) 995	(1355) 1540	(214) 217	73	56	492
4 東部		現況	徳島市民病院	(1841) 1952	(24.0) 24.7	837	(541) 544	(1573) 1204	(176) 224	202	20	1281

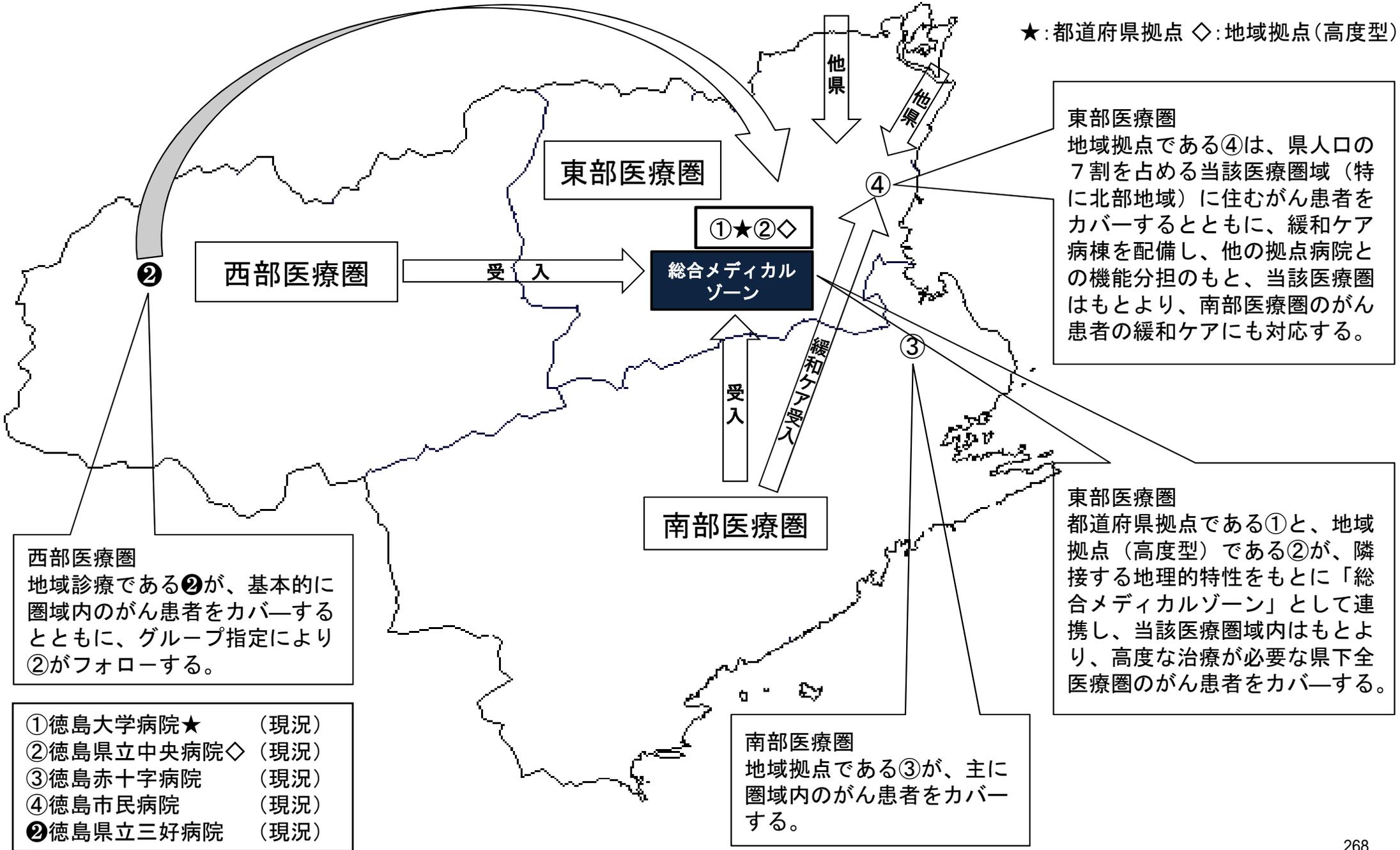
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
②	西部	現況	徳島県立三好病院	(476) 519	(13.9) 14.9	223	(86) 115	(1472) 1818	(49) 38	101	357

徳島県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1. 東部医療圏（県人口の7割）

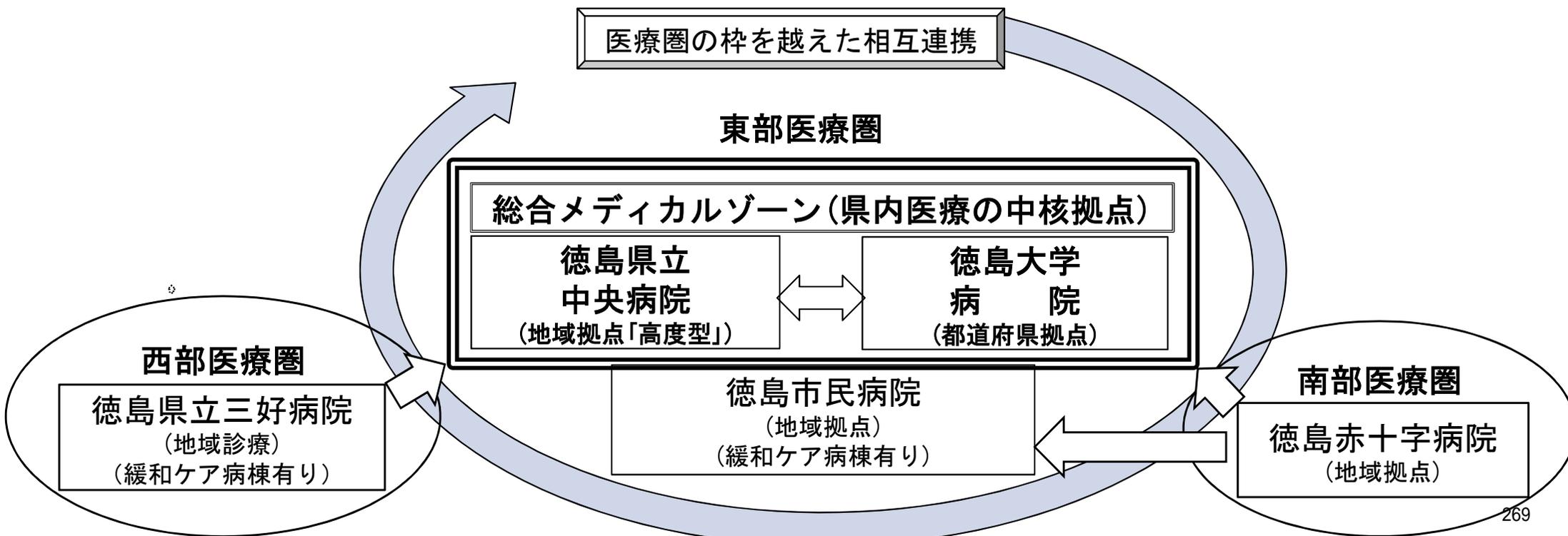
- 都道府県拠点である徳島大学病院と、より高度ながん診療機能を有する地域拠点（高度型）である徳島県立中央病院は、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン（県内医療の中核拠点）」として当該医療圏はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。
- さらに、地域拠点である徳島市民病院は、人口が集中する当該医療圏（特に北部地域）のがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、当該医療圏はもとより南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

2. 南部医療圏（県人口の2割）

地域拠点である徳島赤十字病院が、当該医圏域内のがん患者をカバーする。

3. 西部医療圏（県人口の1割）

地域診療である徳島県立三好病院は、緩和ケア病棟を有し、連携する徳島県立中央病院とともに、当医療圏域内のがん患者をカバーする。



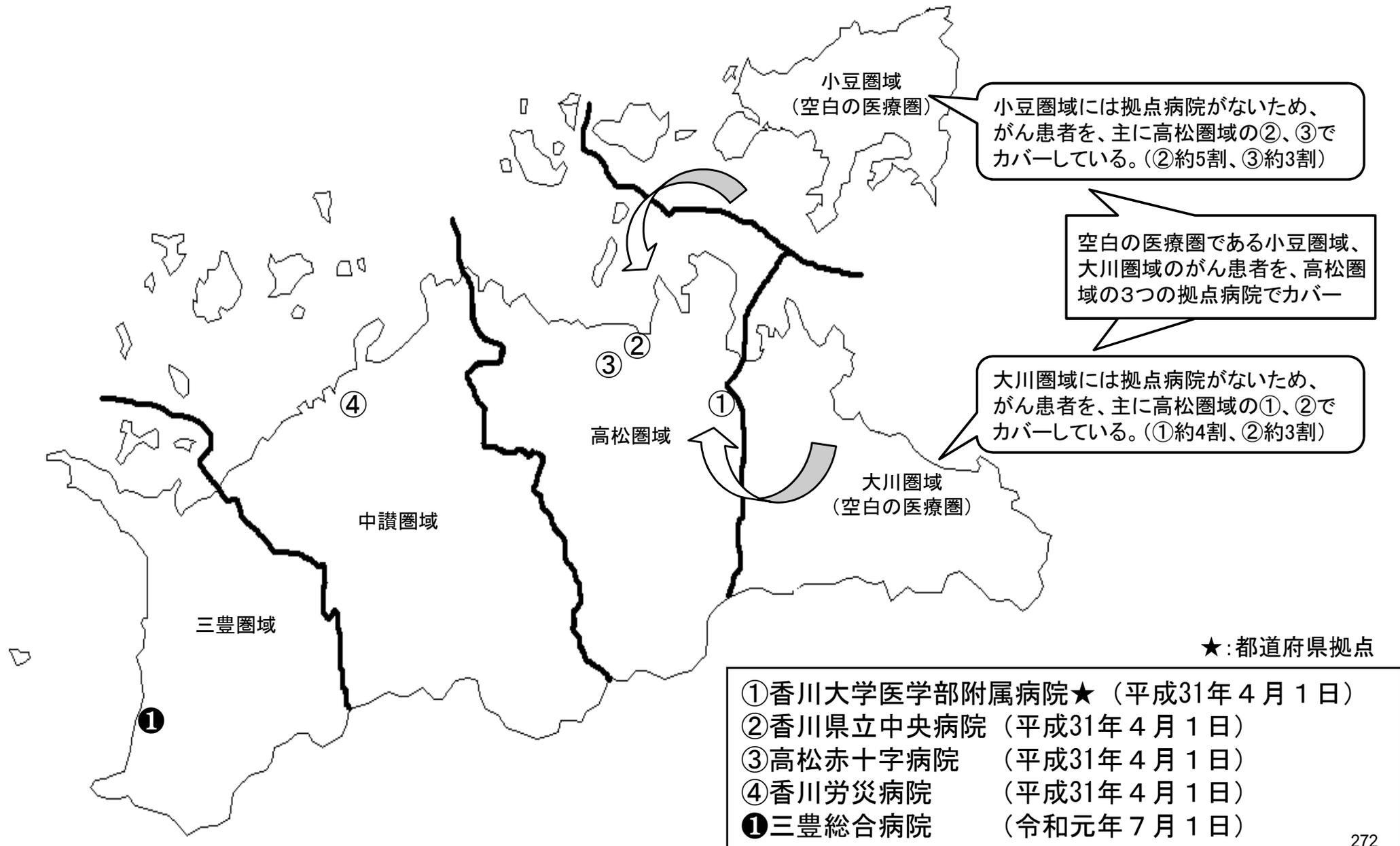
香川県

香川県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診 療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
大川圏域	311	79,769	8.1%	256.1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
小豆圏域	170	28,732	2.9%	169.0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
高松圏域	465	459,712	46.6%	987.8	37	2	0	1	3	0	0	0	0
中讃圏域	589	292,698	29.6%	496.6	31	0	1	0	1	0	0	0	0
三豊圏域	341	126,425	12.8%	371.2	12	0	0	1	1	0	0	0	0
計	1,877	987,336	100.0%	526.1	88	2	1	2	5	0	0	0	0

香川県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況



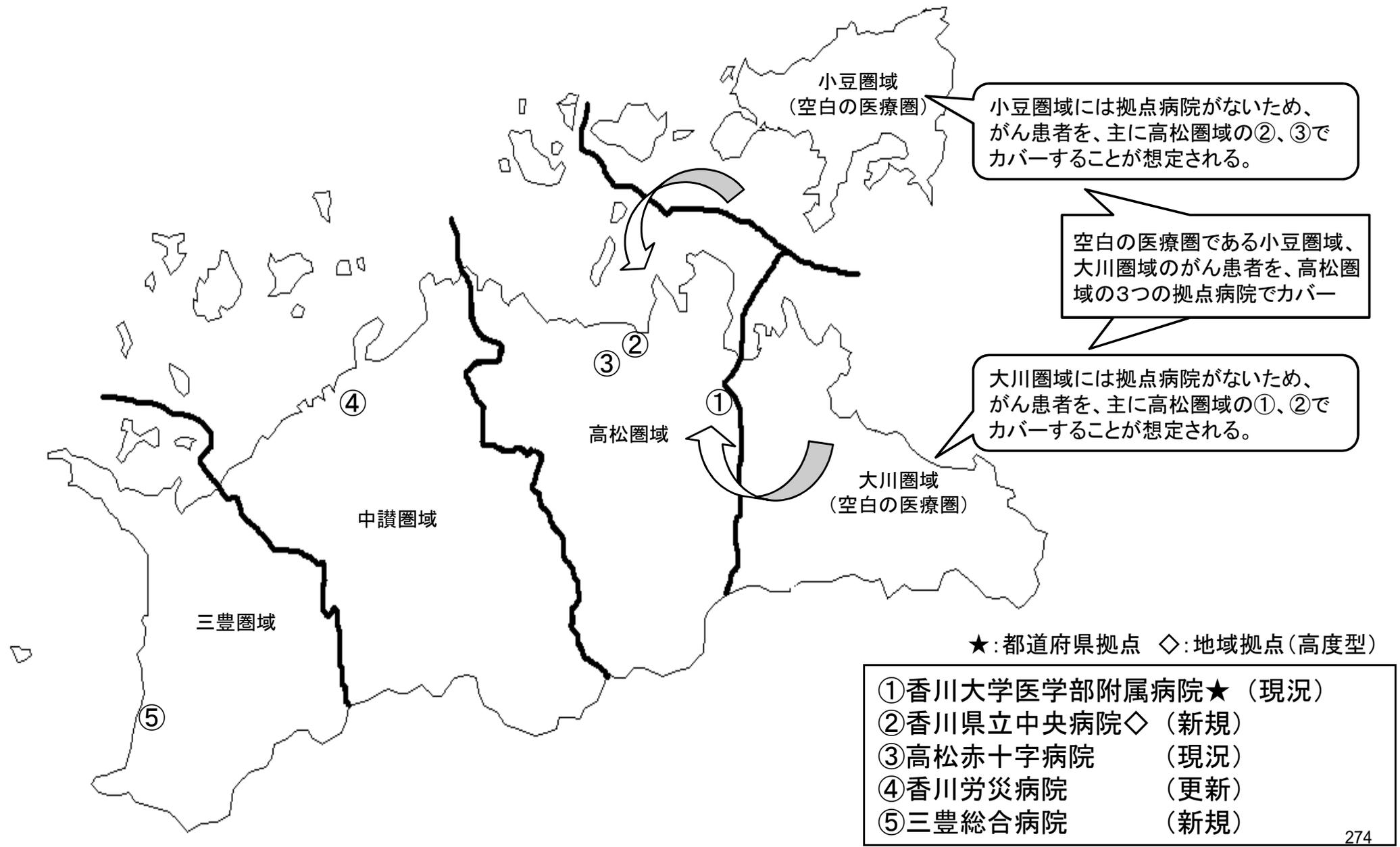
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型)

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録 数(年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者 の診療の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患者 数に占めるがん患者 の割合(%)							
1 高松	★	現況	香川大学医学部 附属病院	(2,826) 3,089	(24.6) 25.5	1,800	(1,652) 1,234	(1,946) 1,795	(439) 429	86	16	1,916
2 高松	◇	新規	香川県立中央 病院	(3,309) 3,258	(25.1) 24.7	1,464	(1,205) 1,212	(2,403) 2,216	(424) 406	223	23	1,121
3 高松		現況	高松赤十字病 院	(2,284) 2,270	(18.7) 19.0	1,171	(851) 787	(1,424) 1,378	(220) 313	141	18	2,203
4 中讃		更新	香川労災病院	(2,292) 2,225	(22.9) 22.2	1,032	(757) 741	(1,827) 1,871	(276) 252	428	18	622
5 三豊		新規	三豊総合病院	(1,724) 1,633	(17.6) 16.9	831	(598) 624	(819) 824	(155) 115	55	51	860

香川県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位
(平成30年は24.8%ががんで死亡し、他要因を大きく上回る)
- 高齢化が全国平均を上回って進行
(平成30年の高齢化率は31.8%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって
重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

○県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院を整備

○空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(計画期間:2018年4月1日～2024年3月31日)で、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第3次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院◇(新規) 高松赤十字病院
中讃	香川労災病院(更新)
西讃	三豊総合病院(新規)

★:都道府県拠点
◇:地域拠点(高度型)

○拠点病院では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケアなどがん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用などにより、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

3. 各医療機関における指定要件の充足状況について

(1) 地域拠点病院(高度型)

香川県立中央病院 (高松圏域)	要件を充足(新規) (地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。高松圏域の地域拠点病院で最も診療実績に優れている。強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)などの高度な放射線治療を提供。緩和ケアセンターを設置し緩和ケアの充実に努める。)
--------------------	---

(2) 地域拠点病院

香川労災病院 (中讃圏域)	要件を充足(更新) (地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。 平成30年9月時点で、「専従の薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する常勤の医師の配置」及び「緩和ケアチームへの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の配置」を満たしていなかったため、指定期間が1年となっていたが、現在は実施済。)
三豊総合病院 (三豊圏域)	要件を充足(新規) (地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。 平成30年度までは、地域拠点病院として指定されていたが、平成30年9月時点で、放射線治療に関し、「第三者機関による出力線量測定を行い、放射線治療の品質管理を行うこと」を満たしておらず、令和元年7月より、地域がん診療病院として指定されている。しかしながら、現在はこれを実施しており、地域拠点病院として必要な要件を満たしている。)

診療実績に優れ、高度な診療機能を有する香川県立中央病院を、地域拠点病院(高度型)として推薦。

香川労災病院については、中讃圏域の地域のがん医療等に果たす役割は大きく、引き続き推薦。

三豊総合病院については、前回指定更新時に地域拠点病院の要件を一部満たしておらず、地域がん診療病院として指定されているが、現在は満たしている。三豊圏域の地域のがん医療等に果たす役割は大きく、改めて地域拠点病院として推薦。

愛媛県

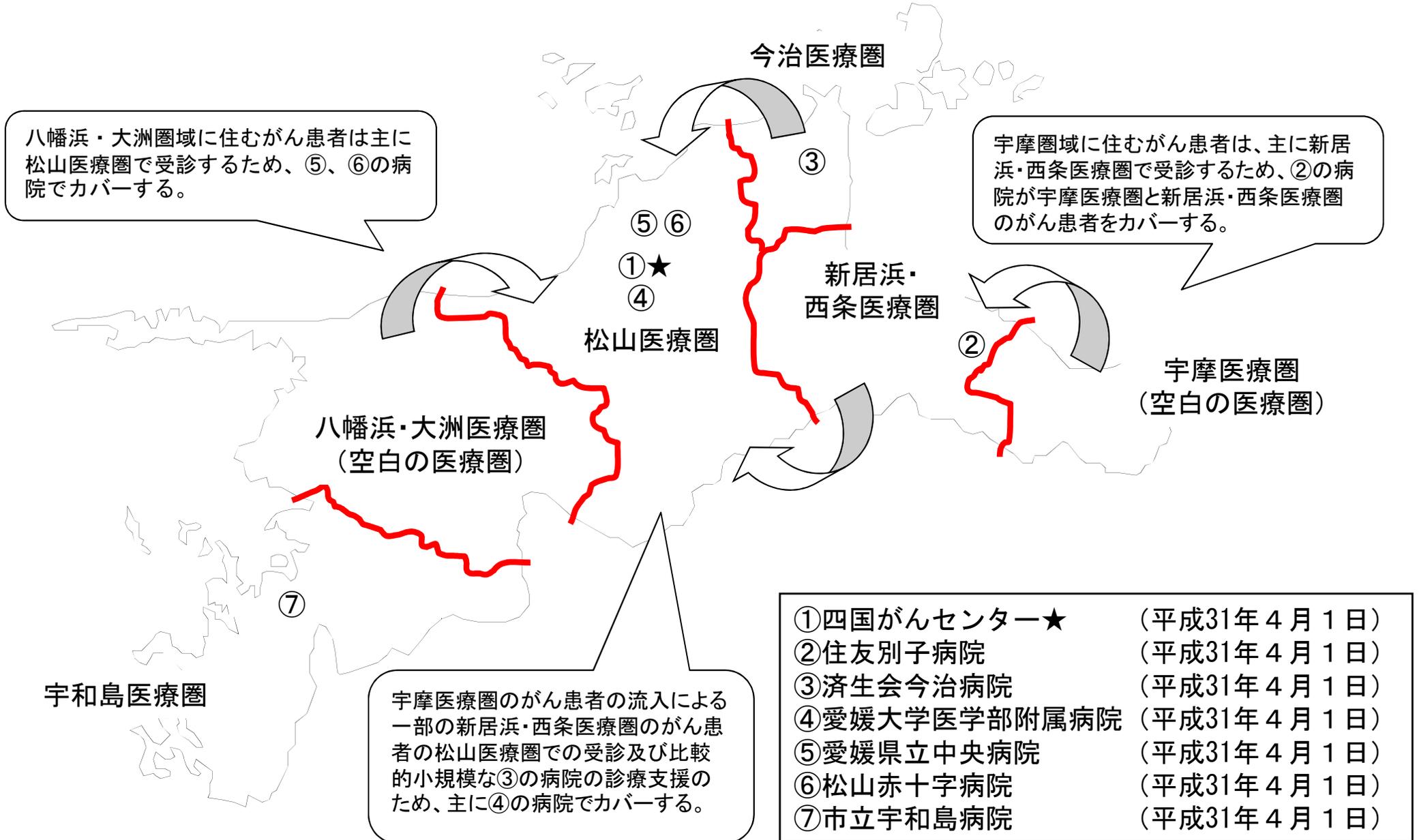
愛媛県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
宇摩	421.24	83,728	6.3%	198.77	9				0							
新居浜・西条	744.48	221,428	16.5%	297.43	21		1		1							
今治	449.52	158,542	11.8%	352.69	28		1		1							
松山	1540.83	637,123	47.6%	413.49	51	2	2		4							
八幡浜・大洲	1472.65	133,507	10.0%	90.66	15				0							
宇和島	1047.51	105,059	7.8%	100.29	12		1		1							
計	5676.23	1,339,387	100%	235.96	136	2	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0

愛媛県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

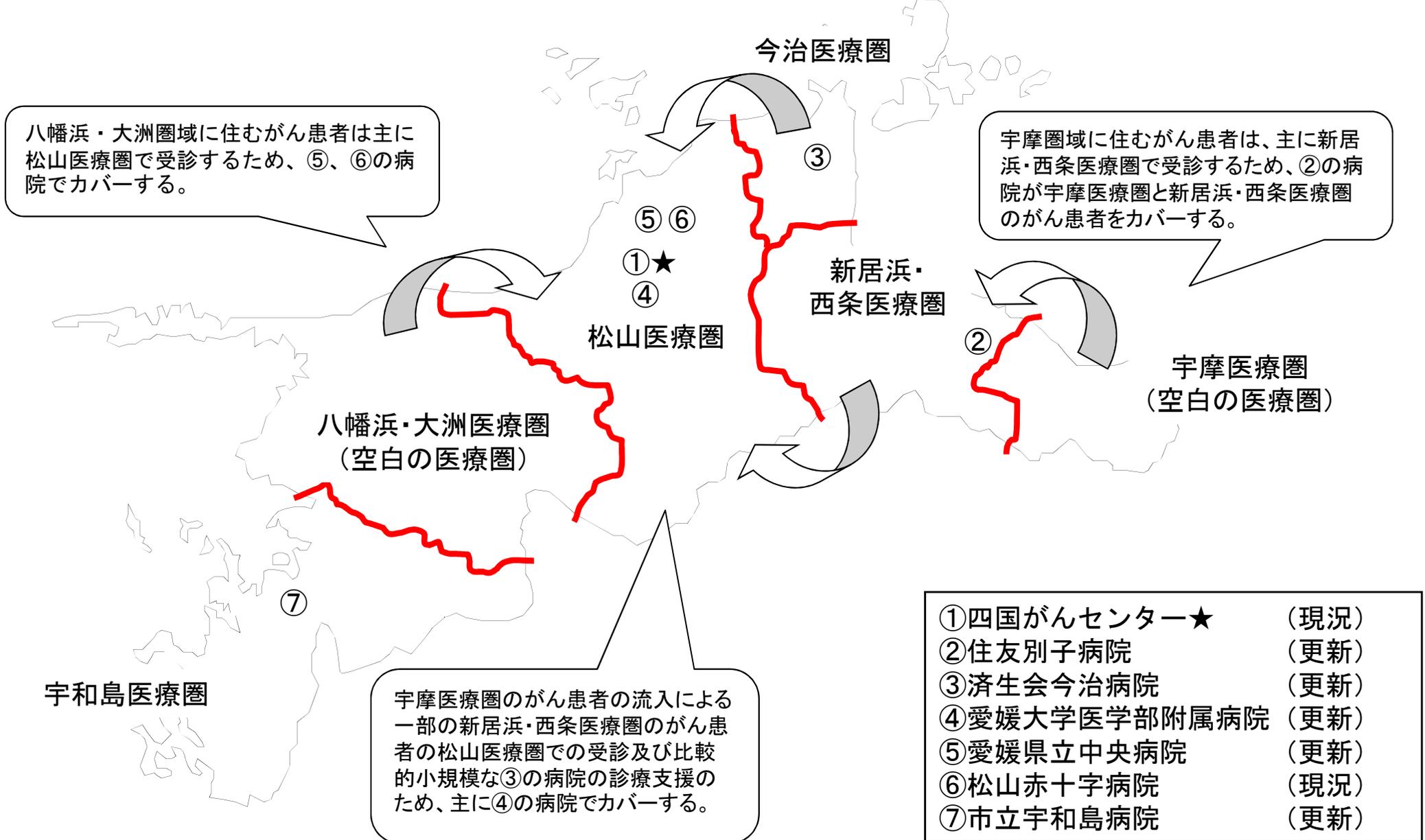
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松山	★	現況	四国がんセンター	(6641) 6892	(90.3) 91.2	1896	(1688) 1588	(13477) 11890	(819) 803	398	27	9742
2 新居浜・西条		更新	住友別子病院	(1168) 1154	(16.7) 15.9	570	(381) 432	(472) 473	(112) 103	55	27	658
3 今治		更新	済生会今治病院	(1139) 1174	(26.8) 27.0	519	(596) 565	(445) 472	(256) 271	87	42	2196
4 松山		更新	愛媛大学医学部附属病院	(4837) 4946	(37.3) 36.7	1885	(1248) 1323	(4463) 5022	(393) 402	109	14	1391
5 松山		更新	愛媛県立中央病院	(4370) 4245	(23.0) 22.8	2161	(1356) 1368	(2319) 2346	(595) 580	234	21	4727
6 松山		現況	松山赤十字病院	(2804) 3075	(16.0) 17.5	1759	(1064) 1154	(1219) 1351	(215) 209	304	16	1706
7 宇和島		更新	市立宇和島病院	(1977) 1831	(19.3) 18.1	1011	(718) 726	(1443) 1454	(230) 200	69	62	2328

愛媛県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



○愛媛県におけるがん診療体制について

本県の6つの二次医療圏のうち、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域については、がん診療連携拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条圏域、松山圏域と一体的な診療体制を整備することにより、県内を4圏域に区分した上で、各圏域に拠点病院を配置することにより、県内全域をカバーできる体制を整備している。

○二次医療圏の数を上回る拠点病院を整備する理由

本県では、松山圏域に、県拠点病院を含め4拠点病院を整備することに伴い、県全体の拠点病院数は、二次医療圏の数である6を上回る7病院となるが、その理由は次のとおり。

1 患者の受療動向

県内のがんによる入院患者(病院の入院患者。以下同じ。)の約63%が松山圏域に集中し、松山圏域に所在する病院の入院患者の35%は他の圏域からの流入患者であり、県内の入院患者の49%、松山圏域に所在する病院の入院患者の84%を当該4病院で受け入れている。

2 他の二次医療圏との関係

宇摩圏域の患者は、3割が隣接の新居浜・西条圏域、4割が松山圏域に流出し、新居浜・西条圏域の患者の4割近くも松山圏域に流入しているほか、八幡浜・大洲圏域の患者の5割強は、隣接する松山圏域に流出していることから、松山圏域の拠点病院の診療支援は不可欠である。

また、今治圏域は、離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには、松山圏域の拠点病院との連携が必要である。

3 拠点病院間の機能分担等

次項「医療機関の機能・役割」のとおり。

以上のことから、医療機関相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築し、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するため、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とするとともに、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

【県内のがん診療連携拠点病院の機能・役割分担（総括）】

◆都道府県拠点病院（1病院）

医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○全国がん(成人病)センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として、県がん診療連携協議会を主宰する。 ○がん専門病院として、全県の医療機関に対する支援を行う。

◆地域拠点病院（6病院）

がん診療の医療圏	医療機関名 (所在圏域)	対象とする2次医療圏 (支援医療圏)	医療機関の機能・役割
東予	住友別子病院 (新居浜・西条圏域)	宇摩圏域 新居浜・西条圏域	○隣接する「宇摩圏域」を含め、東予地域において、高度ながん診療を行う。
今治	済生会今治病院 (今治圏域)	今治圏域	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。 ○特に、離島の住民の診療、圏域内の中小医療機関の支援を重点的に行う。
中予	愛媛大学医学部 附属病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (新居浜・西条 圏域、今治圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関人の医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ○特に、「新居浜・西条圏域」、「今治圏域」のがん患者診療と医療機関の診療支援を行う。
	県立中央病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内4圏域にある県立4病院の拠点として、遠隔医療システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。 ○PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
	松山赤十字病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、松山圏域の地域医療支援病院として圏域内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果たしている。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
南予	市立宇和島病院 (宇和島圏域)	宇和島圏域	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、圏域内完結のがん診療体制を構築する。

高知県

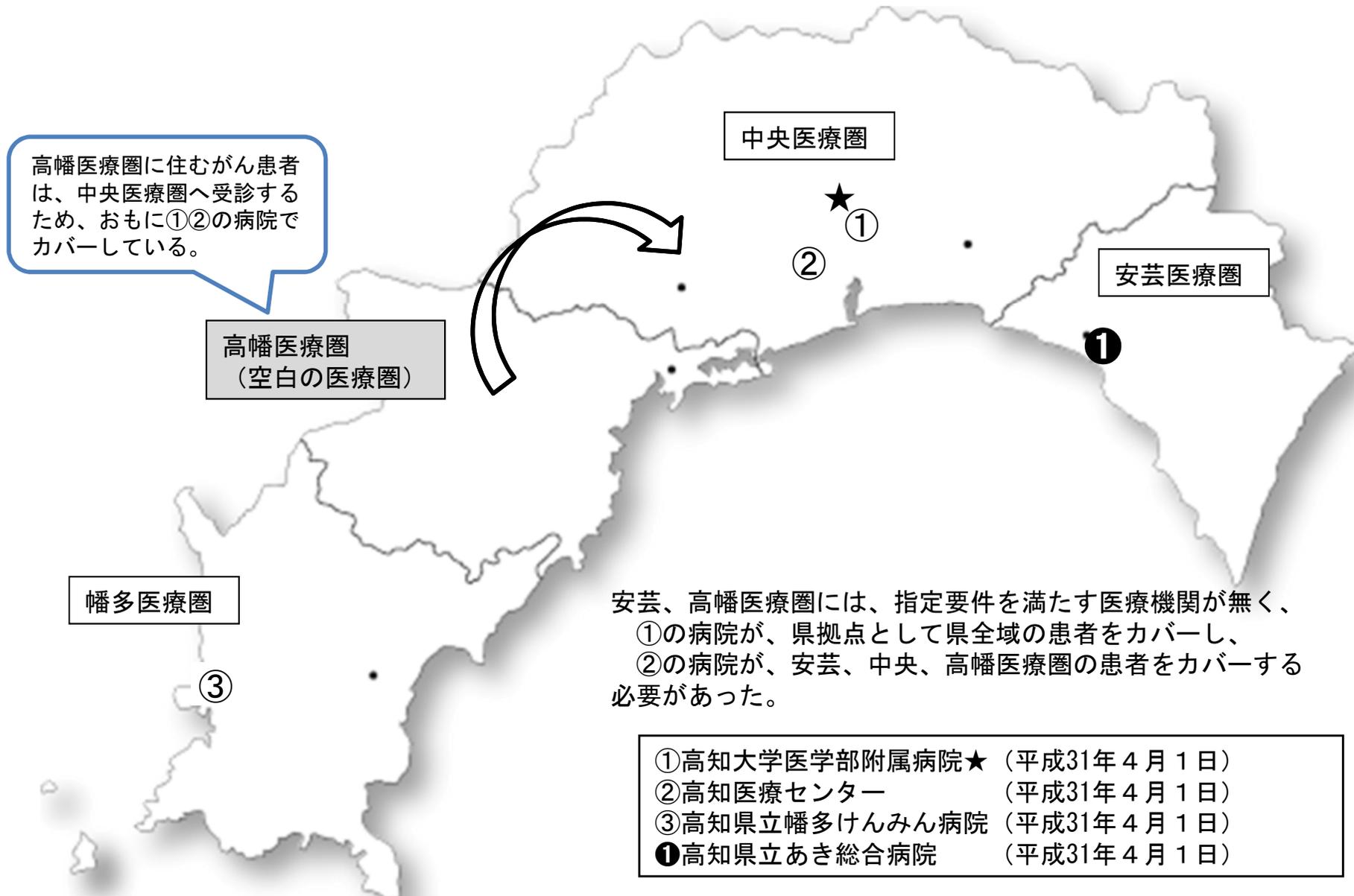
高知県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
安芸医療圏	1128.92	44,329	6.3	39.3	6				0				1		
中央医療圏	3008.75	520,562	74.6	173.0	93	1	1		2						
高幡医療圏	1405.44	52,012	7.5	37.0	8				0						
幡多医療圏	1561.9	81,218	11.6	52.0	18		1		1						
計	7105.01	698,121	100	301.3	125	1	2	0	3	0	0	0	1	0	0

高知県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び 特定領域がん診療連携拠点病院

- ・ () 内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。（右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】...としてください）

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 中央	★	現況	高知大学医学部附属病院	(3548) 3743	(31.8) 31.6	1810	(1223) 721	(1417) 3250	(638) 635	169	31	1244
2 中央		更新	高知医療センター	(4742) 3045	(33.9) 22.3	1907	(915) 1080	(1682) 985	(314) 522	342	25	895
3 幡多		更新	高知県立幡多けんみん病院	(901) 899	(15.7) 15.8	444	(365) 338	(508) 507	(59) 59	68	37	748

地域がん診療病院の診療実績等

- ・ 上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	安芸	現況	高知県立あき総合病院	(231) 298	(7.1) 8.0	337	(68) 72	(103) 95	実施なし	45	424

高知県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

空白の医療であったため、高幡医療圏に住むがん患者は、中央医療圏へ受診するため、おもに①②の病院がカバーする体制が整備されている。



①の病院が、県拠点として県全域の患者をカバーし、
②の病院が、安芸、中央、高幡医療圏の患者をカバーする。

- ①高知大学医学部附属病院★ (現況)
- ②高知医療センター (更新)
- ③高知県立幡多けんみん病院 (更新)
- ①高知県立あき総合病院 (現況)

指定推薦に係る高知県の考え方（1）

（1）拠点病院の位置づけ

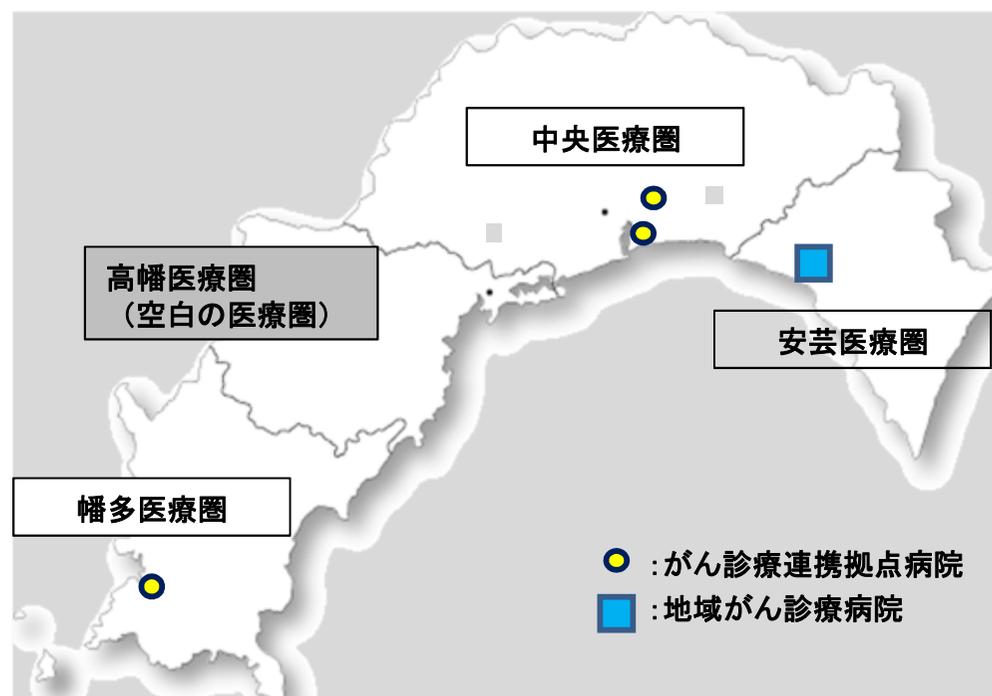
本県では、保健医療計画において4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）を設定しているが、がん医療提供体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、中央医療圏の拠点病院が中央医療圏に加え安芸・高幡医療圏の患者支援を、幡多医療圏の拠点病院が幡多医療圏の患者支援の患者支援を主に行っている。

- ①本県では、安芸及び高幡医療圏では、単独で集学的治療を実施できる医療機関がないことから、その役割を中央医療圏の医療機関が担っている。また、幡多医療圏内で集学的治療ができる医療機関は1か所のみとなっている。
- ②がんの入院患者についても、中央医療圏への流出が多い。

二次医療圏名	入院	
	自圏内	中央医療圏への流出
安芸医療圏	50.8% (21.2%)	49.2% (76.5%)
中央医療圏	99.5% (99.8%)	—
高幡医療圏	36.8% (41.7%)	63.2% (57.5%)
幡多医療圏	71.0% (70.5%)	28.2% (26.5%)

※平成28年度高知県患者動態調査結果による
（ ）内は平成23年度調査結果

- ③本県は、東西に長い地形に加えて、中山間部では過疎化が進行するなど地理的条件が厳しい。
- ④幡多医療圏については、中央圏域から地理的に離れた圏域であり、一部患者が中央医療圏や県外に流出しているものの、概ね自圏域内で医療が完結している。



指定推薦に係る高知県の考え方（2）

（2）がん診療連携拠点病院等の整備方針及び地域連携体制

○がん診療連携拠点病院等の整備方針について

- ・都道府県がん診療連携拠点病院として、高知大学医学部附属病院を整備している。
- ・地域がん診療連携拠点病院としては、高知医療センターが高知大学医学部附属病院とともに、安芸・中央・高幡医療圏をカバーし、高知県立幡多けんみん病院が幡多医療圏をカバーするよう整備している。
- ・地域がん診療病院として、高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、高知県立あき総合病院が安芸医療圏をカバーするよう整備している。

【本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性】

がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築している。

また、安芸・高幡医療圏にがん診療連携拠点病院としての要件を満たす病院が無いことから、高知医療センターと高知大学医学部附属病院が安芸医療圏・中央医療圏・高幡医療圏を、高知県立幡多けんみん病院が幡多圏域の基幹病院として幡多医療圏をカバーしている。

さらに、高知県立あき総合病院が安芸圏域の基幹病院として高知大学医学部附属病院とのグループ指定により安芸医療圏をカバーすることで、中央医療圏まで診療・治療に行っていた患者を安芸医療圏で一定の診療が完結できる体制を構築する方針である。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能等
全域	高知大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成18年度に都道府県拠点病院として指定を受けた国立大学法人の附属病院。 ◆大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修。 ・県内医療機関への医師派遣。 ◆県内医療機関の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。
安芸	高知県立あき総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度に地域がん診療病院として指定。 ◆都道府県拠点病院である高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、集学的治療等を提供する。
安芸中央高幡	高知医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知大学とともに、安芸・中央・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆救命救急センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・循環器病センター・地域医療センターといった高度医療機能を備え、県全体の基幹病院と位置付けられている。
幡多	高知県立幡多けんみん病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成24年度に地域拠点病院として整備。 ◆幡多圏域の基幹病院として、高度ながん診療を行うとともに、地域の関係機関との連携のもとに、地域でほぼ完結できる医療の提供を行っている。

福岡県

福岡県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
福岡・糸島	559.16	1,689,759	33.1	3,022.0	123	4		3	7			1			
粕屋	206.71	290,954	5.7	1,407.5	26		1		1						
宗像	172.7	161,515	3.2	935.2	14				0						
筑紫	233.32	437,358	8.6	1,874.5	27				0				1		
朝倉	365.78	81,393	1.6	222.5	8				0				1		
久留米	467.83	451,893	8.8	965.9	48	1		1	2						
八女・筑後	562.16	129,788	2.5	230.9	14		1		1						
有明	263.81	212,661	4.2	806.1	33		1		1						
飯塚	369.21	175,747	3.4	476.0	22		1		1						
直方・鞍手	251.63	105,522	2.1	419.4	12				0						
田川	363.73	119,458	2.3	328.4	16		1		1						
北九州	601.31	1,071,666	21.0	1,782.2	103	3		2	5						
京築	569.16	182,086	3.6	319.9	14				0						
計	4,986.51	5,109,800	100	12,790.6	460	8	5	6	19	0	0	1	2	0	0

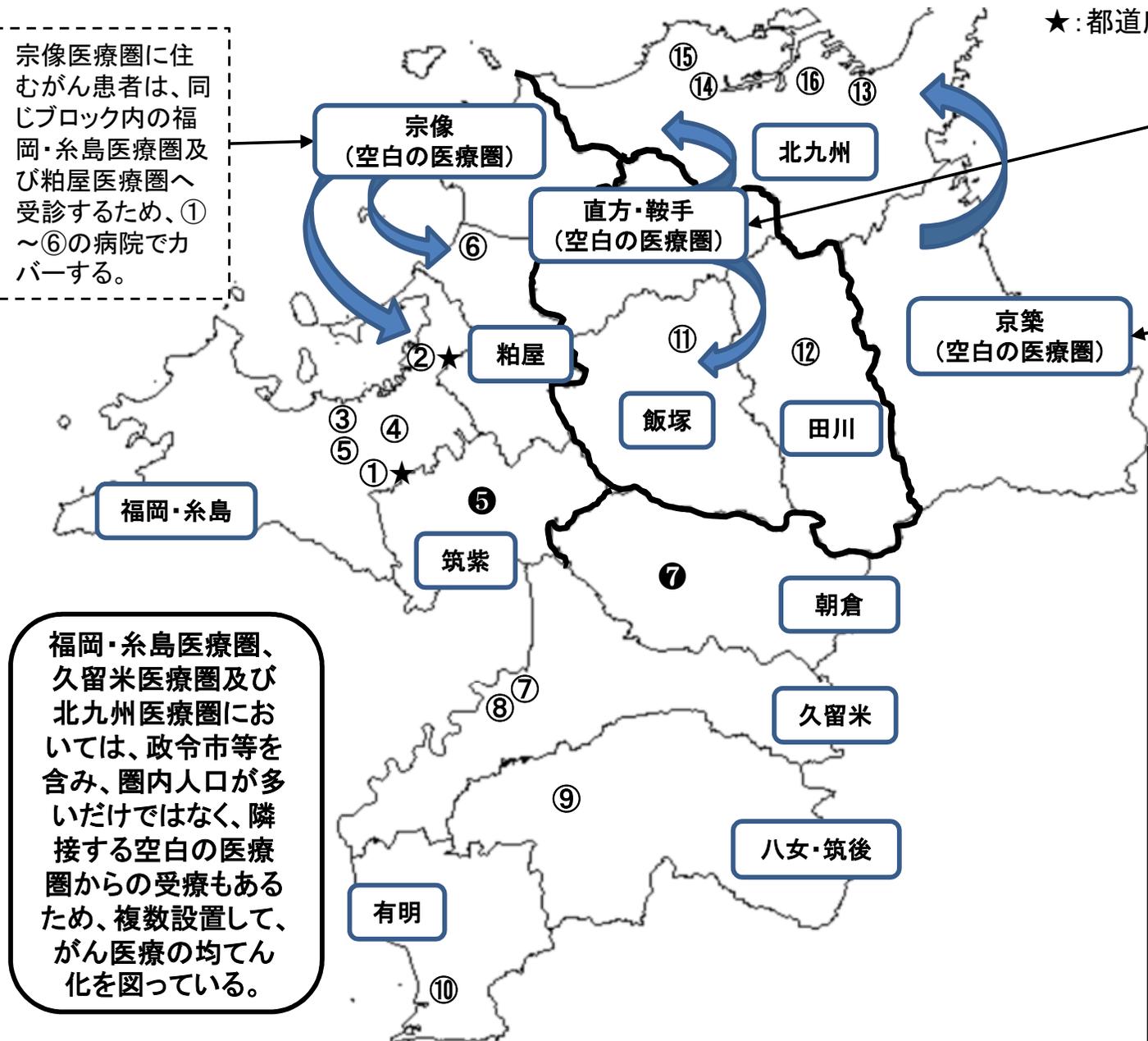
福岡県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

宗像医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の福岡・糸島医療圏及び粕屋医療圏へ受診するため、①～⑥の病院でカバーする。

直方・鞍手医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の飯塚医療圏及び田川医療圏、並びに隣接するブロックの北九州医療圏へ受診するため⑪～⑬の病院でカバーする。

京築医療圏に住むがん患者は、同じブロック内の北九州医療圏へ受診するため、⑬～⑯の病院でカバーする。
なお、県境に隣接して大分県の拠点病院がある。



福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけでなく、隣接する空白の医療圏からの受療もあるため、複数設置して、がん医療の均てん化を図っている。

- | | |
|--------------|-------------|
| ①九州がんセンター★ | (平成31年4月1日) |
| ②九州大学病院★ | (平成31年4月1日) |
| ③九州医療センター | (平成31年4月1日) |
| ④済生会福岡総合病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤福岡大学病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑥福岡東医療センター | (平成31年4月1日) |
| ⑦久留米大学病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑧聖マリア病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑨公立八女総合病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑩大牟田市立病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑪飯塚病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑫社会保険田川病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑬北九州市立医療センター | (平成31年4月1日) |
| ⑭JCHO九州病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑮産業医科大学病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑯戸畑共立病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤福岡大学筑紫病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑦朝倉医師会病院 | (平成31年4月1日) |

県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 福岡・糸島	★	現況	九州がんセンター	(8,601) 8,026	(99.3) 92.3	2,006	(1,332) 1,319	(9,048) 4,756	(1,105) 761	383	15	6,695
2 福岡・糸島	★	現況	九州大学病院	(14,343) 11,237	(55.8) 42.2	3,101	(3,959) 3,368	(24,559) 15,036	(1,213) 1,343	359	25	2,145
3 福岡・糸島	◇	新規	九州医療センター	(5,953) 5,723	(35.3) 32.2	2,560	(1,445) 1,651	(2,327) 2,826	(443) 420	202	15	595
4 福岡・糸島		現況	済生会福岡総合病院	(2,033) 2,243	(17.2) 19.2	1,229	(709) 838	(1,175) 1,223	(236) 344	365	3	1,579
5 福岡・糸島		現況	福岡大学病院	(3,519) 3,691	(17.9) 18.6	1,670	(1,067) 1,043	(2,387) 5,387	(417) 420	190	10	2,562
6 粕屋		更新	福岡東医療センター	(2,579) 1,952	(26.1) 19.6	556	(686) 441	(1,135) 1,098	(215) 215	143	16	554
7 久留米	◇	新規	久留米大学病院	(6,128) 6,253	(31.6) 31.8	2,939	(2,167) 2,129	(2,495) 1,565	(766) 749	184	34	914
8 久留米		現況	聖マリア病院	(2,713) 3,102	(18.0) 17.2	1,312	(584) 483	(1,118) 1,138	(219) 221	219	21	546
9 八女・筑後		更新	公立八女総合病院	(1,179) 1,010	(17.6) 15.6	478	(251) 203	(302) 412	(228) 194	214	37	342
10 有明		更新	大牟田市立病院	(1,900) 1,975	(24.6) 26.3	677	(549) 489	(676) 734	(160) 148	80	70	295 ¹ 301

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
11	飯塚		更新	飯塚病院	(5,330) 5,106	(24.4) 23.9	1,908	(2,102) 2,286	(9,827) 5,932	(374) 392	616	73	350
12	田川		更新	社会保険田川病院	(1,011) 979	(19.8) 18.9	414	(313) 189	(388) 351	(119) 121	75	27	268
13	北九州	◇	新規	北九州市立医療センター	(5,003) 5,062	(47.0) 47.2	2,409	(1,524) 1,679	(3,998) 3,979	(511) 509	106	13	1,100
14	北九州		現況	JCHO九州病院	(4,725) 3,852	(33.6) 28.5	1,645	(1,267) 1,200	(1,588) 1,505	(405) 355	171	12	2,416
15	北九州		現況	産業医科大学病院	(4,939) 5,546	(30.8) 32.6	1,862	(1,716) 1,639	(3,115) 2,568	(829) 890	179	17	754
16	北九州		現況	戸畑共立病院	(1,660) 1,672	(28.1) 28.8	521	(449) 404	(1,051) 1,074	(675) 944	548	5	1,531
17	福岡・糸島		新規	浜の町病院	4,616	35.9	1,042	765	1,769	325	143	13	813
18	福岡・糸島		新規	九州中央病院	2,155	21.9	1,234	777	1,011	255	58	4	238
19	福岡・糸島	◎	新規	原三信病院	2,526	28.5	930	688	1,209	258	57	4	653
20	北九州		新規	九州労災病院	2,374	23.2	883	618	1,116	217	55	5	1,412 296

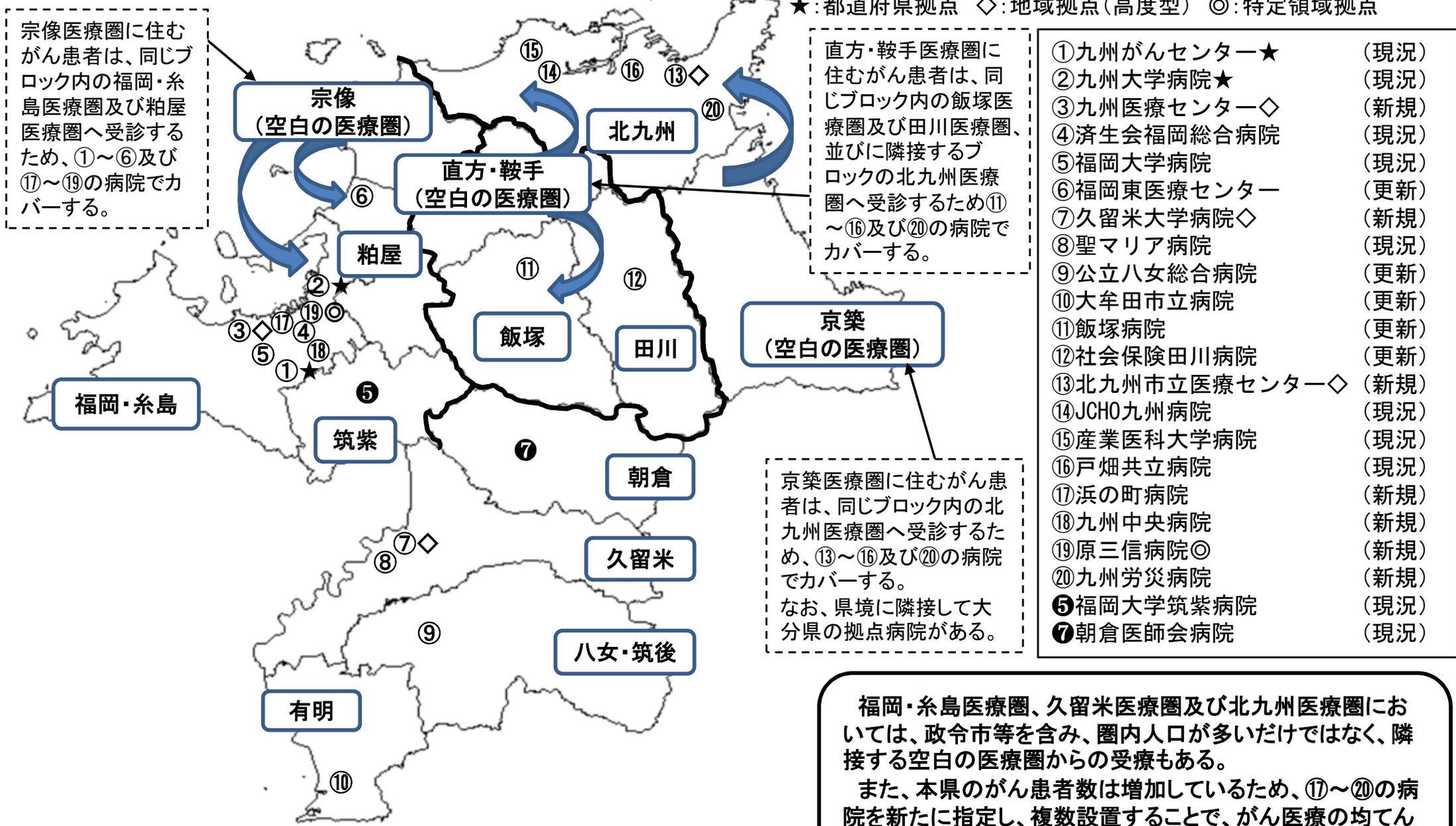
地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑤	筑紫	現況	福岡大学筑紫病院	(1,274) 1,265	(14.3) 14.9	631	(329) 264	(357) 437	実施なし	98	707
⑦	朝倉	現況	朝倉医師会病院	(811) 588	(16.5) 12.8	286	(131) 165	(1,084) 1,765	実施なし	62	737

福岡県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけでなく、隣接する空白の医療圏からの受療もある。
また、本県のがん患者数は増加しているため、⑰～⑳の病院を新たに指定し、複数設置することで、がん医療の均てん化を図る。

福岡県のがん診療連携拠点病院等整備の考え方

1 本県の状況

(1) がん患者等

- ① 本県におけるがんによる死亡者は15,472人（平成30年人口動態統計）、死亡者全体に占める割合は29.0%と、全国平均の27.4%を上回っている。
- ② 「全国がん登録」における平成28年の年齢調整罹患率は420.4と、全国平均の402を上回っている。
- ③ 75歳未満年齢調整死亡率は、全国平均73.6を上回る80.3である。

(2) 医療圏等

- ① 100万人を超える2次医療圏（福岡・糸島、北九州）を有している一方で、指定要件を満たす医療機関がない2次医療圏（宗像、直方・鞍手、京築）が存在している。
- ② 県内の推計入院患者の動向は、ほとんどが当該2次医療圏の所在する4ブロック（福岡、筑後、筑豊、北九州）内で、流入・流出している。また、他県からの流入患者が、10%超の2次医療圏が複数存在している。

2 整備方針

現在2か所の都道府県がん診療連携拠点病院、14か所の地域がん診療連携拠点病院及び2か所の地域がん診療病院を整備している。

(1) 地域がん診療連携拠点病院

県内13の2次医療圏を基準としながら、県内の医療等の状況を踏まえ、引き続き、県内4ブロック単位で整備するという考え方を基本とする。

新規指定においては令和元年9月1日時点で国の指定要件を満たしている病院を推薦することとし、指定更新においては、指定要件を満たしている、または、令和2年3月31日までに要件を満たす見込みがある病院を推薦することとし、3病院（浜の町病院、九州中央病院、九州労災病院）を新規指定推薦、既指定の5病院（福岡東医療センター、公立八女総合病院、大牟田市立病院、飯塚病院、社会保険田川病院）を指定更新推薦する。

(2) 地域がん診療連携拠点病院（高度型）

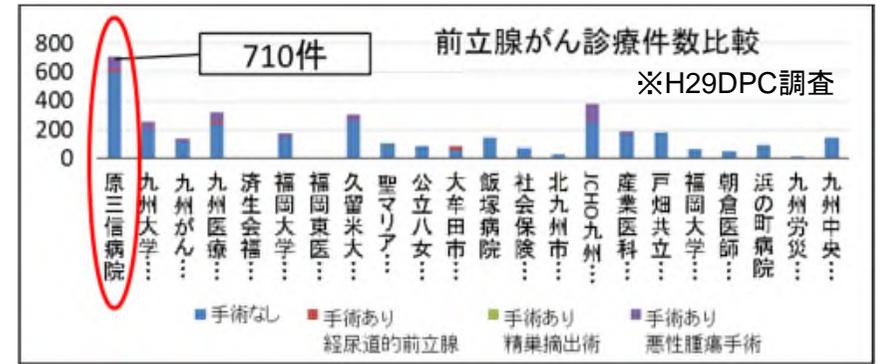
国の指定要件を満たしている病院の中から、同一医療圏の地域がん診療連携拠点病院において総合的に判断して最も優れている病院を推薦することとし、3病院（九州医療センター、久留米大学病院、北九州市立医療センター）を新規指定推薦する。

高度型に指定された病院がそれぞれのブロックにおいて、中心的な役割を果たすことによって、県内のがん医療の高度化が期待できる。

(3) 特定領域がん診療連携拠点病院

国の指定要件を満たしている病院を推薦することとし、前立腺がんの特定領域がん診療連携拠点病院として1病院(原三信病院)を新規指定推薦する。

原三信病院の前立腺がんの診療件数は福岡県内で最も多く、特定領域がん診療連携拠点病院として相応しいため、推薦する。

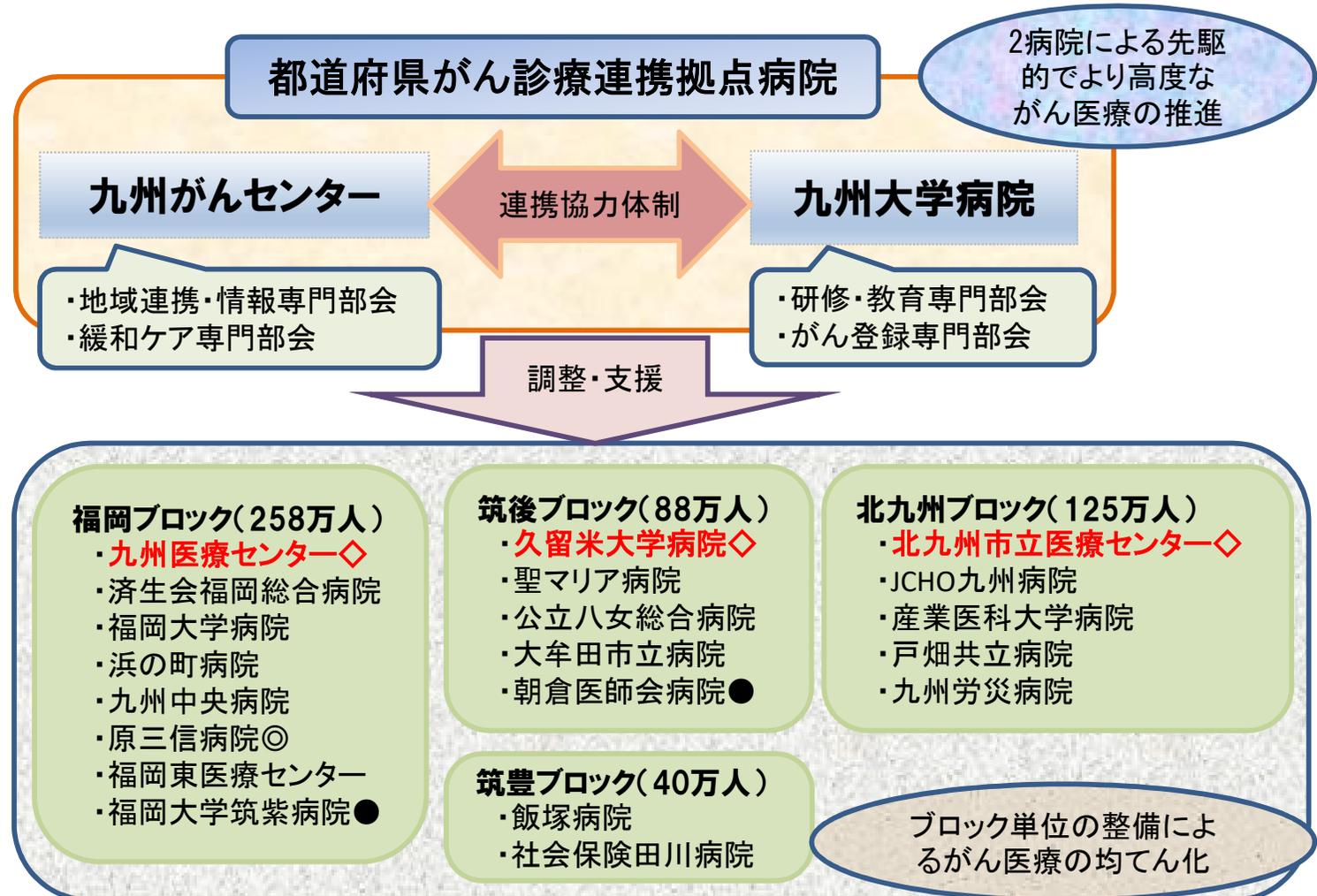


3 総括

本県のがんにかかる状況を踏まえ、「第3期福岡県がん対策推進計画」において、「がんによる死亡率(75歳未満調整死亡率)を6年間で10%減少させること」を数値目標に掲げている。

この達成のためには、全ての県民が県内どこに居ても質の高いがん医療を等しく受けられるがん医療の均てん化が必要不可欠である。

今後とも、県、がん診療連携協議会、拠点病院等との連携・協力体制を強化し、これを推進していく。



佐賀県

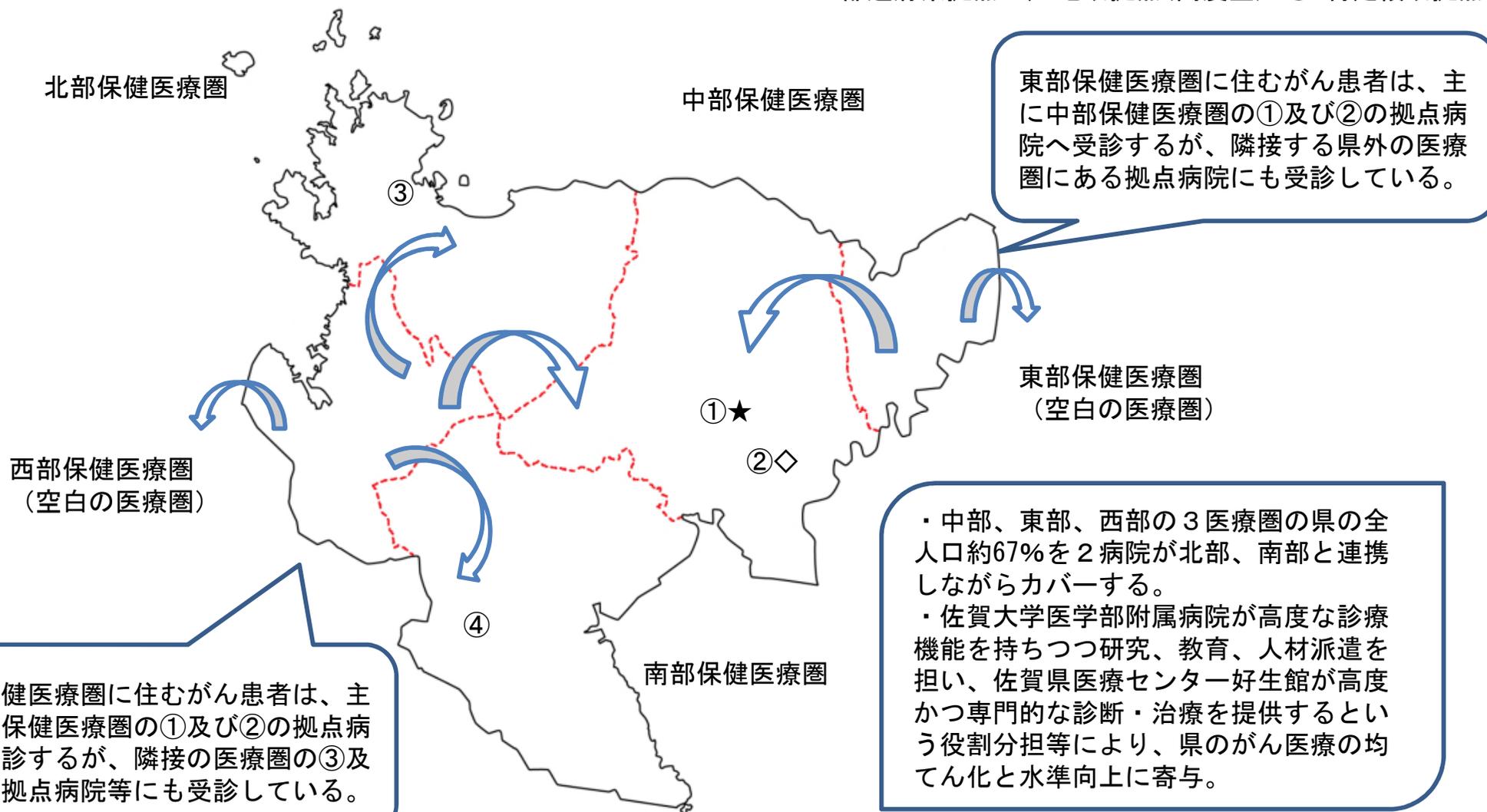
佐賀県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中部保健医療圏	793.73	343,065	42.12	432.2	39	2			2						
東部保健医療圏	158.59	126,622	15.55	798.4	13				0						
北部保健医療圏	523.50	123,346	15.15	235.6	18		1		1						
西部保健医療圏	321.10	72,798	8.94	226.7	11				0						
南部保健医療圏	643.78	148,602	18.25	230.8	22	1			1						
計	2440.7	814,433	100	333.7	103	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0

佐賀県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- | | |
|----------------|-------------|
| ①佐賀大学医学部附属病院★ | (平成31年4月1日) |
| ②佐賀県医療センター好生館◇ | (平成31年4月1日) |
| ③唐津赤十字病院 | (平成31年4月1日) |
| ④嬉野医療センター | (平成31年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

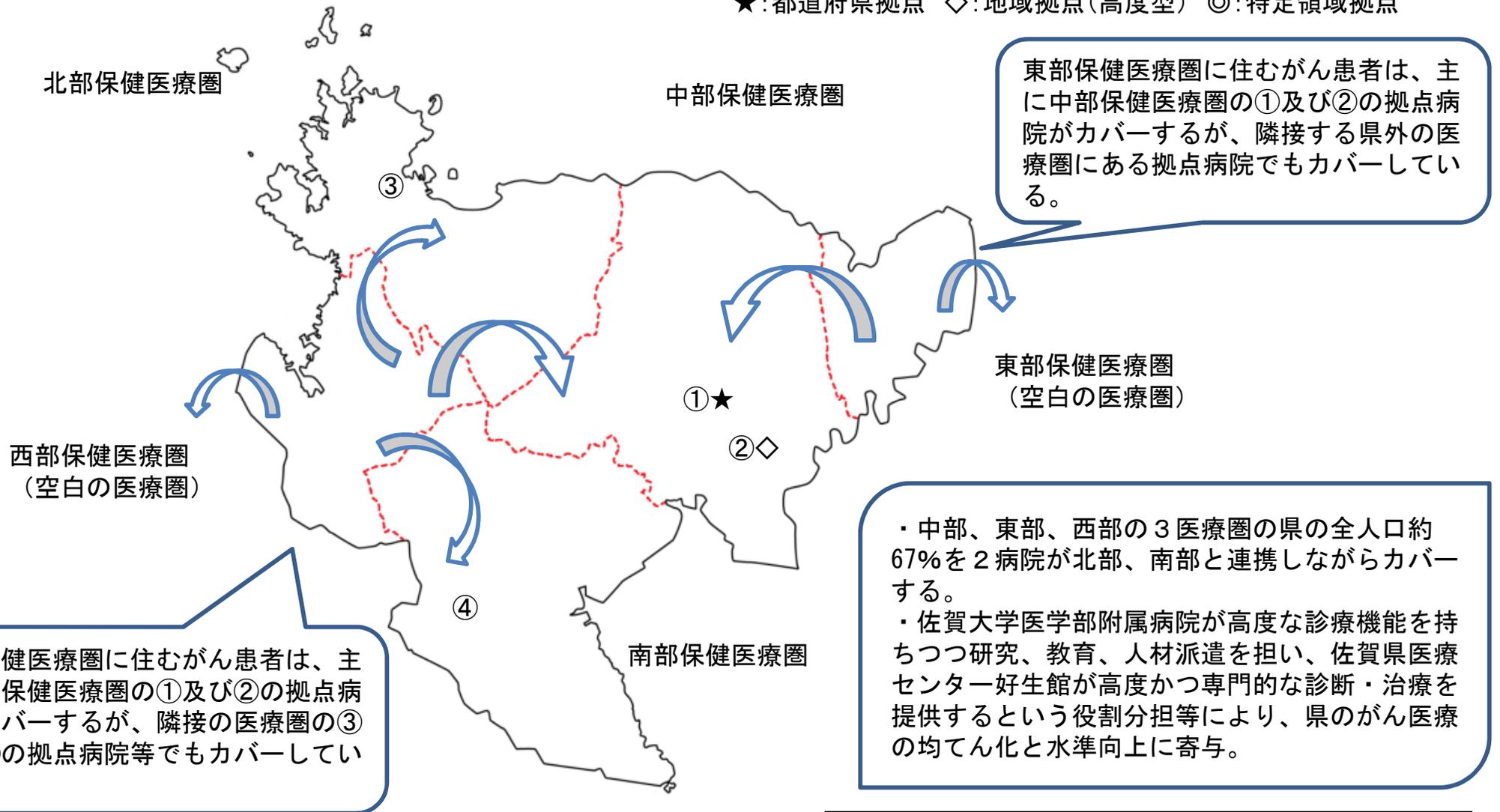
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	中部保健医療圏	★	現況報告	佐賀大学医学部附属病院	3,060	22.3	1,567	853	1,691	350	235	28	2,020
2	中部保健医療圏	◇	現況報告	佐賀県医療センター好生館	3,182	24.5	1,305	905	1,788	392	335	37	6,564
3	北部保健医療圏		更新	唐津赤十字病院	1,485	20.2	628	412	1,011	172	143	62	502
4	南部保健医療圏		現況報告	嬉野医療センター	1,400	15.8	602	413	1,754	299	89	28	1,414

佐賀県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- | | |
|----------------|--------|
| ①佐賀大学医学部附属病院★ | (現況報告) |
| ②佐賀県医療センター好生館◇ | (現況報告) |
| ③唐津赤十字病院 | (指定更新) |
| ④嬉野医療センター | (現況報告) |

今回の推薦等に係る佐賀県の考え方について

佐賀県の現状

- ・ がんによる死亡率（75歳未満年齢調整死亡率）は全国と比較すると高い水準にある。
- ・ がん医療に関し、拠点病院を地域診療の核として、かかりつけ医を支援しながら、県民に等しく質の高いがん医療を提供する。

拠点病院の整備

- ・ 5 医療圏に対し、4 病院が指定されている状況である。
- ・ そのうち、指定期間が1年となっている1病院（唐津赤十字病院）を指定更新として推薦する。
- ・ 人口、医療資源が中部保健医療圏に集中しており、空白の医療圏である西部、東部には指定要件を満たす病院がない。

空白の医療圏への対応が課題

中部、東部、西部の3医療圏で県の全人口の約67%となるが、中部の2病院が北部、南部と連携しながら空白の医療圏のがん患者をカバーする。
⇒ 空白の医療圏である東部・西部保健医療圏については地域がん診療病院設置の検討を行う。

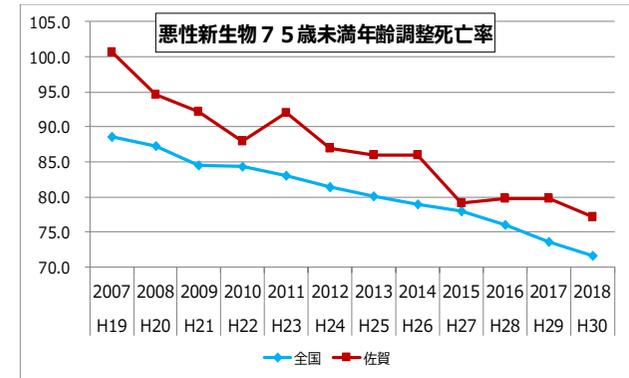
佐賀大学医学部附属病院

高度な診療機能を持ちつつ、研究、教育、県全体のメディカルスタッフの研修及び県内医療機関への人材派遣等の調整

佐賀県医療センター好生館

確立された医療技術に基づいた高度かつ専門的な診断・治療を提供し、地域のかかりつけ医を支援

両院の特色を活かし、協力、連携することで、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与することができる。



医療圏	人口	人口割合(%)	病院数
中部	343,065	42.12	39
西部	72,798	8.94	11
東部	126,622	15.55	13
南部	148,602	18.25	22
北部	123,346	15.15	18
計	814,433	100	103

長崎県

長崎県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
長崎医療圏	697.07	509,406	38.4	730.78	53	1	2		3						
佐世保県央 医療圏	824.20	312,422	23.6	379.06	35		1		1						
県央医療圏	626.12	265,315	20.0	423.74	32	1			1						
県南医療圏	467.35	128,372	9.7	274.68	17		1		1						
五島医療圏	420.04	34,983	2.6	83.28	4				0						
上五島医療圏	239.47	20,354	1.5	85.00	1				0						
壱岐医療圏	139.42	25,521	1.9	183.05	5				0						
対馬医療圏	708.63	29,369	2.2	41.44	2				0						
計	4,122.30	1,325,742	100.0		149	2	4	0	6	0	0	0	0	0	0

長崎県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

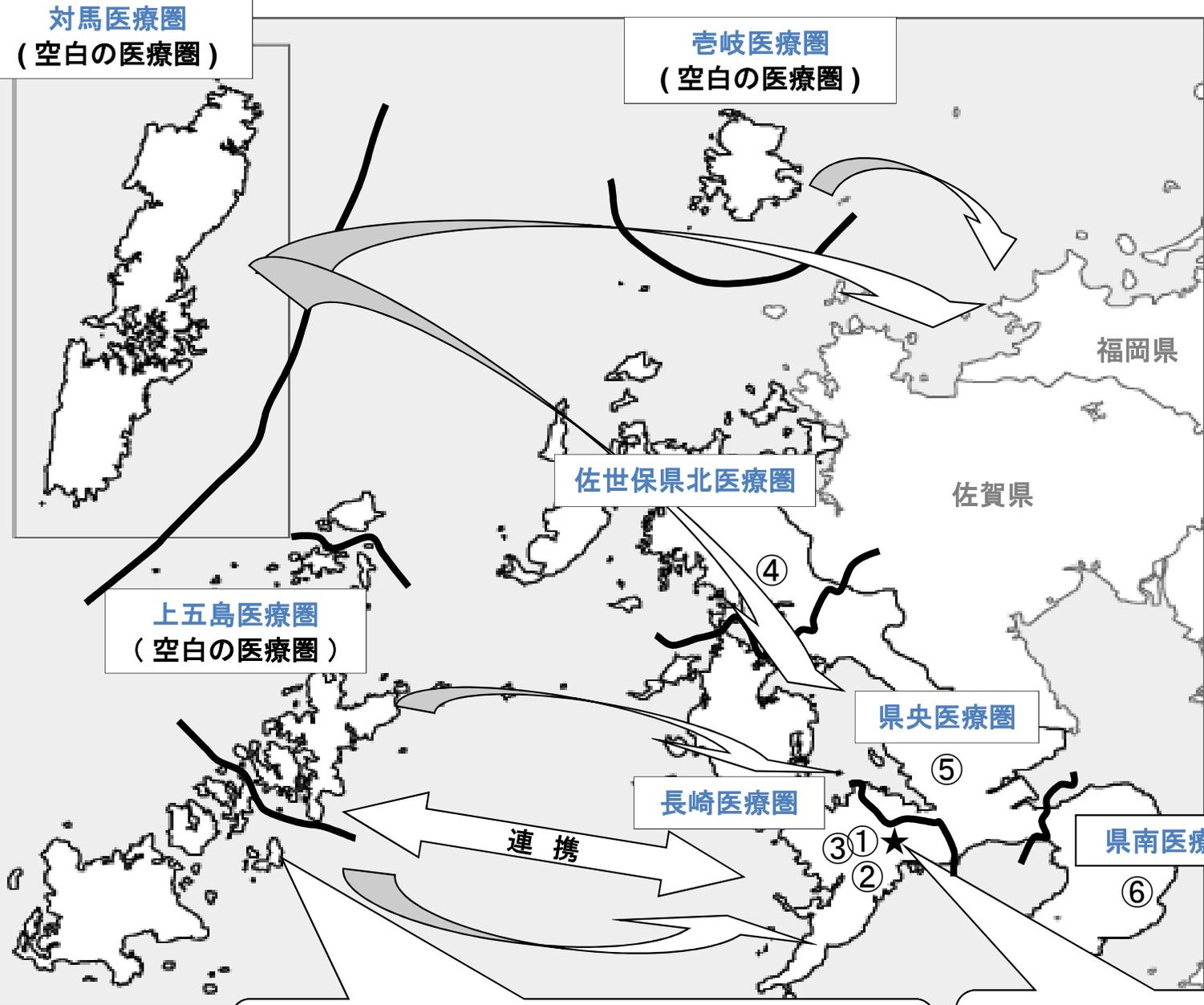
★: 都道府県拠点

- ①長崎大学病院 ★
(平成31年4月1日)
- ②長崎みなとメディカルセンター
(平成31年4月1日)
- ③日本赤十字社 長崎原爆病院
(平成31年4月1日)
- ④佐世保市総合医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑤長崎医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑥長崎県島原病院
(平成31年4月1日)

【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

医療圏数	8ヶ所
拠点病院数	6
現況	2
更新	4
新規	なし



対馬医療圏
(空白の医療圏)

壱岐医療圏
(空白の医療圏)

佐世保県北医療圏

上五島医療圏
(空白の医療圏)

県央医療圏

長崎医療圏

県南医療圏

五島医療圏
(空白の医療圏)

五島並びに上五島医療圏は、医療圏内のがん診療離島中核病院と、本土地区の長崎みなとメディカルセンター並びに日本赤十字社 長崎原爆病院等が中心となり支援

長崎大学病院は、県全体の調整と連携支援、並びに人材育成等に主導。長崎県がん診療連携協議会を主宰。

連携



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

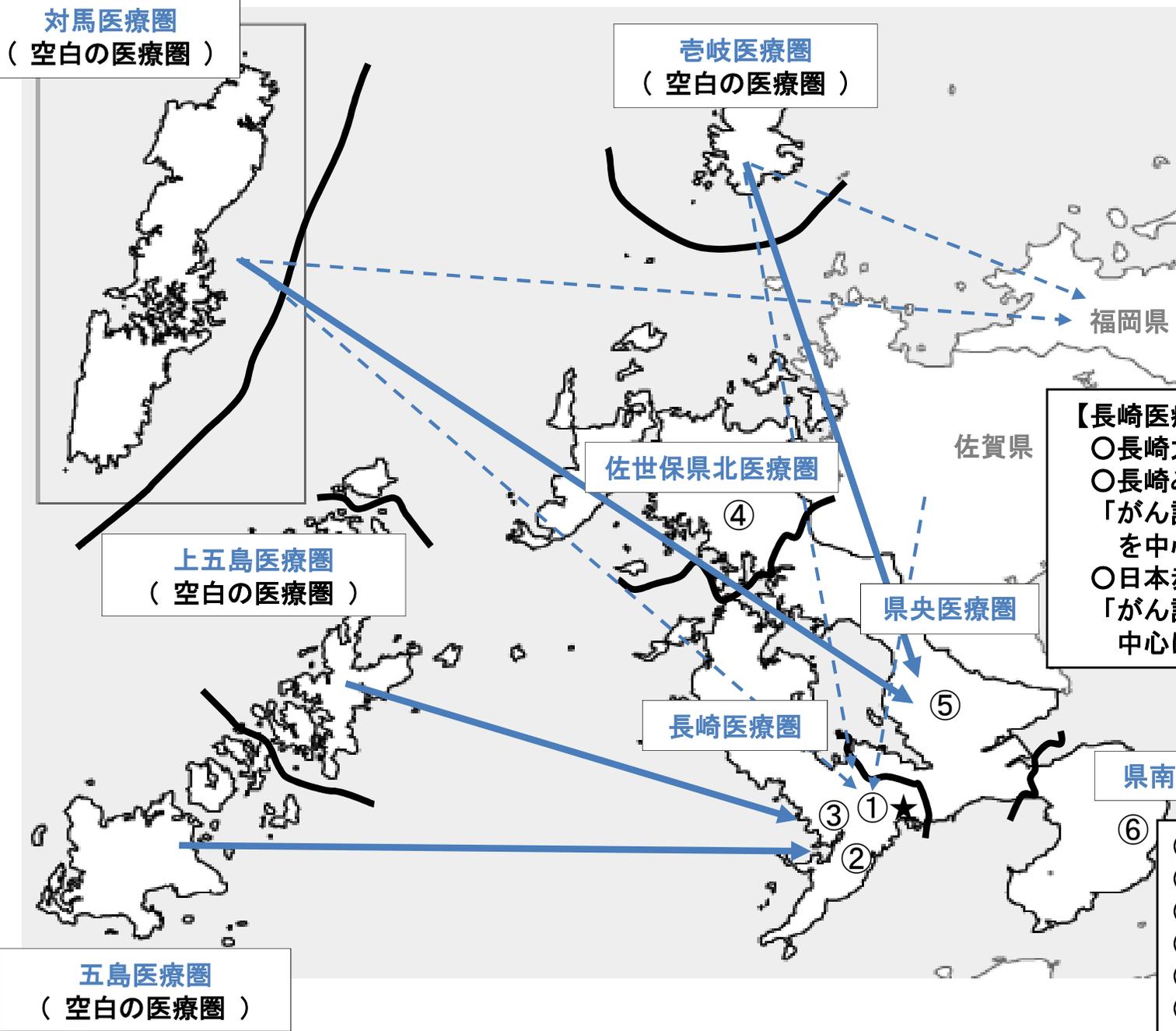
資料3-1-①

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 長崎医療圏	★	現況	長崎大学病院	(5,943) 6,363	(31.1) 32.6	(2,315) 2,436	(1,937) 2,093	(2,776) 2,957	(685) 614	(382) 410	(35) 44	(662) 707
2 長崎医療圏		更新	長崎みなとメディカルセンター	(2,674) 2,735	(22.5) 23.0	(1,088) 1,017	(776) 715	(955) 1,012	(320) 385	(130) 249	(19) 19	(1,705) 1,763
3 長崎医療圏		更新	日本赤十字社長崎原爆病院	(2,602) 2,727	(34.1) 35.4	(1,087) 1,033	(761) 741	(1,082) 1,132	(382) 135 ※病院建替のため	(61) 63	(22) 19	(985) 1,102
4 佐世保 県北医療圏		更新	佐世保市総合医療センター	(4,021) 4,111	(31.5) 30.9	(1,615) 1,618	(1,371) 1,373	(3,302) 3,358	(428) 463	(273) 288	(41) 49	(1,621) 835
5 県央医療圏		現況	長崎医療センター	(4,231) 3,998	(27.6) 25.4	(1,625) 1,364	(897) 914	(1,390) 1,212	(490) 385	(153) 126	(49) 55	(908) 1,102
6 県南医療圏		更新	長崎県島原病院	(1,512) 1,276	(30.8) 30.6	(654) 439	(410) 420	(677) 741	(149) 181	(329) 277	(62) 53	(1,129) 810

長崎県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



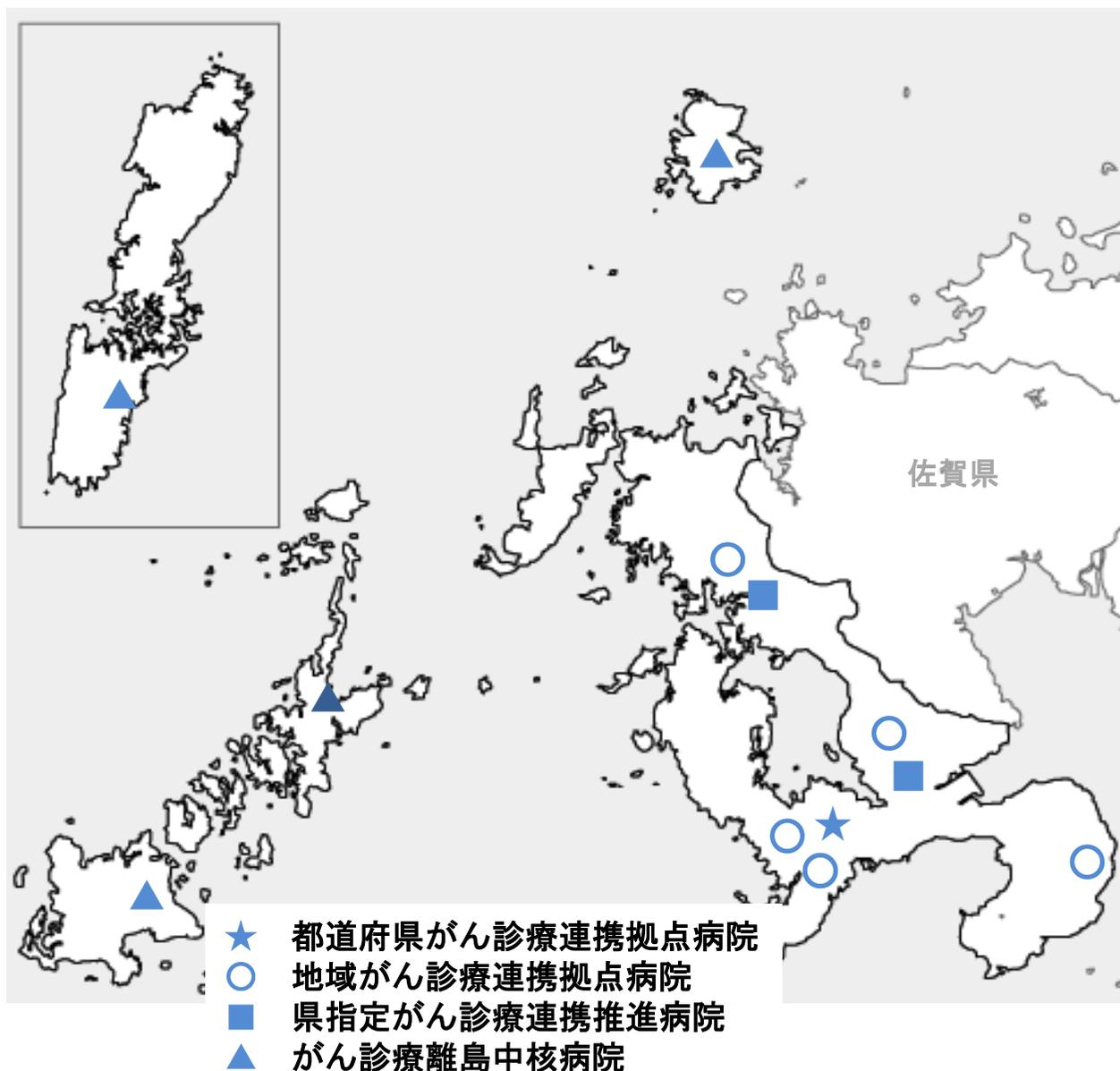
★:都道府県拠点
 空白の医療圏である4つの離島医療圏は、第1期長崎県がん対策推進計画において位置づけたがん診療離島中核病院と本土地域の地域がん診療病院が連携し、がん医療の質の向上と均てん化を図っている。但し、壱岐・対馬医療圏については、経済圏の関係から、一部の患者は、福岡県の医療機関で受療している。

【長崎医療圏複数指定の理由】
 ○長崎大学病院 都道府県拠点病院
 ○長崎みなとメディカルセンター
 「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」を中心に主に五島医療圏と連携
 ○日本赤十字社 長崎原爆病院
 「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

- ①長崎大学病院 ★ (現況)
- ②長崎みなとメディカルセンター (更新)
- ③日本赤十字社長崎原爆病院 (更新)
- ④佐世保市総合医療センター (更新)
- ⑤長崎医療センター (現況)
- ⑥長崎県島原病院 (更新)

今回の指定推薦等に係る長崎県の考え方

長崎県のがん医療提供体制



人口 約132.5万人
医療圏 8か所（本土4か所 離島4か所）

本県のがん医療は、以下の病院の連携により提供【国指定】

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
長崎大学病院（長崎医療圏）
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
長崎みなとメディカルセンター（長崎医療圏）
日本赤十字社 長崎原爆病院（長崎医療圏）
佐世保市総合医療センター（佐世保県北医療圏）
長崎医療センター（県央医療圏）
長崎県島原病院（県南医療圏）

【県指定】

※国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件をほぼ充足

- ・ がん診療推進病院
諫早総合病院（県央医療圏）
佐世保中央病院（佐世保県北医療圏）

【長崎県がん対策推進計画で位置づけ】

- ・ がん診療離島中核病院
長崎県五島中央病院
長崎県上五島病院
長崎県壱岐病院
長崎県対馬病院

【 長崎県が目指すがん医療連携体制 】

■現状

本県の医療圏の半数は、国指定の拠点病院等がない空白の医療圏で、医療資源の偏在が課題である。空白の医療圏は、全て離島で、近隣の医療圏とは隣接しておらず、支援には多くの課題がある。県指定がん診療連携推進病院は、地域がん診療連携拠点病院の要件をほぼ充足（一部未充足）し、本県のがん医療の一翼を担っているが、同一医療圏に国指定地域がん診療連携拠点病院があり、現時点で新たに指定を受けるのは困難な状況にある。なお、当該医療圏の既指定がん診療連携拠点病院は、更に医療提供体制を充実し、将来的には高度型指定を目指している医療機関である。

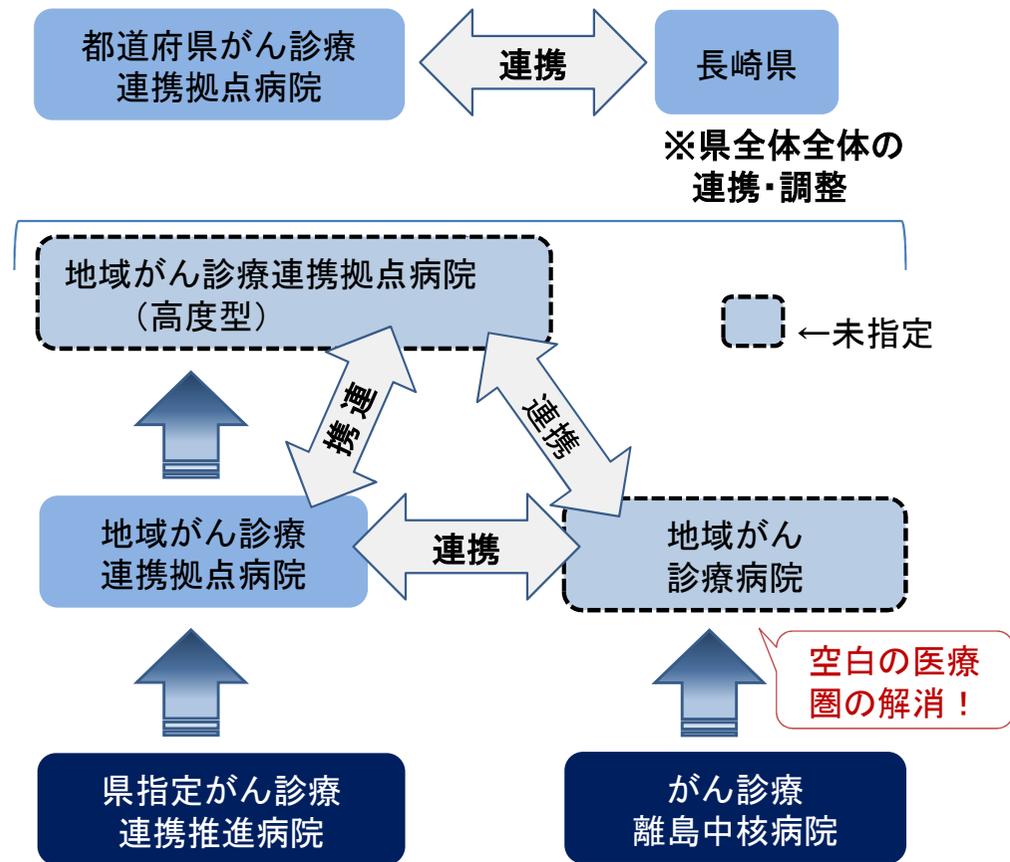
■今後の整備方針

施設規模や人員配置等、要件を充足するには数年を要する見込みではあるが、全てのがん診療離島中核病院が「地域がん診療病院」の指定を順次受けられるよう関係機関と協議を進めている。また、空白の医療圏との連携は、患者受療動向も錯綜していることから、1拠点病院の支援では限界があるため、全ての要件を充足したうえで、県指定がん診療連携推進病院を地域がん診療連携拠点病院に推し、本土地区の体制強化を図ったうえで、複数の医療機関による空白（離島）の医療圏の支援体制を構築したい。

■長崎医療圏に対する考え方

長崎市は南北に長く、患者動向からみると概ね3病院に分かれて受療。各医療機関は、それぞれの特徴を活かした分野を中心に重責を担っており、本県のがん医療に必要な不可欠な医療機関である。

- ・長崎みなとメディカルセンター
主に五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（南部地域）の中核病院としての実績とともに、サイバーナイフ導入等先進治療の一翼を担う。
- ・日本赤十字社 長崎原爆病院
被爆県である本県の特殊性から、被爆者（・二世）に対するがん診療の実績が多い。主に上五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（北部地域）の中核病院としての役割を担う。緩和ケア病床を新設予定であり、緩和ケア医療の充実を図っている。
- ・長崎大学病院
県全域（一部、佐賀県等を含む）のがん診療の質の向上に貢献。特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに都道府県拠点病院として県内のがん診療医療従事者研修の企画・開催等、人材育成において主導的な立場を担っている。また、がん診療連携協議会において中心的役割を果たしている。



熊本県

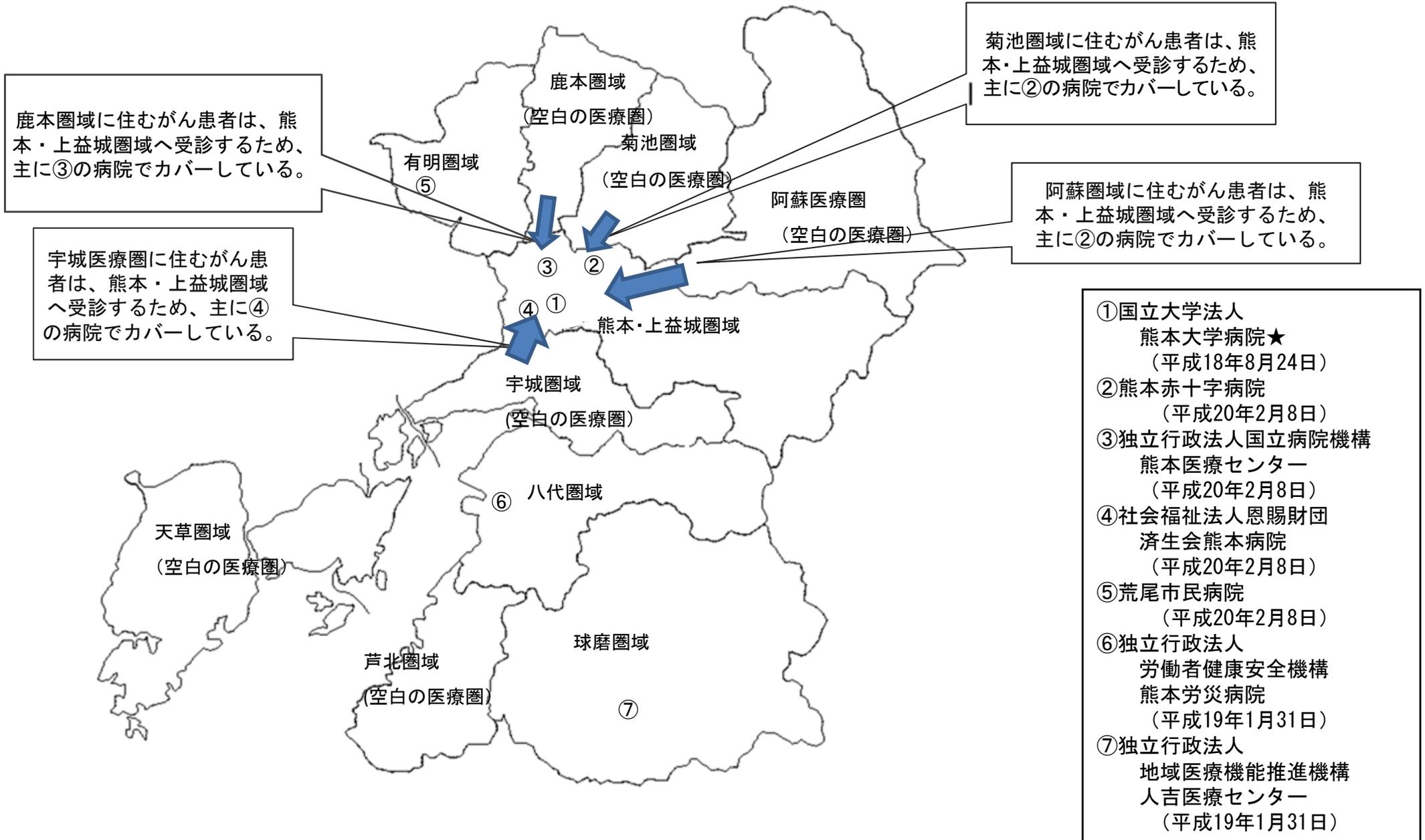
熊本県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						今回更新病院数	新規申請病院数	計	既指定病院数	計	既指定病院数	計
熊本上益城	1,174.3	822,747	46.6%	700.6	108	2	0	2	0	0	0	0
宇城	406.9	105,006	5.9%	258.1	12	0	0	0	0	0	0	0
有明	421.4	158,346	9.0%	375.8	11	1	0	1	0	0	0	0
鹿本	299.7	51,237	2.9%	171.0	6	0	0	0	0	0	0	0
菊池	466.6	183,447	10.4%	393.2	16	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇	1,079.6	61,827	3.5%	57.3	6	0	0	0	0	0	0	0
八代	714.7	137,589	7.8%	192.5	12	1	0	1	0	0	0	0
芦北	431.4	46,124	2.6%	106.9	11	0	0	0	0	0	0	0
球磨	1,536.6	86,261	4.9%	56.1	13	1	0	1	0	0	0	0
天草	878.4	112,934	6.4%	128.6	18	0	0	0	0	0	0	0
計	7,409.6	1,765,518.0	100.0%	238.3	213	5	0	5	0	0	0	0

熊本県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

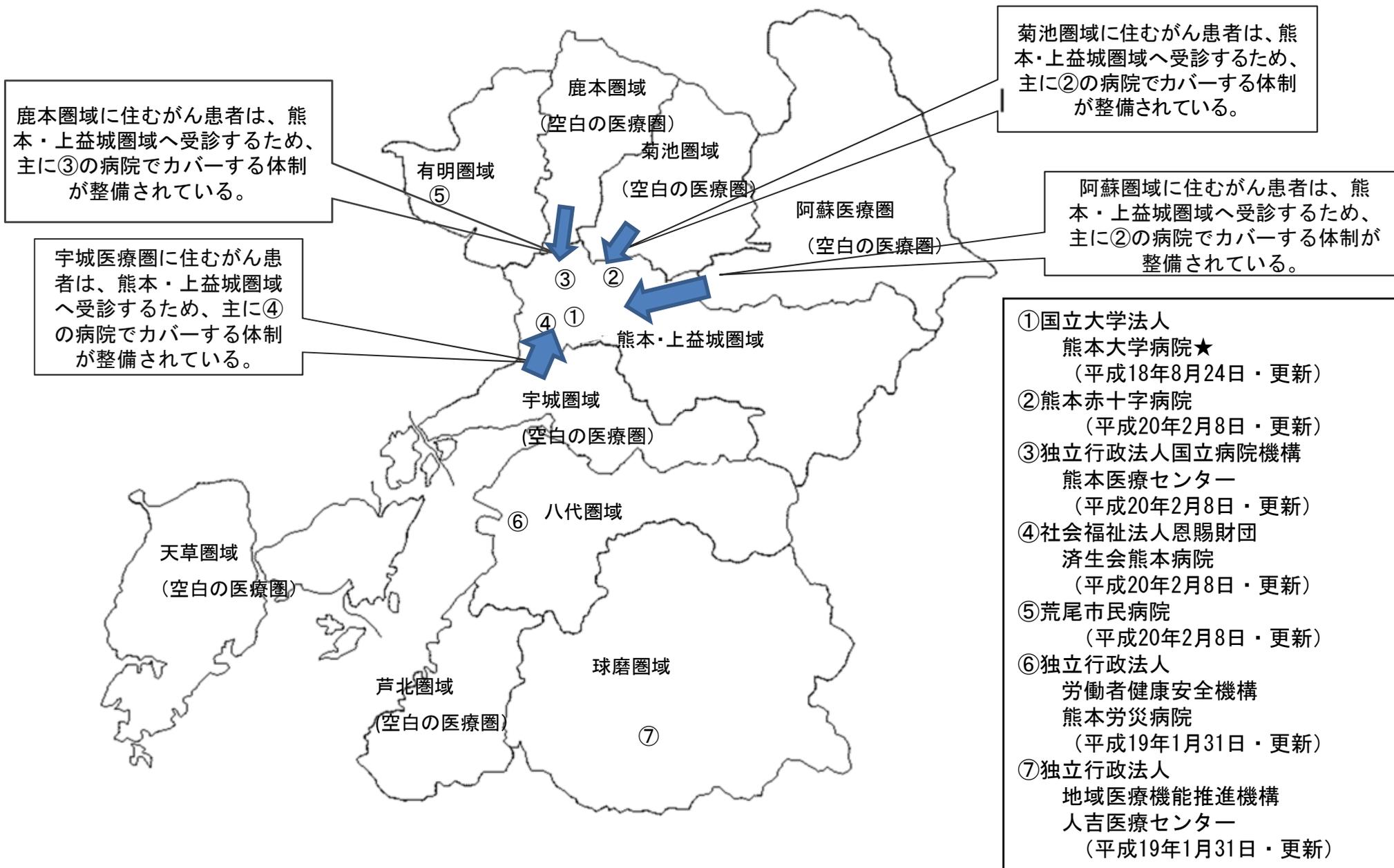
・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

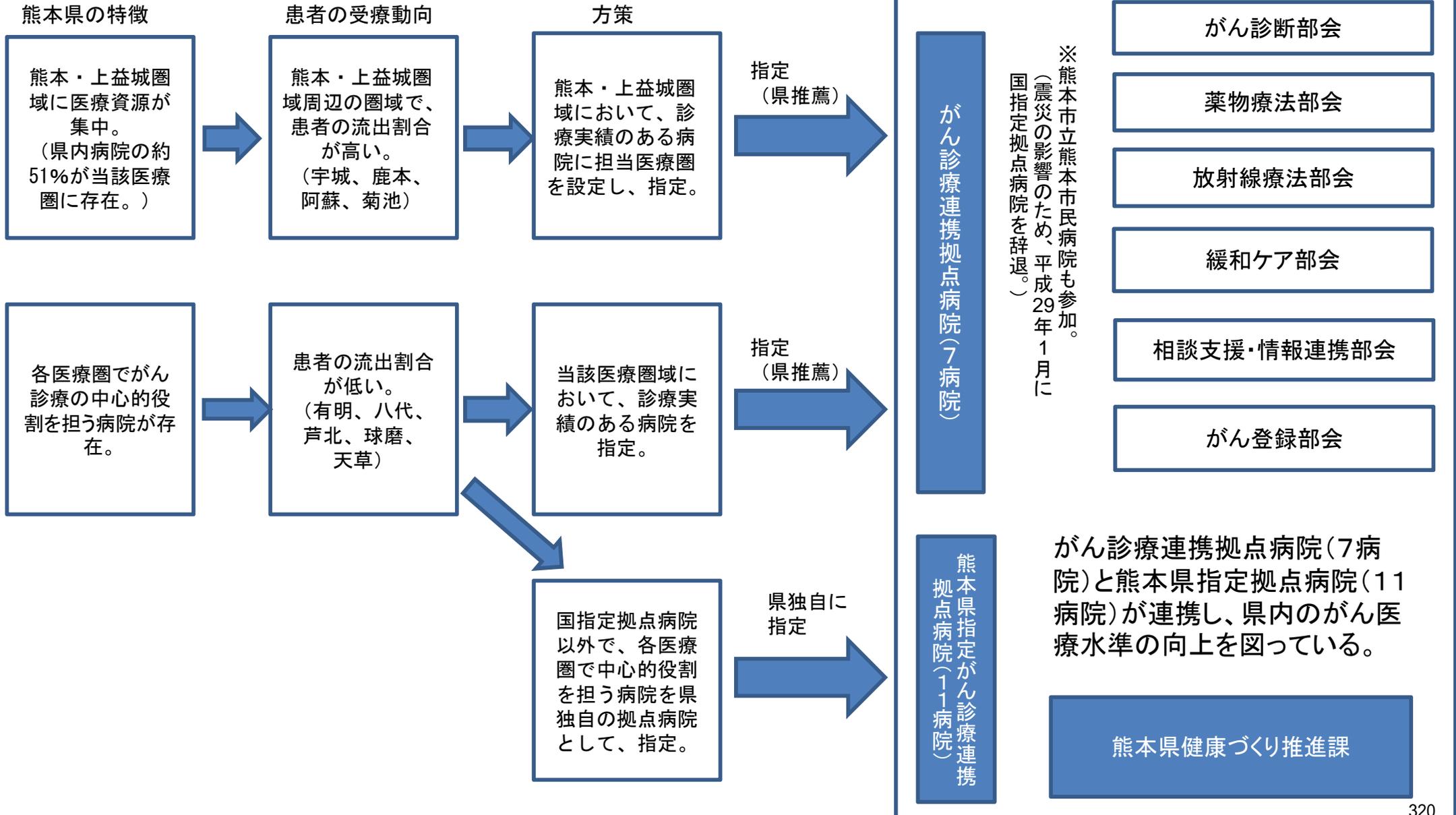
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の 手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新 規介入患者数 (年間) 50人以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新 入院がん 患者数	年間新入院患者 数に占めるがん 患者の割合(%)							
1	熊本・上 益城	★	更新	熊本大学 病院	(3,425) 4,067	(18.8) 22.0	2,381	(3,386) 3,139	(1,914) 2,010	(617) 704	422	15	2,723
2	熊本・上 益城		報告	熊本赤十 字病院	(2,796) 3,058	(15.7) 17.2	1,467	(1,099) 1,156	(1,574) 1,658	(513) 450	131	9	528
3	熊本・上 益城		更新	熊本医療 センター	(3,007) 3,078	(20.5) 21.1	1,413	(946) 1,033	(1,134) 1,396	(373) 385	93	13	726
4	熊本・上 益城		報告	済生会熊 本病院	(2,468) 2,486	(17.0) 16.6	1,343	(1,200) 1,318	(1,402) 1,318	(326) 398	235	15	1,014
5	有明		更新	荒尾市民 病院	(556) 661	(14.2) 15.8	364	(189) 218	(332) 290	(143) 141	140	28	351
6	八代		更新	熊本労災 病院	(1,534) 1,722	(16.6) 18.4	625	(401) 435	(455) 364	(112) 128	32	48	1,802
7	球磨		更新	人吉医療 センター	(1,098) 1,075	(16.2) 16.2	533	(354) 318	(665) 718	(117) 129	38	70	1,017

熊本県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



熊本県におけるがん診療体制について



大分県

大分県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	803.83	205,414	18.0	255.54	34		1		1						
中部医療圏	1192.39	565,403	49.5	474.18	62		2	1	3						
南部医療圏	903.12	69,022	6.0	76.43	8		0		0						
豊肥医療圏	1080.67	55,579	4.9	51.43	7		0		0						
西部医療圏	1223.91	87,670	7.7	71.63	20		1		1						
北部医療圏	1136.82	159,855	14.0	140.62	24		1		1						
計	6340.74	1,142,943	100	180.2539	155	0	5	1	6	0	0	0	0	0	0

大分県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



豊肥・南部医療圏に住むがん患者は、中部医療圏へ受診するため、③と④の病院でカバーする。

- | | |
|------------------------|-------------|
| ①独立行政法人国立病院機構 別府医療センター | (平成31年4月1日) |
| ②大分大学医学部附属病院★ | (平成31年4月1日) |
| ③大分県立病院 | (平成31年4月1日) |
| ④大分赤十字病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤大分県済生会日田病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑥中津市立中津市民病院 | (平成31年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

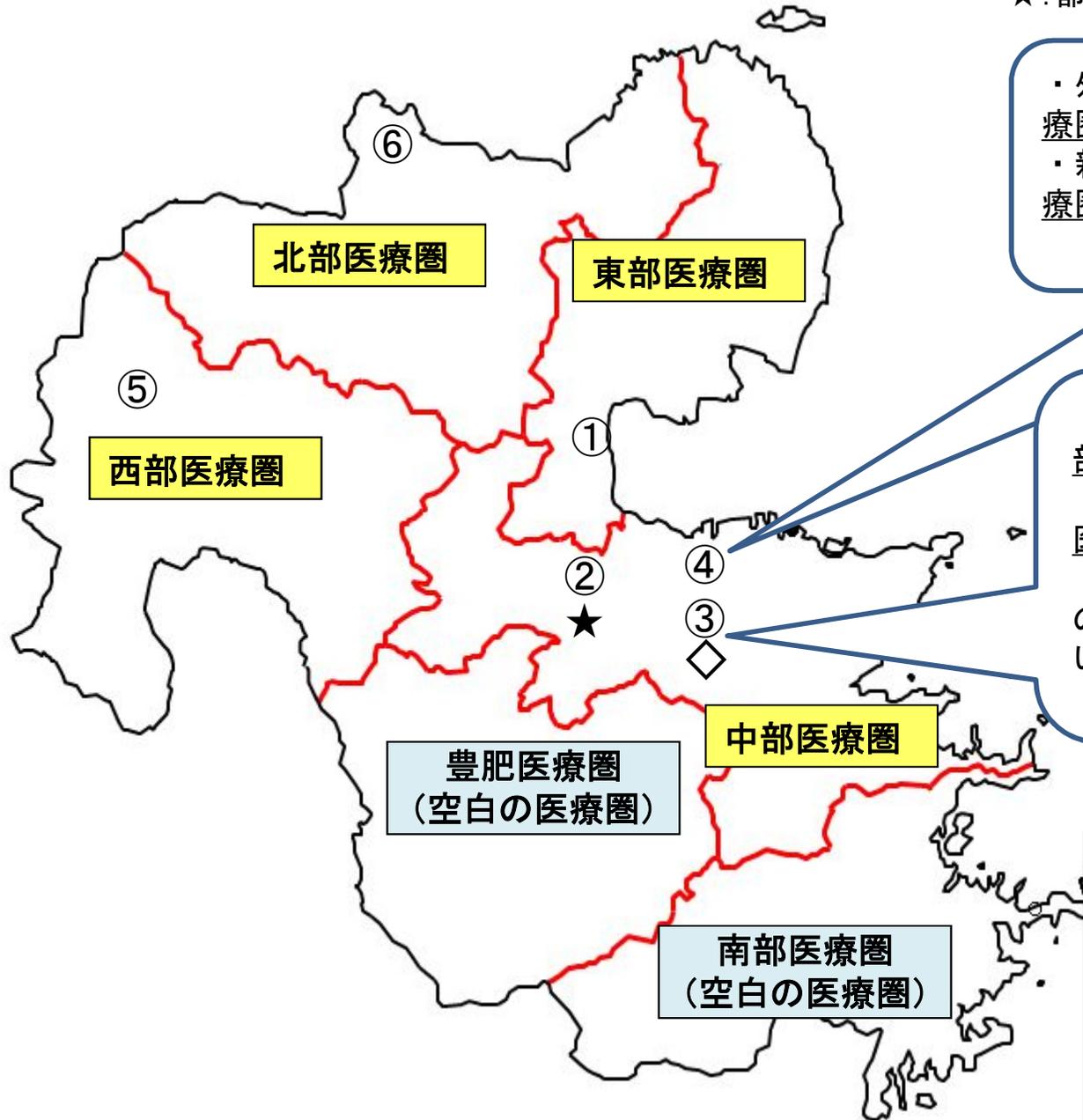
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 400件以上	がんに係る薬物療法 1000人以上	放射線治療 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 東部		更新	別府医療センター	(2,105) 1,964	(23.3) 22.2	839	(436) 472	(1,026) 995	(181) 205	80	40	3,289
2 中部	★	更新	大分大学附属病院	(4,726) 4,997	(41.2) 39.0	1,678	(1,196) 1,437	(1,784) 2,196	(266) 311	159	23	738
3 中部	◇	新規	大分県立病院	(4,040) 4,078	(32.5) 32.6	1,410	(849) 814	(2,160) 2,383	(424) 423	117	28	761
4 中部		更新	赤十字病院	(2,264) 2,298	(27.7) 26.1	812	(649) 651	(1,939) 2,202	(190) 209	181	16	602
5 西部		更新	済生会日田病院	(761) 724	(25.2) 23.6	220	(86) 105	(279) 317	(108) 86	99	54	184
6 北部		更新	中津市民病院	(1,850) 1,691	(25.4) 22.7	512	(398) 414	(1,401) 972	(210) 209	54	34	1,175

大分県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



・外来延べ患者数(27,504人)の内、豊肥・南部医療圏の患者数の割合は8.1%

・新規入院患者数(2,298人)の内、豊肥・南部医療圏の患者数の割合は10.7%

・外来延べ患者数(51,550人)の内、豊肥・南部医療圏の患者数の割合は13.3%

・新規入院患者数(4,078人)の内、豊肥・南部医療圏の患者数の割合は19.9%

・③の病院は、高度な機能(高度な放射線治療の提供や緩和ケアセンターの整備等)を有していることから、高度型として推薦する。

- ①独立行政法人国立病院機構別府医療センター (更新)
- ②大分大学医学部附属病院★ (更新)
- ③大分県立病院◇ (新規)
- ④大分赤十字病院 (更新)
- ⑤大分県済生会日田病院 (更新)
- ⑥中津市立中津市民病院 (更新)

今回の指定推薦の考え方(1)

大分県の現状

- 平成20年3月に「大分県がん対策推進計画」を策定し、「がんによる死亡者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」を全体目標として、がん診療連携拠点病院の整備など、がん対策を推進してきた。
- 今回の指定推薦(うち1施設は高度型として新規推薦)する6つのがん診療連携拠点病院については、県内におけるがん対策の拠点として、県全体のがん医療水準の向上、均てん化に大きな役割を果たしてきた。
- 平成30年3月に策定した「大分県がん対策推進計画(第3期)」では、「がん予防」と「がん医療の充実」を新たに目標に加え、さらなるがん対策に取り組むこととしており、その達成に向けて、現在の1県拠点病院・6圏域5地域拠点病院体制は必要不可欠のものとなっている。

今回の指定推薦の考え方

○都道府県がん診療連携拠点病院について

大分大学医学部附属病院は、「地域がん診療連携拠点病院」間の連携を図り、連携協力体制や医師派遣などの診療派遣、情報の共有化、県全体の医療従事者に対する積極的な研修の開催等、高度のがん医療の均てん化に大きく寄与しており、その役割を十分に果たしているため推薦するもの。

○地域がん診療連携拠点病院について

本県の医療圏は「東部」、「中部」、「南部」、「豊肥」、「西部」、「北部」の6医療圏で構成され、「南部」、「豊肥」の2医療圏は拠点病院のない空白医療圏となっている。

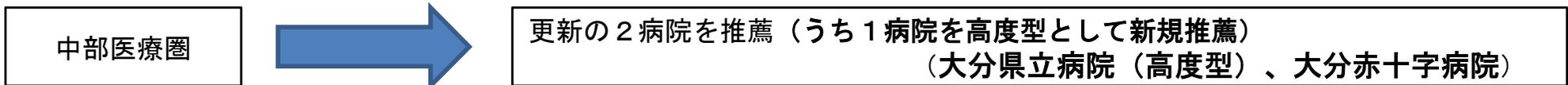
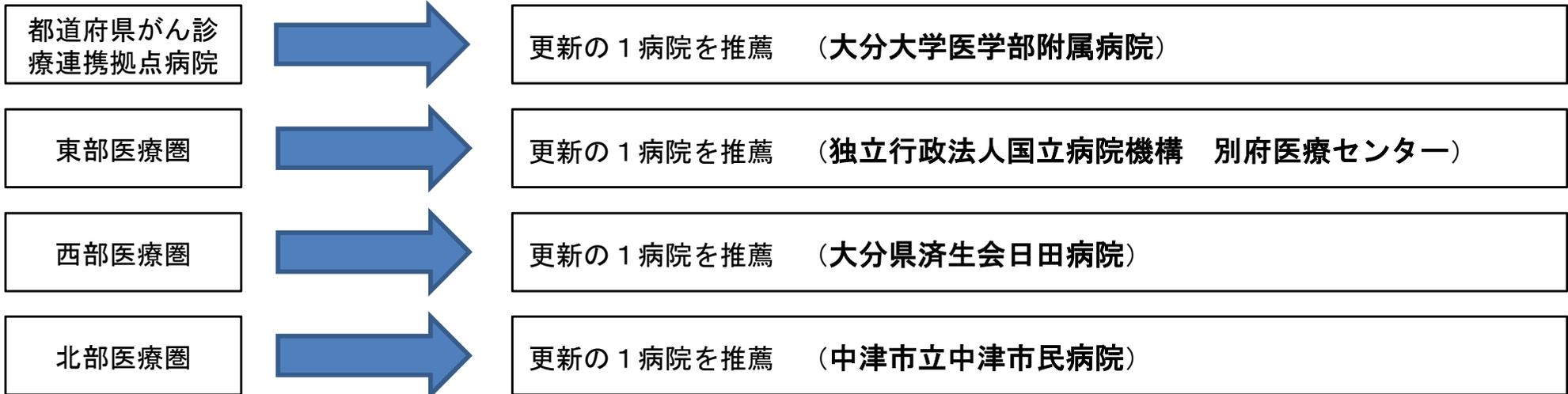
本県の病院・診療所の数、医師等の人数等は、東部、中部医療圏に約半数が集中しており、医療資源の集中化が見られる。特に、中部医療圏内の人口は、約56万5千人で本県人口(約114万人)の約半数を占めている。さらに高速道路網等の道路整備により、中部医療圏内の病院での受療の増加が見られるため、中部医療圏の拠点病院の整備はさらに充実・強化が必要であると考えている。

今回も、南部、豊肥の各医療圏とも指定要件を充たす病院がなく、両医療圏とも高速道路等の整備促進により、中部医療圏の医療機関での受療動向が高くなっている。

以上のことから、中部医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」については、今回も2つの病院を推薦し、本県のがん医療に対する体制を維持・強化していきたいと考えている。特に今回は複数のがん診療連携拠点病院のある中部医療圏において、1病院を新たに高度型として推薦することで、各々の病院の診療機能を分類し、更なる診療機能強化を図るものである。

また、「東部」、「西部」、「北部」の各医療圏についても、これまでの実績及び他に指定要件を充足する病院が無いことから更新の病院を推薦している。

今回の指定推薦の考え方(2)



(空白医療圏)
南部医療圏
豊肥医療圏

**中部医療圏の各拠点病院が、それぞれの特色を発揮し連携することにより、
県全体のがん医療の水準の向上・均てん化を目指す**

大分大学医学部附属病院 (都道府県拠点病院)
 ・ 県連携拠点病院として地域拠点病院との連携を図る
 ・ 研究機関として5大がん以外の多部位に渡って治療

大分県立病院 (地域拠点「高度型」)
 ・ 県民医療の中核病院
 ・ 五大がん全般に高い手術実績の他、子宮頸部等婦人科系がん、小児がん等の治療にも積極的対応
 ・ ライナック、SPECT・CT等の最新の機器の整備
 ・ 緩和ケアセンター整備、相談支援センター体制強化
 ・ 空白医療圏の豊肥・南部を支援 (高度型として、診療機能強化を図ることで更にカバーする)

大分赤十字病院 (地域拠点)
 ・ 大分市中心部に位置する公的病院
 ・ 胃・大腸、肝・胆・膵の消化器がん手術に優れ、高い手術実績
 ・ 県内の緩和ケア提供体制の整備、緩和ケアの充実等に大きく貢献
 ・ 空白医療圏の豊肥・南部を支援

宮 崎 県

宮崎県がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県央がん医療圏	2,023	521,402	48.6%	257.7	51		2		2						
（宮崎東諸県）	869	423,917	39.5%	487.5	41		2		2						
（西都児湯）	1,154	97,485	9.1%	84.5	10				0						
県南がん医療圏	831	68,500	6.4%	82.4	12				0						
（日南串間）	831	68,500	6.4%	82.4	12				0						
県北がん医療圏	3,186	225,021	21.0%	70.6	33				0						
（延岡西臼杵）	1,555	138,536	12.9%	89.1	20				0						
（日向入郷）	1,631	86,485	8.1%	53.0	13				0						
県西がん医療圏	1,695	257,354	24.0%	151.9	44		1		1						
（都城北諸県）	763	186,420	17.4%	244.2	28		1		1						
（西諸）	931	70,934	6.6%	76.2	16				0						
計	7,735	1,072,277	100%	138.6	140	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0

宮崎県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①宮崎県立宮崎病院（平成31年3月25日）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（平成31年3月25日）
- ③国立病院機構都城医療センター（平成31年3月25日）

★：都道府県拠点

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院で、カバーしている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	県央		更新	宮崎県立宮崎病院	(2,136) 2,387	(20.1) 21.3	1,407	(960) 900	(1,124) 1,267	(262) 285	169	20	296
2		★	更新	宮崎大学医学部附属病院	(3,381) 3,318	(28.2) 27.8	1,473	(1,504) 1,263	(1,367) 1,657	(509) 428	133	28	2,158
3	県西		更新	都城医療センター	(1,303) 3,145	(19.6) 46.8	981	(455) 427	(4,848) 2,197	(196) 206	83	44	1,626

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

該当ありません

宮崎県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ①宮崎県立宮崎病院（更新）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（更新）
- ③国立病院機構都城医療センター（更新）

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、引き続き、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院でカバーする。

今回の指定推薦等に係る本県の考え方

宮崎県の地域特性

- 地理的制約 . . . 県土が南北に長く、公共交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 . . . 7つの二次医療圏を4つのがん医療圏として再編しても、空白の医療圏が2つ残る
- 医療従事者の不足 . . . がん専門の医療従事者の不足

指定推薦等に係る考え方

- 地域特性を踏まえ、現在の拠点病院を中心とした連携体制を維持し、県内がん医療の均てん化を図る。

宮崎大学医学部附属病院（★都道府県がん診療連携拠点病院）

- ・ 県内の医療連携の中心
- ・ 県内唯一の特定機能病院

宮崎県立宮崎病院

（地域がん診療連携拠点病院：県央がん医療圏）

- ・ 県央がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 空白のがん医療圏の患者の受入も多い

国立病院機構都城医療センター

（地域がん診療連携拠点病院：県西がん医療圏）

- ・ 県西がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 政策医療の中でもがん医療に注力

空白のがん医療圏（県北がん医療圏・県南がん医療圏）

がん診療指定病院（宮崎県指定）である県立延岡病院、県立日南病院で標準的ながん医療を実施³³⁴

鹿児島県

鹿児島県がんの医療圏の概要

令和元年9月1日現在

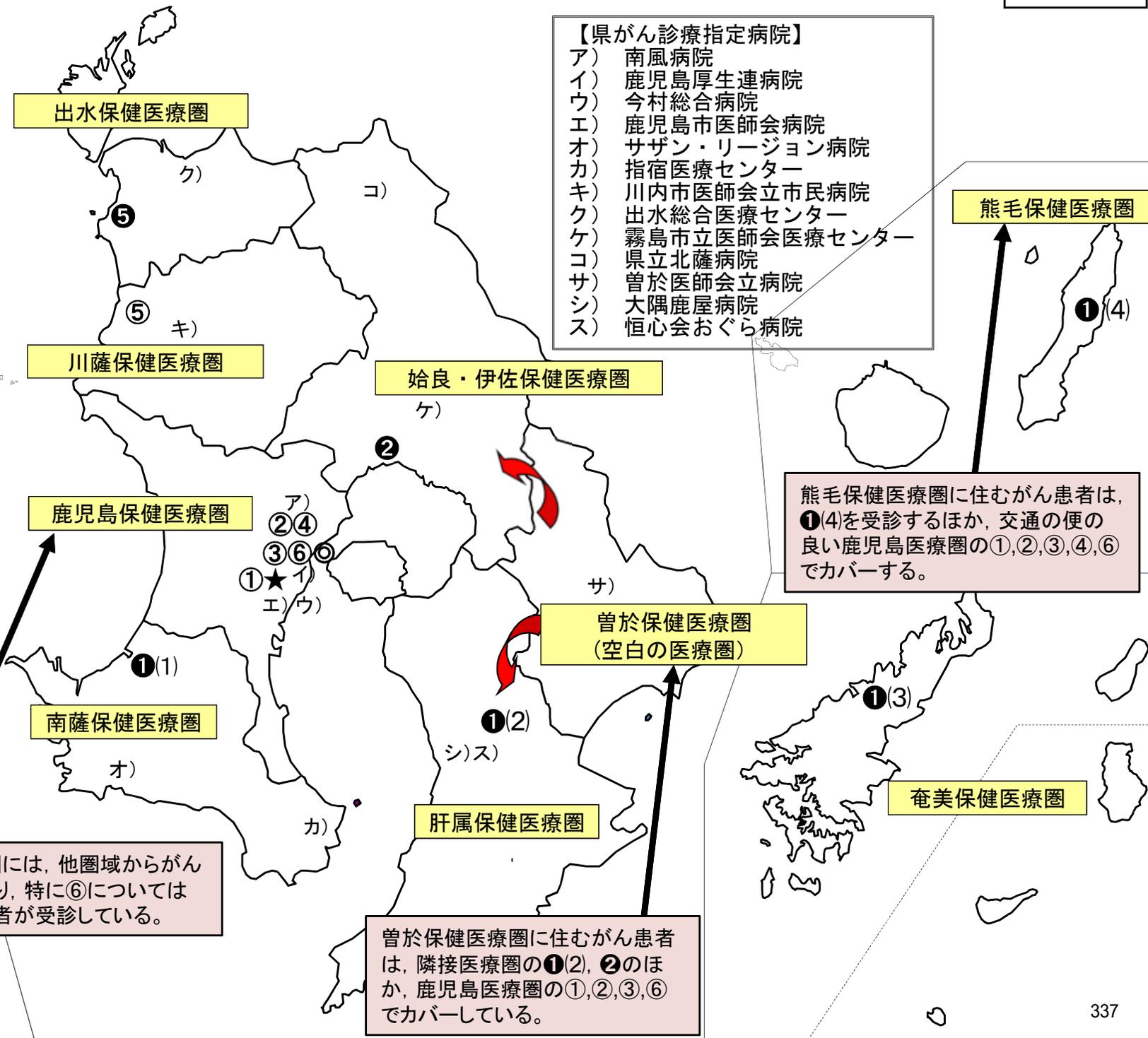
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院（高度型含む）				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
鹿児島医療圏	1044.9	671,450	42.0	642.6	105	1	2	1	4		1				
南薩医療圏	865.2	126,960	7.9	146.7	31			1	1						
川薩医療圏	986.9	113,748	7.1	115.3	15	1			1						
出水医療圏	680.6	81,601	5.1	119.9	8				0				1		
始良・伊佐医療圏	1371.7	235,029	14.7	171.3	34				0						1
曾於医療圏	781.2	75,843	4.7	97.1	9				0						
肝属医療圏	1323	150,450	9.4	113.7	21				0						1
熊毛医療圏	995	40,266	2.5	40.5	4				0						1
奄美医療圏	1240.3	105,121	6.6	84.8	15				0						1
計	9288.8	1,600,468	100.0	172.3	242	2	2	2	6	0	1	0	1	4	0

鹿児島県 令和元年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

- ① 鹿児島大学病院★
(平成31年4月1日)
- ② 鹿児島医療センター
(平成31年4月1日)
- ③ 鹿児島市立病院
(平成31年4月1日)
- ④ 今給黎総合病院
(平成31年4月1日)
- ⑤ 済生会川内病院
(平成31年4月1日)
- ⑥ 博愛会相良病院◎
(平成31年4月1日)
- ①(1) 県立薩南病院
(令和元年7月1日)
- ⑤ 出水郡医師会広域医療センター
(平成31年4月1日)
- ② 南九州病院
(平成31年4月1日)
- ①(2) 鹿屋医療センター
(令和元年7月1日)
- ①(3) 県立大島病院
(令和元年7月1日)
- ①(4) 種子島医療センター
(平成31年4月1日)

- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
 - イ) 鹿児島厚生連病院
 - ウ) 今村総合病院
 - エ) 鹿児島市医師会病院
 - オ) サザン・リージョン病院
 - カ) 指宿医療センター
 - キ) 川内市医師会立市民病院
 - ク) 出水総合医療センター
 - ケ) 霧島市立医師会医療センター
 - コ) 県立北薩病院
 - サ) 曾於医師会立病院
 - シ) 大隅鹿屋病院
 - ス) 恒心会おぐら病院



熊毛保健医療圏に住むがん患者は、①(4)を受診するほか、交通の便の良い鹿児島医療圏の①,②,③,④,⑥でカバーする。

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接医療圏の①(2), ②のほか、鹿児島医療圏の①,②,③,⑥でカバーしている。

鹿児島保健医療圏

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	鹿児島	★	現況	鹿児島大学病院	(5331) 5726	(36.4) 38.7	2152	(1413) 4073	(2700) 2700	(526) 538	459	34	6041
2	鹿児島		更新	鹿児島医療センター	(2236) 2502	(27.1) 29.5	1072	(732) 752	(6197) 6082	(219) 205	103	10	6442
3	鹿児島	◇	新規	鹿児島市立病院	(2816) 3028	(19.6) 20.2	1520	(1882) 1938	(7042) 8198	(328) 391	241	13	1989
4	鹿児島		更新	今給黎総合病院	(1470) 1487	(16.9) 17.3	571	(491) 431	(1722) 2276	(171) 187	320	10	819
5	南薩		新規	県立薩南病院	(752) 794	(33.5) 35.7	153	(98) 34	(1137) 734	(31) 38	64	31	1593
6	北薩		現況	済生会川内病院	(1390) 1675	(27.4) 30.9	511	(271) 385	(643) 831	(195) 212	58	39	1439
7	鹿児島	◎	更新	相良病院	(2024) 1966	(98.2) 96.9	756	(767) 717	(1291) 1471	(440) 392	116	7	1396

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

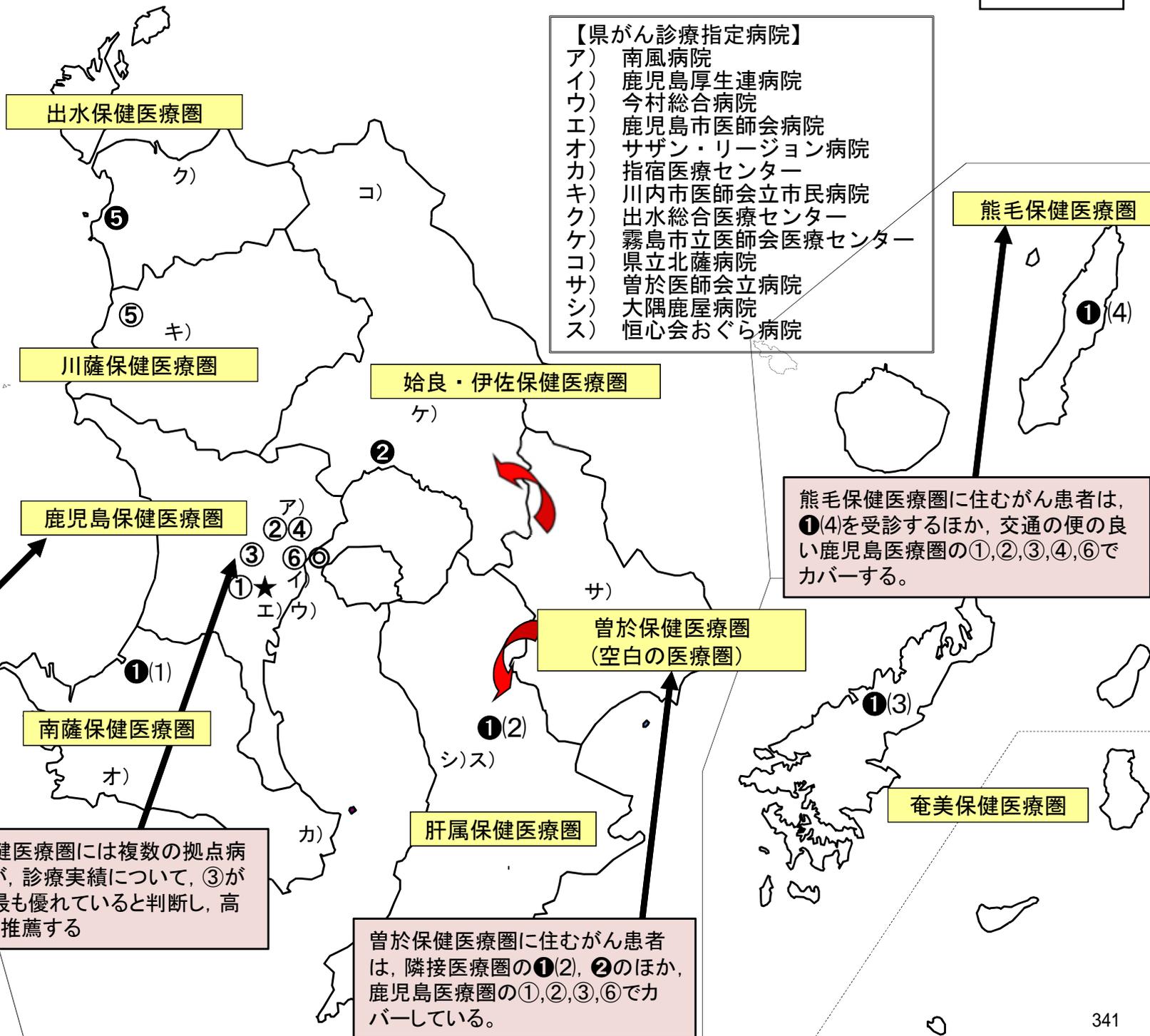
	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法のべ患者数(年間)	放射線治療(実施していれば)のべ患者数(年間)	緩和ケア緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	がん相談支援センター相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
1	出水	現況	出水郡医師会広域医療センター	(549) 535	(13.9) 14.0	213	(144) 173	(177) 653	(実施なし) 実施なし	83	634
2	始良伊佐	更新	南九州病院	(286) 253	(10.5) 10.9	239	(160) 147	(227) 146	(153) 131	62	2020
3	肝属	更新	鹿屋医療センター	(760) 759	(21.1) 21.4	249	(90) 101	(289) 238	(147) 123	114	894
4	奄美	更新	県立大島病院	(1134) 909	(17.1) 14.7	390	(144) 163	(433) 444	(65) 72	136	586
5	熊毛	更新	種子島医療センター	(404) 333	(12.5) 11.0	167	(55) 15	(48) 46	(実施なし) 実施なし	44	95

鹿児島県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

- ① 鹿児島大学病院★（現況）
- ② 鹿児島医療センター（更新）
- ③ 鹿児島市立病院◇（新規）
- ④ 今給黎総合病院（更新）
- ⑤ 済生会川内病院（現況）
- ⑥ 博愛会相良病院◎（更新）
- ⑦ 県立薩南病院（新規）
- ⑤ 出水郡医師会広域医療センター（現況）
- ② 南九州病院（更新）
- ①(2) 鹿屋医療センター（更新）
- ①(3) 県立大島病院（更新）
- ①(4) 種子島医療センター（更新）

- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
 - イ) 鹿児島厚生連病院
 - ウ) 今村総合病院
 - エ) 鹿児島市医師会病院
 - オ) サザン・リージョン病院
 - カ) 指宿医療センター
 - キ) 川内市医師会立市民病院
 - ク) 出水総合医療センター
 - ケ) 霧島市立医師会医療センター
 - コ) 県立北薩病院
 - サ) 曾於医師会立病院
 - シ) 大隅鹿屋病院
 - ス) 恒心会おぐら病院



鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。

鹿児島保健医療圏には複数の拠点病院があるが、診療実績について、③が総合的に最も優れていると判断し、高度型として推薦する

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、①(4)を受診するほか、交通の便の良い鹿児島医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接医療圏の①(2)、②のほか、鹿児島医療圏の①、②、③、⑥でカバーしている。

鹿児島保健医療圏

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

【現状】

- 9保健医療圏中8保健医療圏に12医療機関(都道府県:1, 地域がん連携:4, 特定:1, 地域がん:6)が指定されている。
- 本県独自の「県がん診療指定病院」を13医療機関指定している。

【指定推薦の考え方】

① 地域がん診療連携拠点病院の指定更新について

- 地域がん診療連携拠点病院として、鹿児島保健医療圏に国立病院機構鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、川薩保健医療圏に済生会川内病院が指定を受けている。

4医療機関のうち今給黎総合病院のみ、指定要件を充足していない項目(放射線治療の年間のべ患者数200人以上)があるが、直近の実績(H31.1.1～R1.12.31)では、要件を満たしている(204人)ことを確認しており、引き続き患者の住んでいる二次保健医療圏における質の高いがん医療提供体制を確保するため、4医療機関全ての指定更新を推薦することとした。

② 地域がん診療連携拠点の新規指定推薦について

- 南薩保健医療圏の県立薩南病院は、令和元年7月から、地域がん診療病院として指定を受けている。地域がん診療連携拠点病院としての指定要件を満たしていることから、南薩保健医療圏における質の高いがん医療提供体制を確保するため、新規指定の推薦をすることとした。

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

③ 地域がん診療連携拠点病院(高度型)の新規指定推薦について

○ 鹿児島保健医療圏の鹿児島市立病院は、平成23年4月から地域がん診療連携拠点病院として指定を受けている。高度型として推薦するにあたり、当該医療圏に複数の地域拠点病院があるが、整備指針Ⅱの2の(1)の①に規定する診療実績について、当病院が総合的に最も優れていると判断し、他の高度型の要件も充足していることから、新規指定の推薦をすることとした。

④ 特定領域がん診療連携拠点病院の指定更新について

○ 博愛会相良病院は、平成26年8月6日に特定領域がん診療連携拠点病院として指定され、乳がんの専門的ながん医療・相談支援体制を県民に広く提供している。引き続き、同病院が特定領域がん診療連携拠点病院として指定されることにより、県内の乳がんに関するより充実した集学的治療等の県民への提供が図られるとともに、乳がんに関する高い診療技術や知識の共有化についても、他の病院との連携の中で図られることが期待でき、県内のがん診療の質の向上が図られることから、相良病院を特定領域がん診療連携拠点病院として指定更新を推薦することとした。

⑥ 地域がん診療病院の指定更新について

○ 出水郡医師会広域医療センター、南九州病院、県民健康プラザ鹿屋医療センター、県立大島病院、種子島医療センターの6医療機関が、それぞれ連携先の医療機関とのグループ指定により、地域がん診療病院に指定されている。指定要件を満たしている6医療機関全てを、引き続き地域がん診療病院に指定することにより、地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき、各二次保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため、指定更新を推薦することとした。

沖 縄 県

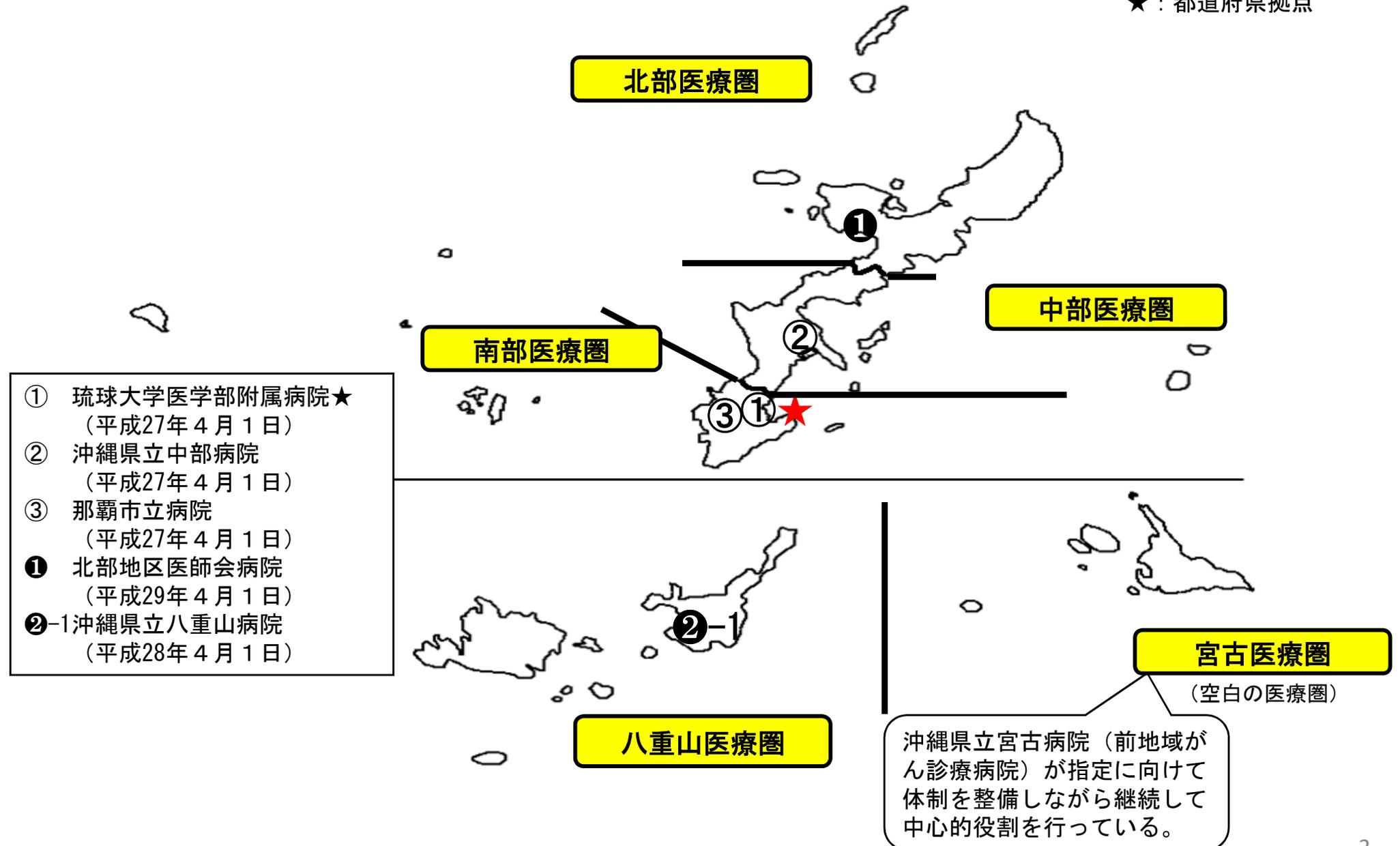
沖縄県 がんの医療圏の概要

令和元年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
北部医療圏	705.44	100,948	6.94	143.1	10				0					1	
中部医療圏	367.91	508,231	34.96	1,381.4	29	1			1						
南部医療圏	388.76	736,949	50.69	1,895.6	48		2		2						
宮古医療圏	226.27	53,296	3.67	235.5	4				0						1
八重山医療圏	592.51	54,326	3.74	91.7	3				0				1		
計	2,280.89	1,453,750	100	3,747.3	94	1	2	0	3	0	0	0	1	1	1

沖縄県 令和元年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数 ※様4全309 ※H30.1.1 ~12.31	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全310	院内がん登録数(年間) 500件以上 ※様4機256 ※H30.1.1 ~12.31	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上 ※様4機257 ※H30.1.1 ~12.31	のべ患者数(年間) 1000人以上 ※様4機258 ※H30.1.1 ~12.31	のべ患者数(年間) 200人以上 ※様4機259 ※H30.1.1 ~12.31	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上 ※様4機260 ※H30.1.1 ~12.31	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度 ※様4機262	相談件数(年間) ※別紙14 ※H30.1.1 ~12.31
1	南部医療圏	★	更新	琉球大学医学部附属病院	(4,736) 3,309	(35.7) 24.0	1,267	(622) 672	(1,766) 1,533	(583) 779	142	25	723
2	中部医療圏		現況	沖縄県立中部病院	(1,823) 1,944	(12.6) 13.6	926	(554) 557	(1,342) 1,378	(283) 279	80	27	1,235
3	南部医療圏		更新	那覇市立病院	(1,164) 921	(9.3) 7.0	952	(826) 609	(2,199) 2,609	(286) 300	166	10	1,152

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数 ※様4全309 ※H30.1.1～12.31	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全310						
①	北部医療圏	更新	北部地区 医師会病院	(547) 543	(13.3) 13.9	319	(160) 148	(1,195) 2,077	実施なし	90	231
②-1	八重山医療圏	現況	沖縄県立 八重山病院	(408) 383	(7.6) 7.9	148	(81) 136	(1,060) 791	実施なし	15	1,043
②-2	宮古医療圏	新規	沖縄県立 宮古病院	(172) 198	(3.0) 3.5	299	(102) 198	(741) 874	実施なし	42	89

※②-2 宮古病院は新規指定ですが、平成30年度まで指定を受けており、平成30年12月時点の数値が分かっているので参考として記載しております。

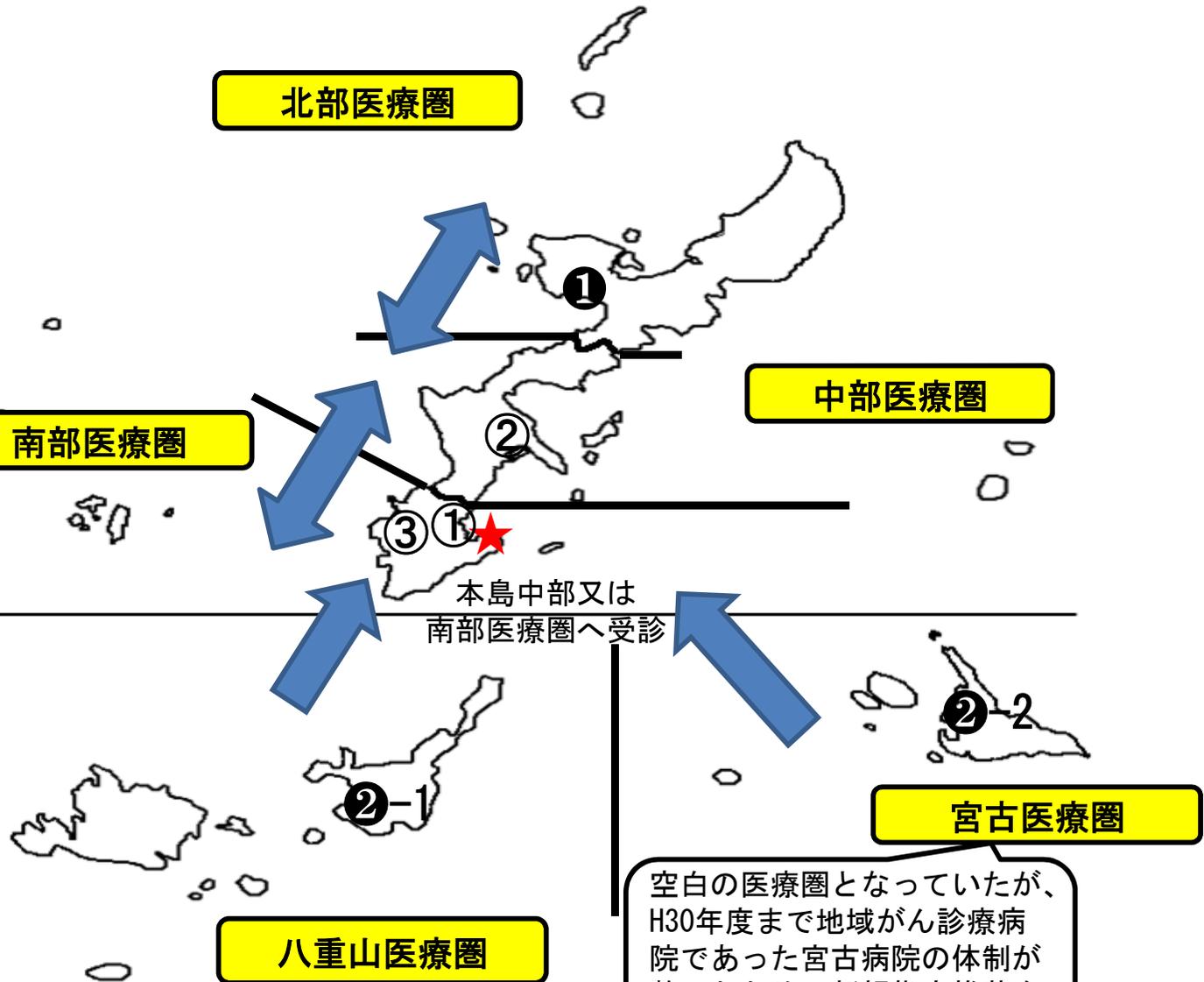
沖縄県 令和2年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。

①琉球大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県全域及び拠点病院間連携の中心的役割を担っている。

③那覇市立病院は、地域がん診療連携拠点病院として、南部医療圏における中心的役割を担っている。



- ① 琉球大学医学部附属病院★（更新）
- ② 沖縄県立中部病院（現況）
- ③ 那覇市立病院（更新）
- ① 北部地区医師会病院（更新）
- ②-1 沖縄県立八重山病院（現況）
- ②-2 沖縄県立宮古病院（新規）

空白の医療圏となっていたが、H30年度まで地域がん診療病院であった宮古病院の体制が整ったため、新規指定推薦を行う。

今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

1 医療提供体制の整備に係る基本的な考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画（2018 - 2023）

- 分野目標：適切な医療連携に基づく医療を受けられている
- 施策：がん診療提供体制の充実・強化を図る
県は、整備指針に基づき、拠点病院又は地域がん診療病院について、地域の医療状況等を勘案し、適正な整備を図る。

都道府県がん診療連携拠点病院		
①	琉球大学医学部附属病院	
地域がん診療連携拠点病院		
②	中部医療圏	沖縄県立中部病院
③	南部医療圏	那覇市立病院
地域がん診療病院		
①	北部医療圏	北部地区医師会病院 ※①とのグループ指定
②-2	宮古医療圏	令和元年度は未整備（空白の医療圏） （沖縄県立宮古病院 ※②とのグループ指定で申請中）
②-1	八重山医療圏	沖縄県立八重山病院 ※②とのグループ指定

都道府県がん診療連携拠点病院及び、5つの二次医療圏全てに地域がん診療連携拠点病院又は地域がん診療病院を整備し、がん診療提供体制を維持することで、県民が適切な医療連携に基づく医療を受けられる体制を整える。

今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

2 今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

○第3次沖縄県がん対策推進計画に基づくがん診療提供体制を整備し、適切ながん医療が受けられる環境を維持するため、今年度までの指定となっている3医療機関の指定更新と、空白の医療圏となっている宮古医療圏における1医療機関の新規推薦を行う。

◇指定更新推薦 ◆新規推薦

